

# モンゴル投資ガイド



## モンゴルの位置



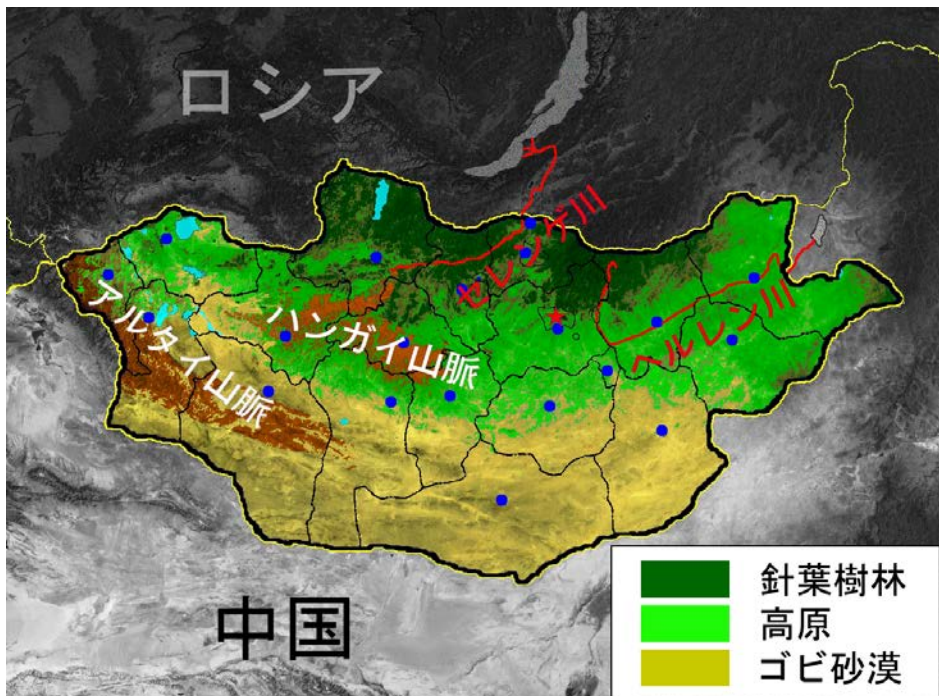
【出展】

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Mongolia\\_%28orthographic\\_projection%29.svg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Mongolia_%28orthographic_projection%29.svg)

【作者】

ASDFGHJ [CC-BY-SA-3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>)], via Wikimedia Commons

## モンゴルの自然環境



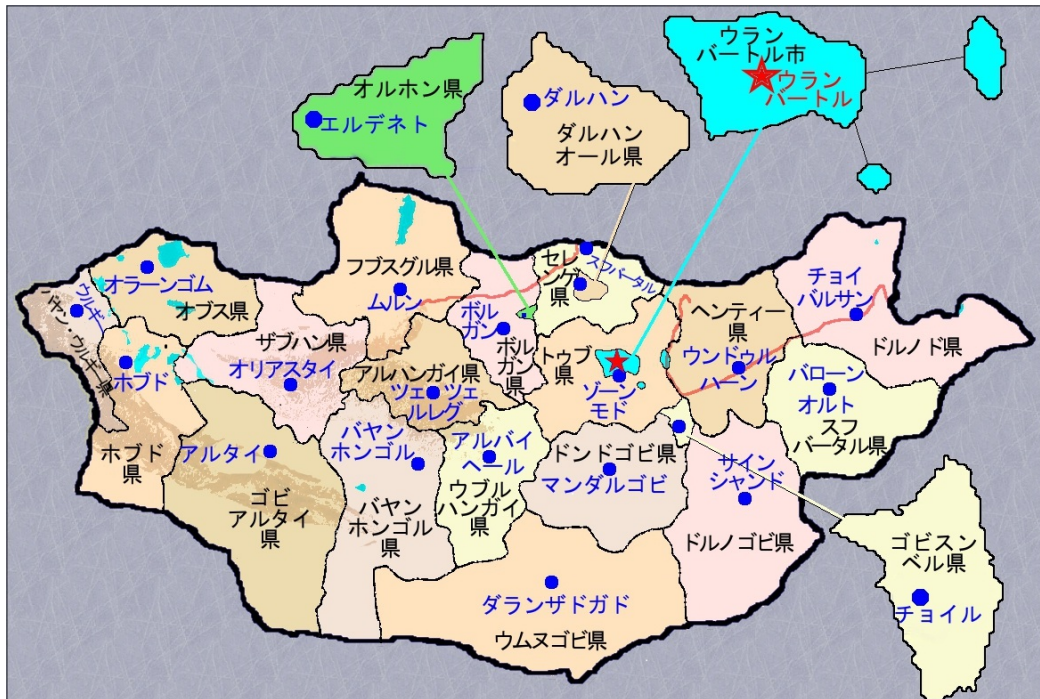
【出展】

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AB-%E5%9C%B0%E5%BD%A2%E5%9C%B0%E5%9B%B3.jpg>

【作者】

Source1: NASA's globe software World Wind. Source2: Kmusser Source3: Central Intelligence Agency. Source4: Bogomolov.PL Derivative work: Dubianman [CC-BY-SA-3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>)], via Wikimedia Commons

## モンゴルの行政区分



### 【出展】

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AB-%E5%9C%B0%E6%96%B9%E8%A1%8C%E6%94%BF%E5%8C%BA%E5%88%86-%E5%9C%B0%E5%9B%B3.jpg>

### 【作者】

By Source1: NASA's globe software World Wind. [2]Source2: KmusserSource3: Central Intelligence Agency. [3]Source4: Bogomolov.PLDerivative work: Dubianman [CC-BY-SA-3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>)], via Wikimedia Commons

# 目次

図表一覧

略語一覧

なぜ、今、モンゴルなのか？ ..... 1

## 第 I 部 モンゴルの社会、経済、産業概況

第 1 章 モンゴルに関する基礎情報..... 3

1.1. 概 要 ..... 3

1.2. 地理・気候 ..... 5

1.3. 政 治 ..... 6

1.4. 経 済 ..... 9

1.5. 外 交 ..... 9

第 2 章 経済・産業、物価、投資、貿易等の動向 ..... 12

2.1. 経済・産業動向 ..... 12

2.2. 物価動向 ..... 15

2.3. 貿易動向 ..... 16

2.4. 投資動向 ..... 18

2.4.1. 政府投資計画 ..... 18

2.4.2. 外国投資企業の現状 ..... 19

2.5. 国家開発計画 ..... 20

2.5.1. 産業構造と政策の方向 ..... 20

2.5.2. 国家計画における重点分野 ..... 21

第 3 章 産業分析 ..... 23

3.1. 業種別分析 ..... 23

3.1.1. 農業・牧畜業 ..... 23

3.1.2. 食品加工業 ..... 27

3.1.3. 鉱工業 ..... 32

3.1.4. エネルギー産業 ..... 39

3.1.5. 重工業 ..... 45

3.1.6. 軽工業 ..... 48

3.1.7. 建設業 ..... 51

3.1.8. 不動産業 ..... 54

3.1.9. 環境産業 ..... 56

3.1.10. 薬剤・病院 ..... 57

3.1.11. ロジスティクス ..... 58

3.1.12. 流通・小売業 ..... 62

3.1.13. 金融業 ..... 63

3.1.14. 観光業 ..... 67

3.1.15. 情報通信業 ..... 69

3.1.16. 教育産業 ..... 72

3.2. 消費者動向・生活習慣調査、企業の意識調査 ..... 75

3.2.1. 消費動向調査 ..... 75

3.2.2. 日本企業との提携に対する現地企業の意識調査 ..... 77

<b>3.3. 日本企業のビジネスチャンス</b> .....	<b>81</b>
3.3.1. 日本企業の進出可能性がある有望分野 .....	81
3.3.2. BOP を活用したビジネスチャンス .....	85
3.3.3. モンゴルでのビジネス成功事例 .....	86
<b>3.4. 日本企業がモンゴルに進出する上でのリスク及びボトルネック</b> .....	<b>93</b>

## 第Ⅱ部 モンゴルへの進出に必要な手引き

<b>第4章 外国投資関連制度</b> .....	<b>96</b>
4.1. 外国投資政策 .....	96
4.2. 外国投資法 .....	96
4.3. 外国投資調整・登記局（旧外国投資貿易庁（FIFTA）） .....	98
4.4. 外国投資企業 .....	99
4.5. 投資申請手続き（会社設立等） .....	100
4.6. 外国人滞在及び登録手続き等 .....	105
4.7. 投資保護等 .....	107
4.8. 投資優遇措置 .....	108
4.9. 自由経済地域 .....	109
4.9.1. 自由経済地域に関する法律 .....	109
4.9.2. 各自由経済地域の概要 .....	110
<b>第5章 会社関連法規及び諸制度</b> .....	<b>113</b>
5.1. 貿易及び通関制度 .....	113
5.1.1. 関税 .....	113
5.1.2. 関税手続き .....	113
5.1.3. 関税評価、船積前検査、原産地規則 .....	115
5.1.4. 輸入禁止及び制限 .....	115
5.1.5. 輸出に直接影響を与える措置 .....	116
5.2. 会社法（付属資料 6. 会社法参照） .....	116
5.3. 土地取引に関する制度 .....	120
5.4. 税制及び会計制度 .....	121
5.5. 労働及び雇用 .....	125
5.6. 知的財産権 .....	128
5.6.1. 著作権及び著作隣接権 .....	128
5.6.2. 特許 .....	129
5.6.3. 商標及びその他の標識 .....	129
5.6.4. 産地 .....	129
5.7. モンゴルの PPP（Public Private Partnership）制度及び運用状況 .....	130
5.8. 環境保護法（Environmental Protection Law of Mongolia, March 30, 1995） .....	132
<b>第6章 事業活動関連情報及び諸手続き</b> .....	<b>135</b>
6.1. 資金調達 .....	135
6.2. 外国為替 .....	136
6.3. 訴訟環境 .....	136
6.4. ビジネスコスト .....	138
6.4.1. 人件費 .....	138

6.4.2.	オフィス賃料 .....	138
6.4.3.	水道光熱費 .....	139
6.4.4.	通信費 .....	139
<b>6.5.</b>	<b>インフラ整備状況 .....</b>	<b>140</b>
6.5.1.	道路、鉄道、航空 .....	141
6.5.2.	輸送ルート .....	144
6.5.3.	主要都市から国内・国外市場へアクセス .....	147
 <b>第7章 モンゴルの生活事情 .....</b>		<b>149</b>
7.1.	世帯所得 .....	149
7.2.	住居 .....	149
7.3.	食関係 .....	150
7.4.	交通事情 .....	151
7.5.	通信 .....	152
7.6.	教育 .....	152
7.7.	治安 .....	152
7.8.	医療、衛生 .....	153
 参考情報一覧（政府関連、投資関連ほか） .....		155
 付属資料		
	付属資料 1. 事業活動開始のフロー .....	1
	付属資料 2. モンゴルにおける産業別上位企業 .....	18
	付属資料 3. 外国投資法（1） .....	22
	付属資料 4. 外国投資法（2） .....	30
	付属資料 5. 労働法 .....	33
	付属資料 6. 会社法 .....	57
	付属資料 7. イノベーション法 .....	101
	付属資料 8. 投資手続きフォーム（法人登録申請書） .....	103
	付属資料 9. 「GSP+制度」7200 リスト .....	106
	付属資料 10. 環境基準（規制）値 .....	129
	付属資料 11. 日本留学帰国留学生の会（JUGAMO 会） .....	131
 参考資料一覧 .....		133
 問い合わせ先 .....		134

## 図表一覧

- 図表 1.1.1 人口動態
- 図表 1.1.2 為替レートの変遷
- 図表 1.2.1 主要都市・県の人口
- 図表 2.1.1 GDP 成長率等
- 図表 2.1.2 GDP の産業別構成
- 図表 2.1.3 今後 15 年間の成長予測
- 図表 2.1.4 今後 20 年間の国別 GDP 成長予測
- 図表 2.1.5 GDP 成長率及び各産業の寄与率
- 図表 2.1.6 中期の成長見通し
- 図表 2.2.1 UB における物価動向
- 図表 2.3.1 貿易収支 (2010 年対 2011 年)
- 図表 2.3.2 輸出入動向 (2005~2011 年)
- 図表 2.3.3 主要製品輸出動向 (2009~2011 年)
- 図表 2.3.4 経常赤字の構成 (2007~2011 年)
- 図表 2.3.5 直接投資の流入額
- 図表 2.3.6 外資準備高
- 図表 2.4.1 政府投資計画 (1)
- 図表 2.4.2 政府投資計画 (2)
- 図表 2.4.3 国別投資金額の割合
- 図表 2.4.4 分野別外国投資企業件数の割合
- 図表 2.4.5 鉱工業向け外国直接投資額の変化
- 図表 2.5.1 産業別雇用シェア
- 図表 2.5.2 中期計画推定投資額
- 図表 3.1.1 農業・牧畜業分野の生産高推移
- 図表 3.1.2 農畜産物の生産高構成比 (2011 年)
- 図表 3.1.3 2010 年の収穫量及び 2011 年の収穫量暫定値
- 図表 3.1.4 五畜頭数の推移
- 図表 3.1.5 食肉の種類別生産量の推移
- 図表 3.1.6 乳製品及び飲料の生産量の推移
- 図表 3.1.7 鉱工業の売上高推移
- 図表 3.1.8 鉱物資源からの税収の推移
- 図表 3.1.9 採掘中の鉱物資源量の割合
- 図表 3.1.10 モンゴルの地下資源分布図
- 図表 3.1.11 戦略的重要鉱床
- 図表 3.1.12 石炭の生産量予測
- 図表 3.1.13 OT 他、銅生産量
- 図表 3.1.14 鉄鋼石分布図
- 図表 3.1.15 その他鉱山資源埋蔵量
- 図表 3.1.16 エネルギー需要予測
- 図表 3.1.17 モンゴルのエネルギー系統図
- 図表 3.1.18 UB の暖房システム
- 図表 3.1.19 エネルギー源の比率と消費部門比率 (2010 年)
- 図表 3.1.20 風力発電の潜在地域
- 図表 3.1.21 太陽光発電の潜在地域
- 図表 3.1.22 水力発電の潜在地域
- 図表 3.1.23 熱発電の潜在地域
- 図表 3.1.24 サインシャンド重工業団地
- 図表 3.1.25 軽工業における売上高推移
- 図表 3.1.26 軽工業における業種別収入高の推移
- 図表 3.1.27 羊毛、カシミア、ニット等の製品別の生産量

- 図表 3.1.28 建築資材の生産量
- 図表 3.1.29 UB10 万個住宅建設計画
- 図表 3.1.30 ソムセンターモデル
- 図表 3.1.31 UB の人口増加予想
- 図表 3.1.32 不動産業の売上高
- 図表 3.1.33 大気汚染の原因別割合
- 図表 3.1.34 医薬品・病院産業の収入額
- 図表 3.1.35 ロジスティクス業の収入額
- 図表 3.1.36 自動車・トラック輸送における収入額
- 図表 3.1.37 鉄道輸送における収入額
- 図表 3.1.38 航空輸送の収入額
- 図表 3.1.39 海運輸送の収入額
- 図表 3.1.40 モンゴルの主要な輸送機関
- 図表 3.1.41 ローン貸出額
- 図表 3.1.42 主要銀行別金利動向（2013 年 1 月時点）
- 図表 3.1.43 ノンバンク機関の収入額
- 図表 3.1.44 観光業（ホテル産業を含む）における売上高
- 図表 3.1.45 プロバイダー加入者数
- 図表 3.1.46 ICT 分野の収入
- 図表 3.1.47 携帯電話会社の市場シェア（2010 年）
- 図表 3.1.48 ソフト会社が手掛ける主な事業の割合（2011 年）
- 図表 3.1.49 学生数（2010 年）
- 図表 3.1.50 学校数の推移
- 図表 3.2.1 回答者の属性
- 図表 3.2.2 可処分所得の何割を衣類へ費やしているか？
- 図表 3.2.3 TPO に応じて着こなすか？
- 図表 3.2.4 健康維持に食事上気をつけていることは？
- 図表 3.2.5 所有している家電は（車を含む）？
- 図表 3.2.6 好きな娯楽は何か？
- 図表 3.2.7 回答企業の業種別割合
- 図表 3.2.8 日本企業との提携内容別に希望する企業の割合
- 図表 3.2.9 外資と提携している企業の割合
- 図表 3.2.10 提携を希望する相手国
- 図表 3.2.11 提携企業の国籍
- 図表 3.2.12 希望する提携の内容
- 図表 3.2.13 提携に際して課題が生じた相手国
- 図表 3.2.14 日本企業との提携に際して生じた課題
- 図表 3.3.1 日本企業が進出可能な有望分野
- 図表 4.5.1 外国投資企業設立のステップ
- 図表 4.6.1 外国人登録申請手続き一覧表
- 図表 5.1.1 通関手続きの流れ
- 図表 5.4.1 その他の所得源泉税率
- 図表 5.4.2 社会保険料金の割合
- 図表 5.5.1 失業率の推移
- 図表 5.5.2 産業別月額平均賃金
- 図表 5.7.1 コンセプションリストにある PPP の分野別件数
- 図表 5.7.2 コンセプション適格設備のタイプ
- 図表 6.1.1 モンゴル商業銀行の貸付金利表
- 図表 6.4.1 各職業別の平均月給
- 図表 6.4.2 各地区・種類別のオフィス賃料の相場
- 図表 6.4.3 UB 市における水道光熱費



- 図表 6.4.4 固定電話価格表
- 図表 6.4.5 インターネットプロバイダーの種類と料金
- 図表 6.5.1 インフラ実行計画図
- 図表 6.5.2 UBにおける既存道路の経過年数
- 図表 6.5.3 ミレニアム道路建設
- 図表 6.5.4 鉄道計画
- 図表 6.5.5 UB地下鉄建設プロジェクト
- 図表 6.5.6 既存の航空路線
- 図表 6.5.7 モンゴルからの輸出ルート
- 図表 6.5.8 輸送にかかるコスト
- 図表 6.5.9 国内線フライト料金一覧 (UB発)
- 図表 6.5.10 国際線フライト料金一覧 (UB発)
- 図表 6.5.11 鉄道料金一覧表
- 図表 6.5.12 バス料金一覧表
- 図表 7.1.1 世帯所得の年度推移
- 図表 7.2.1 日本人がよく利用するホテルの概要
- 図表 7.7.1 犯罪数と検挙率の推移

## 略語一覧

### <A>

ADB Asian Development Bank (アジア開発銀行)  
ARF ASEAN Regional Forum (ASEAN 地域フォーラム)

### <B>

BOP Base Of the Pyramid (ベース・オブ・ピラミッド)  
BOT Build Operate Transfer (建設・運営・移転)

### <C>

CDF Custom Document Format (税関申告書)  
CEO Chief Executive Officer (最高経営責任者)  
CFO Chief Financial Officer (最高財務責任者)  
CHP Central Heat Plant (統合熱・電力プラント)  
CIF Cost Insurance Freight (価格・保険料・運賃の関税評価に係る三要素)  
CIO Chief Information Officer (最高情報責任者)  
CRP Crop Rehabilitation Program (穀物回復プログラム)  
CTG Coal-to-gas (石炭ガス化)  
CTL Coal-to-liquids (石炭液化)

### <D>

DBM Development Bank of Mongolia (モンゴル開発銀行)  
DRI Direct reduced iron (直接還元鉄)

### <E>

EBRD European Bank for Reconstruction and Development (欧州復興開発銀行)  
EPA Economic Partnership Agreement (経済連携協定)  
ERP Enterprise Resource Planning (基幹業務統合システム)  
EU European Union (欧州連合)

### <F>

FDI Foreign Direct Investment (外国直接投資)  
FEZ Free Economic Zones (自由経済地域)  
FIFTA Foreign Investment and Foreign Trade Agency (旧外国投資貿易庁)  
F/S Feasibility Study (フィージビリティ・スタディ)  
FTA Free Trade Agreement (自由貿易協定)

### <G>

GDNT General Department of National Taxation (国税当局)  
GDP Gross Domestic Product (国内総生産)  
GER Gross Enrolment Ratio (総就学率)  
GPRS General Packet Radio Service (汎用パケット無線システム)  
GPS Global Positioning System (全地球測位システム)  
GSP+ Generalized System of Preferences Plus (GSP プラス)

### <H>

HACCP Hazard Analysis and Critical Control Point (食品衛生管理方法)  
HBI Hot briquetted iron (熱間成型還元鉄)  
HD High Definition (高精度画質)  
HOB Heat Only Boiler (地区暖房ボイラ施設)

HS	Harmonized Commodity Description and Coding System (国際貿易商品の名称及び分類を世界的に統一したシステム)
<I>	
ICT	Information and Communication Technology (情報通信技術)
ICTPA	Information, Communications Technology and Post Authority (情報通信郵政庁)
IFRS	International Financial Reporting Standards (国際財務報告基準)
IMF	International Monetary Fund (国際通貨基金)
IPO	Initial Public Offering (新規株式公開)
IPSAS	International Public Sector Accounting Standards (国際公会計基準)
ISA	International Standards on Auditing (国際監査標準)
ISO	International Organization for Standardization (国際標準化機構)
IT	Information and Technology (情報技術)
<J>	
JICA	Japan International Cooperation Agency (独立行政法人国際協力機構)
J/V	Joint Venture (合弁会社)
<K>	
KOICA	Korea International Cooperation Agency (韓国国際開発協力機構)
<L>	
L/C	Letter of Credit (信用状)
LLC	Limited Liability Company (有限責任会社)
LNG	Liquefied Natural Gas (天然ガス)
LPG	Liquefied Petroleum Gas (液化石油ガス)
LSEG	London Stock Exchange Group (ロンドン証券取引所)
LME	London Metal Exchange (ロンドン金属取引所)
<M>	
M&A	Mergers and Acquisitions (合併と買収)
MCA	Millennium Challenge Account (ミレニアムチャレンジ会計)
MCCI	Mongolian Chamber of Commerce and Industry (モンゴル商工会議所)
MFN	Most-Favored-Nation (最恵国)
MIGA	Multilateral Investment Guarantee Agency (多数国間投資保証機関)
MLM	Multi Level Marketing (マルチマーケティング)
MONICPA	Mongolian Institute of Certified Public Accountants (モンゴル公認会計士協会)
MOU	Memorandum of Understanding (覚書)
MSE	Mongolia Stock Exchange (モンゴル証券市場)
<N>	
NDIC	National Development and Innovation Committee (国家開発イノベーション委員会)
NDP	New Development Program (新開発プログラム)
NEXI	Nippon Export and Investment Insurance (独立行政法人日本貿易保険)
NGO	Non-Governmental Organizations (非政府組織)
NMLP	National Mongolian Livestock Program (国家畜産計画)
NSC	National Statistical Committee (モンゴル国家統計委員会)
NSO	National Statistics Office (モンゴル国家統計局)

<O>

ODA Official Development Assistance (政府開発援助)  
OEM Original Equipment Manufacturer (相手先ブランド名製造)  
OJT On-the-Job Training (オンザジョブトレーニング)  
OT Oyu Tolgoi (オユトルゴイ)

<P>

PAM Petroleum Authority of Mongolia (モンゴル石油機関)  
PFI Private Finance Initiative (プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)  
PPP Public-Private Partnership (官民パートナーシップ)  
PV Photovoltaic (光発電)

<R>

R&D Research and development (研究開発)  
REE Rare Earth Elements (レアアース)

<S>

SAT Scholastic Assessment Test (米国の大学へ進学する際に課される共通テスト)  
SCM Supply Chain Management (サプライチェーン・マネジメント)  
SE Systems Engineer (システムエンジニア)  
SEO Search Engine Optimization (検索エンジン最適化)  
SME Small and Medium-sized Enterprise (中小企業)

<T>

TDB Trade and Development Bank (貿易開発銀行)  
3PL Third-Party Logistics (サード・パーティ・ロジスティックス)  
TRIPS 協定 Agreement on Trade-Related Aspects of Intellectual Property Rights  
(知的所有権の貿易関連の側面に関する協定)  
TT Tavan Tolgoi (タバントルゴイ)

<U>

UB Ulaanbaatar (ウランバートル市)

<V>

VAT Value-added Tax (付加価値税)

<W>

WTO World Trade Organization (世界貿易機関)

# なぜ、今、モンゴルなのか？

## <モンゴルで事業を行うメリット>

### ■急激な経済成長

2011年度の経済成長率は、実質17.5%となり世界で最も成長した国の一つである。シティバンクの調査では、今後20年間にわたって世界一の高成長国になることが予測されている。また、モンゴル国家統計局（National Statistics Office、以下NSO）によれば、2016年には1人当たりGDP（Gross Domestic Product：国内総生産、以下GDP）が12,500ドルと初めて1万ドルを超え、2025年には2万ドルになることが見込まれている。インフレが抑制され、安定した高い経済成長が期待されている。この経済発展は豊富な鉱物資源の産出に支えられている。

### ■豊富な鉱物資源・農産物資源

日本の4倍を超える広い国土に、石炭や銅、モリブデン、鉄鉱石、金、ウラン等多くの手つかずの鉱物資源が眠っている。北部の穀倉地帯では小麦やジャガイモ等が生産され、又、国土の全般にわたって4,000万頭にも及ぶ五畜（牛、羊、山羊、馬、駱駝）が飼育されており、畜産業が遊牧民の経済的基盤を支えている。西部の山岳地帯には多種・多様な薬草類が繁茂している。

### ■中・露の巨大マーケットへのアクセス

中国及びロシアと国境を接しており、特に巨大な市場を持つ中国への輸出はモンゴル国総輸出額の90%を超え、長年にわたって交流が続いている。現在、鉱物資源や天然資源は殆ど未加工のまま輸出されているが、今後付加価値を付けた製品の輸出へ転換を図ることで、中国やロシアの隣国を始め、日本、韓国、EU等へのアクセスを視野に入れることが可能になる。

### ■国民の高い潜在能力

社会主義時代からの伝統で政府による手厚い教育分野への支援があり、大学等の高等教育の就学率は50%を超えている。また、2015年までには12年間の義務教育制度の導入を目指している。社会主義時代のロシア語教育の義務化を始め、最近では日本語、英語、韓国語、中国語等複数の言語を習得するモンゴル人が多く、海外の技術や知識を積極的に吸収している。IT技術者等のエンジニアも高い潜在的な能力を持っている。

## ■日本とは相互補完関係

多くの面でモンゴルと日本は補完関係にある。日本の4倍の広い国土に日本の約45分の1の300万人弱という少ない人口、平均年齢26.6歳という若い国と65歳以上が5人に1人に達した高齢化社会の日本、又、資源大国モンゴルと有用な資源を殆ど持たない日本とは対照的である。日本の成熟産業がモンゴルではこれから発展が期待される成長産業である。日本の高い品質、技術力、マネジメント力、又、不足する資金はモンゴルにとって大いに必要とされている。

## ■親日的な国民

モンゴルは、非常に親日的な国である。大相撲でのモンゴル人の活躍を通して日本人には親近感を抱いている。又、日本の車を始めとする様々な日本製品を通じた品質や技術の高さ、日本人の礼儀正しさに対して大きな敬意を抱いている。日本語を学習する人の多さや日本語能力のレベルの高さからも親日的な様子が伺える。

## ■大きなビジネスチャンス

モンゴルは、1960年代（50年前）の日本と同じ高度経済成長の入り口にさしかかったところである。ロシア時代にコメコン体制に組み込まれていたために、産業構造が偏ったままで鉱山資源や農牧畜業の一次産品の輸出に支えられて発展してきた。今後は、バランスがとれた多角的な産業構造を目指し、更に雇用の創出を図って行くためにあらゆる分野でのビジネスを発展させる必要がある。ここに多くのビジネスチャンスが生まれて来る。

## ■外国投資家に有利な条件

基本的にオープンな海外資本受け入れ国であり、外国投資家は国内企業と同様に扱われる。為替管理は殆どなく、又、フラットな税制で法人所得税が低い。利潤送金は自由に行うことができ、もともと自由貿易を信奉していることから、輸入関税は原則5%である。

# 第 I 部 モンゴルの社会、経済、産業概況

## 第1章 モンゴルに関する基礎情報

モンゴルは人口が約 280 万人と少なく、ちょうど日本の大阪市並みの規模である。一方、国土は日本の 4 倍もあるため人口密度は 1.5 人/m<sup>2</sup>で、人口密度が世界一低い国である。自然環境が豊かで観光資源が多く、又、石炭、銅、鉄鉱石等の鉱物資源にも恵まれているが、これらの資源を活用するためのインフラが整備されていない。

国土の北側をロシア、南側を中国にはさまれた国で、海への出口を有していない内陸国である。そのため、外交は中ロ両大国とのバランスを図りながら、一方に偏らない姿勢を基本とする。

1921 年から 1989 年までソ連の衛星国で経済的にコメコン体制に組み入れられていたが、1990 年以降の民主化・市場経済化後は、中国との経済関係が極めて強くなっている。輸出の 90%は石炭や銅等中国向けである。海外資本の受け入れも中国からが圧倒的に多い。

モンゴル政府は、このような状況が続くと、実質的な中国支配になることを懸念しており、石油、ウラン、発電等、国の重要プロジェクトにおいてこれ以上の中国依存を控える方針が見受けられる。そのような背景の下、モンゴルの外交政策のもう一方の機軸が第 3 隣国政策であり、日本、韓国、米国、欧州等との関係強化を図ろうとしている。



### 1.1. 概要

①正式名称：モンゴル国（英語表記：Mongolia）

②政体：共和制

③首都：ウランバートル（Ulaanbaatar）

④面積：156 万 4,116km<sup>2</sup>（日本の約 4 倍）

⑤人口：281 万 1,600 人

（National Statistics Office：モンゴル国家統計局、以下 NSO、2011）

⑥民族：モンゴル人（全体の 95%）及びカザフ人等（5%）

⑦言語：モンゴル語

ソ連時代の影響を受けてロシア語を話せる国民も多く、また若年層は英語を始め日本語やドイツ語、韓国語、中国語、フランス語等を学んでいる。

⑧宗教：チベット仏教（ラマ教）等

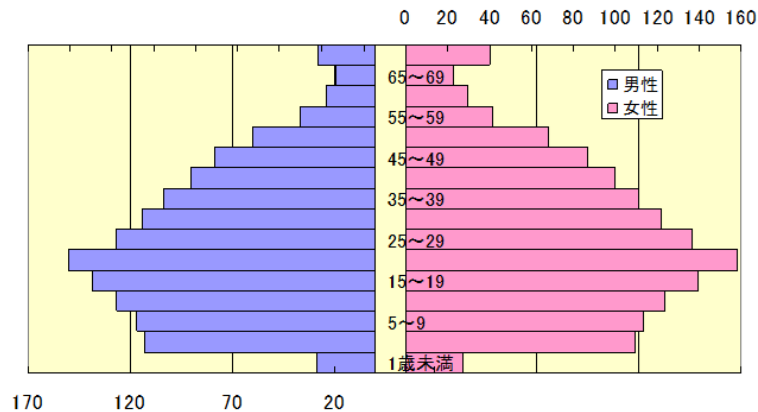
1921 年の革命後は衰退していたが、1990 年の民主化以降に再び広まる。

1992 年の新憲法では信教の自由を保障。

⑨平均寿命：男性 65 歳、女性 72 歳（NSO、2010）

⑩人口動態：図表 1.1.1 に 2010 年度の人口動態を示す。

図表 1.1.1 人口動態（単位：千人）



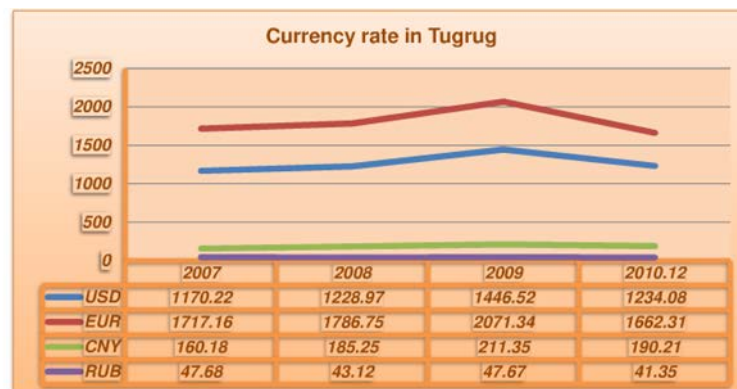
(出典：NSO、2010)

⑪通貨：トゥグルグ（MNT、Tg）

⑫為替レート：1 トゥグルグ=0.06 円、1 ドル=1387.5 トゥグルグ（2013年1月）

図表 1.1.2 に最近の為替レートの変遷を示す。

図表 1.1.2 為替レートの変遷



(出典：FIFTA、2011)

⑬ビジネスアワー

- ・ウランバートル市及び市の関連機関：8:00～17:00（休憩 12:00～13:00）
- ・官庁：8:00～17:00（休憩 12:00～13:00）
- ・銀行：10:00～18:00（休憩なし）
- ・商店：およそ 9:00～20:00

※土曜日、日曜日は休日。残業の習慣は無い。サマータイムなし。

⑭就学率：初等教育 98.6%、中等教育 94.7%（NSO、2010）

⑮外国人訪問客数：457,514 人（NSO、2011）

⑯在留日本人：459 名（2011年10月時点）

⑰日本との時差：-1 時間

⑱モンゴルへのフライト：直行便が週 2～5 便（シーズンによる）。所要時間約 5 時間。



- ⑨略史：
- 1206年 チンギスハンがモンゴル高原に遊牧国家を創設。
  - 1274年 文永の役（1度目の「元寇」）が発生。
  - 1279年 フビライハーンが首都を大都（現在の北京）に移す。
  - 1281年 弘安の役（2度目の「元寇」）が発生。
  - 1368年 中国に成立した明朝により元朝はモンゴル高原に撤退。
  - 1688年 満州族による清朝の支配下に入る。
  - 1911年 辛亥革命で清朝より分離し自治政府を樹立。
  - 1919年 自治を撤廃し中国軍閥の支配下に入る。
  - 1921年 活仏を元首とする君主制人民政府成立。（モンゴル革命）
  - 1924年 活仏の死去に伴い人民共和国を宣言。
  - 1961年 国連に加盟。
  - 1990年 複数政党制を導入し、社会主義を事実上放棄。
  - 1990年 大統領制に移行、初代大統領に P.オチルバトを選出。
  - 1992年 モンゴル憲法施行、国名をモンゴル人民共和国からモンゴル国に変更。

## 1.2. 地理・気候

モンゴルはロシアと中国に挟まれた北東アジアの内陸国である。約 280 万人の人口のうち 120 万人が居住する首都ウランバートル（Ulaanbaatar、以下 UB）の他に、主要都市として工業地区のダルハン（Darkhan）、銅鉱山を有するエルデネット（Erdenet）等がある。

緯度は北緯 48～52 度である。内陸国で海から離れており標高が高いため、大陸性気候で年間を通じ雨量が少なく空気が乾燥している。全域の年間平均気温はマイナス 2.9 度で、地域により多少異なる。また年間降水量は、北部のハンガイ（Khangghai）山脈及び北方のハンガイ草原帯は 400mm 以上、ゴビ砂漠等南部は 100mm 以下、ハンガイ山脈南のヘルタル草原帯はその中間の雨量である。北部は農地やステップ草地であり、南部は砂漠地帯、西部は主に森林や山が占めている。

最も寒いのは 1 月（全国平均マイナス 33～マイナス 20 度）、最も暑い時期は 7 月（全国平均 18～28 度）である。春（4～5 月）は、突風、砂嵐、気圧の絶えざる変化に悩まされる。UB 市で新緑が始まるのは、5 月下旬頃である。6～9 月は一般に湿気のない爽快な日が多く、年間を通じ最も過ごしやすい季節となる。また 7 月中旬に行われる国民的祭「ナーダム（Naadam）」以後 8 月中旬頃までは多くのモンゴル人が長期休暇をとるため仕事が進まない事態も発生し得る。冬は日中でさえ相当に冷え込むが、UB 市内の主な建物には暖房が完備されているので室内にいるかぎり寒さの心配はない。

図表 1.2.1 主要都市・県の人口



(出典：NSO、2010)

### 1.3. 政治

1992年に新憲法が制定され、他の民主主義国と同様、国家元首の下に立法、行政、司法に分かれた政治体制を敷いている。2012年6月28日に総選挙が行われ、長年にわたり政権を握っていた人民党（旧人民革命党）に代わって民主党が第一党となり、公正連合と連立政権を構築した。

- ①政体：共和制（大統領制と議院内閣制の併用）
- ②元首：ツァヒヤール・エルベグドルジ大統領（2009年6月就任）
- ③議会：国家大会議（一院制、国会議員の定員76名、任期4年）  
 （2013年1月時点での所属議員73名、3名は未定）  
 （民主党32、人民党25、公正連合11、国民勇気・緑の党2、無所属3）
- ④政府：民主党、公正連合（人民革命党・民族民主党）、国民勇気・緑の党の連立
  - ・首相：N.アルタンホヤグ（民主党）
  - ・副首相：D.テルビシダグワ（公正連合）
  - ・内閣官房長官：Ch.サイハンビレグ（民主党）

モンゴル国政府組織図  
 <THE CABINET OF MINISTRIES OF MONGOLIA>

2012年8月20日より

内閣		
首相	:N.アルタンホヤグ(民主党)	N.ALTANKHUYAG
副首相	:D.テルビシダグワ(公正連合)	D.TERBISHDAGVA
内閣官房長官	:Ch.サイハンビレグ(民主党)	CH.SAIKHANBILEG
1.自然環境・グリーン開発省 大臣:S.オユン(国民勇気・緑の党、女性) The Ministry of Nature, Environment and Green Development S.OYUN	グリーン開発政策・企画局	財務・投資課、クリーンテクノロジー・科学課
	国家行政管理局	対外協力課
	環境・天然資源局	自然環境評価・監査課、森林・水・特別保護区測地課
	政策実施調整局	森林保護・育成調整課、水資源課
	特別保護区管理局	水モニタリング・調整課、流域管理課
	監督分析・評価・内部監査局	
	気象環境測定庁	
2.外務省 大臣:L.ボルド(民主党) The Ministry of Foreign Affairs L.BOLD	政策・企画・調査局	情報・対外広報課
	隣国局	国境管理課
	アジア太平洋諸国局	
	欧州・中東局	
	国際機関局	
	国家行政管理局	財務投資課、情報技術室、外交中央文書館
	条約・法務局	
	領事局	
	監督・分析・評価・内部監査局	
	外交儀典部	
3.大蔵省 大臣:Ch.ウラーン(公正連合) The Ministry of Finance CH.ULAAN	予算政策局	統合予算課、収入課、支出課、投資財務・監査課
	法務局	資源基金管理課
	会計登録政策局	
	財務・調達政策局	
	国家行政管理局	財務・組織課、予算情報データベース管理課
	国庫局	財務・報告書・登記課、支払・清算課
	プロジェクトファイナンス調整局	債務管理課
	内部監査・監督分析・評価局	
	関税庁	
	国税庁	
4.法務省 大臣:Kh.テムージン(民主党) The Ministry of Justice KH.TEMUUJIN	法制度改革政策局	
	法務総合政策局	
	国家行政管理局	財務・投資課、対外協力課
	政策実施調整局	法律遵守政策実施調整課、内務政策実施課
	監督分析・評価・内部監査局	
5.建設・都市計画省 大臣:Ts.バヤルサイハン(民主党) The Ministry of Construction and Urban Development TS.BAYARSAIKHAN	戦略政策・企画局	財務・投資課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	建設・資材政策実施調整局	
	都市建設・土地関係政策実施調整局	
	住宅・公共サービス政策実施調整局	
6.国防省 大臣:D.バトエルデネ The Ministry of Defence D.BAT-ERDENE	監督分析・評価・内部監査局	
	戦略政策・企画局	地方防衛・国家動員課
	国家行政管理局	財務・投資課
	政策実施調整局	装備・機材課
	対外協力局	
7.教育・科学省 大臣:L.ガントゥムル(民主党) The Ministry of Science and Education L.GANTUMUR	国軍総司令部	
	戦略政策・企画局	財務・投資課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	政策実施調整局	就学前・初等教育課、基礎・中等教育課
	監督分析・評価・内部監査局	高等教育課、学術課
8.道路・運輸省 大臣:A.ガンスフ(民主党(非議員)) The Ministry of Road and Transportation A.GANSUKH	監督分析・評価・内部監査局	
	戦略政策・企画局	財務・投資課、プロジェクト・プログラム・対外協力課
	国家行政管理局	法務課
	道路政策実施調整局	道路建設・生産課、道路利用・改修課
	自動車輸送政策実施調整局	自動車輸送実施調整課、技術専門課
	鉄道・海上輸送政策実施調整局	鉄道政策実施調整課、海洋利用・水上輸送政策実施調整課
	道路・運輸監督・登記局	
	監督分析・評価・内部監査局	
	航空輸送政策実施調整課	
民間航空庁		

9. 文化・体育・観光省 大臣: Ts.オユンゲレル(民主党、女性) The Ministry of Culture, Sports and Tourism TS.OYUNGEREL	戦略政策・企画局	財務・投資課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	文化・芸術政策実施調整局	
	観光政策実施調整局	
	監督分析・評価・内部監査局	
10. 鉱業省 大臣: D.ガンフヤグ(民主党) The Ministry of Mining D.GANKHUYAG	戦略政策・企画局	経済・財務・投資課、地質政策課、鉱山政策課 燃料政策課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	政策実施調整局	
	監督分析・評価・内部監査局	
	鉱物資源庁	
	石油庁	
11. 工業・農牧業省 大臣: Kh.バートルガ(民主党) The Ministry of Industry and Agriculture KH.BATTULGA	戦略政策・企画局	財務・投資課、法務課
	国家行政管理局	対外協力課
	重工業政策実施調整局	
	軽工業政策実施調整局	
	食品産業政策実施調整局	
	牧畜政策実施調整局	
	農業政策実施調整局	
	監督分析・評価・内部監査局	
	国有財産委員会	
12. 労働省 大臣: Ya.サンジミヤタフ(民主党) The Ministry of Labor YA.SANJMYATAV	家畜衛生繁殖庁	
	労働関係政策調整局	
	財務・会計政策・企画局	基金活用課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	労働政策実施調整局	労働市場・雇用支援課、労働力移動課
	専門教育・研修政策実施調整局	
13. 人口開発・社会保障省 大臣: S.エルデネ(民主党) The Ministry of Population Development and Social Welfare S.ERDENE	中小企業開発局	中小生産者支援課
	監督分析・評価・内部監査局	
	戦略政策・企画局	財務・投資課
	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	人間開発政策実施調整局	家族・女性開発課、青年開発課、障害者開発課
14. 経済開発省 大臣: N.バトバヤル(民主党) The Ministry of Economic Development N.BATBAYAR	社会保障政策実施調整局	
	監督分析・評価・内部監査局	
	開発政策・戦略企画・調整局	総合企画課、投資総合政策課、通商課 部門開発政策調整課
	経済協力・融資・援助政策局	
	外国投資調整・登記局	
	イノベーション・官民パートナーシップ局	イノベーション・高度技術課、自由区課 コンセッション課
15. エネルギー省 大臣: M.ソノムピル(公正連合) The Ministry of Energy M.SONOMPIR	国家行政管理局	法務課、対外協力課
	監督分析・評価・内部監査局	
	戦略政策・企画局	法務課、財務・投資課
	国家行政管理局	対外協力課
16. 保健省 大臣: N.ウドバル(公正連合、女性) The Ministry of Health N.UDVAL	政策調整実施局	エネルギー課、再生エネルギー課、燃料(燃料炭)課
	監督分析・評価・内部監査局	
	政策・企画局	
	国家行政管理局	人材管理・開発課、保険機関管理・開発課、対外協力課
16. 保健省 大臣: N.ウドバル(公正連合、女性) The Ministry of Health N.UDVAL	政策実施調整局	財務・経済課、医療支援課、公衆衛生課 診断・医療技術課、薬剤・医療機器課
	監督分析・評価・内部監査局	

## 1.4. 経 済

- ①主要産業：鉱工業、牧畜業、流通業、軽工業
- ②名目 GDP：8,557.6 百万ドル（世界銀行、2011）
- ③一人当たり GDP：2,562 ドル（世界銀行、2011）
- ④経済成長率：17.3%（モンゴル国家統計委員会（以下 NSC）、2011）
- ⑤インフレ率：10.2%（NSC、2011）
- ⑥失業率：約 7.7%（NSC、2011）
- ⑦貿易総額：11,415.9 百万ドル（NSC、2011）
  - ・輸出：4,817.5 百万ドル
  - ・輸入：6,598.4 百万ドル
- ⑧主要貿易品目
  - ・輸出：鉱物資源（石炭、銅精鉱、蛍石）、原油、牧畜産品（カシミヤ、皮革）
  - ・輸入：石油製品、自動車、機械設備類、日用雑貨、医薬品
- ⑨外貨準備高：2,273.9 百万ドル（NSC、2011）
- ⑩主要貿易相手国（上位 5 か国）
  - ・輸出：中国、ロシア、カナダ、イタリア、韓国
  - ・輸入：中国、ロシア、アメリカ、日本、韓国（NSC、2011）
- ⑪日本との経済交流
  - ア．貿易額：270.94 億円（大蔵省貿易統計、2011）
    - ・モンゴル→日本：14.05 億円  
鉱物資源（石炭、蛍石）、繊維製品、一般機械等
    - ・日本→モンゴル：256.89 億円  
自動車、一般機械、建設・鉱山用機械等
  - イ．日本からの直接投資
    - ・投資額累計：138.6 百万ドル（旧外国投資貿易庁：Foreign Investment and Foreign Trade Agency、以下 FIFTA、2010 年末時点）
    - ・日本企業の支店開設数：支店 0 社、駐在出張所 25 社（FIFTA、2011 年 6 月）
    - ・現地法人化した企業数：100%資本 119 社、合弁 254 社（FIFTA、2011 年 6 月）

## 1.5. 外 交

### (1) 概 況

社会主義時代、モンゴルはソ連との関係が深かったが、現在は、国境を接する中国とロシアの 2 大国に対してどちらにも偏らないバランスを保持しつつ、「第 3 の隣国」と位置づける日本、韓国、米国、欧州等との関係強化を図ることを外交・安全保障の基本方針に据えている。

2007 年、エンフバヤル大統領（当時）は、日本、フランス、韓国、キルギス、米国等 12 カ国を公式訪問し、その精力的な外遊が注目を集めた。一方、ノモンハン事件 70 周年にあたる 2009 年には、ロシアの首相と大統領が相次いでモンゴルを訪問、また中国首相も 2010 年に 16 年ぶりにモンゴルを公式訪問する等、両大国は積極的な外交を展開し、モンゴルにとって政治・経済両面で大きな位置を占めている。

また、非同盟諸国会議への加盟、ASEAN 地域フォーラム（ASEAN Regional Forum、ARF）への参加、中東湾岸諸国との関係の重視等、安全保障の見地からも多面的・多角的な外交を展開している。

## (2) 日本との関係

1980年代末の東欧革命による民主化の波はモンゴルにも押し寄せ、1990年に複数政党制を導入し、社会主義から大統領制に移行した。1992年には新憲法を施行し国名も「モンゴル国」に改め、名実ともに民主化への道を踏み出した。当初は体制転換の混乱により経済の低迷が続いたが、日本をはじめとする各国からの経済支援や国際通貨基金（International Monetary Fund、IMF）の資金援助によって、1994年に経済成長率がプラス2.3%に転換した。

また、1991年、先進国首脳として初めて日本の海部総理大臣がモンゴルを訪問し、同年日本の提唱で第1回「モンゴル支援国会合」を東京で開催する等、日本は国際社会における対モンゴル支援でイニシアティブを発揮してきた。2010年度までの間に、無償資金協力942億円や有償資金協力758億円、技術協力実績331億円等の援助実績がある。

現在のモンゴルは、極めて親日的な国である。民主化後のモンゴルにとって最大の援助供与国であるとともに、大相撲でのモンゴル力士の活躍等によって広く国民の間に日本への親しみが浸透している。

在モンゴル日本国大使館が実施した世論調査（2004年）においても、「日本に親しみをを感じる」との回答が全体の7割を占め、「最も親しくすべき国」として日本が第1位に挙げられた。こうした日本に対するモンゴルの人々の思いは、日本語学習熱の高まりや日本への留学生増加としても表れている。

## (3) その他主に日本との関係に関する事項

### 1) モンゴルから日本への留学生数

2011年時点で1,170名（出典：在モンゴル日本国大使館）が日本の高等教育機関に在籍しており、出身国（地域）別では11位である。また、同年において出身国人口1万人あたりの日本への留学生数ではモンゴルが1位である（人口1万人あたり4.74名）。

さらには日本から帰国した多くの留学生が、産官学様々な分野で活躍をしており、2012年6月の総選挙により発足した新政権では日本からの帰国留学生2名が閣僚の要職に就いている。

### 2) 姉妹都市交流

- ・長野県佐久市 — ウランバートル市
- ・兵庫県豊岡市 — ボグド郡（バヤンホンゴル県）
- ・長崎県松浦市 — ホジルト
- ・宮崎県都城市 — ウランバートル市

（出典：財団法人自治体国際化協会 2012年11月30日時点）

### 3) 日本留学帰国学生の会（JUGAMO会：Japanese University Graduated Association of Mongolia）（付属資料11参照）

モンゴルでは1995年に日モのさらなる友好を図るため、日本に留学した学生らで構成されるJUGAMO会が発足された。現在は400名の会員を抱え、主に以下のような活動を行っている。

- ・モンゴル—日本友好親善関係の拡大の為の活動
- ・知識向上のための母校との交流
- ・日本語教育の支援
- ・日本へ留学する学生への助言
- ・モンゴル—日本関係促進行事の開催
- ・日本からの民間投資の支援

#### 4) カイゼン協会

JICA (Japan International Cooperation Agency : 独立行政法人国際協力機構) が協力を行っているモンゴル日本人材開発センターで実施されているビジネスコース (2002 年スタート) の第 2 期生が設立した協会。ビジネスコースで学んだ日本的経営や生産・品質管理等の手法を用い、お互いの企業の問題点を指摘し合い経営改善を促すことで会員企業の近代化を図っている。また同センターと協力し、各種セミナーを開催する等カイゼン活動の普及に積極的に取り組んでいる。

## 第2章 経済・産業、物価、投資、貿易等の動向

### 2.1. 経済・産業動向

モンゴルは鉱物資源に恵まれており、近年、大変注目されている。鉱物資源の輸出の太宗を占めるのは石炭、銅、及び鉄鉱石で、モンゴルの南部に世界有数の銅・金鉱山のオユトルゴイ (Oyu Tolgoi、以下 OT) 鉱山がある。また、未開発石炭鉱山では世界第一の規模を誇るタバントルゴイ (Tavan Tolgoi、以下 TT) 鉱山や、その他にも多くの中小鉱山が開発中である。

モンゴル経済は、輸出の約 90% 近くを占める鉱物資源分野の活況をエンジンとし、現在、急速な成長を示している。OT、TT の巨大二鉱山の開発が始まり、2013 年からの鉱物資源輸出の急増に伴う、外資の流入やインフラ整備の促進が予想されている。これらを背景に、種々のサプライ品や、建築・運輸・サービス部門の需要が急増し好循環過程に入っている。

鉱山部門が牽引役となり、モンゴル経済は、中期的に大きく飛躍する時期に来ている。モンゴル政府は、一人当たり GDP が 2011 年の 2,500 ドルから 2016 年には 12,500 ドルに急増すると予想している。GDP は、2011 年に 17.5% (図表 2.1.1 参照)、2012 年第 1 四半期は 16.5% の高成長を実現したが、第 2 四半期は西欧の経済危機に端を発する国際経済不安、中国経済の減速もあって 11.0% と減速した。

鉱物資源開発に伴う輸入の増加もあり、経常収支の赤字幅が拡大しているが、海外資本の流入により資金が供給されている。現在、トゥグルグとドルの為替は、トゥグルグが弱含みで推移しており、外貨準備高も減少基調に入っているが、一時的なもので、2013 年から予定通りに OT の輸出が開始されれば、国際収支の問題は解決されると予想される。鉱物資源輸出が好調になれば政府の財政収入が大きく膨らむ構造になっている。モンゴル政府は、この収入の一部をインフラ建設、社会福祉に振り分ける政策を採用している。中期的に膨らむ財政収入の管理のため、政府は 2013 年から財政安定化法を実施する予定になっている。

モンゴル経済の大きな課題は鉄道、道路、電気等のインフラの建設を促進することであり、鉱物資源を開発するには、発電所と送電線、鉱石を運搬するための鉄道建設、道路建設が必要である。巨大鉱山があるモンゴルの南部では、新たな街作りが行われている。

モンゴル経済の構造は、外需が 50% を占めており、輸出の殆どは地下資源、石炭、銅、鉄鉱石等で、その主な輸出先は中国である。中国経済が堅調に推移する限り、モンゴル資源の中国輸出は安定的に推移するものの、最近の国際経済の停滞から資源価格は下落しており、今後の国際価格の推移にも注視する必要がある。ロンドン金属取引所 (London Metal Exchange、LME) によると、石炭価格は 2008 年 7 月の 200 ドルから 2012 年 12 月には 100 ドルと半減し、又、銅の価格も 2011 年 2 月の 10,000 ドルから 2012 年 8 月には 7,500 ドルと下落している。

モンゴル経済に関する懸念材料の一つは、リオティント社 (Rio Tinto) とモンゴル政府との OT 投資協定にかかる改定交渉の帰趨である。モンゴル政府は、リオティント社と再度、投資安定協定の見直し協議を求めているが、リオティント社側はこれを認められないとして、膠着状態になっている。この動きが解決しない場合、2013 年開始の OT 鉱山の生産予定がずれ込み、モンゴル経済の先行き及び外国投資の流入に大きな影響を及ぼす恐れがある。

国内経済ではインフレが大きな問題となっており、今年に入っても年率 15% 程度で高止まりしている。公務員給与の引き上げや住宅不足、食肉価格の高騰等の供給面の問題及び、モンゴル銀行 (Bank of Mongolia) による通貨の流動性を促進させる政策等の結果と考えられる。最近、盛況であった建設業界においても、政府の建設業者に対する査察の実施やそれに伴う建設中止命令の結果、80 件弱の建築実施が中止状態にあると言われている。当然、これらは経済活動にマイナスの影響を与えている。



図表 2.1.1 GDP 成長率等

	2008年	2009年	2010年	2011年
GDP成長率(名目%)	8.9	-1.3	6.4	17.5
一人当たりGDP(ドル)	1,847	1,855	2,065	2,562
全国貸出残高(100万トゥグルグ)	2,635,551.6	2,655,000.4	3,264,778.0	5,641,233.7

(出典：NSO、2010)

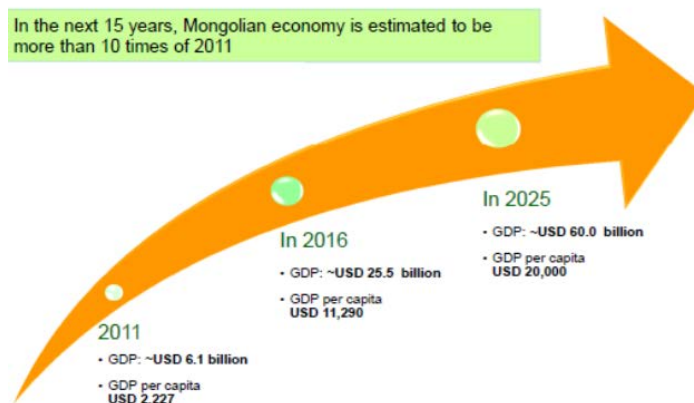
図表 2.1.2 GDP の産業別構成 (単位：%)

	2009年	2010年	2011年
鉱工業	19.8	23.6	21.7
卸・小売	12.2	15.6	18.9
農林漁業	17.9	14.3	13.0
製造業	8.3	8.4	9.2
運輸・倉庫	8.3	7.8	7.3
不動産	7.3	6.6	6.7
教育	4.7	4.0	4.0
公共サービス	4.1	3.6	3.5
情報通信	4.7	4.0	3.3
その他	12.7	12.1	12.4

(出典：NSO、2010)

尚、シティバンク (Citibank) の調査では、モンゴルは今後 20 年に渡って世界一の高成長国になると予想されている。図表 2.1.3 にモンゴルの今後 15 年間の成長予測を、図表 2.1.4 にはシティバンクによる今後 20 年間の国別成長予測を示す。

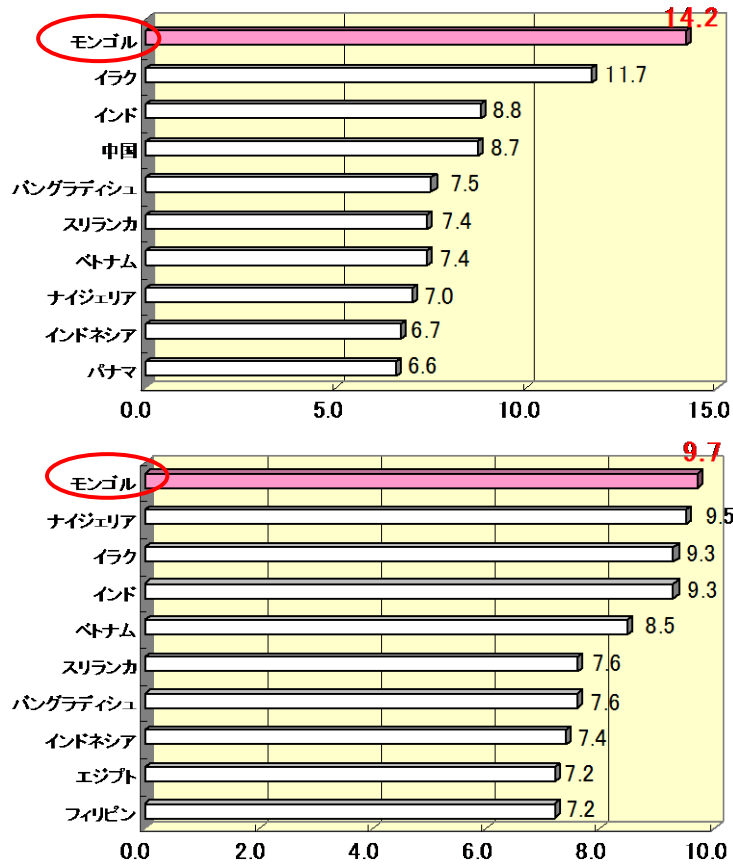
図表 2.1.3 今後 15 年間の成長予測



(出典：NSO、2010)

図表 2.1.4 今後 20 年間の国別 GDP 成長予測

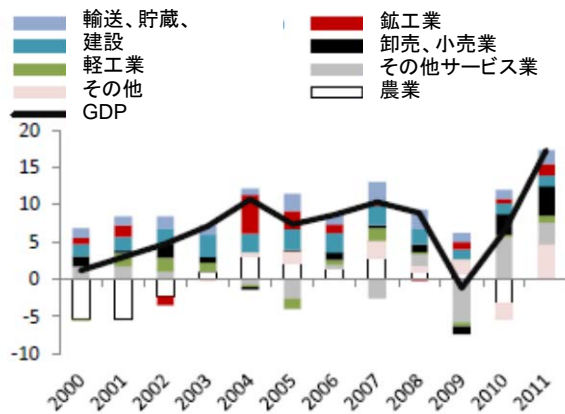
(上段：2010～2015 年、下段：2010～2030 年)



(出典：CITIBANK、2011)

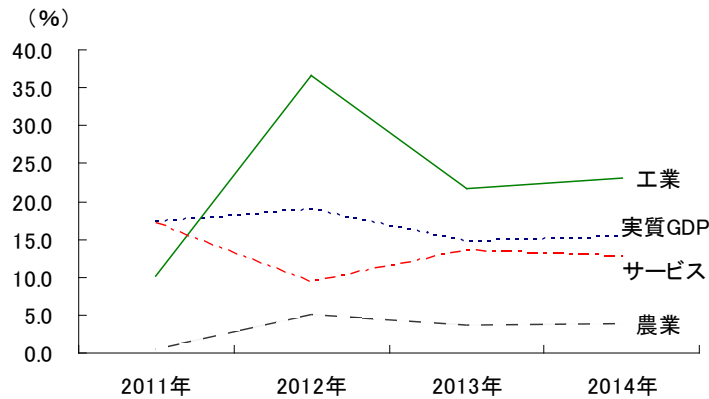
図表 2.1.5 GDP 成長率及び各産業の寄与率

(%: GDP成長率への寄与率、対前年比)



(出典：世界銀行)

図表 2.1.6 中期の成長見通し



(出典：国家開発イノベーション委員会：

National Development and Innovation Committee、以下 NDIC)

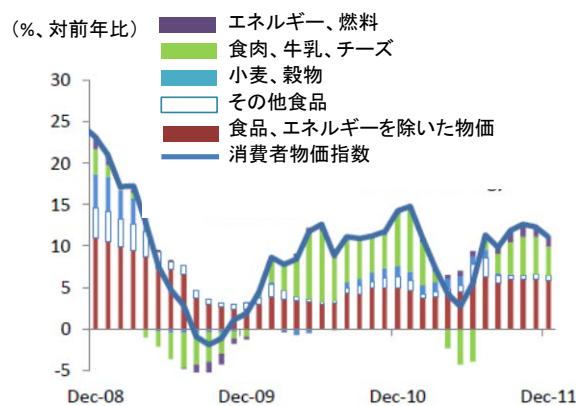
## 2.2. 物価動向

2011年の消費者物価指数は13.5%上昇した(図表2.2.1参照)。経済成長が目覚ましい上に、政府の拡張的財政政策(2010年比で56%増の歳出)や人間開発基金による国民への現金支給に伴う食品や石油価格の上昇、公務員給与の引き上げ等が影響している。また、食肉以外の食料品は大半を中国から輸入しているため、中国の食品価格の上昇が3ヶ月遅れでモンゴルに波及すると言われている。

モンゴル銀行でも、3度に渡って政策レートを引き上げ12.3%とし、預金準備率を11%に引き上げる等の策を講じているが、2011年後半にはインフレの影響で現地通貨トゥグルグが11.4%下がった。

2012年2月時点でも12%の物価上昇が起こっており、政府支出の抑制がなければ、消費者物価指数は、今後も二桁の上昇圧力を受けると予想される。財政政策と金融政策の調和を遵守するため2013年から財政安定法が施行され、財政赤字をGDPの2%以内にとどめることが謳われている。

図表 2.2.1 UB における物価動向



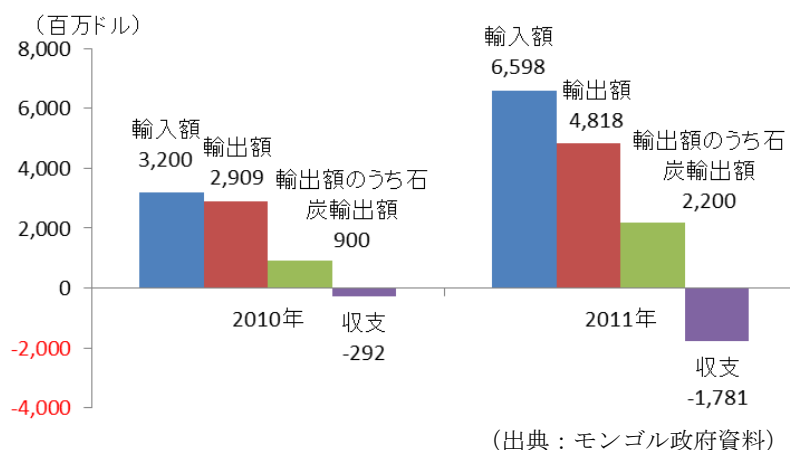
(出典：世界銀行)

### 2.3. 貿易動向

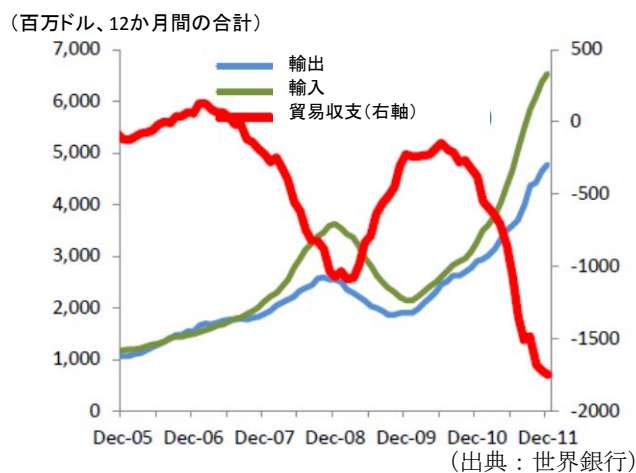
2011年の貿易収支は17.8億ドルの赤字で、建設輸送用機器や燃料・機械を始めとした輸入額が66億ドルへと大きく増加したため、2010年の2.9億ドルの赤字に比べ大きく拡大した(図表2.3.1、図表2.3.2参照)。

一方で輸出に関しても、モンゴル南部からの中国向け石炭輸出が増えたため、前年の29億ドルから48億ドルと大幅に増加している。中国は、全輸出の90% (75%が石炭及びその他鉱物資源) を占め、モンゴル最大の貿易相手国である。

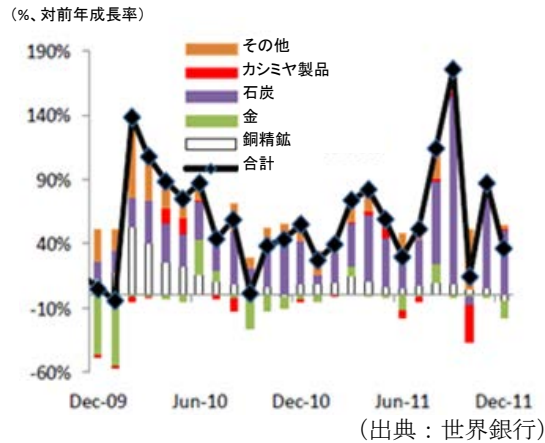
図表 2.3.1 貿易収支 (2010年対2011年)



図表 2.3.2 輸出入動向 (2005～2011年)

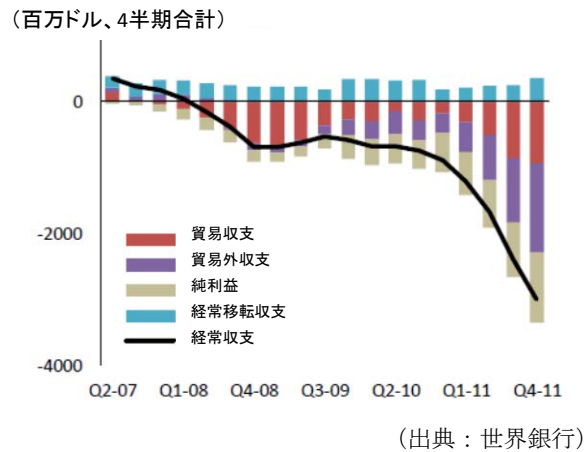


図表 2.3.3 主要製品輸出動向 (2009～2011年)

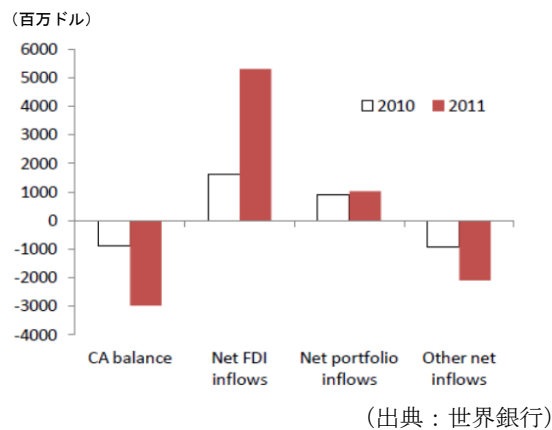


また、経常収支のGDP比は、2010年の14%の赤字から、同35%の赤字に拡大したが、一方で外国直接投資 (Foreign Direct Investment、FDI) が53億ドルと急増したため (GDP比62%)、赤字を補完できた (図表2.3.4、図表2.3.5参照)。

図表 2.3.4 経常赤字の構成 (2007～2011年)

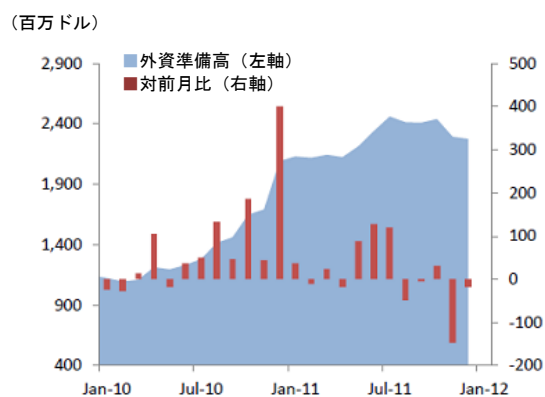


図表 2.3.5 直接投資の流入額



また、国内インフレの進展と世界的金融不安に伴う商品（鉱物資源）価格の下落が影響し、2011年度はトゥグルグがドルに対し11.4%下落した。それに伴い、外貨準備高は2011年8月に一時2,400百万ドルの水準にまで達していたが、年末から売り圧力を受け2012年1月には2,270百万ドルまで下落した（図表2.3.6参照）。国内インフレの状況次第で一層のトゥグルグ安も想定されるが、2013年からは輸出の拡大が見込まれるため、財政運営の節度が保たれば一時的なトゥグルグ安にとどまるものと思われる。

図表 2.3.6 外資準備高



(出典：世界銀行)

## 2.4. 投資動向

### 2.4.1. 政府投資計画

モンゴル政府は2010年に新投資計画を閣議決定している（図表2.4.1、図表2.4.2参照）。都市計画、エネルギー問題、世界基準の道路網改善、住宅や職場の提供等を通じ、健康で安全な生活環境の確保と経済社会問題の解決が目標に掲げられている。民主党主体の新政権は、概ねこれらを踏襲する模様である（具体的な投資プロジェクトについては「第2章 2.5.2 国家計画における重点分野」を参照）。

図表 2.4.1 政府投資計画（1）（単位：百万トゥグルグ）

	投資の種類		ウランバートル市	地方	合計
	2010-2012	資金源	国家予算	844,540	
ローン			92,455		92,455
その他			3,751,221	4,229,153	7,980,374
合計投資額		4,688,216	4,229,153	8,917,369	
2013-2016	資金源	国家予算	386,424		386,424
		ローン			0
		その他	5,691,340	3,284,399	8,975,739
	合計投資額		6,077,764	3,284,399	9,362,163
合計	資金源	国家予算	1,230,964		1,230,964
		ローン	92,455		92,455
		その他	9,442,561	7,513,552	16,956,113
	合計投資額		10,765,980	7,513,552	18,279,532

(出典：モンゴル政府資料)

図表 2.4.2 政府投資計画（2）（単位：百万トゥグルグ）

都市計画	4,478
インフラ	11,084,391
住宅	5,323,744
教育・職場改善	957,311
大気汚染	369,951
地方開発	158,692
工業化	110,000
都市への人口流入対策	270,965
合計	18,279,532

（出典：モンゴル政府資料）

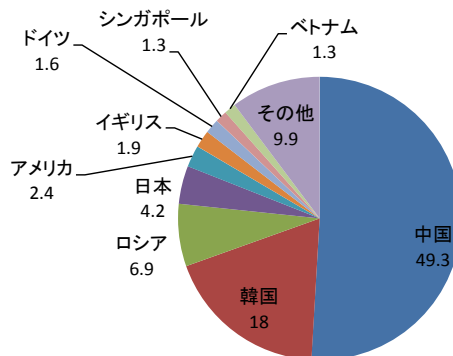
## 2.4.2. 外国投資企業の現状

以下にFIFTAの登録ベースによるモンゴル向け投資の国別動向及び分野別動向を示す。

### （1）国別動向

国別では中国が群を抜いて多く、韓国、ロシア、日本と続いている。最近では韓国の勢いが目立っている（図表2.4.3参照）。

図表 2.4.3 国別投資金額の割合（単位：％）

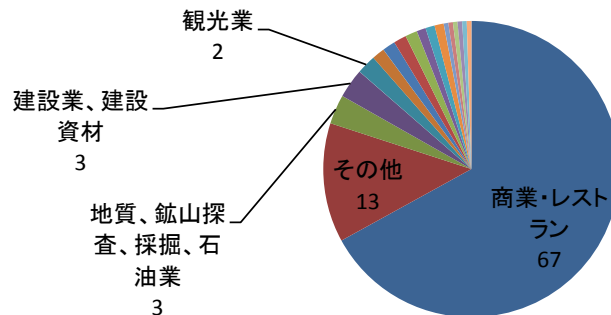


（出典：FIFTA、2011）

### （2）分野別動向

分野別企業件数では商業・レストラン等のサービス業が67%と圧倒的に多い(図表 2.4.4 参照)。

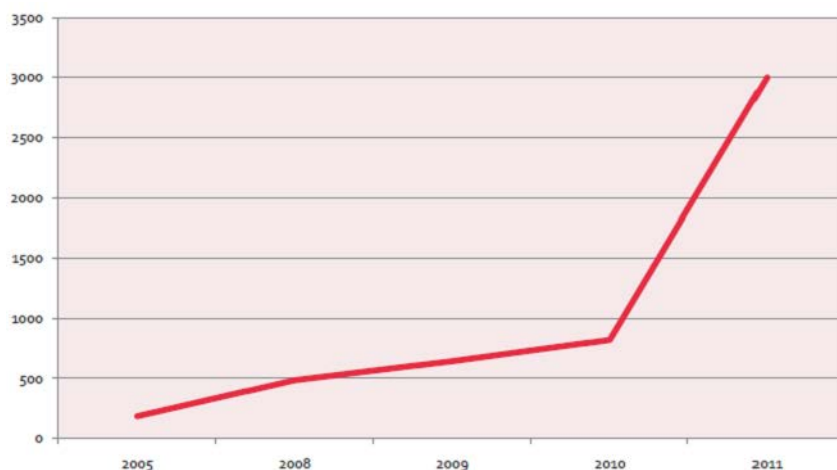
図表 2.4.4 分野別外国投資企業件数の割合（単位：％）



（出典：FIFTA、2011）

尚、分野別投資金額の特徴としては、2011年に鉱物資源向けに外国直接投資額が急増しており（図表 2.4.5 参照）、今後も OT、TT 両鉱山の開発、その他鉱物資源の開発や建設関連投資等を中心に高水準で継続的に流入することが予想される。

図表 2.4.5 鉱工業向け外国直接投資額の変化（単位：百万ドル）



（出典：FIFTA、2011）

## 2.5. 国家開発計画

### 2.5.1. 産業構造と政策の方向

モンゴルは 1924 年の清国からの独立以来、約 65 年間ソ連の衛星国で、その間、集団農業制、コメコン体制での工業分業体制下であり、1990 年の民主化により市場経済に移行したが、工業部門は育っていなかった。当時、機械工業部門等では、市場経済化移行の混乱の中でチェコ製の機械がスクラップ価格で中国業者に買い取られたといわれる。また、農業部門は、社会主義時代のシステムが崩壊したこともあり、現在でもその時代のレベルの生産高を回復していない作物もある。食品加工業、機械工業では、技術レベルが低く、世界の水準からみると相当程度遅れている。

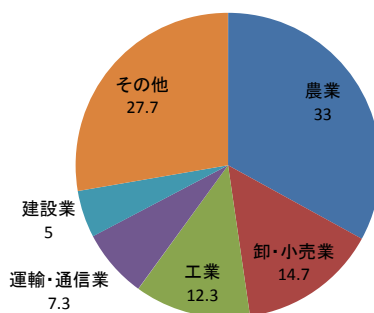
現在は、鉱物資源部門の活況のため高度経済成長が実現しているが、産業多角化や雇用創出にはつながらないために、モンゴル政府は、産業振興のための付加価値生産政策を推進しつつある。すなわち、鉱物資源を鉱石のまま出荷するのではなく、付加価値をつけて製品化しようという戦略である。例えば、石炭を鉱石で輸出する場合 30～40 ドル/t だが、選炭することで 150 ドル/t 程度に価格が上がる。銅についても同様に、精錬所を作り、鉄鉱石を中間材にして出そうとする動きがある。石炭化学・鉄鋼・製油所を中心にした重工業団地建設を計画しているのはこの政策に依っているためである。

また、鉱物資源偏重のままでは、外需次第で国家経済の浮き沈みが激しくなることから、産業多角化を推進し雇用の拡大を図るために、軽工業においても付加価値生産政策が重視されている。例として、モンゴルの伝統的産業であるカシミヤ中心の繊維産業において、原毛輸出から製品輸出へ展開する等、自国農畜産品原料を加工する食品加工業や皮革工業の振興政策を図っている。

重工業、軽工業における付加価値生産政策で不可欠なのは工業系産業人材の養成であり、特に重工業分野では重要な問題であるため、政策の重点分野となっている。尚、産業別雇用シェアは図表 2.5.1 に示す通り、農業（33%）、卸・小売業（14.7%）における雇用率が高くなっているが、今後は工業分野の人材を増やしていく必要がある。



図表 2.5.1 産業別雇用シェア（単位：％）



（出典：NSO、2010）

## 2.5.2. 国家計画における重点分野

国家計画における重点関連分野は以下の通りである。

- ・インフラ整備（道路、鉄道、電力、水）
- ・鉱工業
- ・重工業
- ・エネルギーの自給
- ・軽工業（食品工業、建築資材、繊維工業、皮革工業、飲料、金属加工、家具、その他）
- ・UBの大気汚染問題及び環境問題の解決
- ・10万戸住宅建設計画
- ・新ソム（\*）センター建設計画
- ・人材の育成

（ソム\*：県の下の行政区画にあたる郡のこと）

特に重点が置かれているのは、インフラ整備、住宅建設、新ソムセンター建設、工業の振興で、以下に詳細を述べる。また、図表 2.5.2 に各分野の投資額を示す。

### ・インフラ整備

現状では、基本的な公共サービスの量と質のどちらも十分ではない。供給率は、電力が人口の67%で水が35%である。また道路は全体の13%しか舗装されておらず、鉄道の輸送能力も経済成長に追いついていない状況である。

主要鉱山が開発されつつあるが、鉱山開発の隘路は電力及び鉱石搬出のためのインフラ整備である。鉱山があっても、電力及び鉄道、道路が整備されていないために開発が進まないという事態が起こり、このため、モンゴル政府は鉱工業部門の新規鉱山開発よりも、インフラ建設及び鉱物資源の付加価値増大へと舵取りを変えてきている。

インフラ建設で現在進められているのは、主要鉱山が位置する南ゴビを基点とする鉄道建設である。モンゴル政府はこの鉄道の運営を行うモンゴル鉄道（株）を作り、PPP（Public-Private Partnership：官民パートナーシップ、以下 PPP）方式で入札するための準備中である。実施主体はモンゴル鉄道、工事は各工区に分けて入札され、機関車、貨車、レール、枕木、信号設備及び工事等が対象となる。主要機器はモンゴル鉄道が工事請負業者に支給品として供給する。モンゴル政府は、ようやく鉱石等の運搬にかかる外洋港へのルート確保に動き出したといえる。例えば TT 鉱山の開発において、インフラが整っていなければ TT 鉱山自体の価値は上がらない。外部への輸送のためのインフラが整備されて始めて、TT 鉱山等のモンゴル鉱山への中国以外の諸外国からの開発意欲が高まることになる。ここで注目されるのが海へのルートであり、中国経由で天津港、ロシア経由でロシア東部沿岸港へ運ぶルートが従来有力であったが、最近、脚光を浴びて

いるのが満州鉄道経由のルートを使う渤海湾の丹東港の借受である。

道路については、第6章6.5. 図表6.5.1のように建設計画が立てられている。石炭を運ぶ産業道路の建設は重要ではあるが、国内の建設土木業者では技術や経験が不足しているために実施できないといわれている。また、UB市の開発に伴い、道路の改修や道路の新設計画が多数存在し、一部、PPPも含めて実施されているが、技術的にも量的にも国内業者の能力を超えており、海外から建設・土木関連会社の参加が求められている。

電力開発においては、発電所と送電線の建設が不可欠である。南ゴビでの所要電力が賄われなければ、鉱山開発は進まないからである。OT、TTとも発電所計画が立てられているが、OTでは発電所が出来るまで、一時的に中国から送電線を引いて買電する計画である。UBから南ゴビまでの配送電線敷設計画の他、ゴビでの風力発電所建設の計画もある。

以上を背景として、インフラ部門には大規模な投資が必要であるが、資金調達は十分ではないのが現状である。

**・住宅建設、新ソムセンター建設**

UBに住む世帯の大半は、暖房、水道が完備されたアパートではなく、ゲル地域という環境が整っていない地域に居住している。冬季暖房として使用される、生石炭や廃タイヤを燃料としたストーブの煤煙が、UB市内の大気汚染の大きな原因の1つとなっており、これを緩和するための住宅供給政策が遂行されている。地方開発ではソムセンター（役場、学校、コミュニティセンター等の複合施設）の建設等、近代化に向けた政策が展開されている。

**・工業の振興**

第3章 3.1.5重工業で述べる東ゴビ県のサインシャンド（Sainshand）重工業団地の建設が主である。

図表 2.5.2 中期計画推定投資額

プロジェクト	内容	推定投資額
鉄道	第一段階(タバントルゴイーチョイバルサン間) Tavantolgoi-Tsagaansuvarga-Zuunbayan Sainshand-Baruunurt-Choibalsan	30億ドル
工業	サインシャンド重工業団地 加工、製造工場6件	139億ドル
道路	7,875kmの新道路およびハイウェイ建設	48億ドル
住宅	10万戸住宅建設	62億ドル
ソムセンター	96のソムセンター建設	7億ドル

(出典：NDIC)

## 第3章 産業分析

### 3.1. 業種別分析

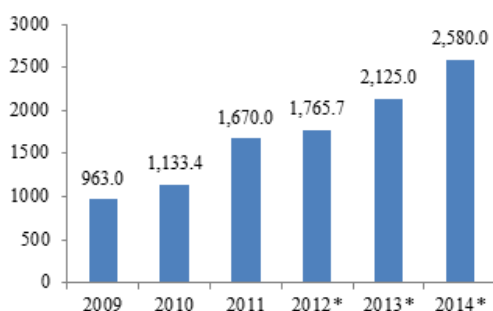
#### 3.1.1. 農業・牧畜業

##### (1) 農業・牧畜業の概況

農業分野全体の生産高の趨勢をみると、過去3年間（2009～2011年）では73.4%の増加を示し、2011年の生産高は1,670百万ドルとなっている（図表3.1.1参照）。また、2011年を基準にした今後4年間（2011～2014年）の伸び率は54.5%と引き続き高成長が見込まれている。主要な農産物として、生産高の7割弱を占める食肉（34.7%）や牛乳（34%）があり、その他に羊毛、カシミヤの原毛、毛皮、皮革等がある（図表3.1.2参照）。

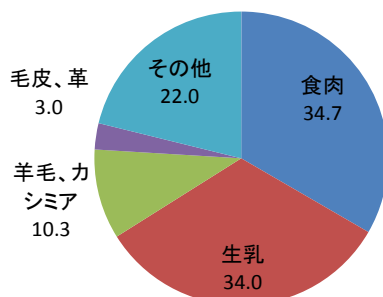
農業・牧畜業はGDPの約13%を占め、産業全体の全就業者数では約35%を占めるほど、依然としてモンゴル経済の基幹産業と位置づけられる。1990年代初頭の計画経済から市場経済化への移行直後は、それまで国営だった農牧業の民営化により、機材や家畜等が分散するとともに、それまで政府が担っていた生産計画や販売を個人で行わざるを得なくなり、生産性が急激に低下した。しかしその後、市場経済化、民営化の波の中で、農業・牧畜業の私有化による競争意識の醸成、集約化による生産性の向上や政府の支援策等の効果もあり、生産量を回復している。

図表 3.1.1 農業・牧畜業分野の生産高推移（単位：百万ドル）



（出典：モンゴルの調査会社 Creative Solutions Co.Ltd の提供による政府情報、以下 Creative Solutions Co.Ltd）

図表 3.1.2 農畜産物の生産高構成比（2011年）（単位：%）



（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

家族経営が多数を占める中で、農業経営の近代化を推進し成長している企業も増加している。さらに大手・中堅企業による農業分野への進出も盛んである。

1990 年をピークに生産量が激減し、輸入に依存していた小麦を含む穀物類やジャガイモの生産は増加しており、特に小麦については主食用パン、その他の食品加工の原料として、品質、価格面でもロシア、中国等の輸入品に劣らないレベルまで競争力を回復し、国内メーカーに安定的な供給を始めている。また、近年は健康志向と食生活の変化を背景に、野菜等青果物の生産も増えつつある。

1990 年代後半からスタートしたモンゴル政府の中長期的な緑の革命キャンペーン（Green Renovation Campaign）や農業・牧畜業振興プログラムである穀物回復プログラム（Crop Rehabilitation Programme、CRP）による農業・牧畜業の成長は緒についたばかりであるが、小麦とジャガイモについては、現状既に国内需要を超えて生産されており、それゆえ今後は輸出余力が増大することが予想される。尚、政府は 2012 年を「農業・牧畜業支援の年」と位置付け、集約化、生産性向上、品質向上を一層推進する施策を実施した。

また、モンゴル政府以外にもアジア開発銀行（Asian Development Bank、以下 ADB）、欧州復興開発銀行（European Bank of Restructuring and Development、以下 EBRD）、ドイツ、日本、韓国等 ODA（Official Development Assistance：政府開発援助、以下 ODA）からの、BOP（Base of the Pyramid、以下 BOP）対策やバリューチェーンを考慮に入れた NGO（Non-Governmental Organizations：非政府組織、以下 NGO）の設立や支援も多くみられる。特に、ドイツ、オランダ等 EU からは他業界にも見られるように、機械設備や技術、金融支援を含む包括的な戦略的支援が見られる。

## （2）農 業

### 1）概 況

産業・農牧業省による、2010 年の収穫量及び 2011 年の収穫量暫定値は図表 3.1.3 の通りである。

図表 3.1.3 2010 年の収穫量及び 2011 年の収穫量暫定値

	2010年(t)	2011年(t)	増加率(%)
小麦	345,458	443,400	28.4
ジャガイモ	167,956	191,500	12.1
野菜	82,266	97,200	18.2

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

2011 年における増加率は大きく、これまでの政府の支援策・優遇策（次頁枠内参照）が功を奏した結果といえる。しかし、モンゴルの厳しい気候の変化の中で、農産物の収穫量や品質が大きく左右されるだけに、政府にとってはこれに対する対応が今後の課題である。

以下に政府が実施した支援策・優遇策を示す。

#### <政府の支援策・優遇策等>

近年における農産物収穫量の増大の背景には、1998 年から推し進められた政府による緑の革命キャンペーンがある。第 1 フェーズは 1998～2004 年に、主に穀物と野菜を中心に推進されたが、僅か 1.7 百万ドルの予算で成果が殆ど見られなかった。2008～2010 年に再度同じキャンペーンが行われ、穀物、ジャガイモ、野菜について 100% 自給率を目標として投資と支援が進められた。また、そのために農業機械化率を 80% に上げることも目標とされた。今日の農産物生産の成長は、これら投資と支援の成果ともいえる。

緑の革命キャンペーンの具体的施策として次の 5 つが掲げられている。

- ①農業従事者のための法的、経済的条件を整備する。
- ②農家を指導する職業訓練所等の従事者の人的資源を改善する。
- ③耕作放棄地を耕作地にすることにより、栽培可能な耕作可能地を増やす。
- ④種子の供給量の増加及び品質のを改善を行う。
- ⑤農業を強化するために進的な技術及びテクノロジーを導入する。

さらに、モンゴル固有の薬草（甘草、麻黄（まおう）等）、果実の保護・育成にも政府、民間企業、NGO が連携して取り組んでおり、モンゴルならではの付加価値ある農産物、輸出品の育成を図ろうとする動きが強まっている。既に市場でジュースとして商品化され、生産量が大きく伸びている特産品「チャチャルガン（\*）」はその成功事例と言える。

（チャチャルガン\*：ビタミンCの含有量が多いグミ科の果実。）

## 2) 課題と今後の展望

モンゴルにおける農業の課題は、以下の通りである。

- ・短い栽培可能期間内での生産性向上
- ・長く厳しい寒冷時期での野菜、果物等生鮮物の生産
- ・秋季の収穫物の鮮度及び品質保持
- ・主要消費地である UB へのロジスティックス

これらを考慮した当該分野での日本企業及び外国企業の投資または連携のポテンシャルは大きい。

また、中国からの農産物及び加工食品の安全性に対してモンゴル人の警戒心は強く、食の安全や健康に対する関心の高さも見受けられる（第3章 3.2.1.消費動向調査参照）。消費者意識に対応できる安心・安全な農産物の生産は大きな課題と言える。

## 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2)を元に、農業において日本企業が進出可能な有望分野は以下が考えられる。

- 寒冷地農耕技術指導と農耕機械及び関連資機材の販売
- 品質保持のための技術指導及び資材・機械設備販売
- 保冷車等の特殊車両と効率的ロジスティックス機能を持ったロジスティックス企業の進出
- 野菜・果物工場の建設や運営

尚、補足情報として、「チャチャルガン」や「麻黄」については、日本企業との連携がいくつか進行中であり、特に「麻黄」については、以前から研究を進めている企業や大学等から強い関心を持たれている。

また、「野菜・果物工場」は農業者サイド、小売業者サイド双方からの関心が高まっており、先進的な技術を持つ日本企業と提携しノウハウを得た韓国企業が進出している。

## (3) 牧畜業

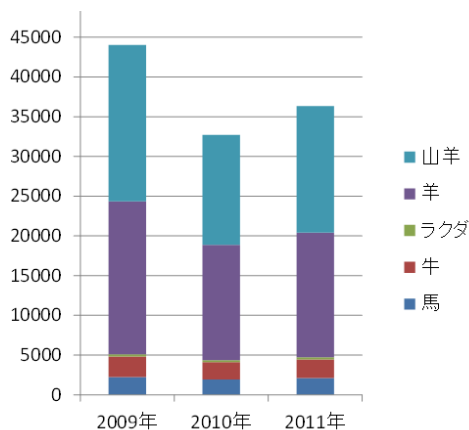
### 1) 概況

数百年の間、モンゴル人は遊牧民としていわゆる五畜を遊牧して生計を営んできた。この伝統的な遊牧による牧畜業は今でも遊牧民の経済的な基盤となっており、食肉、牛乳、毛皮、皮革、羊毛、カシミア等の産品を市場に供給することが牧畜業の中心である。

このような長い歴史的な背景を持つ牧畜業も、1991年に民営化された後は、家畜の私有化等

の市場経済化の進展に伴って、生産・販売意欲が高まり、独立自営遊牧民（家畜の飼育者）や家畜数の増加がみられる。2011年には、モンゴルの五畜を中心とした家畜頭数は36,336千頭となり、山羊・羊が87%を占めている（図表3.1.4参照）。

図表 3.1.4 五畜頭数の推移（単位：千頭）



（出典：NSO、2010）

上記の統計では把握されていないものの、近年では、食生活の変化に伴う豚肉への需要の高まりに対して養豚業も盛んであるが、供給量は需要の半分に達していないと言われている。そのような状況の中、以下に示す通り、政府も国家畜産計画（National Mongolian Livestock Programme、以下 NMLP）を策定し、「畜産業」としての本格的な振興に着手し始めている。

#### <政府の支援策・優遇策等>

モンゴル政府は、牧畜業の振興策をより積極的に推進すべく、2010年にNMLP（計画期間：2010～2015年）によって次の5つの目標を掲げた。

- ①家畜部門の自立化を促す経済的及び制度的な環境づくりを法に基づいて支援する。
- ②家畜の生産性、品質、競争力を向上させるための動物肥育サービスを改善する。
- ③有効な獣医関係のサービスレベルを国際基準まで向上させる。
- ④気候、環境の変化に適応できる家畜生産を発展させる。
- ⑤家畜及びその製品のための市場を適切な加工方法、市場マーケティング方法で開発する。

## 2) 課題と今後の展望

モンゴルの牧畜業は、数百年に亘る伝統的な遊牧的牧畜業の経験に加えて、広大な土地があり、さらに中国、ロシアという大きな市場に隣接していること等から、今後ますます発展の機会が増大すると予想される。

しかし、モンゴルにおける家畜の肥育は厳しい自然、天候に大きく影響を受けやすい。特に2009年は、冬の厳しい気候の中で牧畜業界は甚大な打撃を受け、家畜頭数が大幅に減少した。さらに、酪農牧夫の牧畜管理はやや脆弱であり、小額なりとも投資をしているところを除けば、産業としての生産性は基本的には低い水準にとどまっている。酷寒、激しい気温変化を受けにくい牧畜業、肥育対策が課題となる。

### 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2)を元に、日本企業が進出可能な有望分野は以下が考えられる。

- 肥育施設及び屠殺を含む加工工場
- 設備機械のアッセンブラーも考慮した工場設計
- 肥育、配合計画、加工技術と製品化指導
- 包装機材及び包装資材
- 馬肉(生)の輸出
- 羊肉加工品の輸入、バイオ・医療用血液輸入
- 皮、毛その他の各部位の有効利用と販売まで一貫加工ができる工場設計・運営

#### 3.1.2. 食品加工業

ハム等の食肉加工製品、乳製品及び飲料等を含む食品加工業全体の2011年の売上高は525.4百万ドルで、2009年の272.3百万ドルに対して193.0%と著しい伸びを示している(出典:Creative Solution Co.Ltd)。

食品加工業の中で、特に売上の大多数を占める食肉加工業(ハム・ソーセージ)、乳製品及び飲料製造業、菓子・パン・ケーキ製造業について以下に記載する。

##### (1) 食肉加工業(ハム・ソーセージ)

###### 1) 概況

食肉の種類別生産量の推移は、図表3.1.5に示す通り2009年に対して2011年は伸び率が顕著なヤギ肉、羊肉が285.3%、242.9%の増加に対して、牛肉、馬肉の生産量はマイナス46.9%、マイナス39.4%と落ち込みが大きい。リーマンショック後の消費市場の縮小、低価格志向の流れの中で、原材料コストとして高めの牛肉、馬肉から、価格の安い羊肉、ヤギ肉にシフトしたことを反映している。

図表 3.1.5 食肉の種類別生産量の推移

種類	2009年(t)	2010年(t)	2011年(t)	増減率(%)
牛肉	9,222	5,778	4,325	-46.9
羊肉	1,852	2,890	4,499	+242.9
馬肉	6,585	2,337	2,592	-39.4
ヤギ肉	613	1,017	1,749	+285.3
豚肉	14.6	10.8	19.0	+130.1

※増減率：2011年 / 2009年 (出典：Creative Solution Co.Ltd)

食肉加工業は、国内需要向けの伝統産業のひとつであり、体制転換後の1990年代以降、国营食肉工場の民営化が促進された波の中で、中小企業のメーカーが乱立し、業界における競争の激化、淘汰を経て今日に至っている。

モンゴルにおいて、ハム・ソーセージは重要な食品であるが、国内の消費市場自体が他国に比べて小さいだけに、輸入品との競争が少ないのがこの業界の特徴である。原料である畜肉はすべて国産であり、まさに地産地消の典型であるが、畜肉以外の関連材料と機械設備は外国からの輸入に依存している。その主な輸入先は、ドイツ(設備機械、調味料)、中国(設備機械)、ポーランド(パッケージ用資材、豚の脂)、ロシア(パッケージ用資材、調味料)等である。

尚、ハム・ソーセージ用の原料である国産豚肉や輸入品の豚の油については、大手メーカーのほとんどが、モンゴルにある韓国投資企業経由で調達をしており、モンゴルマーケットにお

いて韓国企業の影響力は大きいと言える。

## 2) 課題と今後の展望

市場自体は、所得水準の向上に伴い需要が着実に拡大傾向にあり、また「美味しさ」への要求レベルも高まりつつある。このような市場の変化に対応するため、各メーカーとも商品開発に注力している。また、ボリュームゾーン（中間所得者層）の拡大や高所得者層の増加等によって、モンゴルでは食の多様化が進んでいる。

最近の肉全般の価格の上昇につれて、価格競争がますます厳しくなっていることから、モンゴリアン・フード社 (Mongolian Food LLC.)、フーンズ・コンプレックス社 (Khuns Complex LLC.) のように、品質、付加価値の高い製品で差別化、収益確保を図る企業も現れている。これら 2 社はドイツの設備、技術支援で競争力を強化している。さらに、フーンズ・コンプレックス社の新工場建設プロジェクトでは、建築施工は中国企業が受注しているが、オランダ製の設備機械を購入する等、オランダ企業との合弁事業として進めている。当業界も EU、中国、韓国等の企業との合弁事業が増加しており、今後の世界市場における「食」資源の競争を視野に入れば、この傾向は続くものと思われる。日本企業との合弁企業としては、ダルハン・フーズが挙げられる。

## 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2) を元に、豊富な飼料原料や食肉資源を背景に、日本企業が進出可能な有望分野として以下が考えられる。

- 食肉加工技術支援や施設の提供を通じた現地生産及び販売
- ハム・ソーセージの日本市場への開発輸出：日本企業の OEM (Original Equipment Manufacturer：相手先ブランド名製造)、輸入販売業
- 包装機材及び包装資材の輸出
- 高級燻製畜肉の輸出

## (2) 乳製品及び飲料製造業

### 1) 概況

主要製品である牛乳、これを原料にしたヨーグルトやデザート系乳製品、チーズ類を製品別に見ると、デザート系乳製品が最も大きな伸びを示し、牛乳が次に続いている (図表 3.1.6 参照)。いずれも同期間で 2 倍以上の伸びを示しているが、一方で伝統的に生産されていたチーズ類は減少に転じている。消費者の食生活が、保存食重視型の伝統的な食生活から、洋式化を含めた多様な食生活、健康志向、美食と豊かさを楽しむ食生活へと急激に変化していることを示している。



図表 3.1.6 乳製品及び飲料の生産量の推移（単位：千リットル）

	2009年	2010年	2011年	増減率(%)
《乳製品》				
牛乳	10,352	17,494	20,846	201%
ヨーグルト、デザート系乳製品	4,131	6,049	8,787	213%
チーズ類	143	115	70	49%
《飲料製品》				
スピリッツ	3,541	3,609	3,440	97%
アルコール飲料	17,302	20,250	25,473	147%
ワイン	109	147	123	113%
ビール	32,445	44,879	57,134	176%
ミネラルウォーター	17,058	24,405	32,861	193%
ソフトドリンク	43,354	67,904	75,842	175%
ジュース	26,556	43,063	54,433	205%

（出典：Creative Solution Co. .Ltd）

## 2) 課題と今後の展望

企業は、健康志向や美食と豊かさを求める食生活の変化に対応していくことが必要である。特に乳製品の強化に向け、新鮮な牛乳をベースにヨーグルト等のデザート系乳製品の開発を行い、消費者ニーズに応える新商品を開拓することが課題となってくる。また、アルコール中毒や犯罪の増加等、ウォッカによる社会的な問題があり、アルコール類は国策的にも生産抑制の方向にある。

以下にこの様な課題に取り組んでいる代表的な企業2社を紹介する。

### ①ノムン・インタートレード社

“Vitafit（商標名称：ビタフィット）”のトレード・マークで有名なノムン・インタートレード社は、会社設立後14年目を迎え、従業員数は500人である。ジュース及び牛乳（原料は共にニュージーランド）、ヨーグルト等の乳製品を主力製品とし、さらに2012年に入り韓国企業との合弁で生麺製造もスタートさせている。ジュース販売では、国内シェアの50%を占める最大手である。また、ペプシ・コーラのライセンス生産販売もスタートしている。牛乳については、大手メーカー6社中2位、ヨーグルトについては3位であるが、これら乳製品については、トップメーカーになる日も近いといわれている。同社は乳製品の強化に向けて、従来の粉乳をベースに製造していた牛乳から、2000年に乳牛400頭を購入して乳業肥育事業をスタートさせ、2012年春から新鮮な牛乳の生産を開始している。

“Challenge（挑戦）”、“Innovation（革新）”をモットーに掲げ、HACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point：食品衛生管理方法、以下HACCP）の認証、ISO14001、ISO9001も取得しており、モンゴルにおける革新的企業の1社である。

### ②アプ社

1924年に国営アルコール製造企業として設立され、伝統とブランド力を持つ企業である。事業内容は、96%のシェアを持つスピリッツとこれを原料にしたウォッカ、牛乳及びジュース類、ミネラルウォーター、ビールである。グループ内には、ガソリン輸入、不動産・建設、鉱山、韓国現代自動車の大型バス・トラックの販売代理店等の事業の他に、モンゴルのテレビ局の一つであるNTVのメディア事業がある。

同社は、アルコール製造企業から事業ドメインを“飲料事業”に置き、外国企業との連携を強化して、経営革新を実現してきている。

具体的には、次のような方針を掲げている。

- ・牛乳の生産能力を倍増する。
- ・牛乳、ジュースの鮮度・栄養素重視型商品開発に注力する。
- ・ミネラルウォーターから栄養ドリンク型の付加価値の高い商品への転換を急いでいるため、ソフトドリンク類の新商品開発の強化と品揃えの拡大を目指す。

また、同社は迫られる主力事業の転換と急速な経済成長と市場の変化への対応策として、日本企業他、外国企業との提携を積極的に推進している。ジュースでは、ドイツ及びオーストラリア企業と提携し、日本企業とは缶コーヒー等で提携済みであり、更にビールメーカーとの提携も交渉中である。一方、ウォッカについてはチンギスハーン（Chinggis Khan）ブランドで輸出に注力しており、2011年に英国に販売代理店を設置し、EU、中国、台湾、日本に輸出拠点を設けるためのマーケティング活動を展開している。

さらに外国市場に向けたマーケティング、輸入・輸出、国内ロジスティクスは別会社のAPUトレーディング社（APU Trading Co.,Ltd）が行っており、特にロジスティクス分野でも、かなりレベルの高い事業展開を行っている。

尚、ノムン・インタートレード社同様、HACCP 認証、ISO14001、ISO9001 の資格取得をしており、同社も“Management Innovation（経営革新）”をモットーに掲げている。

### 3) 日本企業が進出可能な有望分野

上記1)、2)を元に、乳製品及び飲料製造業分野での日本企業の高い加工技術を活かした進出可能な有望分野として以下が考えられる。

- 乳製品開発支援、特に新鮮な牛乳を利用した幅広い乳製品開発支援
- 乳牛肥育から新鮮な牛乳の製造、またこれを原料とした新たな食品産業
- 搾乳機器、チルド物流車両、保存施設等のハード及びソフトを含めたパッケージ型機械・設備販売
- ブルーベリー、チャチャルガン等豊富な国産果樹のジュース、その他の飲料、加工食品の開発支援または技術提携

## (3) 菓子・パン・ケーキ製造業

### 1) 概況

当業界市場も消費者の食生活の変化や食のグローバル化等の影響を直接受けている。国内メーカーは、保存性が高い伝統的な菓子、パン等の商品については、供給量における対応は図られているものの、急速な経済成長に伴う消費者ニーズの「美味しい」「フレッシュ」「新しい生活スタイルに合った商品」等の質的变化に追いついていない状況である。

このような中で、外国企業にとってモンゴルのマーケットサイズは小さいものの、先行者としての市場参入の障壁は低く、一定のシェアを確保できる可能性が高く、企業ブランドの浸透も図りやすいという側面もある。

### 2) 課題と今後の展望

#### ①菓子・ビスケット・キャンディー製造業

モンゴルの伝統的な菓子は、一般に量が多くて安く食事系菓子としての機能性と保存性が高い。一方、外国製品は「パッケージは綺麗だが値段が高く少量」とのイメージがある。これまでは贈答用に購買されることが多かったが、最近は日常用としても徐々に購買頻度が高まったことから、輸入品も増加傾向にある。そのため国内メーカーもこれまでの“棲み分け”に安住できない状況にあり、新製品開発に懸命となっており、外国の技術、品質管理、機械

設備の導入が避けられない。上位の企業は設備投資に積極的であり、生産・品質管理及び商品開発等の技術習得の機会を増やしている。

伝統的な菓子で有名なウグジ・スウィート・アンド・ビスケット社(Uguuj Sweet & Biscuits Co.,Ltd)も、従来の伝統菓子からフルーツ等を入れた新しい味覚の新品を開発する等、新鮮さでイメージアップを図っている。

## ②スナック菓子・デザート類製造業

ポテトチップスに代表される各種チップスやゼリー類等のスナック菓子やデザート菓子は、国内に大手企業は殆どなく、一部の専門メーカーである中小食料品メーカーの商品が、韓国、中国、マレーシア、ドイツ等からの輸入品と競合している。しかし、輸入品は売価に対する単位当たりの物流コストが高くつくため、国内メーカーにとって大きな脅威とはなっていない。

各種チップスやゼリー類は大人から子供までマーケットが広く、人気は高いが、スーパー等の店頭で陳列されている商品は他国に比べてかなり品数が少ないだけに、今後市場が大きく成長する可能性が大きい。

## ③パン・ケーキ製造業

モンゴルの主食のパンは、伝統的に硬めで保存性が高く、また主食用の大きいサイズのものが多い。

大手のパンメーカーが、日本の製パンメーカー同様、量産型ケーキ・菓子・クッキーを作る一方で、ケーキメーカーもややソフト系のパン、クッキー等を製造しており、共に競合し合っているところが多い。ただ共通的に言えることは、パン、ケーキともやや硬めであるが、このような伝統的な商品づくりにも変化の兆しが大きく出ている。

今後の商品については、これまでの業界の常識である「大家族、長期保存に適した主食用パンを比較的安い価格のパン」から、「よりフレッシュで美味しいパン」へのニーズが増大しており、大手メーカーも新しい商品開発を実施している。

パン市場は着実に拡大傾向にあり、業界大手はこれへの対応を図っている。その代表的な例として、タルフ・チルフ社(Talkh Chikher JSC)は、2013年の稼働を目指して新工場の建設を計画中である。

業界が使用する原料については、小麦、卵、乳製品等を除けば、砂糖、油、酵母、香料等は中国・台湾ほか東南アジア、ロシア、ベルギー等外国からの輸入に依存している。また、機械設備類は中国、台湾、チェコ、スイス、ドイツ、オランダ等からの輸入が多い。

また、ケーキは、モンゴル人のひとつの「夢」であり、楽しい時間と空間を演出してくれる重要な存在である。クラシックな円形の豪華なデコレーションケーキが好まれ、家庭、会社、友人同士等の集いの場、お祝いの場ではムードを盛り上げる主役である。しかしこの伝統的なケーキ市場にも、以下の様な変化が起きている。

ケーキメーカーは、工場に店舗を併設したりまたは店舗内に小型の生産設備を設けて生産する等、消費者により近い立地と販売形態で、消費者ニーズの変化を素早く捉え、新しい商品を製作・販売している。「より美味しい」「よりフレッシュな」、五感に訴える商品が消費者の心を捉えはじめている。

このような典型的なビジネスモデルは、「オープン・フレッシュ・ベーカリーショップ」(以下 OFBS) といい、その代表的企業として、ウェンディ・ベーカリー社(Wendy Bakery)、モン・ベーカリー社(Mon Bakery LLC)等の韓国系企業が挙げられる。この新しいタイプの企業が、国内メーカーに少なからず影響を及ぼし、既存の大手メーカーも対抗策を強いられている。

日本の OFBS 業界は、韓国、台湾、中国その他の国に製パン技術・ノウハウ・店舗運営の指導を長年行ってきており、指導を受けたこれらの国がそれぞれアジア諸国で目下急成長を遂げており、モンゴルもその一つである。現在数社の日本企業が小型のベーカリーショップを展開している。モンゴル企業は、異口同音に日本からのさらなる技術習得、または投資を含む多様な提携を期待している。

### 3) 日本企業が進出可能な有望分野

上記1)、2)を元に、菓子・パン・ケーキ製造分野で日本企業が進出可能な有望分野として、以下が考えられる。

- 食品加工機械の輸出（中古品機械も含む）
- 包装機械及び包装資材の輸出
- パッケージのデザイン
- 菓子・パン・ケーキ等のシェフ養成学校
- 菓子・パン・ケーキ・デザート等の商品開発支援

#### 3.1.3. 鉱工業

##### (1) 概況

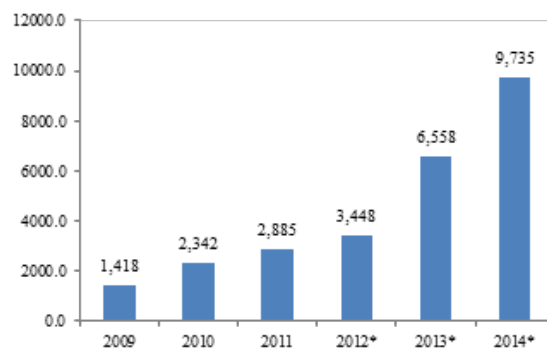
鉱工業部門はモンゴル経済成長の柱となる部門で、GDP の約 30%、政府収入の約 30%、輸出の約 90%を占め、45,000 人の労働者（全労働者の 3%）を雇用している。また、1,170 の鉱床と 8,000 の鉱兆を有しているが、現在の 1/50,000 の地質図は国土の 27%しかカバーしておらず、新たに鉱床が見つかる可能性は高い。

探鉱及び採掘ライセンスが発行されている面積は、モンゴル全土の 15.2%にしか過ぎず、発行済みライセンス数は探鉱が 2,900、採掘が 1,000 である（2011 年末）。そのうち 270 カ所で生産が開始されており、その半数が金鉱山である。このように資源の潜在力が高いモンゴルにおいて開発が本格化されるとアジアの資源地図が変わるとも言われている。

また、鉱物資源の種類も 60 種類以上あり、主要鉱物資源は石炭、銅、金、ウラニウム、モリブデン、鉄鉱石等である。レアアース（Rare Earth Elements、REE）の鉱床は 4 鉱床発見されているものの、生産はまだ始まっていない。さらに最近では、埋蔵量が 1 兆 m<sup>3</sup>とも言われているオイルシェールやコールベッドメタンガス（Coal Bed Methane：石炭層中にあるメタンガス）も注目され始めている。

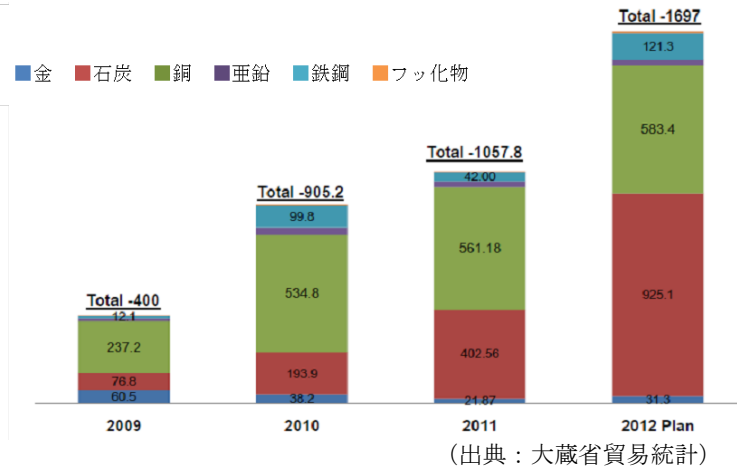
図表 3.1.7～3.1.11 で鉱工業の売上高推移及び地下資源分布図等を示す。

図表 3.1.7 鉱工業の売上高推移（単位：百万ドル）

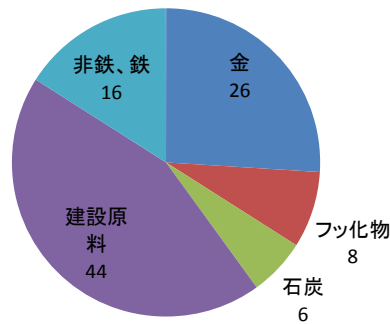


(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

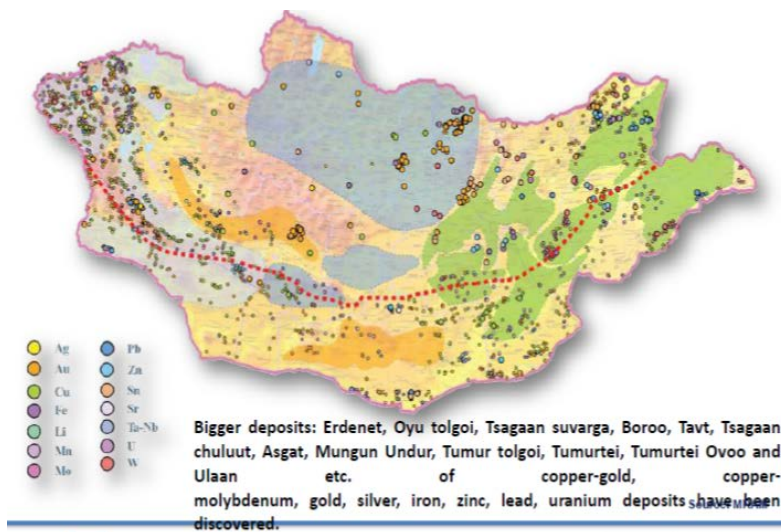
図表 3.1.8 鉱物資源からの税収の推移 (単位: 10 億トゥグルグ)



図表 3.1.9 採掘中の鉱物資源量の割合 (単位: %)



図表 3.1.10 モンゴルの地下資源分布図



図表 3.1.11 戦略的重要鉱床



(出典：鉱物資源庁)

鉱物資源法の改正手続きに伴い、2009年以降は新しいライセンスは発行されていないが、改正後にはライセンス発行が再開されると予想される。

以下に鉱物資源法概要を示す。

**< 鉱物資源法概要 (Minerals Law of Mongolia : 2006年7月8日改定) >**

鉱物資源法は、水、石油、天然ガスを除くすべての鉱物資源の探鉱、開発に適用され、国家は所有者として探鉱権、採掘権を付与できる。

① 鉱床は、以下の3つに分類される。

- ア. 戦略重要鉱床：国家の安全、国家及び地域レベルの経済、社会発展上、潜在的インパクトがあるもの、または所与の年に関し、GDPの5%以上を占める生産実績またはその潜在性があるもの。
- イ. 一般鉱床：建設資材として使用される豊富な沈殿物や鉱石。
- ウ. 通常鉱床：上記ア、イ以外の鉱床。

② 戦略的重要鉱床における国家のシェアは、以下のケースに応じて鉱床の採掘にかかる協定で決定される。

- ア. 探鉱段階で確認埋蔵量を決定するために国家資金が使用された場合  
→ 国家は50%まで保有できる。
- イ. 確認埋蔵量の決定が政府予算以外の資金で決定された場合  
→ 国家は戦略重要鉱床のライセンス保持者による投資に関し、持分比率34%まで所有できる。

いずれの場合も、戦略的重要鉱床の採掘ライセンス保持者は株式の10%以上をモンゴル証券取引所 (Mongolia Stock Exchange、以下MSE) で取引しなければならない。

③ 地質及び鉱工業部門の開発政策を決定し、政府による探鉱、採掘法規の執行を監督、戦略的重要鉱床の承認、政府の持分を決定するのは、国家大会議 (モンゴル議会) である。

④岩石サンプリング、航空調査、地質、鉱物資源情報の調査活動は、法人でかつ探鉱権や採掘権のある地域であれば、ライセンスなしで行うことができる。ただし、地主、占有者、使用者の許可が必要で下層土を攪乱することは禁止されている。

⑤鉱工業権保持及び探鉱、採掘活動に関する要件は、納税しているモンゴル法人に与えられる。1ライセンスは1社にのみ与えられ、権利を有する企業はライセンス期間を通じてこの要件を満たす必要がある。また、地主及び占有者はその土地から産出する一般鉱物については、私用及び非商業利用に供することができる。

## (2) 各鉱物資源の概況

### 1) 石炭

#### ①概況

銅を抜いて最大の輸出品目になった石炭は、現在モンゴルで一番重要な鉱物資源になっている。また、1,630 億 t を誇る埋蔵量は世界の 10% を占め、良質の原料炭と発電用の瀝青炭 (Bituminous Coal)、同じく発電や燃料に使われる褐炭 (Brown Coal) が採掘できる。2010 年は 2,500 万 t の石炭が生産され、そのうち 1,800 万 t が輸出されている。尚、モンゴル石炭協会によると 2015 年までに 5,000 万 t、2025 年までに 1 億 t が輸出されるとのことで、その主な輸出先は中国である。

最近では、石炭業界で M&A (Mergers & Acquisitions : 合併と買収、以下 M&A) が盛んになっており、2007 年以來、47 件の M&A があり総額 12 億ドルに上る。2011 年にはタイのバンプー社 (Banpu Public Co.,ltd) が、フヌー社 (Hunnu Coal ltd.) を 4 億 9,300 万ドルで買収したという例がある。フヌー社は原料炭、燃料石炭の 11 プロジェクトを有しており、主に中国向けの事業を推進している。

主要石炭鉱山の生産者は上位から以下の通りである。

#### ア. バガヌール (Baganuur) 鉱山

国営企業で 130 億 t もの埋蔵量を有し、現在は民営化リストに挙げられている。

#### イ. モンゴリアン・マイニング社 (Mongolian Mining Corporation)

南ゴビのウハー (Ukhaa Khudag) 鉱山 (埋蔵量 4 億 8,900 万 t) を有し、2010 年の香港証券市場での IPO (Initial Public Offering : 新規株式公開、以下 IPO) を通じて 7 億 4,800 万ドルを調達した。

尚、2011 年以降の予定生産量は次のとおりである。

2011 年 : 700 万 t

2012 年 : 1,000 万 t

2013 年 : 1,500 万 t

2014 年 : 2,000 万 t

#### ウ. 南ゴビサズ社 (South Gobi Sands : 以下 SGS 社)

オブートトルゴイ (Ovoot Tolgoi) 鉱山 (推定埋蔵量 1 億 1,400 万 t の原料炭と燃料炭) を保有し、毎年 800 万 t を生産する。アイバンホーマインズ社 (Ivanhoe Mines ltd.) が 57% 出資しトロントと香港で上場している。

#### エ. モンゴリアン ALT 社 (Mongolia ALT Corporation)

南ゴビでナリンスハイト (Narin Sukhait) 鉱山 (埋蔵量 1 億 3,400 万 t の高級炭) を保有し、毎年 300 万 t を生産する。同社は主に選炭設備に投資をしているのが特徴である。尚、選炭設備については、同社につづき国営企業のエルデネス MGL 社 (Erdens MGL LLC.) も導入する予定である。

尚、補足情報として、SGS社とモンゴリアンALT社は、香港のウィンズウェイ社(Winsway Coking Coal Holding ltd)と販売協定を締結しており、同社には米国のピーボディエナジー社(Peabody Energy, Inc)が5.6%出資している。外資系企業ではウィンズウェイ社以外にオランダのアムステルダムに拠点を置くトラフィギュラ社(Trafigura)が存在感を高めている。

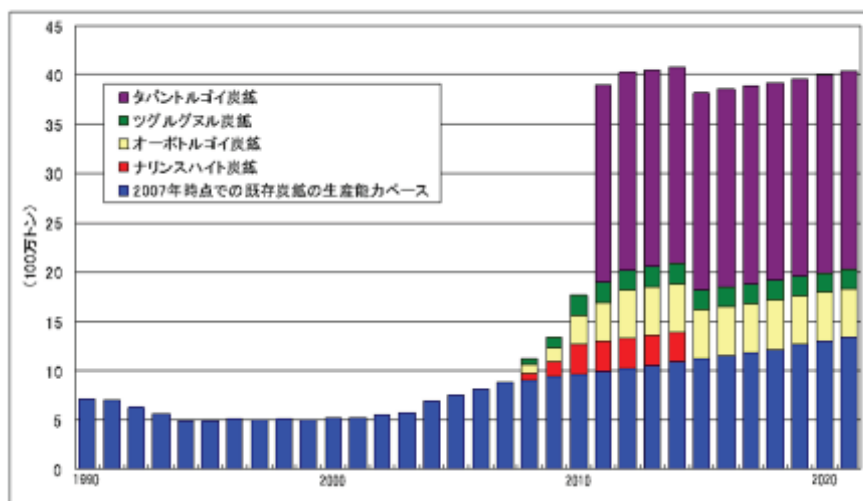
## ②タバントルゴイ(TT)石炭鉱山

TT石炭鉱山は世界最大の未開発石炭鉱山であり、64億tの埋蔵量があり、可採年数は200年超と言われている。政府はTTの鉱区を東地区と西地区に分割し、東地区はエルデネス・タバントルゴイ社(Erdenes Tavan Tolgoi)が単独開発し、西地区を外資系パートナーと共同開発することを決定しており、開発パートナーとして日本の商社も名乗りを上げている。東地区のエルデネス・タバントルゴイ社は国営企業で、開発資金調達のため2012年にIPOを行う予定で、時価総額は30億ドルと予想されている。2011年から生産が開始され中国向けに出荷されている。

2014年に生産が開始される西地区では、年間2,000万tの輸出が見込まれている。主な輸出先は中国であるが、ロシア、日本、韓国及びその他諸国への輸出も期待されている。その場合の輸送ルートとしては中国経由とロシア経由があるが、現在の様に中国に依存し過ぎるのはリスクがあるため、政府はロシア経由を選好している。すなわち、南ゴビからサインシヤンドを通りチョイバルサン(Choibarsan)で既存の鉄道に連結し、シベリア鉄道で太平洋に運ぶという鉄道敷設計画がある。実際には、太平洋に出る距離を考えると圧倒的に天津に出るのが近く(約2,200km)、他方シベリア経由だと5,500km程度になるため、モンゴル政府はTTの開発とロシア側の協力を条件付けており、シベリア経由ルートの運賃コストの値下げ(約50%)も要求している。

TT地域では、東地区のエルデネス・タバントルゴイ社を含め、エナジー・リソース社(Energy Resources)による開発鉱山の他に、ツンヒー(Tsunkhi)、小規模TT、ツム(Tsum)等の鉱山がある。エナジー・リソース社は、18MWの火力発電所を自社で建設、エルデネス・タバントルゴイ社は300MWの発電所を建設する。この発電所のタービンはドイツのシーメンス社(Siemens)が供給する。

図表 3.1.12 石炭の生産量予測



(出典：鉱物資源庁)



## 2) 石油

### ①原油

モンゴルにおける石油探査はまだ未開発の状況にある。米国の専門家による予想生産量は 40～60 億バレルと推測される一方で、モンゴル石油機関 (Petroleum Authority of Mongolia, PAM) は 8 億 7,000 万バレルと予想しており、両者に大きな相違がみられる。現在、年間 800 万バレルの原油が生産されているが、モンゴルには製油所がないため全て中国に輸出されている。尚、石油探査に関しては、現在 60 万 m<sup>2</sup>ほどのエリアを対象に 35 の潜在地区が確定されており、10 社との間で 18 件の共同開発同意書が締結されている。

1991 年の石油法は、外国投資家にとって有利な内容にはなっておらず、改定が期待されている。現在クウェートのケースをモデルにした新石油法が検討されている。

現在、日量平均 6,000 バレルの出油がある。地区「19」では中国の CNPC 社 (Chinese National Petroleum Corporation, Petro China) が生産を行い、南東部の「PSC 1997」鉱区でも中国企業が石油生産を行っている。その他、ペトロマタド社 (Petro Matad)、カナダのアイバンホームインズ社、スイスのマナス石油社 (Manas Petroleum Corporation) 等の生産者が出油地区を取得している。

### ②石油製品

石油製品は 100%輸入であり、そのうち 99%がロシアからで、イルクーツクのロスネフチ社 (Rosneft) のアングアルスク (Angarsk) 製油所から購入している。モンゴルには 1,200 軒の石油スタンドがあるが、ガソリンの品質が非常に悪く、2011 年の政府決議で独自に製油所を建設することが決定されている。しかし、モンゴルの原油生産量は少ないため、どこに製油所を作るかという問題がある。一方で、オイルアンドガス社 (Oil & Gas) が下流部門をモンゴルで設立する動きも出ている。2011 年 11 月に、モンゴル石油はモンゴルの石油輸入販売業者とコンソーシアムを組成して、ダルハン近郊のホンギルサム (Khongir Sum) で 200 万 t/年の製油所を建設しようとしている。現在、南ゴビでディーゼル油が不足しているため販売のチャンスはあるが、日本から供給するには輸送の問題が大きな障害となっている。

### ③ガス

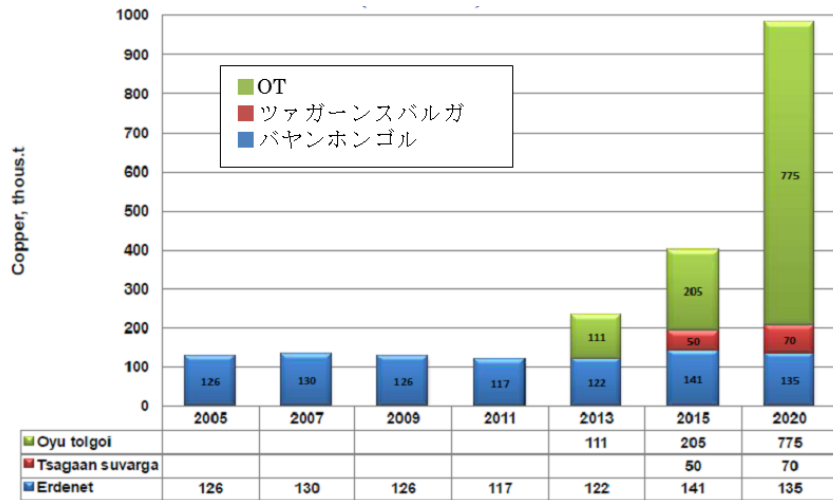
液化石油ガス (Liquefied Petroleum Gas、以下 LPG) がタクシー用や燃料用に使用されているが、高額のためあまり普及はしていない。モンゴルにはコールベッドメタンガスが豊富に埋蔵されているため (推定 1 兆 m<sup>3</sup>)、これを天然ガス (Liquefied Natural Gas、以下 LNG) にして暖房用熱供給プラントの燃料に充てたり、家庭用に普及させようとするプロジェクトが検討されている。

## 3) 銅

モンゴルの銅資源は登録埋蔵量が 3,630 万 t、推定埋蔵量が 120 億 t である。既存銅鉱山は国営のエルデネット銅鉱山で、政府の銅収入の 30%程度を占めているが、現在開発中の OT 銅・金鉱山とツァガーンズバルガ (Tsagaan Suvarga) からの大量生産が見込まれている。また、バヤンホンゴル (Bayanhongol) でも大鉱山が発見されている (図表 3.1.13 参照)。

OT 銅・金鉱山は、世界でも五指に入る大鉱山である。2009 年から開発が始まり、2013 年にはフェーズ 1 (露天掘り) の生産がスタートする。それまでに 68 億ドルが投資される予定である (2011 年度までに 36 億ドルが投資済み)。OT 鉱山だけでモンゴルの GDP は 1/3 ほど拡大する。

図表 3.1.13 OT 他、銅生産量 (単位 : t)



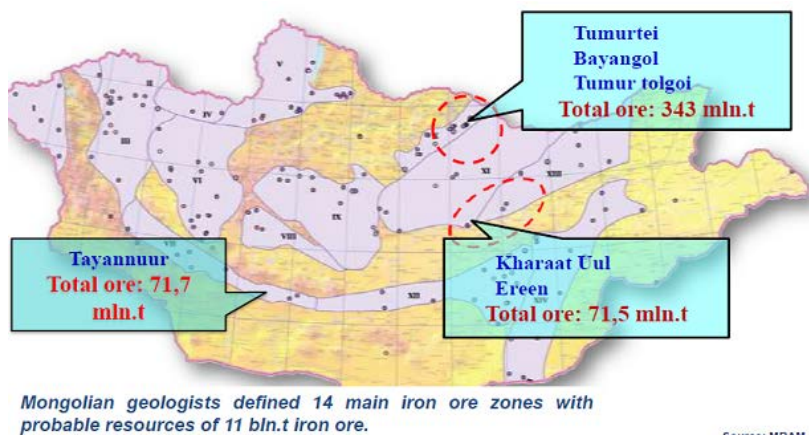
(出典：鉱物資源庁)

年間平均生産高は、銅が 450kt、金が 330koz (オンス) であり、それに伴うインフラ建設として、空港を始めガシューンスヘイト (Gashuun Sukhait) からの舗装道路、220KV 送電線、主要設備建設計画等 12 件のプロジェクトが予定されている。

#### 4) 鉄鉱石

33の鉄鉱山が有する鉄鉱石の登録埋蔵量は6億6,080万t、推定埋蔵量は10億tである。2007年から生産を開始し、2008年に中国の中国投資有限公司 (China Investment) とシンガポールのテマセクホールディングス社 (Temasek Holdings : Sovereign Wealth Fund) がモンゴル企業マイニングインターナショナル社 (Mining International) に投資している。確定埋蔵量は3億400万tで、現在3.5万tを輸出している。また、図表3.1.14に示す通り、セレンゲ県及びダルハン地方ではトゥムルティ (Tumurtei) 鉱床、トゥムルトルゴイ (Tumur Tolgoi) 鉱床、バヤンゴル (Bayangol) 鉱床が開発されており、確定埋蔵量は約3億5,000万tを見込んでいる。

図表 3.1.14 鉄鋼石分布図



(出典：鉱物資源庁)

## 5) その他の鉱物資源

その他の鉱物資源埋蔵量は、図表 3.1.15 に示す通りである。

図表 3.1.15 その他鉱山資源埋蔵量

亜鉛	確定.....	5.9 mln.t
	推定.....	14 mln.t
モリブデン	確定.....	324.8 thous.t
	推定.....	620 thous.t
鉛	確定.....	61,3 mln.t
	推定.....	1,8 bln.t
アルミニウム	推定.....	2.3 bln.t /Al2O3/
金	確定.....	1619.9 t
	推定.....	5125.0 t
銀	確定.....	227.4 thous.t
	推定.....	980.3 thous.t

(出典：鉱物資源庁)

### (3) 課題と今後の展望

以下の課題や展望が考えられる中で、モンゴル側は耐久性、性能、その他で日本からの技術移転を求めている。

- ・まだ表面化されていない多くの鉱区を適切に評価する人材が不足している。
- ・輸送やインフラが未整備である。
- ・モンゴル北部のフブスグル県に TT 鉱山と匹敵するような原料炭の鉱山が発見されているが、鉄道は敷設されておらず、鉄道敷設計画も南ゴビを優先している中で後回しにされている。
- ・ダルハン近郊で 3 億 t 級の鉄鉱石鉱山、バヤンウルギーの銀鉱山、タングステン鉱山等、表面化していない優良鉱山（可能性）が存在する。

### (4) 日本企業が進出可能な有望分野

銅、原料炭、鉄鉱石、ニッケル、金、プラチナ、銀、レアアース、貴石等、鉱物資源の潜在性が大きい中で、日本企業が進出可能な有望分野として、以下等が考えられる。

- 鉱山開発に伴う鉄道インフラ建設
- 鉱山開発の急進展に伴う鉱山開発周辺事業（建設機械、鉱山機械の輸出、トラック等輸送手段の輸出、鉄道建設関連設備、鉄道オペレーション機器）
- 鉱山会社の需要に対応する事業（鉱山会社用のプラント、土木設備、工作物、パイプ、空調、安全機器、手袋、衣服、マスク、食料品、ケータリング、アパート建設、ホテル等の供給）

## 3.1.4. エネルギー産業

### (1) 概況

モンゴルにとってエネルギーの自給は死活問題である。モンゴル経済の高成長見込みから、電力、エネルギー需要が急増すると見込まれているため（図表 3.1.16 参照）、電力自給が重要となっている。さらに石油資源の開発、石油製品の自給も目標となっている。しかし、石炭資源が豊富なため、電力開発では石炭の有効利用ということで石炭火力が中心となっている。再生エネルギーは、現状、5%程度しか使われていないが、太陽光、風力、小規模水力等潜在性が高いので、継続的に推進していく体制がとられている。

ガソリン、ディーゼル油等の石油製品については、99%をロシアに依存しているため、自給へのニーズが非常に強く、石油資源の開発の強化や、製油所の建設計画等を具体的に進めている。

東ゴビ県のサインシャンドでの重工業団地計画では、CTG（Coal-to-gas：石炭ガス化）や CTL（Coal-to-liquids：石炭液化）のプロジェクト等も計画されている。

また、将来のエネルギー源として、オイルシェール、コールベッドメタンガス等にもその潜在性が期待されている。

図表 3.1.16 エネルギー需要予測（単位：MW）



(出典：NDIC)

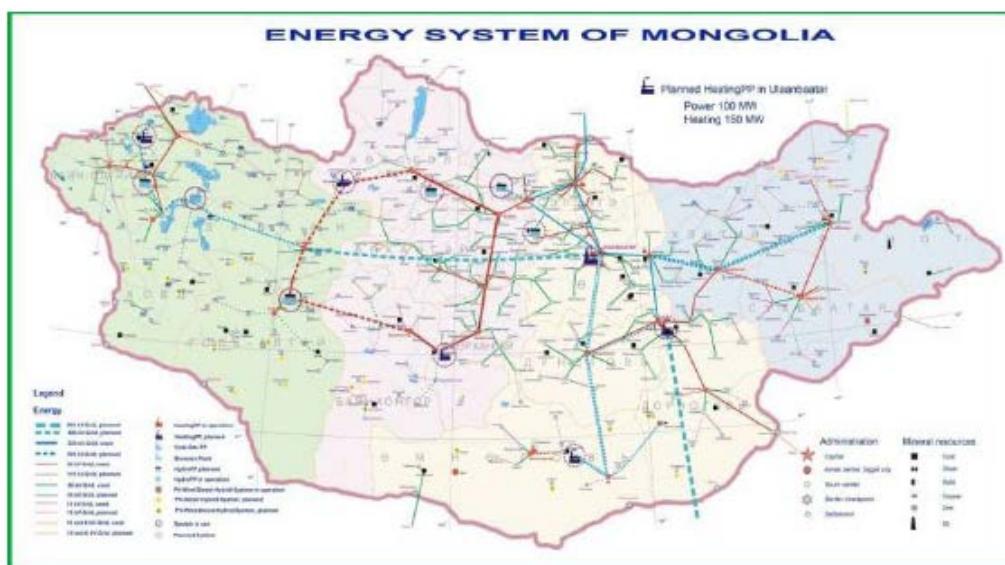
### 1) 電力システム

モンゴル全土において、電力システムは現在以下の3系統が存在する（図表3.1.17参照）。

- ・中央電力系統（Central Energy System：CES）  
：全発電力の95%を占め、全て石炭火力である。
- ・西部電力系統（Western Energy System：WES）
- ・東部電力系統（Eastern Energy System：EES）

尚、第4系統の南部電力系統（Southern Energy System）は、現在構築中である。

図表 3.1.17 モンゴルのエネルギー系統図



(出典：モンゴル政府資料)

また、石炭生産と熱供給の統合電力システムの他に、石炭燃料で室内暖房を行い、熱水を供給する設備である地区暖房ボイラー施設（Heat Only Boilers、以下HOB）が多数ある。その室内暖房は以下の3つのソースから供給されている。

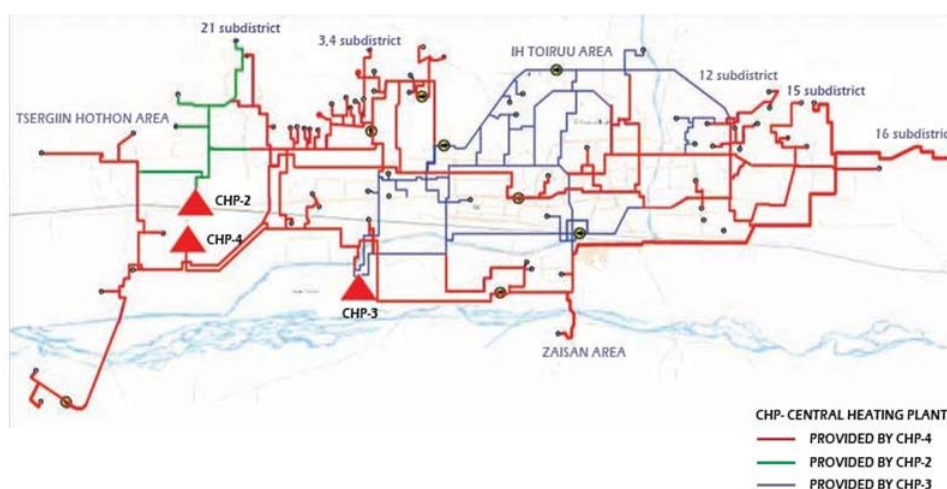
- ・ CHP（Central Heat Plant：統合熱・電力プラント、以下CHP）が電気・熱・熱水をUB及びその他の市に提供
- ・ HOBが暖房と熱水需要を賄う（単一ビルまたは複数ビルの小系統が存在）
- ・ 個別の熱供給ストーブ（石炭または木材を燃やす）を活用

<暖房システムの現状>

図表 3.1.18 にあるように、UB の火力エネルギーによる暖房システムは現在 CHP2～4 で成り立っているが、その供給内訳は以下の通りである。

CHP-2：2.9%、CHP-3：32.9%、CHP-4：64.1%

図表 3.1.18 UB の暖房システム

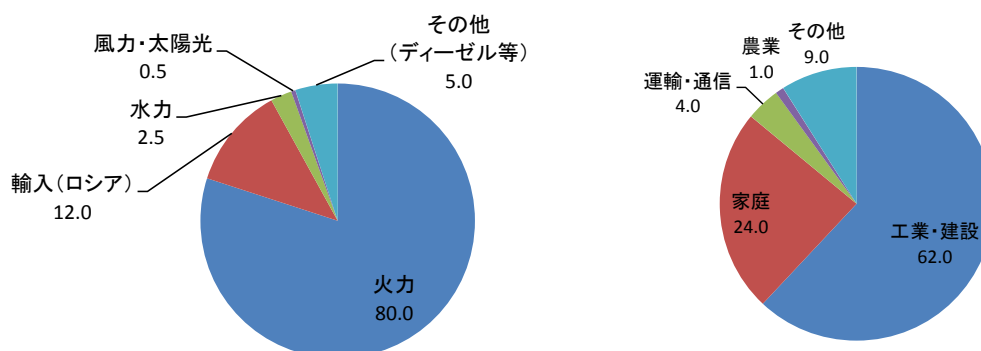


(出典：モンゴル政府資料)

2) エネルギー源と投資計画

現在、モンゴルでは図表3.1.19に示す通り、エネルギー源の多くを火力（石炭）に依存している。

図表 3.1.19 エネルギー源の比率と消費部門比率（2010年）（単位：%）



(出典：モンゴル政府資料)

尚、今後のエネルギー関連の投資にかかる新規計画には以下が含まれている。

ア． 現有火力発電の近代化

イ． 5基目の新規火力発電所を建設（820MWの最終電力量）

ウ． OTでは中国からの電力購入用に220KVの送電線を建設

エ． TT、OT地域で750MWの発電所を建設

オ． 地熱発電、水力発電（2基）、再生可能エネルギープログラムとの連携等を通じて、2013年には全エネルギー生産の10%、2020年までに同20～25%を再生可能エネルギーで補完する。

## （2）原子力

現在、モンゴルでは豊富なウラニウム資源を背景に原子力産業を推進しようという計画がある。ウラニウムの確認埋蔵量は約8万tと推定されている。

これまで原子力エネルギーにかかる法整備は進んでいなかったが、2009年に原子力エネルギー法が制定され、原子力行政を分掌する内閣直属の原子力庁やウラン開発での国家の権益を代表するモンアトム社が設立された。原子力エネルギー法は、改正外国投資法と同様に国家の規制が強く、改定が必要であるとの声も聞かれるが、少し時間がかかるようである。政府内では、基本的にウラン開発はロシアや日本と組んで進めたいという意向があったが、福島原発事故後、環境が変わり、原子力関係のプロジェクト具体化までにはさらに時間がかかりそうである。日本側としては、法制的制約の中でプロジェクトの採算性確保とリスク管理を慎重に見極める必要があると思われる。

また、原子力発電所は小規模なものを計画しているようであるが、現状では実験炉も有しておらず、発電所の運営に掛かる人材の育成もこれからという段階である。

## （3）再生可能エネルギー

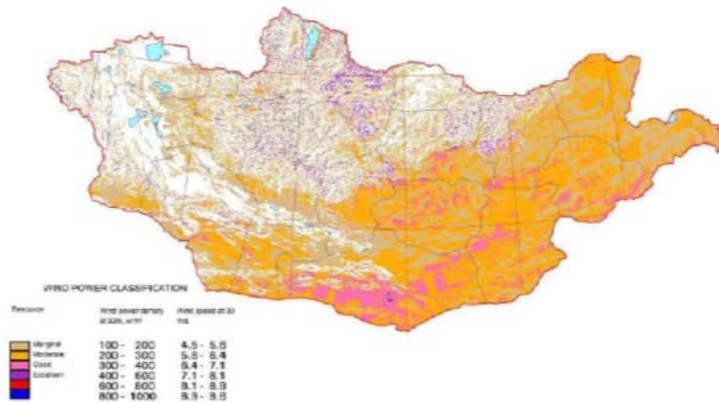
エネルギーの石炭依存体質からの脱却手段として期待されているのが、再生可能エネルギーである。風力と太陽光発電で少なくとも1TW（Tera-watt：テラワット、 $10^{12}$ ）の潜在的な発電能力がある。

### ①風力発電

モンゴル国土の40%の地域が風力発電に適している（図表3.1.20参照）。秒速5.6～6.4mの平均風速が発電に向いているからである。特に国土の16%にあたる16万km<sup>2</sup>では風に恵まれており、発電環境としては理想的ともいわれている。

米国ゼネラル・エレクトリック社（General Electric）はUBから南東78kmのサルキヒット（Salkhit）山で31基の風車による50MWの風力発電プロジェクト（約1億ドル）を実施する。パートナーはモンゴルのニューコム社（Newcom Group）で、運営はニューコム社の子会社であるクリーンエネルギー社（Clean Energy LLC）が担い、2011年に建設が開始されている。ニューコム社はすでに南ゴビで20万haの土地を確保しており、少なくとも1GW（Giga-watt：ギガワット、 $10^{10}$ ）の能力を有する風力発電プロジェクトを計画している。

図表 3.1.20 風力発電の潜在地域



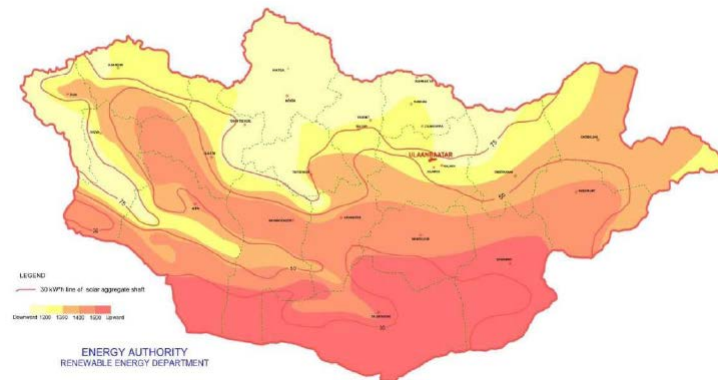
(出典：モンゴル政府資料)

### ②太陽光発電

モンゴルは晴天日の平均日数が 250 日もあり、別名ブルースカイ・カントリーとも呼ばれている。

ゴビ砂漠は約 40%の土地が太陽光発電に適しており、大規模光発電（Photovoltaic：以下 PV）プラントには最適な環境である。日本との間でサインシャンドにて 1GW 能力の PV プラント建設に関する F/S (Feasibility Study: 実現可能性調査、以下 F/S) が検討されており、2020 年の稼働を目指している。

図表 3.1.21 太陽光発電の潜在地域

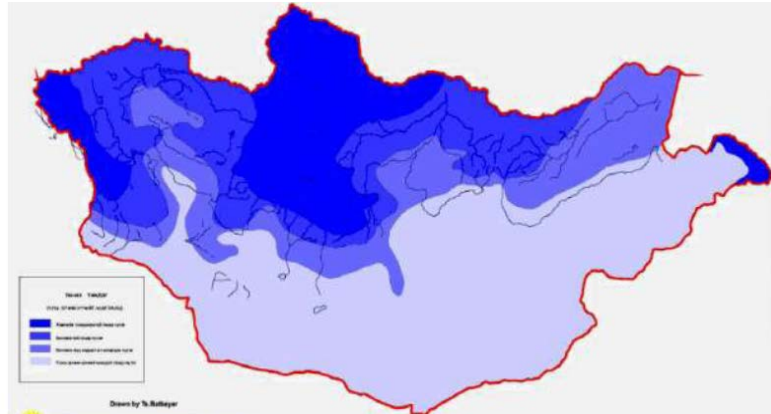


(出典：モンゴル政府資料)

### ③水力発電

モンゴルには 3,800 の河川があり、6,417.7MW の発電能力があると言われている。

図表 3.1.22 水力発電の潜在地域

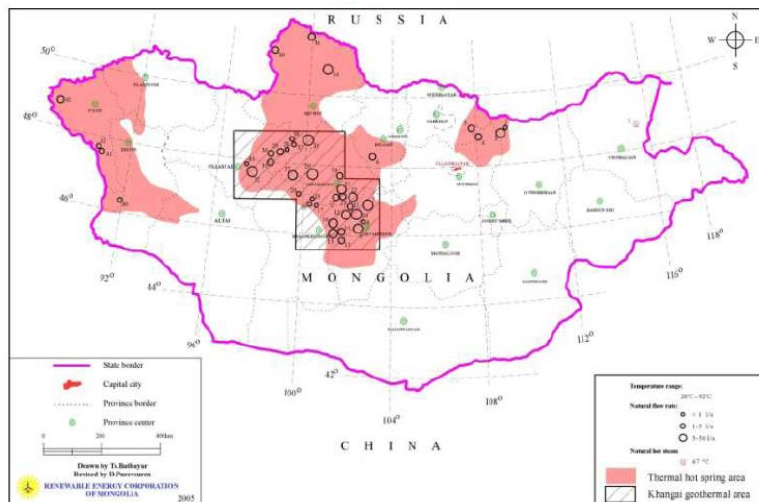


(出典：モンゴル政府資料)

④地熱発電

43 の温泉が発見されているが、電力源としては未開発である。

図表 3.1.23 熱発電の潜在地域



(出典：モンゴル政府資料)

(4) 課題と今後の展望

課題やニーズについては以下のことが考えられる。

- ・中央電力系統以外のエネルギー系統は、ソースが1つしかないため、信頼性と安全性の担保が必要である。
- ・エネルギー産業設備のほぼ90%が技術的要求水準を下回っているため、操業・維持費が増加しており、エネルギー企業の財政及び生産能力に影響を与えている。
- ・政府統制による石炭、電気、熱料金は生産者の生産コストを下回っており、債務及び財務上の問題を起こしている。このため、サービス、メンテナンス、技術等の改革ができなくなっている。主要会社の民営化及び民間投資獲得の可能性を支援する法的な規制等の環境が整備されていない。
- ・近年、電力消費が急速に成長している中、近い将来ゴビ地域でも需要が増大する。



これまでモンゴルではエネルギー源を石炭に大きく依存してきた構造から、多角化を図る動きが顕著で、投資分野のポテンシャルは大きいと思われる。今後、モンゴル経済が大きく発展しエネルギー需要が拡大すると、石油探査やソーラーパネルの製造、電力設備、ダム建設等が巨大なマーケットとして見込まれる。

#### (5) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)～(4)を元に、日本企業が進出可能な有望分野として以下等が考えられる。

- 火力発電所の建設、ボイラーや発電機、その他電力機器の提供
- 石油製品の流通販売
- 石油精製、貯蔵タンク、石油探査等関連分野での内需用LPG、LNG事業
- 未発達なガス事業等へのPPP参入
- ウラニウム資源の確保及び原子力産業
- 再生エネルギーでの市場開拓

### 3.1.5. 重工業

#### (1) 概況

モンゴルの重工業は、他の産業に比べても遅れが目立つ業界であり、現状存在する重工業プラントは以下のみである。

- ・ダルハン冶金工場 (Darkhan Metallurgical Plant) (国営)
- ・フツルセメントプラント (Khutul Cement Plant) (国営)
- ・エレルセメントプラント (Erel Cement Plant) (民営)
- ・エルドミン社 (Erdmin Co.,Ltd) (copper cathode : 電気銅)
- ・フフガン社 (Khukh Gan LLC) (Direct reduced iron : 直接還元鉄、以下DRI)

#### 1) 今後計画されている重工業関連プロジェクト

##### ①鉄鋼冶金プラント (サインシャンドまたはダルハン)

総所要資金：10億ドル

建設期間：3年

能力：200万t

鉄鉱石加工及び鉄板、鉄道レール、その他大型金属部品を対象とする。先行F/Sは済んでいるが、詳細F/Sは未着手である。

##### ②石炭化学プロジェクト

総所要資金：10億ドル

建設期間：2年

褐炭加工による可燃性ガス、メタノール、ジメチルエーテルその他化学品及び石炭化学産業の発展や、都市部での大気汚染、熱供給問題を解決するクリーンコールテクノロジー (Clean Coal Technology) の活用を図る。

##### ③タバントルゴイエネルギープロジェクト (Tavan Tolgoi Power Station Project)

総所要資金：9億ドル

建設期間：2.5年

能力：600MW

場所：TT 石炭鉱山近辺

水の消費を抑える給気冷却器（Air Cooler）の設置や焼却灰処理システム（Dry Ash Disposal System）を活用したプラント。PPP スキームを検討中。

#### ④Power Plant No.5 Project

総所要資金：14 億ドル

建設期間：9 年（第 1 フェーズ：2011～2015 年、第 2 フェーズ：2015～2019 年）

能力：電力 820MW、1,100kcal/hour（熱生産）

F/S は ADB の資金を利用。

## 2) 工業団地

＜サインシャンド重工業団地（東ゴビ県）＞（図表 3.1.24）

モンゴル政府にとって目玉政策の一つであり、以下のプロジェクトが計画されている。

### ①セメントプラント等建築資材

ア. サインシャンドセメント工場----- 100 百万ドル

イ. セラミックプラント-----20 百万ドル

ウ. 断熱材プラント-----30 百万ドル

エ. ブロックプラント-----40 百万ドル

### ②コークスプラント

ドイツのティッセンクルップウーデ社（Thyssen Krupp Uhde）の技術が採用される。

### ③鉄鋼ペレットプラント

モンゴルの鉄鋼石を使い、直接還元製鉄プロセス（DRI Process）による鉄鋼生産の原料としてのペレット（DR Pellet）を製造する。4.5 百万 t（第 1 フェーズ：2.25 百万 t、第 2 フェーズ：2.25 百万 t）のペレットのうち、3.625 百万 t が DRI プラントへ、残りの 875 百万 t が輸出される。

### ④HBI/DRI プラント

サインシャンドでの鉄鉱石ペレット化プラント（Iron Ore Pelletising Plant）からのペレットを DRI に加工し、続いて HBI（Hot briquetted iron：熱間成型還元鉄、以下 HBI）にする。プラントの能力は年間 2.5 百万 t。輸出には HBI が適しているため、モンゴル鉄鉱市場が DRI を使用するようになるまでは輸出される。現在のモンゴルの鉄鋼生産量はダルハンの電気炉により、年間 6 万 t である。

### ⑤石炭ガス化プラント（CTG）

三つのプランが立てられている。

ア. MCS 企業グループによる二つの F/S が進行中である。一つは、石炭をガス化してガソリンを生産するもので、もう一方は、石炭をガス化して軽油を生産するものであるが、どちらの方法にするかは、MCS 企業グループが経済性を検討して決める。結果的にナフサが生産されるが、これを利用した石油化学工業の可能性も出てくる。

イ. ICM 社（Industrial Corporation of Mongolia）はドイツの技術による石炭ガス化計画を用意しており、先行 F/S は完了している。ドイツのティッセルクルップウーデ社の技術を使う。これも 2012 年 3 月のドイツへのモンゴル大統領訪問時に MOU（Memorandum of Understanding：覚書）が交わされている。

ウ. MAK 社が石炭ガス化からガソリンを作るプランを独自で検討を進めている。

#### ⑥石油精製所

総所要資金 9 億ドル、建設期間 3 年、年間原油 100 万 t の精製能力をもつ。今後の石油生産国への移行に伴い、石油及び石油製品の内需を満たすために、国産原油を精製できる技術が重要となる。旧燃料エネルギー省は 3 件の石油精製プロジェクトにかかる F/S を実施している。

#### ⑦銅精錬所

総投資額 10 億ドル、建設期間 2 年、生産能力はカソード銅で年間 30 万 t（年間 100 万 t の銅精鉱を使用する）である。

#### ⑧発電所

中国への売電も考慮に入れた 2GW クラスの発電所を作る構想もある。

図表 3.1.24 サインシャンド重工業団地



(出典：モンゴル政府資料)

### (2) 課題と今後の展望

モンゴル政府は、鉱物資源に付加価値をつけることを狙って、重工業育成策を採用している。石炭を例にとると、鉱石で輸出する場合 30~40 ドル/t 程度だが、選炭設備を設けると、150 ドル/t で売れるという。最近では、OT、TT からの鉱物資源運搬に係る鉄道路線建設計画との兼ね合いで、サインシャンドに重工業団地を建設する事業に力が置かれている。

サインシャンドの重工業団地建設は、2010 年から米国のベクテル社 (Bechtel Corporation) にマスタープラン及び個別プロジェクトの F/S を依頼している。これに基づき、実施段階への調整が進められている。

### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2) を元に、日本企業が進出可能な有望分野として以下等が考えられる。

- 日本の高度技術を活用した内需用のプラント (様々なF/S支援制度の積極的な利用)
- 付加価値戦略の推進 (商社によるオーガナイズ機能が重要)
- 特にサインシャンド重工業団地において、PPP等を活用した各種プラント育成

### 3.1.6. 軽工業

#### (1) 概況

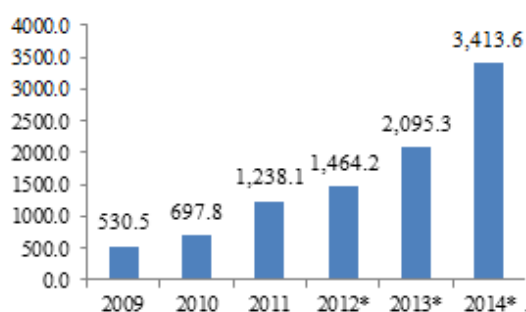
2011年の軽工業部門全体の売上高は、1,238百万ドルであり（図表3.1.25参照）、このうち391百万ドルが外国市場に輸出された。さらに、2011年を基準にした今後4年間（2011～2014年）では軽工業全体で275.7%と引き続き高い伸びが見込まれている。

また、軽工業部門全体の売上高の趨勢をみると、過去3年間（2009～2011年）では233.4%と著しい伸びを示している。これを業種別の収入高の内訳でみると、「食品及び飲料」部門、「その他」部門（住宅用窓・ドア、コンクリート・モルタル等建設・建築用資材等）の伸びが軽工業全体の伸び率に大きく貢献していることが分かる（図表3.1.26参照）。

軽工業の特徴として、従来、内需向け食料品等、国内の基礎的消費に向けた製造に偏っていたといえる。従って、キッチンセット、壁紙、電気器具、カーテン等の建築資材、その他多くの製品が輸入されている。これら建築資材は、中国からの輸入が多く、次いで韓国からの輸入となっており、高級素材の場合はドイツその他の欧州からの輸入となる。また、中国からの輸入の場合、モンゴルの建築ブームで需要が高まると、中国の供給者は建築資材の価格を上げたり、また、輸送が滞って価格上昇に繋がるケースもある。

一方で、政府には、国内で使用する建築資材の7割程度を自給ないし輸入代替したいとの考えもあり、近年、鉱山部門の高い成長に誘発された多くの建設プロジェクト、政府による10万戸住宅建設計画に影響を受けて、国内で生産している住宅用窓・ドア等の建築資材製品の製造の伸びは顕著である。

図表 3.1.25 軽工業における売上高推移（単位：百万ドル）



（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

図表 3.1.26 軽工業における業種別収入高の推移（単位：百万ドル）

	2009年	2010年	2011年
食品および飲料	272.3	366.2	525.4
ニット製品	115.7	107.3	142.2
羊毛、皮革製品	2.2	1.1	1.9
その他	140.3	223.2	568.7
合計	530.5	697.8	1238.2

（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

#### (2) 課題と今後の展望

モンゴルの強みは、自然資源や鉱物資源、農畜産物のように、原材料資源に恵まれており、化学繊維等の人工的ではない製品づくりができることにある。世界市場における羊毛、カシミア製品等がその例である。

ただ、恵まれた国の資源を、従来の通り未加工のまま輸出するだけでは国が豊かにならないということを、政府及び民間部門の双方が強く認識するようになった。これらの資源を活用した政府による産業支援策も強化されているが、軽工業全体でみれば設備の陳腐化、これに伴う非効率、低生産性が障害となっており、高い経済成長と供給力不足を補うには十分な支援になっていないとみられる。

一方で、新たな工場建設や工場拡張計画を検討するにしても、企業は高い借入利息での投資を考慮せざるを得ない現実に直面することとなる。また、世界市場に製品を販売するネットワークや世界市場に直接繋がるシステムも立ち遅れており、さらに、地方で事業を行うための電気、道路、技術拠点といったインフラも整備が不十分である等、様々な厳しい現実がある。

いわば、国内の社会的・経済的インフラ、世界市場に繋がるビジネスインフラが未だ絶対的に不足している中であっては、当面は中国、韓国といった身近な国の企業に投資を期待する、または彼らをビジネスパートナーとして選択せざるを得ないのがモンゴルの実情である。それだけに日本企業の進出が期待される。

### (3) カシミア製造業

#### 1) 概況

カシミア製品を含むニット製品の2011年の収入は、142.2百万ドルであり、過去3年間(2009～2011年)の伸び率は22.7%と、軽工業部門全体の伸び率233%の中にあってはいかにも小さい伸び率にとどまっている(図表3.1.26参照)。

カシミア生産はモンゴルの伝統的な産業であり、代表的な企業として世界的に有名なゴビ社(GOBI Corporation)がある。1976年の国連援助による実験工場が前身で、1981年に日本の無償援助により技術や設備が投入されてゴビ社は創設された。民営化により、1987年に現在のゴビ社が設立された。業界構造としては、ゴビ社等の大手企業が10社、中小企業が40社、家族経営が約200社と言われている。

世界におけるカシミアのマーケットでは、中国のシェアが圧倒的に高いが、近年、モンゴルのカシミア業界も世界の中で存在感を増す方向にある。

その背景には次のような要因が考えられる。

- ・中国人によるモンゴルの遊牧民、集荷業者等からの現金による直接買い付けを抑制するため、2011年より国内メーカーに原料買付けのための資金を低利(7%、従来は24%)で融資を開始した。
- ・モンゴル政府が、原料での輸出から付加価値を付けた製品輸出を奨励する施策に切り替え、業界にとっては追い風となってきた。
- ・コットンやシルク等との混紡での製造技術に伴い、耐久性やデザイン性が向上した。
- ・最大手のゴビ社は従来、“GOBI”ブランド名での輸出が少なかったが、今後自社ブランドでの輸出を強化するため、世界の販売拠点の増加及び商品開発の強化を図っている。

国内市場においては、現在50%のシェアを持つゴビ社が、業界再編の中で更なる圧倒的なシェアを持つ方向にある。さらに同社は、島精機のニット編み機、3Dのデザインソフトの導入、商品開発のための染め、糸作り、デザイン開発等で日本企業との関係を深めている。また、今後の重点的マーケットをヨーロッパに置く一方で、日本企業との取引拡大、技術、デザインを含む多様な提携、支援を期待している。

中小企業40社のリーダー的存在でもあるハタン・シュルゼー社(Khatan Suljee Co.,Ltd)は、国内市場を主たるターゲットとしているが、ロシア、韓国、ドイツ等に在住しているモンゴル人向けにも輸出している。また、日本との取引では、自社生産能力の10倍前後というオ

オーダーが多かったため、自社で受注可能な数量に限定してスポット的に行ってきた。しかし、今後はこのような大口オーダーを中小企業業界 40 社で分担して受注できるよう体制づくりを検討している。

図表 3.1.27 羊毛、カシミア、ニット等の製品別の生産量

	2009年	2010年	2011年
ニット製品(千個)	613.9	731.5	759.2
梳毛(t)	1586.7	824.7	874.3
フェルト製品(千m)	128.7	134.9	263.2
ラクダ毛の毛布(千m)	36.9	15.3	25.8
フェルトの靴(千足)	13.0	27.9	42.6
羊毛のコート(着)	12,094	16,558	22,520

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

## 2) 課題と今後の展望

中国製品に対する競争力及び世界の多様な市場に対応するためには、100%カシミアの製品作りからウール、コットン、シルク等との混紡での製品作り、デザイン力の向上、各市場を意識したきめ細かなマーケティング活動が大きな課題である。

## 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2)の概況や課題等を踏まえ、カシミア製造業における日本企業が進出可能な有望分野としては以下等が考えられる。

- カシミア用山羊の品種改良及び良質カシミアの生産性向上に資するバイオ技術を含めた技術支援または技術提携
- カシミア製品の開発や3国間取引による欧米への輸出
- カシミア半製品の輸入及び国内販売

## (4) 家具製造業及び建築資材

### 1) 概況

モンゴルにおいては未曾有の建築ブームに誘発され、住宅、店舗、オフィス用家具、さらに関連資材の生産量が大きく伸びている。図表 3.1.28 は、それらの代表的な資材に関する過去3年間(2009~2011年)の生産量の推移をみたもので、いずれも顕著な伸びを示している。

図表 3.1.28 建築資材の生産量

建築資材	2009年	2010年	2011年	伸び率(%)
木材住宅用ドア・窓(千m <sup>2</sup> )	2.5	13.8	13.6	544
フロア材(千m <sup>3</sup> )	1.2	0.6	1.7	142
製材品(m <sup>3</sup> )	14,460.4	20,172.0	16,857.7	117
鉄道用金属製まくら木(m <sup>3</sup> )	14.3	12.5	10.0	70
高気密製窓・ドア(m <sup>2</sup> )	4,015.7	2,712.0	9,971.9	248
セメント(千t)	234.8	322.5	425.8	181
石灰(千t)	43.1	50.2	45.3	105

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

低価格住宅、中間層向け住宅、高級住宅いずれも大きな建築ブームにあるが、家具、インテリア、エクステリア製品のうち、中級以上、特に高級家具については、ヨーロッパに次ぎ韓国

や中国からの輸入品が多い。

例えば、ガンプロス社（Gan Bros Home Solution Co.,Ltd）はドイツの家具・キッチン製品の販売代理店で、高級注文家具の製造工場も所有している。創業は2004年で、大手家具メーカー3社のうちの1社であるが、同社の過去3年間の売上高は約3倍に拡大している。

同社の顧客ターゲットはあくまで中級、上級クラスである。マーケティングの特徴は、顧客ひとり一人の好みをふまえて様々な提案をし、輸入品とオーダーメイドの家具、インテリア品を販売し、かつ施工管理からアフターサービスまで一貫したサービスを提供していることである。現在の1世帯当たりの受注単価は20,000～40,000ドルであり、最低は10,000ドル、最高は70,000ドル（ザイサン・ヒルと呼ばれる高級住宅の顧客向け）である。モンゴル国民の平均所得や住宅価格を考慮すれば、受注単価はまさにターゲット客を象徴しているといえる。同社は現在、さらに今後の市場ニーズに対応するために、新工場建設を計画中である。

## 2) 課題と今後の展望

モンゴル政府による「10万戸住宅建設計画」に象徴されるように、今後の住宅需要は、エコノミー向けから中間所得者層、高所得者層まで幅広く裾野が拡大すると想定される。それに伴い、家具市場にも低価格家具、高級家具の二極化の兆しが出てきており企業の戦略にも重要な潮流として捉える必要が出てきている。

急激な需要拡大と顧客ニーズの多様化、高級化に対応するため、輸入家具市場は大きく拡大すると想定される。ガンプロス社も自動化、ハイテク化の進んだ日本製家具には高い関心を持っており、日本企業との提携を望んでいる。日本の家具業界にとって、モンゴル市場は有望な市場と思われる。

建築資材においても家具製造と同様に市場が大きくなっているにも拘わらず、モンゴルでの供給量が追いついていない。ガラスやアルミ等の基礎材の製造は、国内での市場が小さく、コスト面等で海外との競争に勝てないために輸入せざるを得ない。従って、基礎材を中国等から輸入し、国内で切断、曲げ、仕上げ等の加工を行い、最終製品にして住宅業者へ納入している。これらの最終製品は、生産量が不足し、また、品質面でもレベルが低く課題となっている。

## 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2)を元に日本企業が進出可能な分野として以下等が考えられる。

- モンゴルの住宅サイズに合った中級・高級家具、キッチン製品等の輸入
- 中級・高級の洋食器類の輸入（現状は低品質・低価格の中国製品が普及）
- カシミヤ製のインテリア（例：カーテン等）の製造販売、輸出

### 3.1.7. 建設業

#### (1) 概況

建設業界は企業や投資家にとって様々なチャンスを見出すことできる分野である。建築及び建築資材産業も上昇しており、コンクリートから金属資材、ソーラーパネルまで数年は増加傾向が続く。UBへの人口流入が続いているが、世帯の大半は、熱水暖房パイプ、水道等のインフラが整っていない「ゲル地区」に居住している。インフラが整ったアパートに居住しているのは、世帯の約3割にしか過ぎない。通常先進諸国では、持ち家比率は75%程度で頭打ちになるといわれており、これをモンゴルに適用して持ち家を近代住宅とした場合、モンゴルの住宅需要は相当高いといえる。これからは鉱物資源による富の増加等を考慮すると、モンゴルの住宅等の建設業界は、需要の面では長期にわたり安定的に発展すると考えられる。

尚、モンゴルでは建設業の中に道路建設業等の土木業も含んでおり、モンゴルにとり鉱物資源

の開発や輸送に欠かせないため、非常に重要である。OT 銅鉱山の開発だけでもモンゴルの GDP を約 30%増加させると言われており、鉱山開発は経済への相乗効果を通じ、国民の所得を上昇させ輸出収入に大きく貢献する。非鉱山部門の生産性を上げ、バランスが取れたモンゴル産業の生産性増大のためにもインフラ建設計画、インフラ投資の実行が必要になっている。

## 1) 住宅建設

住宅は、低価格住宅、中間層向け住宅、高級住宅に分けられ、それぞれの販売価格は以下の通りである。

- ・低価格住宅 -----500 ドル/m<sup>2</sup> (1室 30 m<sup>2</sup>程度 of スタディオタイプ)
- ・中間層向け住宅 -----1,400~1,500 ドル/m<sup>2</sup> (60~150m<sup>2</sup>)
- ・高級住宅 -----2,500~3,500 ドル/m<sup>2</sup> (200m<sup>2</sup>以上)
- ・最高級住宅 -----7,000~8,000 ドル/m<sup>2</sup>

一般的な住宅の販売価格は毎年 20~30%上昇している。また、建築業者の粗利は、一般的に 40~50%だが、中には 95%程度と高いところもある。投資者に対しては 70%ROI (Return on Investment : 投資利益率)、最低 50%保証というものもある。

## 2) 10 万戸住宅建設計画

政府は、目玉政策の一つとして図表 3.1.29 に示す通り、ゲル地域の居住者を都市住宅に移転させることを目的とした 10 万戸住宅建設計画を実施に移しており、UB で 75,000 戸、地方で 25,000 戸の建設を予定している。

図表 3.1.29 UB10 万個住宅建設計画



(出典：モンゴル政府資料)

住宅建設に伴い、住宅購入においてもモンゴル政府による以下のような支援がある。モンゴル開発銀行 (Development Bank of Mongolia、以下 DBM) の資金 175 百万ドルを用い、政府系の住宅金融会社や市中銀行を通して住宅を購入する市民に融資を行うもので、主な融資条件は次の通りである。



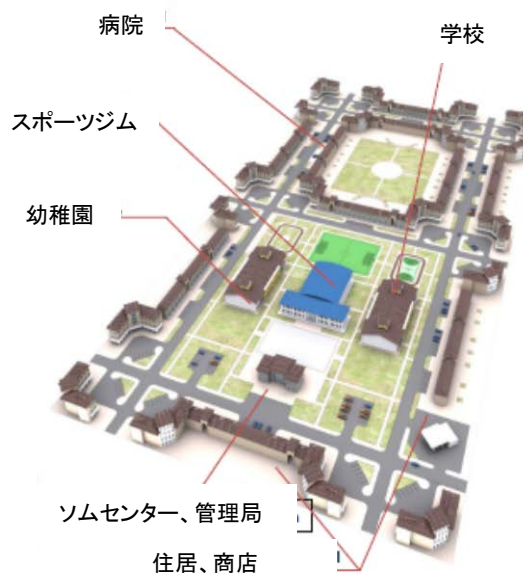
- ・住宅の初期購入者であること
- ・月額返済額は世帯収入額の 45%まで
- ・アパートの面積は 55m<sup>2</sup>を超えないこと
- ・融資額は最高 55 百万トゥグルグ
- ・年間利子率は 6%、融資期間は 20 年

### 3) 新ソムセンター建設計画

地方開発の目玉の一つは、96 のソムを対象としたソムセンターの建設である。このソムセンター建設にはツーバイフォー（2×4）工法が採用される。

図表 3.1.30 にソムセンターのモデルを示す。

図表 3.1.30 ソムセンターモデル



(出典：モンゴル政府資料)

### 4) 道路開発計画

政府は広範な経済成長を目指して、2010 年 6 月に議会で承認された新開発プログラム (New Development Program、NDP) 等の巨大インフラプロジェクトの計画を発表している。その中で、2016 年までにモンゴル国内の道路の 95%を舗装する計画があり、総投資額は 627 億ドルで、融資は新設の DBM、PPP 制度等を活用する。

2011 年から道路等のインフラ建設が開始されているが、計画はすでに遅れをきたしており、土木工事及び設計の 26%しか完了していない。道路開発においても、モンゴルの建設部門は人材不足の状態、特に熟練労働者の不足が顕著である。そのため、野心的なインフラ計画が計画されてもどれだけ実行できるか不確かな状況にある。短期間でプロジェクトの質を落とさずに評価、実行ができるかに懸念が残る。

## (2) 課題と今後の展望

### 1) 地場建設企業

地場建設企業は技術水準が低いという問題点が挙げられ、9 階建て以上の建築物は免許制となっており、多くの建設業者はこの免許を取得するレベルに達していないために対応出来ない。

コンクリート打設作業や鉄筋の施工は、現在日本では行われていない古い方法で施工され、日本の基準では通らない水準である。同様に、床張り、左官仕事、電気系統工事、水回り等もレベルが低く、モンゴルは地震が少ないため、施工に関する問題は表面化していないが、モンゴル人有識者の中には、安全、資産価値の点から住みたくないという人も多い。またアパート等の玄関周りにはお金をかけず、景観もよくない等、建築コンセプトや設計力についても経験が少ないため、アパート等は皆同じような外観になっている。建築物のコンセプト、基本設計は当該建築物のビジネスプランそのものであるが、この点を理解している企業や建設関係者が少ないのが現状である。

こういう状況の中で伸びているのが、中国企業や韓国企業、アメリカ人経営者を擁する企業で、自国または欧米の基本設計を元にしており、モンゴルに現存する建築物とは異なるため差別化することができる。

土木分野でも、鉄骨橋梁等複雑な工事、保証が要求される高度な工事はモンゴル企業では難しい。また、道路でも石炭搬送トラックが通る 20 年保証等の要求工事では、モンゴル企業単独では実施できない状況である。

## 2) 資金調達

建設業界における課題の一つは資金調達である。マンション、ホテル、ショッピングセンター、ホームセンター、娯楽場等を建設したいという希望を抱く土地オーナーは多いが、多くは資金調達の問題を抱えている。140ha 程度の土地を購入し、街づくりを行いたいのが、資金と技術がないというような案件も多数見受けられる。現在のモンゴルで資金調達を行うと、月利 2～3%という高金利のため、粗利が 40%超ほど確保できないと採算が合わない。また、公共の大型道路工事の場合、工事完成後の支払いとなるため運転資金が 10 万ドル程度必要となり、運転資金の面で問題を持つ土木工事業者は多い。

日本企業にとっては、金利が低い日本で資金調達すれば調達コストを抑えつつ利益を出すことは十分可能と思われる。

## (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2) を元に、日本企業が進出可能な有望分野は以下が考えられる。

- 膨大なインフラ需要を満たす各種建築事業
- 建築関連の素材産業（セメント、コンクリート、鉄筋、ガラス、ブロック、レンガ、砂利等）
- 建築機械、足場等のリース産業
- ツーバイフォー（2×4）等の木造住宅建設及び木材加工工場の建設・運営
- ソーラーパネル、蓄電池、床暖房、水のリサイクル等を備えた、ハイテク省エネ住宅の建設
- 建築デザイン、設計業務
- 工程管理、現場監督、経営アドバイザー等の役務提供
- 造園業、環境整備産業
- 建設業技術者育成の専門学校、訓練学校の建設・運営

### 3.1.8. 不動産業

#### (1) 概況

モンゴルの不動産市場は、鉱山ブームに端を発する所得の増加と都市化の一層の進展からここ数年大きく拡張する見通しである。UB では毎年人口流入が続いており、2020 年には 153 万人、2030 年には 176 万人になると予想されている（図表 3.1.31 参照）。

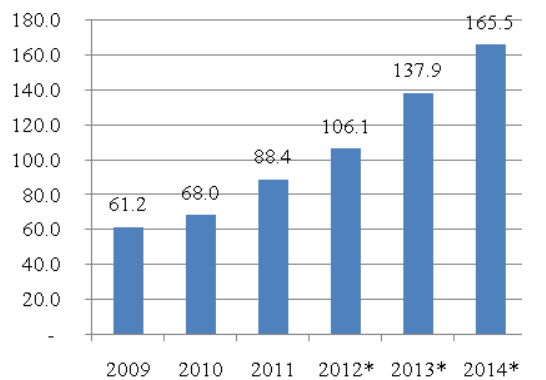
図表 3.1.31 UB の人口増加予想 (単位：千人)

	2010年	2020年	%	2030年	%
UB中心部	1,069	1,519	89	1,678	79
UB周辺街	93	15	11	85	21
UB市合計	1,162	1,534	100	1,763	100

(出典：UB City)

NSOによると、OT及びTT鉱山開発の効果により、1人当たりのGDPは約2,500ドルから2016年には12,500ドルに増加する。また政府の10万戸住宅建設計画は、UBのゲル地域に居住している住民の住宅レベル引き上げを狙ったものである（10万戸住宅建設計画を推進するための公的不動産融資制度については、“3.1.7 建設業（1）2）10万戸住宅建設計画”を参照）。不動産業の売上高を図表3.1.32に示す。

図表 3.1.32 不動産業の売上高 (単位：百万ドル)



(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

## (2) 課題と今後の展望

政府の10万戸住宅建設計画の中で、ゲル地域住民をアパートに移す計画を進めているが、ゲル地域の多いUBの北部地域の中でインフラが通っている地域は土地の先買いが起こっている。郊外では土地は余っているが、インフラが十分ではなく、市内ではインフラは整っているが、土地が足りない状況である。その結果、市内の土地や郊外でもインフラが整っている地域は土地の価格が上昇している。

また、所得拡大から中間層の住宅需要も出て来ており、国際標準の住居及び商業不動産スペースの需要を押し上げている。不動産市場の焦点はUBとなっており、UB市の行政は、インフラ改善計画として道路補修と建設に51.28百万ドル、公共輸送に33.19百万ドル、40棟の幼稚園の建設に24万ドルを使用する。

住宅価格は2012年時点で、一般的なもので500～1,500ドル/m<sup>2</sup>、高級なもので2,500～3,500ドル/m<sup>2</sup>程度となっており、さらに高級不動産市場は7,000～8,000ドル/m<sup>2</sup>と著しく上昇している。

リオティント社、アイバンホームインズ社、ピーボディエナジー社等からの外国人労働者、幹部及び外国投資家等の流入から、オフィス、ホテル、サービスアパートメントの需要が急速に増加している。香港ベースのシャングリラホテル（2013年開業、全273室）、ハイアットリージェンシーウランバートル（Hyatt Regency UB）が2014年に開業予定である。

南ゴビでは、OT近郊で街づくりが進む予定で、3,000室のアパート、道路、学校、幼稚園、病院、ホテル、ショッピングセンターが建設される。総額73.26百万ドルは、アイバンホームインズ

社、リオットティント社、エルデネス・タバントルゴイ社（国営企業）から拠出される。OT鉱山及びTT鉱山の基点都市であるハーンボグド（Khaan Bogd）の人口は、2011年の3,000人程度から、2015年には15,000人に拡大すると予想されている。モンゴルの不動産部門は、類を見ない明るい展望を提供しているものの、住宅建設と平行して基本インフラが整備される必要がある。基本インフラの整備が出来た後に、モンゴルの住宅建設には多くの機会が提供されることになる。

外国人の土地購入は、モンゴル市民またはモンゴル企業とのJ/Vを通じてのみ使用の権利を購入出来る。

### （3）日本企業が進出可能な有望分野

（1）、（2）を元に、日本企業が進出可能な有望分野として以下が考えられる。

- 不動産鑑定または不動産流通事業
- 不動産デベロッパーによる街づくり
- 高級マンションの建設・販売
- 日本人向けビジネスホテルや高級ホテルの建設・運営
- スマートシティ関連事業

### 3.1.9. 環境産業

#### （1）概況

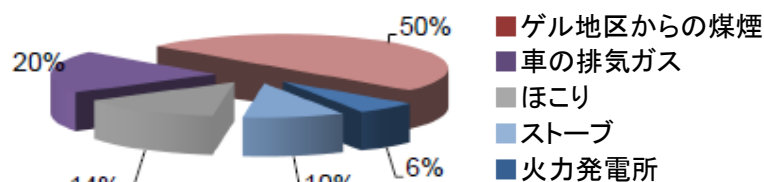
##### 1）UBへの人口流入

モンゴル全世帯の約60%がUBに居住し、毎年約10,000世帯が地方からUBに流入している。そのためモンゴルにおける失業率は、UBを含む都市地域では多くなっている。また、人口の約30%が最低生活水準以下の貧困層と言われており、UBへの急速な人口流入が失業率の上昇やインフラ不足を引き起こす一因となっている。

##### 2）大気汚染

大気汚染物質の排出量は毎年約30%増加しており、特に冬季はUBで夏季の約6倍、ゲル地域で7～18倍と深刻な問題となっている。図表3.1.33に示す通り、大気汚染の原因としては、ゲル地区から排出される石炭及び廃タイヤによる煤煙が50%と車の排気ガス20%と両者で70%を占めている。

図表 3.1.33 大気汚染の原因別割合



（出典：モンゴル政府資料）

#### （2）課題と今後の展望

モンゴル政府は、グリーンエコノミー（Green economy）やグリーン開発（Green development）に強い関心を抱いており、大気汚染対策や鉱山開発後の復旧、ごみ処理対策、リサイクル等の需要が一層強まっている。

特に厳冬期に暖をとるために発生する煤煙は、健康を害するとして大きな問題となっている。UBでの大気汚染についてはいろいろな対策案が出されているが、旧環境省（現「自然環境・グ

リーン開発省])は大気汚染以外についても、以下に示す環境に配慮した技術に関心を持っている。

- ・水処理：廃水浄化技術、水の再利用技術（水が貴重なため）、水の浄化技術（特に南ゴビ等）
- ・鉱山活動における土地の復旧
- ・ごみ処理及びリサイクル（プラスチック等のごみは今後も増加）

これらは大規模プラントではなく、ゲルキャンプ、幼稚園、病院、小学校等で設置利用できる小型の設備が有望である。一例としては、ダルハンでドイツの小規模水利用技術（Small Scale Water Treatment Technology）が導入されており、50人規模の水処理能力を持ち、設備費用は2万ドル程度である。

日本の環境技術は優れているため、良い技術を提案して欲しいとの期待もあり、最近では、政府の環境問題に対する予算配分も増え、民間企業の支援やPPPの推進等が見込まれている。

### （3）日本企業が進出可能な有望分野

（1）、（2）を元に、日本の優れた環境技術、省エネ技術を活かして日本企業が進出可能と思われる有望分野としては以下が考えられる。

- ごみ焼却炉、ごみリサイクル等のごみ関連事業
- 大気汚染対策技術や砂漠化防止技術を始めとした環境浄化事業
- 古タイヤからの油化装置、炭化装置の製造販売
- 水処理等の水浄化事業

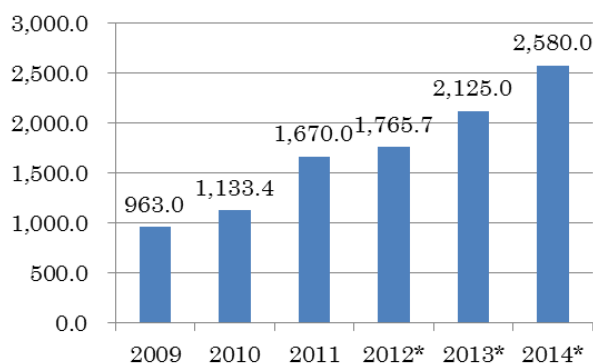
#### 3.1.10. 薬剤・病院

##### （1）概況

医薬品製造販売及び病院経営等の医療・健康部門に対しては、モンゴル政府が必要なサービスを提供する義務があることを法律で定めている。これを元に、政府が高度な医療サービスと投資を支援していることもあって、国内または外国からの投資が増加しており、特に、私立病院が大きな成長を示している。

2011年の医薬品・病院産業全体の収入は、213.3百万ドルで、当該収入の趨勢をみると、過去3年間（2009～2011年）では179.8%と高い伸びを示している（図表3.1.34参照）。さらに、2011年を基準にした今後4年間（2011～2014年）では184.4%と引き続き高い成長が見込まれている。国民所得の伸びに従って、医療、治療等健康関連への関心が高まり、支出が増大していることも一因といえる。

図表 3.1.34 医薬品・病院産業の収入額（単位：百万ドル）



（出典：モンゴル政府資料）

また法律上で、モンゴル国民は、一定の条件付きで健康支援またはサービスを無料で受ける権利があることが定められており、モンゴル政府は医療保険制度の充実を通して、国民への無料診療へのサービスを提供することを目指している。国民の医療・健康への関心、診察、治療ニーズの高まりへの対応として、政府は民間部門の育成と効率的運営を支援しており、民間セクターによる投資も増大している。病院経営の主体を公立、民間別に見た場合、国立等公立病院が36%、民間病院が64%と、民間病院が圧倒的に多く、また増加傾向にある。

これらを背景に、国内での医薬品製造は伝統的な漢方薬を中心とした製品の製造が主流であったが、最近では化学薬品を混合した製品も増加している。主な化学薬品は欧米、韓国等からの輸入に依存しているが、日本からの輸入品は極めて少ない。またメーカーが卸、薬局・小売店を多店舗経営しているのも特徴的である。

一方で、施設環境、医療技術のレベル等の問題を抱える現状から、富裕層は韓国、シンガポール、タイ等で治療を受けるために渡航する例が多くなっている。

## (2) 課題と今後の展望

医薬品製造業は技術、設備投資等を考慮すると、当面は従来通り漢方薬と化学薬品を混合する製造にとどまらざるを得ないが、今後外国企業との提携が進むと予想される。

一方、病院経営においては、ハード面では近代的な施設、設備機器の充実・強化が喫緊の課題であり、多くの病院が投資を募るために苦勞している状況である。また、ソフト面では治療以前の診断、事後のリハビリテーションへの対応不足、また、医師不足、治療技術の高度化への対応も迫られている。

さらに、診療科目別にみると、小児科、婦人科、脳・心臓外科、精神科、歯科等において、医師はもちろん施設、設備機器のいずれも不足している現状にある。今後は政府の直接的な支援のみならず、内外資本の誘導施策も不可欠である。

## (3) 日本企業が進出可能な有望分野

上記(1)、(2)を元に日本企業が進出可能な有望分野として以下等が考えられる。

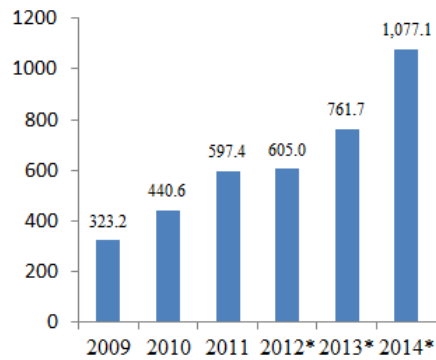
- 新病院建設または病院拡張等に対する投資
- クリニック、総合病院の医療事業
- 検査機器・医療器材（中古機器も含む）や空気清浄器、医療消耗品等の医療事業
- 投資、医療技術、医療サービスを含む包括的な事業提携
- 医療活動等のメンテナンス事業
- 漢方薬製造企業

### 3.1.11. ロジスティクス

#### (1) 概況

2011年の当部門全体の収入は、597.4百万ドルである。当該収入の趨勢をみると、2011年は2009年に比べて84.8%（年平均28.3%）と著しく高い伸びを示している（図表3.1.35参照）。また、2011年を基準にした3年後の2014年では80.3%と引き続き高い伸び率が見込まれている。

図表 3.1.35 ロジスティクス業の収入額（単位：百万ドル）



（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

次に、過去 3 年間（2009～2011 年）の収入の推移を、自動車・トラック輸送、鉄道輸送、航空輸送、海上輸送別にみると次のとおりである（図表 3.1.36～図表 3.1.39 参照）。2011 年で見ると鉄道輸送が全体の 51.6%を占め、次いで自動車・トラック輸送が 27.2%、航空輸送が 21.2%となっている。

ア．自動車・トラック輸送

：2011 年の収入は 162.4 百万ドル。過去 3 年間の伸び率は 82%。

イ．鉄道輸送

：2011 年の収入は 308.6 百万ドル。過去 3 年間の伸び率は 96.4%

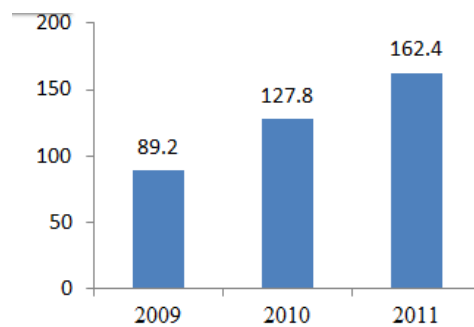
ウ．航空輸送

：2011 年の収入は 126.4 百万ドル。過去 3 年間の伸び率は 64.6%

エ．海運輸送

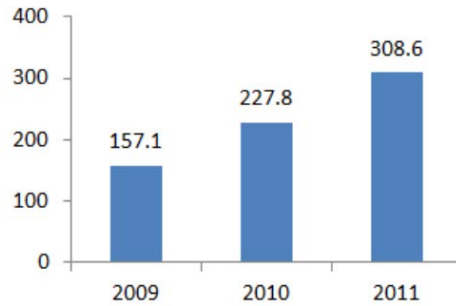
：内陸国ということもあり、2011 年の収入は 0.1 百万ドルにとどまる

図表 3.1.36 自動車・トラック輸送における収入額（単位：百万ドル）



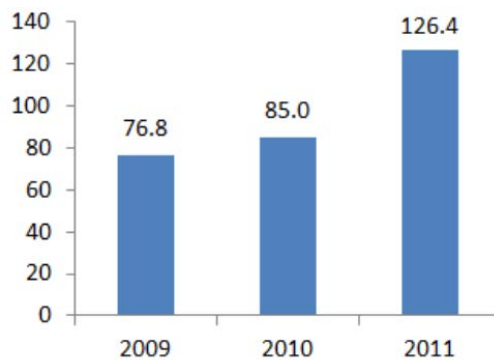
（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

図表 3.1.37 鉄道輸送における収入額（単位：百万ドル）



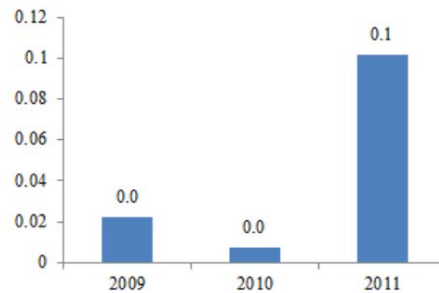
(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

図表 3.1.38 航空輸送の収入額（単位：百万ドル）



(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

図表 3.1.39 海運輸送の収入額（単位：百万ドル）



(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

## (2) 課題と今後の展望

モンゴルは、市場経済化後の急速な発展の中で、産業構造、その一端としての流通構造に大きな社会的な問題を抱えている。

近年、グローバル経済化の中で、サプライチェーン・マネジメント(Supply Chain Management、SCM)、これを支える卸売業や3PL\* (Third-party Logistics) による効率的なロジスティクスの発展は著しい。

このような世界的な潮流の中で、モンゴルにおいては、道路、鉄道、空港整備の立ち遅れはもちろん、流通団地、情報通信、企業間情報ネットワーク等の社会的インフラが、経済、市場の急激な発展に追いついていない。これがモンゴルにおける、健全かつ効率的なロジスティクスの発展の阻害要因となっている。特に、モンゴル国内における物流は、メーカー等供給者が小売店、



市場、企業等のエンドユーザーである需要者に自家用車で直接配送することが通常の物流の形態となっている。

(3PL\*：企業戦略として物流機能の全体もしくは一部を外注に委託すること。)

このような「健全な 3PL の未発達」、「モンゴルの常識」が今日の UB 市内の交通渋滞に拍車をかけている一因になっていると同時に、効率的なロジスティックスの阻害にもなっている。

このような様々な社会的インフラが遅れている中で、販売拠点を国内全域に拡大しようと競争している飲料メーカーの大手企業は、UB 市内、地方に約 6,000 前後の配送先をネットワーク化して日々商品を生供給するロジスティックスを実現している。コカコーラ社はコンピュータ・ソフトと GPS 機器を武器にして、配送車の運行状況を効率よく管理している。また、ローコスト・オペレーションを実現するための自動化、IT 化を図ったロジスティックス・センターの建設を計画中であり、さらに物流コストを引き下げするために他企業の物流も積極的に受注する方向にある。メーカー独自のロジスティックス・カンパニーから、効率的に集荷分散機能を発揮する 3PL 化への転換も視野に入れている。まさにモンゴルはロジスティックスの黎明期に入ったといえる。

モンゴル政府が優先実施する OT 鉱山やその他の鉱山開発プロジェクトによって、自動車・トラック輸送、さらに鉄道輸送の需要がさらに大きく拡大することは必定である。自動車・トラック輸送、鉄道輸送の改善が、高い経済成長を支えるロジスティックス機能の発展に大きく貢献することが期待される。

航空輸送に関しては、現在のチンギスハン国際空港における比較的短い滑走路、強風、砂嵐、視界不良等、厳しい自然環境による頻繁な欠航等の問題から、輸送手段としての利便性、経済性に大きな課題を抱えている。広大な国土と内陸国としてのモンゴルの弱点をカバーするために社会的・経済的な機能を十分に果たす航空輸送が必要とされる。

尚、ロジステック部門の上位 6 社は図表 3.1.40 の通りである。国営の鉄道、航空企業が上位を占め、次いで内外の民間企業が名を連ねている。日本企業と現地企業の合弁によるエズニス・エアウェイ社 (Eznis airways LLC) も 6 位に位置し、日本企業の現地進出事例として注目される。

図表 3.1.40 モンゴルの主要な輸送機関

	企業名	主な事業	出資国	出資者	連絡先
1	トゥーシン会社 (Tuushin LLC)	輸送 ロジスティックス	モンゴル	国営	Web : www.tuushin.mn Tel : +976-11-320064,312092 Fax : +976-11-322800,3225510
2	モンゴル鉄道 (Mongolian railway)	輸送 ロジスティックス	モンゴル ロシア	国営	Web : www.mtz.mn Tel : +976-11-336611 Fax : +976-11-336644
3	モンゴル国際航空 (MIAT-mongolian airlines)	輸送 ロジスティックス	モンゴル	国営	Web : www.miat.com/ Tel : +976-11-379935 Fax : +976-11-379919
4	アエロモンゴリア (Aeromongolia)	輸送 ロジスティックス	モンゴル	民間	Web : http://www.aeromongolia.com/ Tel : +976-11-379616,283212 Fax : +976-11-379943
5	DHLモンゴリア (DHL LLC Mongolia)	ロジスティックス	米国	民間	Web : www.dhl.mn Tel : +976-11-310919 Fax : +976-11-325772
6	エズニスエアウェイ (Eznis airways)	輸送 ロジスティックス	日本 ニューコムグループ (モンゴル)	民間	Web : www.eznisairways.com Tel : +976-11-333311 Fax : +976-11-331514

(出典：モンゴル政府資料)

### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2) を元に日本企業が進出可能な有望分野として以下等が考えられる。

- 日本型サービスを活用したローコスト・オペレーションの物流
- チルド物流及び保冷物流等の専門物流
- 農産物・加工食品を長期保存できる倉庫業

- 鉱山地区、大型建設プロジェクトへのケータリング専門物流
- フォークリフト等搬送機器や自動ピッキング倉庫を備えた在庫管理
- 鉱物資源輸送用特殊大型自動車の輸出

### 3.1.12. 流通・小売業

#### (1) 概況

流通・小売業は市場経済化とグローバル化の波、さらにモンゴルの急速な経済成長の中にあつて、市場ニーズの変化、消費者のライフスタイルの変化に最も敏感に反応し、短期間に変革と急成長を遂げた業界のひとつである。急速に発展する国では、グローバルな流通モデルとその国固有の伝統的なモデルが混在し、徐々に新旧のモデルシフトが進むが、モンゴルでも同様にあてはまると言える。

モンゴルの小売業においては、モンゴル最大の流通グループであるノミン社（Nomin）に代表されるように、デパート、スーパーマーケット、ショッピングモール、コンビニエンスストア、ハイパーマーケット、ディスカウントストア、ホールセールクラブなど、他国同様、チェーン店、単独店も含めて今日的な小売業のビジネスモデルは出揃っている。一方で、「ザハ」と云われる昔ながらの親しみやすい市場が、消費者と小売店、卸業者、生産者を結ぶ流通の場として人々から支持を受け社会的な機能を果たしている。同時に都市、町、地方または周辺村落からの業者が売買取引を行う場でもある。「ザハ」には生業的小売の店舗のみならず、大手メーカー、特に食品加工メーカーが直販店を構えている例が多い。

また、生業的家族経営の零細小売店がロードサイド、市場の中に多くみられる。まさに新旧のビジネスタイプが併存し、競合し合っている。しかし、大きなトレンドとして、近代的な小売業態が優位になってきていることは明らかである。

#### (2) 課題と今後の展望

##### 1) 流通業

流通システムの未発達と流通全体の低生産性・非効率性に課題がある。同様に、後発発展途上国に共通する大きな社会的な課題でもあるが、モンゴルにおいても中間流通機能を担うべき卸売業、または 3PL が発展していないために、流通業全体として健全で効率的な発展を遂げていない。

モンゴルにおいては、日本のように小売業と国内メーカーの中間に位置して、集荷分散機能、需給調整機能を果たしている大手の卸売企業は存在しない。道路インフラの立ち遅れ、流通団地が存在しないことに加えて、中間流通機能を発揮すべき卸売業が成長していないために、あらゆる生産者やメーカーが小売店をはじめエンドユーザーに直接配送するのが当たり前となっている。

この伝統的な流通構造の仕組みが、UB 市内の交通渋滞の大きな原因の 1 つとなり、効率的な流通業の発展の阻害要因となっているが、モンゴル社会においては、これに対する問題意識はやや希薄である。道路インフラが大幅に改善し、ロジスティックスのイノベーションが進行しているタイ、カンボジア、ラオス、ベトナム等の東南アジアとは対照的である。

しかし、国内に 3,000~6,000 の販売拠点を持つ大手メーカーの販社は、その販売拠点数と GPS 等を使った配送システムを武器に一層のローコスト化も図るため、他社の物流を一部手がけはじめたところもある。今後は、より効率的なロジスティックセンターの建設によって他社物流を積極的に拡大し、総合卸売業化を目指す動きととらえることができる。最近になり、日本の食品系流通大手の一部とさらに菓子または食品の専門卸売業が進出、または連携を深める動きも出始めている。

## 2) 小売業

小売業界は革新と淘汰の時代を迎えている。

盆地に囲まれ地理的に限られた商圈である UB などのような市場では、高い経済成長に支えられた小売市場も急速に成長し、成熟化のスピードも速い。また、急速なボリュームゾーンの拡大と高所得者層が増大する中で、消費の二極化が進展している。

このような環境変化の中で、今後短期間のうちに新興の大型小売店同士の競合が激しくなることは確実とみられる。今後の小売業は、戦略性とマネジメント力そして資本力戦略性を持った大型店のタイプと、経営革新に立ち遅れた中小零細小売店との経営力格差が拡大し、後者が前者に飲み込まれるという淘汰の時期に入ってくるとみられる。

### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2) を元に、日本企業が進出可能な有望分野として以下などが考えられる。

- 商品調達のネットワークや効率的な物流システム、経営ノウハウを備えた中小卸売業
- 日本や東南アジアほか海外の商品の輸出販売
- 一定の経営ノウハウを確立している独立型中小コンビニエンスストア
- POS 用機器及びシステムの輸出販売

### 3.1.13. 金融業

#### (1) 銀行等

##### 1) 概況

モンゴルには商業銀行が14行あり、そのうちの3行で市場シェアの3/4を占めている。最大の資産を有するのはハーン銀行で、日本の澤田ホールディングス (Sawada Holdings) とモンゴル企業のタバンボグド社 (Tavan Bogd) に所有され、市場シェアは23.7%である。2番目は、ゴロムト銀行 (Golomt Bank) で、シェアは23.4%である。3番目の貿易開発銀行 (Trade and Development Bank、以下TDB) のシェアは20.9%で、最近、ゴールドマン・サックス社 (Goldman Sachs) が4.8%を出資している。3行に続くのが、マイクロファイナンスに特徴があり、9%のシェアをもつハス銀行、8.3%のシェアを有するセービング銀行 (Savings Bank) である。

商業銀行のほかに188のノンバンク金融機関があり、その他に、組合員の貯蓄、貸付を行う207の協同組合がある。外国銀行としては、オランダのING銀行が2008年に駐在員事務所を開設している。市中銀行の規制官庁は中央銀行であるモンゴル銀行で、ノンバンクの規制官庁は財政規制委員会 (Financial Regulatory Commission) である。

2011年5月には国家開発銀行であるDBMが設立され、インフラ、工業、エネルギープロジェクトに融資を行っている。

尚、金融機関全体の与信構成は以下の通りである。

<与信構成>

- ・民間ビジネス：56%、個人向け：43.5%、政府向け：0.5%

※貸し倒れ率は6.5% (ピークは、2009年の17.4%)

①経済活動ごとの与信比率は以下の通り (2011年前期)

- ア. 消費者、卸・小売-----18.8%
- イ. 不動産-----13.1%
- ウ. 鉱山関係-----12.1%
- エ. 製造業-----11.4%
- オ. 建設業-----11.1%

## ②今後の動向

ア. 不動産関係融資の増加が予想される。

イ. 2008年に政府は預金保証法を制定し、2012年まで殆どすべての預金を保証しているが、2013年以降については議論されつつもまだ確定はしていない。

ウ. 2008年、2009年の金融危機の中で、アーノド銀行（Anod Bank）とゾース銀行（Zoos Bank）が破産したが、この経験を踏まえ、2010年の銀行法（Banking Law）改正で、銀行にかかる法的環境が整備された。自己資本比率12%の維持が求められている。自己資本比率は、2011年第3期末で、ゴロムト銀行－14.7%、ハーン銀行－14.5%、ハス銀行－12.9%、TDB－12.5%である。

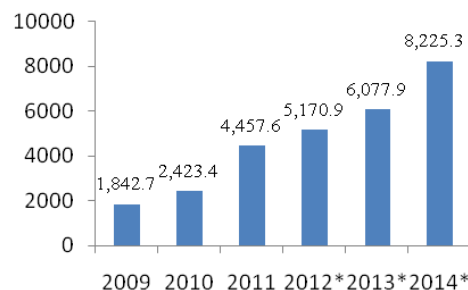
## 2) 課題と今後の展望

### ①貸し出し傾向

中央銀行であるモンゴル銀行は、貸し出し能力の増加を目的に、ここ数年間で資本充実のための資金調達を行うことが予想される。モンゴルの証券市場は規模が小さいため、国際資本市場での起債、または直接投資の受け入れを行う公算が強い。ゴロムト銀行は2014年ごろに外国市場でIPOを行うと発表しており、一方、ハス銀行はオランダのING銀行及びスイスのUBS銀行と関係が深いので、彼らの助力で資金を調達する可能性が高い。小さい銀行は独力で国際市場に出ることができないため、業界内で統合、大銀行と合併等の銀行再編成の動きが出る可能性がある。

経済の好調を受けて、すべての部門で成長が起きると予想されている。融資及び、より洗練されたファイナンスサービス需要が増加している。2012年に公務員給与の53%引き上げを政府が実施したため、抵当金融、自動車購入資金への申し込みが増加すると見込まれている。

図表 3.1.41 ローン貸出額（単位：百万ドル）



（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

### ②金利動向

1998年初期には貸出金利はトゥグルグ建てで年48%、ドル建てで同40%であったが、図表3.1.42に示す通り2013年1月では、ハーン銀行の場合、トゥグルグ建てで18.0～26.4%、ドル建てで13.2～21.6%まで下がっている（但し銀行間及び貸出期間等で相違がある）。

図表 3.1.42 主要銀行別金利動向 (2013年1月時点)

銀行名	トゥグルグ建て		ドル建て	
	期間(月)	金利(%/月)	期間(月)	金利(%/月)
ハーン銀行 (Khan bank)	24	1.5-2.2 (18.0-26.4)	24	1.1-1.8 (13.2-21.6)
貿易開発銀行 (Trade and Development Bank)	6-36	1.0-1.85 (12.0-22.2)	6-36	1.0-1.8 (12.0-21.6)
ゴロムト銀行 (Golomt Bank)	18	1.5-2.3 (18.0-27.6)	18	1.3-2.1 (15.6-25.2)

(出典：各銀行のHPより)

金利低下傾向は今後も継続するが、一桁台に下がることは難しい。二桁のインフレが継続する中では、モンゴル銀行が経済過熱を抑え、政策金利を高めに維持するからである。

ローンの金利は月額1.7～2.1%、期間は1～5年で長期金融も可能である。ハーン銀行によると、金利交渉はまず20%からスタートする。変動金利のベースはモンゴル銀行の政策金利(7日ものの国債金利)で、現在、12.75%となっている。優良顧客でモーゲージ付(不動産を担保にした貸付)の場合は、年12%程度である。

貸付は有担保主義で、不動産担保が多いものの動産担保を取る場合もあり、生活に必要な洗濯機等を抑えることもある。社長の個人保証を取るケースもある。担保は基本的に不動産70%、動産担保は30%、1社に対する与信限度は自己資本の20%までとなっている。

預金金利は定期で平均年15～16%、エレル銀行(Erel Bank)は20%前後である。

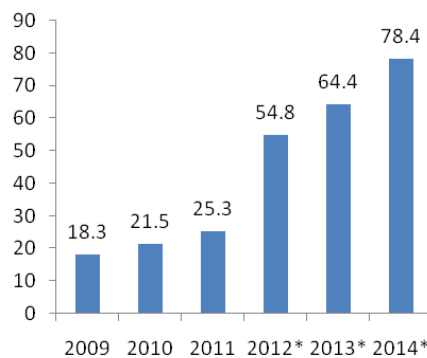
ハーン銀行は、外国人専用の支店(モニス(MONIS)ビルの向かい側)を設けており、日本語を話せるスタッフも常駐している。円口座から引き出す場合は、0.35%の手数料かかるが、トゥグルグに変える場合は不要である。

### ③リース、ノンバンク、マイクロファイナンス

リースも盛んにおこなわれているが、重要機械の場合にはリース金額の最低20%の担保が必要となる。

ノンバンクは自己資金が中心の消費者金融で、金利は月利で2.1～2.5%である。図表3.1.43にノンバンク機関の収入額の変化を示す。2012年以降はかなりの増加が見込まれる。また、EBRDは金融機関経由でマイクロファイナンス支援も実施している。

図表 3.1.43 ノンバンク機関の収入額 (単位：百万ドル)



(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

#### ④貿易金融

独立行政法人日本貿易保険（Nippon Export and Investment Insurance、以下 NEXI）の付保対象に、ハーン銀行と TDB が認められている。モンゴルはカントリーリスク評価で投資不適格国にランクされているため、信用状（Letter of Credit、以下 L/C）の確認は基本的には受けられない。NEXI が認めるかどうかベンチマークになるので、両行を除いて L/C を組むのは難しい。ハーン銀行は三井住友銀行から信用状確認与信枠（L/C Confirm Line）10 百万ドルを受けている。一方、TDB は三井住友銀行、みずほ銀行、三菱東京 UFJ 銀行から信用状確認与信枠を受けている。しかし、モンゴル貿易は信用状を使わず、電子送金ベースが多く、エスクロ勘定（\*）を L/C の代わりに使う。輸入物資の入関書類が出たら支払いをするという取引はモンゴル人に分かりやすいと言われている。

（エスクロ勘定\*：資金を銀行に預託して一定の条件が整わないと引き出せない勘定）

#### ⑤信用調査

モンゴル銀行と商業銀行で信用調査局（Credit Investigation Bureau）が設立されている。加盟銀行間で与信情報（事故）を交換するだけで、部外者はアクセスすることができない。民間の信用調査機関は現状存在しない。

### 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2) を元に金融業における日本企業が進出可能な有望分野は以下などが考えられる。

■M&A や業務提携

■高額製品や機器のリース業

■信用調査業務

■ノンバンクへの投資

■リーズナブルな手数料の送金ビジネス（現行の一例：3 万円送金で手数料が 6,000～9,000 円ほど）

## (2) 証券市場

### 1) 概況

モンゴルの証券市場は 475 社の民営化支援の目的で 1991 年に設立された。上場企業の時価総額は 2011 年で 20 億ドルであり、2008 年の 406 百万ドルと比べると急増しており、GDP 比でみると約 18%である。最近の取引額は経済好調を背景に増加基調にある。2010 年では前年比 121%増、2011 年では同 32.6%増であり、2005 年以降、15 社が証券市場への IPO を行っている。

上場企業は 336 社で、このうち 20 社が取引額の 85%を占めており、流動性も少ない。産業別には石炭株が多く、銀行株はどこも上場しておらず、その背景には、以前上場した 2 行が破産したことが影響している。

また、2010 年以降、証券会社数は増加しており、2011 年 10 月時点では 63 社が存在している。市場が拡大するに伴い、証券会社数の増加が予想される。いかなる IPO も 10%はモンゴル国民に売却されねばならないという法規制がある。

2011 年 5 月に国有財産委員会（State Property Committee）とロンドン証券取引所（London Stock Exchange Group、以下 LSEG）は独占的戦略的パートナーシップ契約を締結した。モンゴルの民営化計画を実行し、MSE の合理化と発展のために MSE の運営を行う。LSEG は専門家の派遣、株式取引、清算、決済業務、上場規則の見直し、職員の研修等を担当する。

## 2) 課題と今後の展望

モンゴルの債券市場は2010年から始まった若い市場であり、現在、債券の流通市場はない。2011年10月現在、政府債の発行残高が172百万ドルあり、満期は1～5年、利回りは8～10%である。大蔵省の他に債券発行体は、モンゴル銀行であり、1週間、13週間、28週間の債券を金融機関に発行している。企業の債券発行は、初期段階で2011年後半に食肉債「Meat Bond」をジャストアグロ社（Just Agro）が起債した。1年物、16%の利回りで、当初23.4百万ドル相当のトゥグルグを売却しようとしたが、消化は芳しくなかった。幾つかの会社は海外で起債している。

今後の市場成長要因としては、上場企業への投資や民営化企業への投資（2010年に新民営化計画が発表されている）、不動産市場への投資、鉱山投資等が挙げられる。

中でもTT石炭鉱山の権益を保有する国営企業のエルデネス・タバントルゴイ社のIPOは、モンゴル証券取引所とロンドン証券取引所双方に同時に上場する等で巨額の資金調達が見込まれ、その額は20億ドルから30億ドルになると予想されている。売却先は、30%の株式を外国投資家に、10%をモンゴル企業に充てられ、さらには10%がモンゴル法に基づき、モンゴル国民に配分される（すべての国民が一人当たり1,072株を取得）。尚、上場の時期は当初の予定から延期され2013年3月以降となっている（2012年12月末現在）。

## 3) 日本企業が進出可能な有望分野

1)、2)を元に証券市場において日本企業が進出可能な有望分野は以下などが考えられる。

- 証券業及び資本市場関連分野におけるビジネス
- 証券市場を通じたモンゴルの成長企業への投資
- モンゴル企業、日系進出企業に対する資金調達関連のコンサルティング

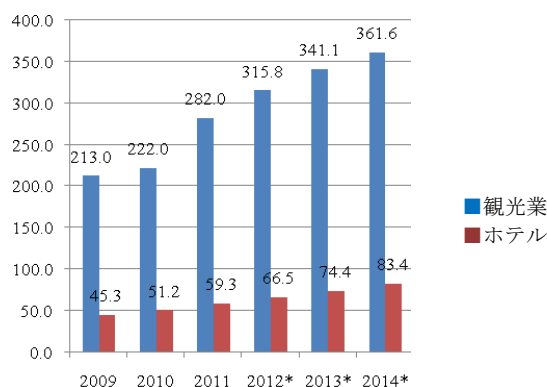
### 3.1.14. 観光業

#### (1) 概況

観光業はモンゴル経済にとって、経済多角化、地方の雇用を確保する意味で重要産業である。売上高の推移は図表3.1.44の通りである。

2011年の訪問客数は457,514人であった。トップは中国で198,191人（訪問客数全体の43.3%）、続いてロシア102,733人（22.5%）、韓国43,994人（9.6%）、米国15,423人（3.3%）、日本14,933人（3.3%）となっている。このうち、中国、ロシアはビジネスでの短期滞在が多く、観光目的では韓国人、日本人、米国人、ドイツ人、フランス人が多い。観光客は全体で9万人程度である。

図表 3.1.44 観光業（ホテル産業を含む）における売上高（単位：百万ドル）



(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

2011 年末で、ツアーリストキャンプが 257 社、ホテルが 360 社、ツアーオペレーターが 655 社存在する。

鉱山開発、外資の流入、経済発展などに伴いビジネス客や観光客は増加傾向にあるが、日本からの観光客は少なく、最近では米国にもその数で抜かれている。また、日本人の海外渡航者数は年間 1,700 万人に上るが、モンゴルへの訪問者はそのうちの 0.08%に過ぎない。

現在政府では観光を促進するために以下のような施策を講じている。

- ・年間約 50 万人弱の訪問客数（2011 年時点）を 2015 年までに 100 万人にする。
- ・国内航空会社を 4 社にする。
- ・香港や英国、その他諸外国への国際便を増やす。
- ・新国家観光計画（2015 年まで）を検討する。
- ・観光拠点を増やす。
- ・24 億ドルを投資する。
- ・カラコルム 13 世紀プロジェクトを推進する。

また、政府の施策に前後し、世界展開するホテル企業も続々とモンゴルへ進出してきている。特に UB ではここ 2 年ほど前から、国際ホテルの進出計画が相次ぎ、ラマダホテル（RAMADA（128 室、4 つ星））が 2011 年夏にオープンした。

香港のシャングリラも 128 室のホテル（5 つ星）を建設中であるが、当初 17 階の予定を 22 階建てに拡大している。ホテルタワー（Hotel Tower）が 2013 年第 3 四半期に完成し、さらにアパートメントタワー（Apartment Tower）が 2014 年に完成する予定である。

2011 年 11 月には、ハイアットインターナショナル（Hyatt International）が UB で 259 室のホテル建設（2014 年）を発表したが、さらににテレルジ（Terelj : UB 郊外の観光地）にホテル建設も行う予定である（2015 年）。テレルジのホテルは全室 131 室を備え、そのうちスイートルーム 19 室があり、ゲル 30 棟及び 8,988m<sup>2</sup> のイベントスペースが予定されている。尚、テレルジには、すでに最高級ホテルとして 52 室を有するテレルジホテル&スパ（Terelj Hotel & Spa）が 2008 年にオープンしている。

さらにヒルトン（Hilton）やラディソンブルー（RadisonBlues）、シェラトン（Sheraton）、ベストウェスタン（Bestwestern）及びスイスのホテル等もモンゴル市場への参入を検討しているといわれている。

## （2）課題と今後の展望

モンゴルの観光は構造的問題を抱えている。第一に海外観光客誘致戦略が殆どなく、政府も有効な手立てを講じていない。第二に地方には観光適地が沢山あり、広大で、潜在性もあるが、道路インフラが整っていないところがほとんどである。アクセス、宿泊設備、また、サービスが洗練されていない等の問題もある。第三に観光業に対する意識の違いが大きく、観光プランの作成についても外国人の興味・嗜好とマッチしていない部分も多い。

特に、日本人観光客が求めるのは、異色体験、食事、買い物等であるが、食事や買い物等については日本人の興味・嗜好が殆ど考慮されていない。その理由として、日本でモンゴル旅行を取り扱っている企業が中小零細企業であるため、ハイエンドなサービスが提供されていないことが挙げられる。

また、草原が緑で覆われる 5 月から 9 月の観光シーズンに観光客の 80%が集中しているため、地元の旅行会社は夏の短期間で収益を上げねばならないという厳しい現状の中で、観光産業が育成されていないという側面もある。いかに冬に集客するかが重要な課題である。モンゴル人を対象に温泉リゾートなども可能性はあるが、現時点ではモンゴル人の温泉利用は医療目的であり日本のようなリゾート志向はまだ生まれていない。



### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

以上を元に日本企業が進出可能な有望分野としては以下などが考えられる。

- 日本人富裕層をターゲットとした観光プラン
- 投資視察と組み合わせたパッケージ観光
- モンゴル人向けの訪日医療診断・観光のパッケージサービス
- 主要観光地での日本人向けホテルの建設・投資
- 温泉リゾートの建設・投資
- ホテルテナントとして飲食店や衣料品店、美容院、その他のサービス業の展開

## 3.1.15. 情報通信業

### (1) 業界動向

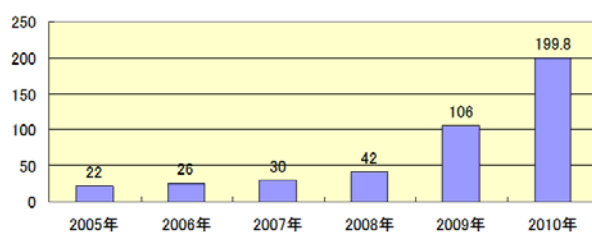
#### 1) 概要

モンゴルにおける情報通信技術（Information and Communication Technology、以下 ICT）分野は、通信、IT、ラジオ、TV 放送、郵便から成るが、非常にめざましい発展を見せている。例えば、国連の E-Government 2010 では、全世界で 53 位に躍進し、またオンラインサービスランキングでは 9 位となっている（日本は 5 位）。それを後押ししているのが、政府が 2004 年から 2012 年のスパンで取組んでいる E-Mongolia プロジェクトである。具体的には、行政手続き等の IT 化や情報通信インフラの整備、業界の規制緩和、法体系の整備、Web ショッピングの推進、情報格差の縮小、ネットアクセスのコスト減など多岐にわたる政策である。

また、「Computer to everybody」や「Internet to every family」などのプロジェクトにより、PC やネット接続の料金が低減し、2010 年時点では 70 万人（約 25%）のネットユーザーが存在するまでに至った。首都の UB に関してはネットユーザーの割合が 49.3%まで拡大している。

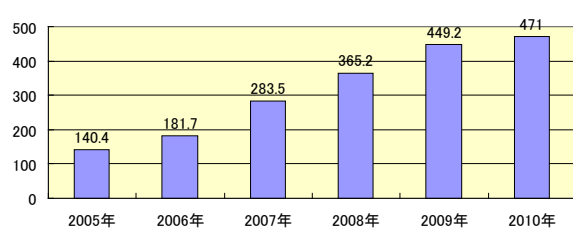
経済発展が目覚ましいモンゴルにおいて、情報通信はあらゆる分野に必要なものであるため、急激な発展を示している。2011 年夏の時点で、情報通信業は 7,200 人の雇用を抱えるまでに至り、77 社ものインターネットサービスプロバイダーが存在している。プロバイダー加入者数の増加などに伴い（図表 3.1.45）、ICT 分野の収入は右肩上がりでも推移している（図表 3.1.46）。

図表 3.1.45 プロバイダー加入者数（単位：千人）



(出典：モンゴル情報通信郵便庁白書、2011)

図表 3.1.46 ICT 分野の収入（単位：10 億トゥグルグ）



(出典：モンゴル情報通信郵便庁白書、2011)

ICT 分野では様々な機関が設立され、モンゴルの IT 化を推進している。

①CIO (Chief Information Officer : 最高情報責任者、以下 CIO) カウンシル

: 2011 年に設置された、各行政機関の CIO から成る諮問委員会。

②国立 IT パーク

: 2002 年に設置され、インキュベーション支援やアウトソーシング、R&D (Research and development : 研究開発、以下 R&D) 支援、モバイルコンテンツ開発支援などを主なサービスとして行い、2010 年にはソフトウェアスタンダードも策定した。

③国立データセンター

: 2009 年に ICTPA (Information, Communivations Technology and Post Authority : 情報通信郵政庁) と KOICA (Korea Internationl Cooperation Agency : 韓国国際開発協力機構) の共同で設立され、主に政府関係のデータベースの拠点として、セキュリティを保ちながら政府系データへのアクセス環境を提供している。

将来の展望としては、個人や家庭、企業などへ高速ブロードバンドを通じてソーシャルサービスの提供を図ろうとしている。

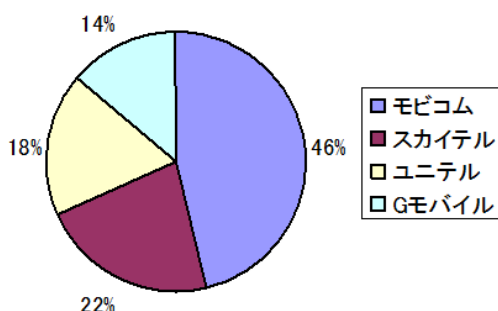
今後モンゴルでは、知識ベースの経済発展を目指すにあたり、IT 業界はその中心を担う分野であり、ICT R&D センターの創設も含めた ICT ハイテクイノベーションクラスターという首相直轄の構想がある。エレクトロニクスには欠かせないレアメタルが豊富にあるモンゴルは、他の科学技術立国には非常に魅力的に映るはずである。再生可能エネルギーやレアメタルを使用した半導体などの開発拠点となるよう、政府も優先的にこの分野への取組みを推進していくと思われる。さらには、ソフトウェアプログラマーと IT 事業会社を支援するために、iPhone やアンドロイド端末に特化したいくつかのトレーニングセンターを設立する予定もある。

## 2) 通 信

2010 年時点で光ファイバーは全 21 県 (アイマグ) に行き届いており、各県で少なくとも 1 社以上のプロバイダーが通信サービスを提供している。またネットワークは、フランスのアルカテル社 (Alcatel-Lucent) やドイツの EWSD 社、日本の KDDI 社などによって国際標準に準拠して整備されている。

尚、携帯事業会社 4 社の携帯加入者は国内 250 万人以上と、その普及率は 2010 年時点で約 92% という高水準となっており、図表 3.1.47 の通り、モビコム社とスカイテル社で全体の 7 割を占めている。さらには現在では学校にもネット接続のサービスが進められている。放送分野においては、2014 年に完全デジタルへ移行する計画書が提出されている。今後、ネットサービスと音声・画像通信を融合したサービスが実現できるようになると、様々な端末から多様なコンテンツにアクセスできる環境が整うことになる。

図表 3.1.47 携帯電話会社の市場シェア (2010 年)



(出典 : モンゴル情報通信郵便庁白書、2011)

### 3) IT

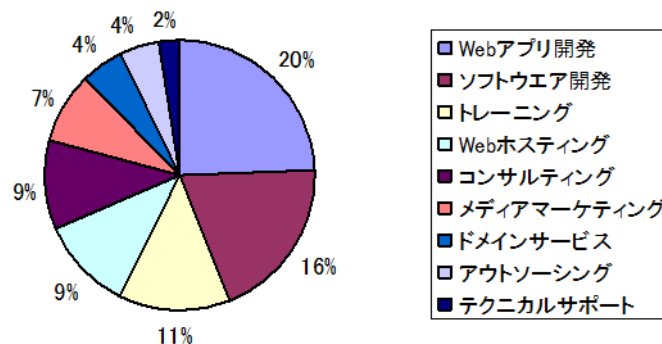
ネットの通信速度は、上り下りとも 11.2Gbps で、主にその経路は GPRS (General Packet Radio Service : 汎用パケット無線システム) が 64%、光ファイバーが 18.7%、ADSL が 12.6% となっている。また、モンゴルの Web サイトは 3,400 ほど存在し、Facebook ユーザーも 16 万人で、その 80% 近くが 18~34 歳である。

さらには 30 社ほど PC・ICT 機器関連の輸入販売会社があるだけでなく、政府の「Internet to every family」プロジェクトの下、家庭用 PC は 250 ドル程度で購入できるようになり普及率が 8.5% (人口ベース) まで向上している。

尚、ソフトウェアやシステム開発会社は 100 社以上あり、公共機関や民間会社へ IT サービスを提供している。Web サイトの開発から法人向け ERP (Enterprise Resource Planning : 基幹業務統合システム) 導入など、サービス内容は様々である (事業内容の割合は図表 3.1.48 を参照)。多くの企業は外国製のプログラムやアプリケーションを導入しているが、インタラクティブ社のように国産ソフトを展開する企業が徐々に始めている。

また、MCS エレクトロニクス社は、1997 年に設立され、PC 機器や IT インフラの提供サービスにおいては 30% の市場シェアを誇るリーディング企業である。同社は NEC やキヤノンなどとパートナーシップを締結し、販売代理やメンテナンスを担っている。今後も成長する IT 業界において現在の地位を維持するために人材育成プログラムも導入し始めている

図表 3.1.48 ソフト会社が手掛ける主な事業の割合 (2011 年)



(出典：モンゴル情報通信郵便庁白書、2011)

### 4) 人材育成

2010 年度時点で、ICT 教育を行っている機関は 24 校存在し (公的機関が 7 校、私立が 17 校)、6,000 人以上の学生が学んでいる。分野は、ソフトウェアエンジニアリング、ネットワーク管理、情報システム、ハードウェアエンジニアリング、通信エンジニアリング、郵便サービス、エレクトロニクスエンジニアリング、光学通信、TV・ラジオテクノロジー、衛星・ワイヤレス通信、IT などである。

#### (2) 課題と今後の展望

- ・国民の約 40% を占めるとも言われている遊牧民 (もしくはそれに準ずる生活スタイルのゲル住民) に対する ICT 環境整備が喫緊の課題であり、太陽光発電や 3G ネットワークとワイヤレス技術を組み合わせるアプローチで解決への期待が高まっている。
- ・特に IT 分野では、創業したばかりの企業が多く、政府はこれらの企業が教育や農業、健康分野などにも事業を拡大できるよう支援する意向がある。しかしながら、IT に関する多くのニーズを抱えているこれらの分野において、未だ具体的な事業展開を描けていない状況である。

- ・システム導入後のサポートの必要性に関するクライアント企業側の意識が高くないために、日中にシステムを止めてメンテナンスをすることもある。
- ・政府系プロジェクトの入札結果には、未だにコネや賄賂などが大きく影響している。
- ・慢性的な人材不足で、特に優秀なプログラマーが少なく、企業によっては10人面談しても採用は1人ぐらいという状況である。ITを教える大学や専門学校も増えているが、質は十分とは言えず、またこれからますます必要性が増すプロジェクトマネジメントに関するノウハウも業界全体において非常に希薄である。
- ・コンテンツ系に関する著作権などの法体系が未整備なので、民間企業から政府へ働きかけている。
- ・2、3年で転職する人が多く、特に給与の高い鉱工業分野へ移る人材が目立つため、現在はICTの業界団体（MOSA）と鉱山の業界団体とで協定を結んで人材流出の防止に努めている。ICT業界でも賃金は徐々に上昇してきているが、今後はいかにモチベーションを高め人材をキープするかが大きな課題である。

### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2)を元に、日本企業が進出可能な有望分野は以下などが考えられる。

■Webアプリケーションや業務システムのオフショア開発

■プログラミングやプロジェクトマネジメントに関する体系的な教育と認定制度ならびに人材紹介

■日本製品に特化したWebショッピングモール

#### 3.1.16. 教育産業

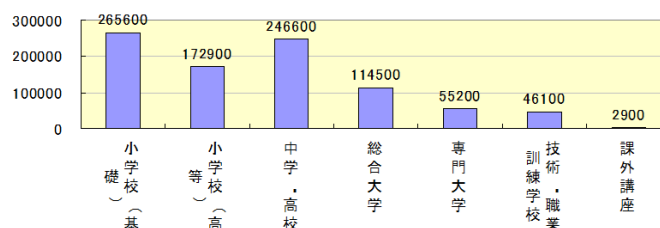
##### (1) 概要

現在のモンゴルではソ連時代の中央集権的な教育制度から、1991年に私立校ができて以来、民間を含めたより柔軟で近代的な教育制度へと移行し始めている。政府の予算のうち教育へ約20%もの額を割くほどまでに教育レベルの向上に大変力を入れており、2012年度の予算では、170,000人の学生に対して65百万ドルもの補助を割当て（一人当たり390ドル）学力の底上げを図ろうとしている。

また年間の学費に関して、公立では初等教育が206ドル、中等教育が285ドル、高等教育が339ドル（世界銀行2007年度調査）と低額であるが、今後は国民の所得向上に伴い徐々に上昇していくと思われる。

2010年度には実に国民の26.3%が教育機関で学んでおり、学生数の内訳は図表3.1.49の通りである。また、総就学率（Gross Enrolment Ratio Service、GER）は初等教育で98.6%、中等教育で94.7%、さらには義務化されていない保育園や幼稚園へも77.6%もの子どもたちが通うほどの高水準で、一方6～14歳の中退率は0.8%と低水準である。

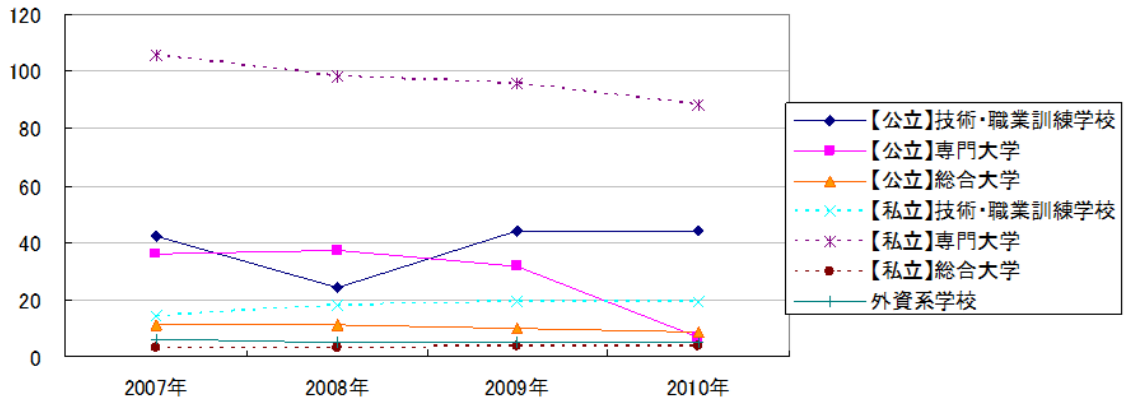
図表 3.1.49 学生数（2010）（単位：人）



(出典：NSO、2010)

また、高等教育機関は2010年度時点で176校あり(内訳と4年間の推移は図表 3.1.50を参照)、1992年から2007年までの間に約4倍増えたと共に就学率も14%から47%へ急増している。

図表 3.1.50 学校数の推移



(出典：NSO、2010)

また、教育システムにおいては従来の4・4・2の10年制度から、2008～2009年から6・3・3の12年制度が導入され、2015年までには6・4・2の12年間義務教育制度の導入を目指している。ADBでは、これらの教育システムの向上を図るために教員指導や教材開発、施設提供など多岐にわたる支援を行っている。

MCS 企業グループに属している、モンゴルでトップスクールの一つでもあるオルチロン(Orchlon)校では、英国のIGCSE(International General Certificate of Secondary Education)を満たしている科目を多く提供することで、今後増えてくるとされるインターナショナルスクールとの競争に備えている。

### 1) インターナショナルスクール

モンゴルで優れたインターナショナルスクールはISU(International School of Ulaanbaatar)とASU(American School of Ulaanbaatar)で、その他にも多くの中国系スクールや5つのトルコ系スクールが存在する。

ISUやASUの年間学費は20,000ドルほどで海外留学にかかる費用よりは安いですが、裕福なモンゴル人は子どもを海外へ留学させる方を選ぶ。今後は上述した学校も、モンゴル在住の外国人やモンゴル人富裕層の子どもを呼び込むために、国際的に通用するSAT(Scholastic Assessment Test:米国の大学へ進学する際に課される共通テスト)の受験を行ったり、バカロレアプログラムなどを受講した生徒が海外のトップ大学へ入学する流れをつくる動きが見られる。

既にISUやASUでは入学待ちが3年にも及ぶほどなので、インターナショナルスクールの市場はますます活性化されると思われる。2012年9月にはBSU(British School of Ulaanbaatar)が開校予定で、当初の受入れは250～400名ほどだが、将来的には1,000名ほどを見込んでいる。背景には、鉱物資源プロジェクトで、今後海外から多くのビジネスパーソンや労働者がモンゴルへ来ることが予想されるためである。

また、2010年に公立のNew Era High Schoolが国内初のバイリンガル・モデル校として開校された。授業はケンブリッジ大学管轄のCIE(Cambridge International Examinations)のシラバスに基づいて英語とモンゴル語で行われている。2014年までにこのモデル校を全県に合計30校ほど設置しようとしている。

AUM (American University of Mongolia) も、米国の単位認定された英語による授業を行うモデル校を UB に開校することに高い関心を示しており、成功すれば他国への展開も視野にいられているようである。

## 2) 職業訓練学校

現在は全ての職業訓練学校に助成金が支給されているが、将来は選別される可能性もある。また、学生全員に月額 35 ドルが補助されている。

### ①国立の専門学校

- ・学校への助成：経費の全額を支給
- ・学生の負担：特になし（授業料は全額無料）

### ②私立の専門学校

- ・学校への助成：職種に応じた固定経費を支給（例：溶接家 500 ドル／年）
- ・学生の負担：上記の固定経費で学校が賄えない差分を支払う

現在は特に技術系人材の養成を重視している（エンジニアや建築家など）。

尚、外資による職業訓練学校の設立にあたっては特に規制はない。

また、「Mongolian Korean Technical College」や「Technical and Technological College」などに OT 社が奨学生を支援しているが、これは政府から 3,600 万トゥグルグをかけて 3,300 人育成するように義務付けられているためである。ただし雇用義務はなく、実際は採用しても改めて自社の育成施設で実践教育をしている。他には MAK 社やエナジー・リソース社、ゴビ社なども奨学生を支援しているが、最近は徐々に青田刈りのように学生時代から困う動きも見られる。さらに中国の企業も探査業務人材のための奨学生の支援に乗り出している。

尚、米国では、MCA (Millennium Challenge Account : ミレニアムチャレンジ会計) プログラムを通じて、2008~2013 年（実際の稼働は 2010 年から）の間に職業訓練学校 17 校に対し設備の追加や補修に 47.6 百万ドルを助成したり、教員教育（留学など）や専門学校制度、公立の雇用市場制度（求職と求人のマッチング）へ 5 百万ドルの資金援助をしている。

## (2) 課題と今後の展望

### 1) 学校、大学

教室数の絶対的不足から、二部制をとっている学校もあり、午前か午後のどちらかしか学べない生徒も多く存在し、十分な学習環境が整っているとは言い難い。

大学の教員の月給が 300 ドル程度と学校の先生と同レベルであること、また鉱工業分野の月給よりも低いことが人材不足を招いている。ADB は高等機関の国際水準化を図るため、2012 年から数年にわたり 20 百万ドルの融資を通じて人材開発や R&D 拠点の充実化、地方における E ラーニング（情報技術を用いて行う学習のこと）センターの設置など様々な施策で、高等教育の改革を促す予定である。今後は付加価値のある製品などで経済発展を図ることを考えると、今から産学連携で R&D にある程度の投資が必要とされる。

「全ての子供に PC を」プロジェクトでは 3 年以内に遊牧民の子供も含めて PC を配布する計画があるが、教育での活用方法についての具体策は未定である。

### 2) 職業訓練学校

職業訓練学校が提供するプログラムの職種数は 140 種類と多いが、教育分野における質の面では最も出遅れている。

特にシェフ人材は不足しており、雇用条件は月給 1,500 ドルほどであるが、需要に供給が追いついていない状況である。モンゴル人が経営する料理学校はあるが、調味料の使い方等の基

礎を教えないため応用が利かない。料理の基礎や店舗経営も教えられるような料理学校へのニーズは高いと思われる。

サービス業界人材は現在 OJT (On-the-Job Training : オンザジョブトレーニング) で育成する方法が主流だが、今後外食やホテル、美容、航空、医療機関などの産業が活性化してくれば、体系立った教育システムも必要となる。

また、職業訓練学校の中には日本のカイゼンシステムへの見識をもった経営層もおり、日本語や日本文化教育も含めた包括的なカイゼン・カリキュラムの導入へ対するニーズもある。

さらに、大手の職業訓練学校などでは、在職期間が数年という転職率の高い現状を踏まえ、スキルのみならず勤労意欲を醸成するモチベーション教育や人格教育にも力を入れるべきという認識は高まっている。

### (3) 日本企業が進出可能な有望分野

(1)、(2)を元に、教育産業において日本企業が進出可能な有望分野として以下などが考えられる。

- エンジニア、理美容、接客、調理などに関する人格面も含めたプロフェッショナル養成教育
- 小学校～高校の補習や受験対策向けの学習用 Web アプリケーション
- アジア各国でも展開されている日本式基礎教育を施す学習塾
- 日本ならではの右脳教育や情操教育を始めとした英才教育

## 3.2. 消費者動向・生活習慣調査、企業の意識調査

日本企業のモンゴルにおけるビジネスチャンスを探るにあたり、モンゴル人の消費動向や生活習慣、さらにはモンゴル企業における日本企業との提携に関する意識を調査した。その一部を掲載する。

### 3.2.1. 消費動向調査

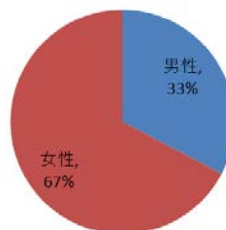
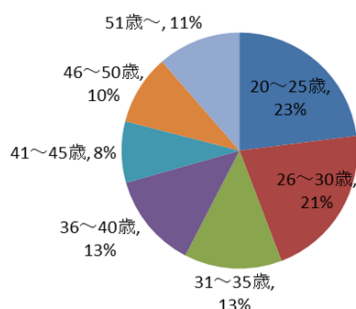
#### 1) 調査の概要

- ①調査期間：2012年5月上旬～5月中旬
- ②調査対象：ウランバートル市在住の中間所得層（無作為抽出）
- ③有効回答数：500件
- ④実施方法：モンゴル国立大学経済学部マーケット学科長・教授との協働による戸別訪問調査
- ⑤調査内容の概要：主に衣食住に関しての中間所得層の嗜好

#### 2) 調査の結果

- ①回答者の属性は図表 3.2.1 の通りである。

図表 3.2.1 回答者の属性

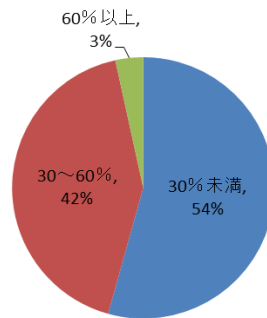


(出典：JICA 調査団)

### ②衣類に関する意識調査結果

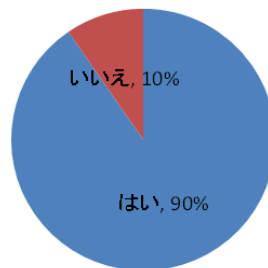
回答者の半数近くが、可処分所得のうち衣類への支出の割合が30%以上を占めるほどに衣類へのニーズは高い（図表 3.2.2 参照）。また大多数が流行に敏感で TPO に応じた着こなしをしており（図表 3.2.3 参照）、購入場所も「ザハ」と呼ばれる市場よりも専門店やデパートでの購入が上回るなど、求めるニーズの多様性と質の高さが顕著である。

図表 3.2.2 可処分所得の何割を衣類へ費やしているか？



（出典：JICA 調査団）

図表 3.2.3 TPO に応じて着こなすか？

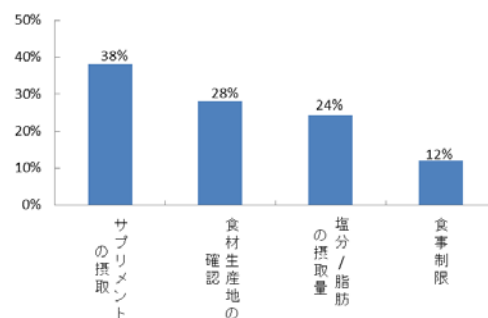


（出典：JICA 調査団）

### ③食事に関する意識調査結果

家庭の中で伝統的な料理を食す習慣が大勢を占めつつも、ほぼ毎日野菜をとり、又、サプリメントの利用や食材の生産地へのこだわりが高まるなど、食の安心・安全や健康へ配慮する人が目立つ（図表 3.2.4 参照）。

図表 3.2.4 健康維持に食事に気をつけていることは？



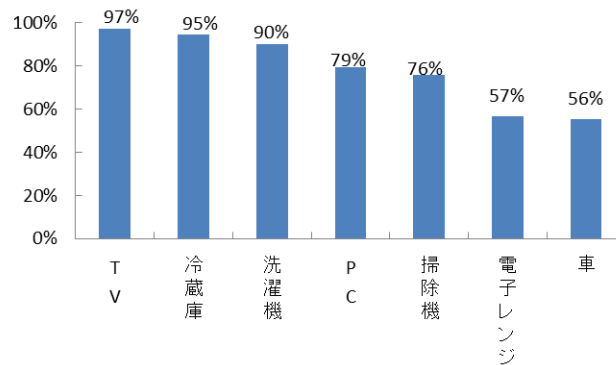
（出典：JICA 調査団）



#### ④住環境に関する意識調査結果

住環境については価格よりも機能や品質を優先する傾向が見えるなど、ライフスタイル全般において近代化への意向が顕著に見られつつある。家電類については中間所得層の大多数の世帯で必需品が揃いつつある（図表 3.2.5 参照）。さらにテレビ等 2 台所有している世帯も多く、生活にゆとりが生まれ利便性やクオリティを求める傾向にある。

図表 3.2.5 所有している家電は（車を含む）？（複数回答）

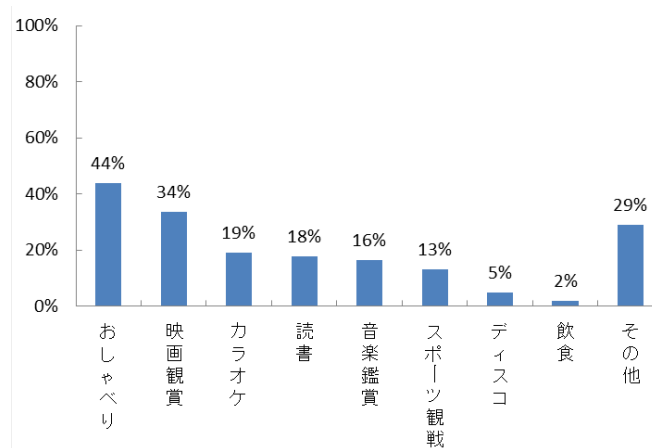


（出典：JICA 調査団）

#### ⑤嗜好品・娯楽に関する意識調査結果

酒やたばこなどの嗜好品は、他国同様にそれなりにたしなまれている。また、市内には日本を始めとした外資系企業の化粧品が売られ、所得にゆとりのある女性は積極的に購入している現状から、近い将来、中間層の美容への支出比率はより高まっていくと思われる。また娯楽に関しても、カラオケやディスコ、映画・音楽鑑賞など選択肢が多岐にわたっている（図表 3.2.6 参照）。

図表 3.2.6 好きな娯楽は何か？



（出典：JICA 調査団）

### 3.2.2. 日本企業との提携に対する現地企業の意識調査

#### (1) 訪問ヒアリングによるアライアンス調査

##### 1) 調査の概要

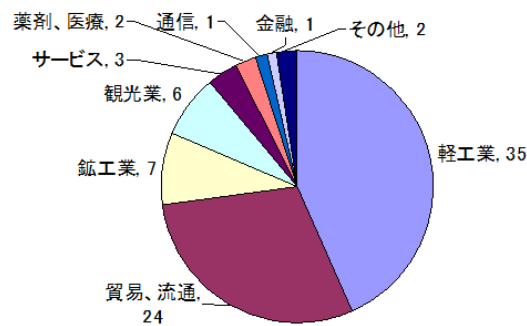
- ①調査期間：2012年4月上旬～5月上旬
- ②調査対象：調査会社の選定による現地企業

- ③有効回答数：81 件
- ④実施方法：現地調査会社調査員による企業訪問及びヒアリング
- ⑤ヒアリング内容の概要：日本企業との提携に対するモンゴル企業の関心等を調査

## 2) 調査の結果

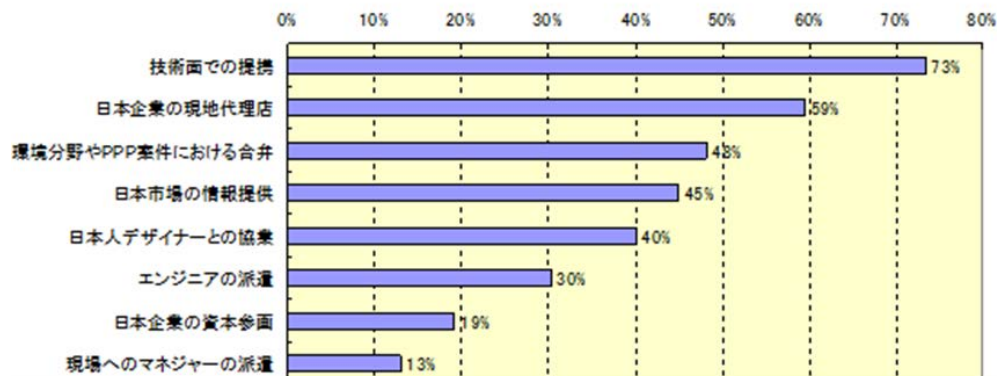
- ①回答企業の業種は、図表 3.2.7 に示す通りである。日本企業との希望提携内容別にみると、日本企業による技術支援やモンゴル国での代理店活動等において6~7割の企業が提携を希望するなど、具体的な成果につながる形での連携に関心が高い（図表 3.2.8 参照）。

図表 3.2.7 回答企業の業種別割合



(出典：JICA 調査団)

図表 3.2.8 日本企業との提携内容別に希望する企業の割合



(出典：JICA 調査団)

### ②海外との連携動向

OT 鉱山、TT 鉱山、エルデネット鉱山、エナジー・リソース社、フヌー社を含む 13 鉱山企業のうち、90%以上はすでに外国投資を投入している。

軽工業では、主としてカシミア関連企業で、数社の日本企業が投資やその他様々な形で協力関係を構築している。日本企業のスルガ建設 (Suruga Construction) やモンゴル企業のブリッジ建設 (Bridge Construction) を通して、現場での技術者やマネジャー育成などの技術移転が進んでいる。

## (2) 日本式経営に関心のある企業へのアンケート調査

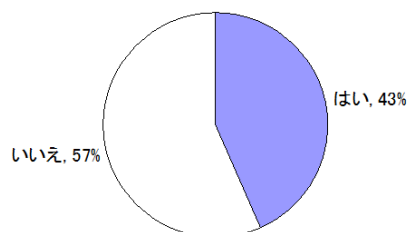
### 1) 調査の概要

- ①調査期間：2012年4月下旬～5月中旬
- ②調査対象：モンゴル・日本人材開発センター（以下、日本センター）が実施している「中小企業経営診断・経営コース」の修了企業（1～10期生）や日本センター主催のビジネスコース受講企業
- ③有効回答数：206件
- ④実施方法：日本センターから対象者企業へのアンケート用紙の送付及びセミナー会場にてアンケート用紙の配布
- ⑤アンケートの質問概要：
  - ア. 活動状況
  - イ. 企業が直面している経営課題
  - ウ. 外資企業との連携について

### 2) 調査の結果

- ①図表 3.2.9 に示す通り、既に外資と提携している企業の割合は 43%となっている。

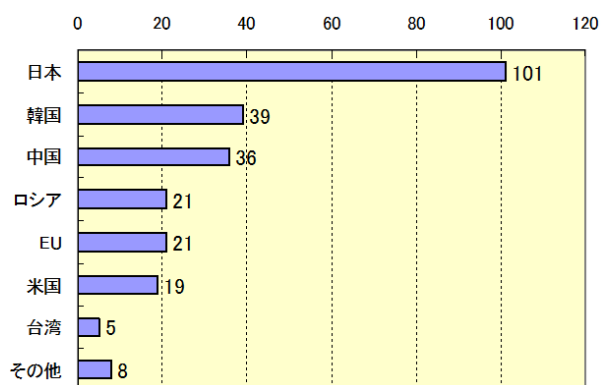
図表 3.2.9 外資と提携している企業の割合



(出典：JICA 調査団)

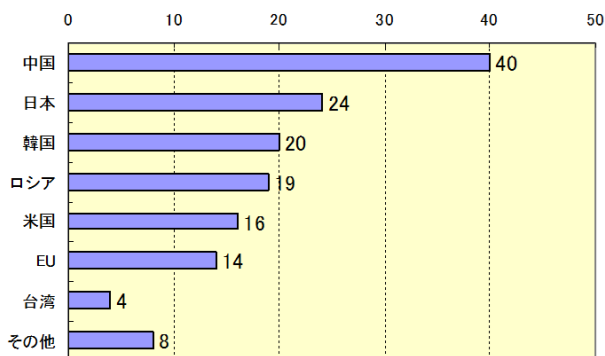
- ②日本センター修了生へのアンケート調査のため、日本的経営や品質管理等日本企業への関心が高いため、他国と比べて日本との提携を希望する企業が非常に多い(図表 3.2.10 参照)。しかしながら、実際には図表 3.2.11 に示す通り、中国と連携している企業が圧倒している。

図表 3.2.10 提携を希望する相手国（複数回答可）



(出典：JICA 調査団)

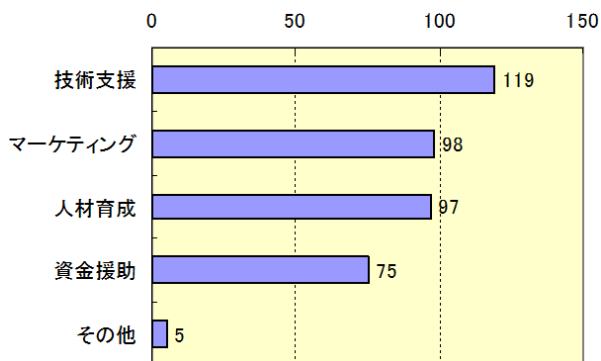
図表 3.2.11 提携企業の国籍（複数回答可）



(出典：JICA 調査団)

③希望する提携内容は、図表 3.2.12 の通り、技術支援やマーケティング、人材育成の分野となっている。

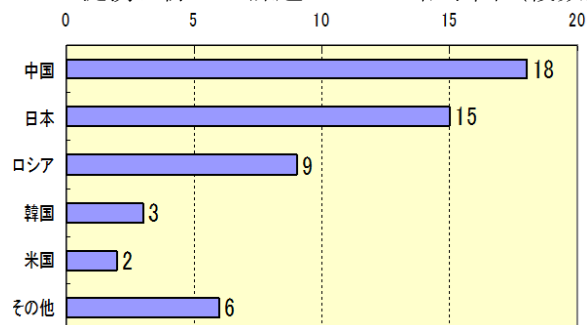
図表 3.2.12 希望する提携の内容（複数回答可）



(出典：JICA 調査団)

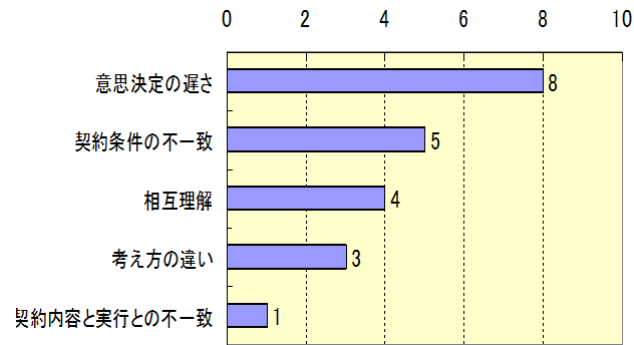
④提携に際して課題が生じた相手国として、中国の次に日本が挙げられている（図表 3.2.13 参照）。その理由として、「意思決定の遅さ」や「契約条件の不一致」等、提携前の交渉時に課題が生じるが挙げられ、モンゴル企業は日本企業の迅速で柔軟な対応を求めていることが窺える（図表 3.2.14 参照）。

図表 3.2.13 提携に際して課題が生じた相手国（複数回答可）



(出典：JICA 調査団)

図表 3.2.14 日本企業との提携に際して生じた課題（複数回答可）



（出典：JICA 調査団）

### 3.3. 日本企業のビジネスチャンス

#### 3.3.1. 日本企業の進出可能性がある有望分野

現在のモンゴルは、日本経済が急成長を始める頃に近い状況である。インフラの整備が進んでおらず、住宅や公共運輸機関も不足している。このような状況で、今後、経済が急拡大するため、様々な分野で日本企業が進出するチャンスがある。特に技術、資本、人材、情報が不足しているため、経営管理や人材管理、品質管理、マーケティング、ファイナンス、ロジスティクスなど企業活動のあらゆる領域で改善のニーズがある。

具体的には以下のようなビジネス機会を背景に、日本企業にとっての有望分野が考えられる。

- ①モンゴル経済は今後、右肩上がり高度成長に突入し、高度成長期に差し掛かりつつある。投資収益率は現在の日本よりもはるかに高く、日本で成熟した産業がモンゴルではこれからの産業になっている。
- ②モンゴル市場は小さいが、今後内需が急速に拡大するため、輸入代替産業などの内需産業に機会がある。例えば建設素材、建材、食品加工、皮革、レストラン、IT、流通等である。
- ③鉱山開発が活発であり、鉱山開発関係の建機、トラック、及び鉱山関係サプライ品の供給等が活況を呈している。
- ④海外市場の情報が多く、特徴ある地場製品のプロデュース能力が不足しているため、日本の技術指導やデザイン力をもって日本への輸出を促すことも可能である。
- ⑤大気汚染、廃水処理、ごみ処理等を始めとした多くの環境問題を抱えているため、適切なアプローチを踏めば日本の進んだ環境技術を導入する余地は大きい。
- ⑦モンゴルでは多くのインフラプロジェクトが計画ないし実施に移されているため、PPP制度の活用も検討する余地がある。
- ⑧多数の重工業プラントが計画されているが、技術、金融、販路等について、日本の商社のオーガナイザー機能の発揮が期待される。プラント輸出を支援する日本政府機関の支援が必要であり、様々な F/S 支援制度の活用が考えられる。

以上を元に日本企業が進出可能な有望分野を図表 3.3.1 に整理する。

図表 3.3.1 日本企業が進出可能な有望分野

業 種	日本企業が進出可能な有望分野と背景
農業・ 牧畜業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 寒冷地農耕技術指導と農耕機械及び関連資機材の販売</li> <li>■ 品質保持のための技術指導及び資材・機械設備販売</li> <li>■ 保冷車等の特殊車両と効率的ロジスティックス機能を持ったロジスティックス企業の進出</li> <li>■ 野菜・果物工場の建設や運営</li> <li>■ 肥育施設及び屠殺を含む加工工場</li> <li>■ 設備機械のアッセンブラーも考慮した工場設計</li> <li>■ 肥育、配合計画、加工技術と製品化指導</li> <li>■ 包装機材及び包装資材</li> <li>■ 馬肉（生）輸出</li> <li>■ 羊肉加工品の輸入、バイオ・医療用血液輸入</li> <li>■ 皮、毛その他の各部位の有効利用と販売まで一貫加工ができる工場設計・運営</li> </ul>
食 品 加 工 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 食肉加工技術支援や施設の提供を通じた現地生産及び販売</li> <li>■ ハム・ソーセージの日本市場への開発輸出：日本企業の OEM、輸入販売業</li> <li>■ 包装機材及び包装資材の輸出</li> <li>■ 高級燻製畜肉の輸出</li> <li>■ 乳製品開発支援、特に新鮮な牛乳を利用した幅広い乳製品開発支援</li> <li>■ 乳牛肥育から新鮮な牛乳の製造、またこれを原料とした新たな食品産業</li> <li>■ 搾乳機器、チルド物流車両、保存施設等のハード及びソフトを含めたパッケージ型機械・設備販売</li> <li>■ ブルーベリー、チャチャルガン等豊富な国産果樹のジュース、その他の飲料、加工食品の開発支援または技術提携</li> <li>■ 食品加工機械の輸出（中古品機械も含む）</li> <li>■ 包装機械及び包装資材の輸出</li> <li>■ パッケージのデザイン</li> <li>■ 菓子・パン・ケーキ等のシェフ養成学校</li> <li>■ 菓子・パン・ケーキ・デザート等の商品開発支援</li> </ul>
鉱工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鉱山開発に伴う鉄道インフラ建設</li> <li>■ 鉱山開発の急進展に伴う鉱山開発周辺事業（建設機械、鉱山機械の輸出、トラック等輸送手段の輸出、鉄道建設関連設備、鉄道オペレーション機器）</li> <li>■ 鉱山会社の需要に対応する事業（鉱山会社用のプラント、土木設備、工作物、パイプ、空調、安全機器、手袋、衣服、マスク、食料品、ケータリング、アパート建設、ホテル等の供給）</li> </ul>
エ ネ ル ギ ー 産 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 火力発電所の建設、ボイラーや発電機、その他電力機器の提供</li> <li>■ 石油製品の精製</li> <li>■ 石油精製、貯蔵タンク、石油探査など関連分野での内需用 LPG、LNG 事業</li> <li>■ 未発達なガス事業などへの PPP 参入</li> <li>■ ウラニウム資源の確保及び原子力産業</li> <li>■ 再生エネルギーでの市場開拓</li> </ul>
重工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本の高度技術を活用した内需用のプラント（様々なF/S支援制度の積極的な利用）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■付加価値戦略の推進（商社によるオーガナイズ機能が重要）</li> <li>■特にサインシャンド重工業団地において、PPP等を活用した各種プラント育成</li> </ul>
軽工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■カシミヤ用山羊の品種改良及び良質カシミヤの生産性向上に資するバイオ技術を含めた技術支援または技術提携</li> <li>■カシミヤ製品の開発や3国間取引による欧米への輸出</li> <li>■カシミヤ半製品の輸入及び国内販売</li> <li>■モンゴルの住宅サイズに合った中級・高級家具、キッチン製品等の輸入</li> <li>■中級・高級の洋食器類の輸入（現状は低品質・低価格の中国製品が普及）</li> <li>■カシミヤ製のインテリア（例：カーテン等）の製造販売、輸出</li> </ul>
建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■膨大なインフラ需要を満たす各種建築事業</li> <li>■建築関連の素材産業（セメント、コンクリート、鉄筋、ガラス、ブロック、レンガ、砂利など）</li> <li>■建築機械、足場などのリース産業</li> <li>■ツーバイフォー（2×4）等の木造住宅建設及び木材加工工場の建設・運営</li> <li>■ソーラーパネル、蓄電池、床暖房、水のリサイクルなどを備えた、ハイテク省エネ住宅の建設</li> <li>■建築デザイン、設計業務</li> <li>■工程管理、現場監督、経営アドバイザー等の役務提供</li> <li>■造園業、環境整備産業</li> <li>■建設業技術者育成の専門学校、訓練学校の建設・運営</li> </ul>
不動産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■不動産鑑定または不動産流通事業</li> <li>■不動産デベロッパーによる街づくり</li> <li>■高級マンションの建設・販売</li> <li>■日本人向けビジネスホテルや高級ホテルの建設・運営</li> <li>■スマートシティ関連事業</li> </ul>
環境産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ごみ焼却炉、ごみリサイクルなどのごみ関連事業</li> <li>■大気汚染対策技術や砂漠化防止技術を始めとした環境浄化事業</li> <li>■古タイヤからの油化装置、炭化装置の製造販売</li> <li>■水処理などの水浄化事業</li> </ul>
薬剤・病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新病院建設または病院拡張等に対する投資</li> <li>■クリニック、総合病院の医療事業</li> <li>■検査機器・医療器材（中古機器も含む）や空気清浄器、医療消耗品等の医療事業</li> <li>■投資、医療技術、医療サービスを含む包括的な事業提携</li> <li>■医療活動等のメンテナンス事業</li> <li>■漢方薬製造企業</li> </ul>
ロジスティクス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本型サービスを活用したローコスト・オペレーションの物流</li> <li>■チルド物流及び保冷物流等の専門物流</li> <li>■農産物・加工食品を長期保存できる倉庫業</li> <li>■鉱山地区、大型建設プロジェクトへのケータリング専門物流</li> <li>■フォークリフト等搬送機器や自動ピッキング倉庫を備えた在庫管理</li> <li>■鉱物資源輸送用特殊大型自動車の輸出</li> </ul>
流通・小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■商品調達のネットワークや効率的な物流システム、経営ノウハウを備えた中小卸売業</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本や東南アジアほか海外の商品の輸出版売</li> <li>■一定の経営ノウハウを確立している独立型中小コンビニエンスストア</li> <li>■POS用機器及びシステムの輸出版売</li> </ul>
金融業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■M&amp;A や業務提携</li> <li>■高額製品や機器のリース業</li> <li>■信用調査業務</li> <li>■ノンバンクへの投資</li> <li>■リーズナブルな手数料の送金ビジネス（現行の一例：3万円送金で手数料が6,000～9,000円ほど）</li> <li>■証券業及び資本市場関連分野におけるビジネス</li> <li>■証券市場を通じたモンゴルの成長企業への投資</li> <li>■モンゴル企業、日系進出企業に対する資金調達関連のコンサルティング</li> </ul>
観光業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本人富裕層を狙った観光プラン</li> <li>■投資視察と組み合わせたパッケージ観光</li> <li>■モンゴル人向けの訪日医療診断・観光のパッケージサービス</li> <li>■主要観光地での日本人用ホテル建設投資</li> <li>■温泉リゾートの建設・投資</li> <li>■ホテルテナントとして飲食店や衣料品店、美容院、その他のサービス業の展開</li> </ul>
情報通信業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■Webアプリケーションや業務システムのオフショア開発</li> <li>■プログラミングやプロジェクトマネジメントに関する体系的な教育と認定制度ならびに人材紹介</li> <li>■日本製品に特化したWebショッピングモール</li> </ul>
教育産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>■エンジニア、理美容、接客、調理などに関する人格面も含めたプロフェッショナル養成教育</li> <li>■小学校～高校の補習や受験対策向けの学習用Webアプリケーション</li> <li>■アジア各国でも展開されている日本式基礎教育を施す学習塾</li> <li>■日本ならではの右脳教育や情操教育を始めとした英才教育</li> </ul>



### 3.3.2. BOP を活用したビジネスチャンス

モンゴルの人口約 280 万人のうち、約 30%が BOP 層と言われる。その主な対象は、草原地区に住む遊牧民族や、UB 市郊外のゲル地域に住む人々となる。BOP ビジネスのポテンシャルを考慮した場合、可能性が高いのは次のような点に着目したビジネスが考えられる。

■地方の遊牧民や農家を対象とした起業支援

■マイクロファイナンスと六次産業（\*）化支援

（六次産業\*：農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営の形態）

#### （1）ビジネスチャンスの背景

市場経済化及びこれに伴う土地、家畜の私有化、流通の自由化などの流れの中で、モンゴルの自然と資源を有効に利用した伝統的な農業・牧畜業だけでなく、これらの一次産品を原料にした農畜産物の加工業などに従事する遊牧民や農家が増えている。また、日用雑貨や工芸品、伝統的衣装を含めた実用衣料の製造、販売に従事する人々の増加が顕著である。

その中心は遊牧民と言われる生業的家族経営であるが、近年では小規模ながら起業家精神を発揮して農牧業会社として、企業化を目指す経営者も増えつつある。

しかしながらこのような経営主体は次のような共通課題を抱えている。

##### ①資金難に起因する悪循環

一定の在庫を持ち、生産量の確保や収入増を図りたいが手元運転資金がない。

または、最低限の機械・設備の購入のための借入先がない、もしくは多大な利息（約 25%以上）や担保を要求される。

##### ②品質・技術レベルの低さ

伝統的な製造技術と原始的な器具等で製造しているため、総じて品質レベルは低く、付加価値の高い製品ができず、市場で相応の価格で販売することができない。

##### ③販売・情報収集ネットワークの不足

従来、地方に点在する遊牧民や農家は、大きなマーケットである UB や地方都市との間に直接的な販売ネットワークを有していない。計画経済時代は、ネグテル（農牧業協同組合）が市場と生産者との中間流通を担っていたが、91 年の民営化法の公布後、数年で解体されたため、生産者は市場とのチャンネルを失い、市場のニーズを把握することもできない。

#### （2）モンゴルにおける BOP ビジネスの事例

（1）で述べたような課題を抱えながらも、果敢に BOP ビジネスに取り組んでいる組織を以下に紹介する。

- ・企業名：「BAT BOLOMJ」Co.,Ltd（以下 BAT BOLOMJ 社）
- ・創業：2008 年
- ・所在地：UB 市内
- ・経営理念：地方に住む貧しい人々、家族、零細企業が生産、製造した「自然のモノ」「農産物」「工芸品・雑貨」などを消費者に直接販売することを通してこれらの人々を支援する。
- ・取扱商品：乳製品、チャチャルガン、蜂蜜、岩塩、お茶、ハンディクラフト製品（フェルト製スリッパ、皮製靴、帽子、衣料品等）
- ・販売形態：当社の販売形態の特徴は、マルチマーケティング（Multi Level Marketing、

MLM) による消費者の組織化、ネットワーク化とミニコミ誌を兼ねたカタログをツールにして販売を伸ばしている。

- ・活動状況：モンゴルの 21 県に支店をもち、各地の家族・零細企業約 8,000 人が生産・製造した物産を UB や地方都市にある「ザハ」(市場) へ卸したり、または直接消費者に販売する。

当社が組織化を狙う将来的な参加企業の目標は 150,000 社である。

- ・その他：女性経営者をトップとする従業員数 9 人の小規模流通業。  
当経営者の活動及び経営理念の実践は、モンゴル商工会議所でも「モンゴルで最も活躍している女性経営者」として知名度も高い。

### (3) BOP ビジネスの有望分野

(1) にあげた共通課題をビジネスチャンスととらえ、現地の既存組織と連携を図ることで BOP ビジネスに結びつけることが可能と思われる。

例えば、以下のようなコンセプトで、マイクロファイナンスなども活用した BAT BOLOMJ 社との提携なども考えられる。

BAT BOLOMJ 社の経営者は家族生産支援協会の理事長も兼ね、「家族生産支援基金」を設置しているため、同基金への出資を行うことで、マイクロファイナンス事業を運営する。単に起業、機器・設備類の購入支援のみでなくビジネスプランへのアドバイス、マーケティング支援、生産技術、商品開発、品質管理等に関するアドバイスを行うなどの提携ができる。これら幅広い支援活動を行うため、日本の NGO 組織との連携も視野に入れる。

#### 3.3.3. モンゴルでのビジネス成功事例

モンゴルでのビジネス成功事例として、業界シェア、国内認知度、売上成長率などの観点から以下の企業、組織を紹介する。

##### (1) モンゴル企業の例

- 1) Amtso Co., Ltd (惣菜・菓子・麺の製造)
- 2) Jur Ur Co., Ltd (ケーキ・パンの製造)
- 3) The Bull (外食)
- 4) DARKHAN NEKHII (皮革製品の製造・販売)
- 5) MUGEN LINK (IT、情報通信)
- 6) 新モンゴル学校 (私立学校)

##### (2) 本邦企業の例

- 1) INI (IT、情報通信)
- 2) SANKOU TECH MONGOLIA Co., Ltd. (アルミ部品の超精密加工)
- 3) Sakura Construction (建設)

##### (3) 第 3 国の企業の例

- 1) Ulaanbaatar Songdo Hospital (韓国：私立病院)
- 2) Siryak LLC (仏：チーズの製造販売)

##### (1) モンゴル企業の例

###### 1) Amtso Co., Ltd (惣菜・菓子・麺製造業)

###### ①概要

モンゴル人経営の企業で、バンシ (手作り餃子)、マントー (中華饅頭風のもの)、モンゴル伝統の麺の製造販売を行っている。特にバンシ、マントーは有名である。経営者は、国立

科学技術大学校在学時に研究を重ねて商品開発をし、卒業後に同社を設立した。コンパクトながら工場・事務所の衛生環境は良好である。

モンゴルでは最もおいしいパンシと言われ、品質保持に努力する特定小売店（大型店を含む）、レストラン、鉱山関連会社などの大手企業の社員食堂、直接買入に来る顧客のみに限定して販売を行っている。現状は生産が間に合わず、近い将来、新工場を建設する予定である。

## ②成功要因

起業理念である「自分が食べたい商品、飽きが来ない美味しさの追求と提供」を守り続けている。モノづくりの原点、自社のブランド力、お客様からの信頼を裏切らないという強い信念をもっており、品質を保持するために販売先を限定している。地方からわざわざ大量に買いに来るほど客からの支持を得ている。

## 2) Jur Ur Co., Ltd (ケーキ・パン製造業)

### ①概要

モンゴル人から「ケーキなら Jur Ur」と言われるほど、圧倒的な人気と売上を維持している。ケーキ製造の他にベーカリーショップ及びベーカリー工場を持つ。

「よりフレッシュなもの、より美味しいもの」をモットーに製造販売を行い、今日の地位を確保した。UB 以外の地方都市、特に最近需要が増加している鉱山地区に販路を拡大するなど、市場戦略にも積極的である。また、常に商品開発に努力し、変化する消費者ニーズに真摯に応える姿勢を持っている。但し、同社の目下の最大の脅威は、韓国系企業のウェンディ・ベーカリー社 (Wendy Bakery)、モン・ベーカリー社 (Mon Bakery) である。韓国系企業は日本企業をモデルとしているため、同社は日本企業との連携を通じて対策を講じることを希望している。

### ②成功要因

企業理念を実現するための強い執念と商品開発のための研究に力を入れている。また、そのための設備投資も惜しまない。マーケティング戦略が総じて強く、マネジメント力強化にも熱心である。

## 3) The Bull (外食)

### ①概要

日本でいえば“しゃぶしゃぶレストラン”である。既に UB 市内に 3 店舗を展開しており、平日の夕方及び週末・休日ともに長蛇の列ができる程にお客様から圧倒的な支持を得ている。日本の一流“しゃぶしゃぶ店”に見るように、極薄にスライスされ大皿にきれいに盛り付けられた牛肉、馬肉、羊肉、豚肉と、好みで選べる数種類の野菜、つけ汁の種類その他サイドメニューの量や種類の幅は大きい。若い人や人数が多い家族層にも手頃な価格設定となっており、一人当たり 15,000 トゥグルグ (10 ドル) 前後で十分である。店内の雰囲気やレイアウト、接客対応等、ハード、ソフト両面で顧客を十分に満足させている。

“ジンギスカン”は日本独自のものであるが、元々牛肉の鍋物はモンゴルでは伝統的なものであった。モンゴル人は厚くて硬い肉が好きだという常識を破り、これを、まさに日本の“しゃぶしゃぶ” (Hot Pot) スタイルで、薄く柔らかい肉を提供したことは、モンゴル人の食生活の変化を一步先取りした新しいモデルともいえる。

同社は各種レストラン、飲食店、クラブ等を傘下に持つブルーモングループ (Blue Mon Group) の 1 社として 5 年前に 4 人で起業した。業態としての革新性と独自性があり、ライ

バルが存在しないという意味では突出している。また、グループ内でも独自の経営スタイルを展開しており、国内での多店舗展開、将来的にはソ連、中国、韓国等の周辺国、さらに日本や米国への進出も視野に入れた戦略を目論んでいる。尚、同社は、焼肉レストランとして有名なバッファロ（BUFFALO）、ボストンクラブ（Boston Club）、TSE パブ（TSE Pub）その他の飲食業を経営する“San & Byam Co.,Ltd”と兄弟会社である。

### ②成功要因

モンゴルの一般大衆には殆ど経験のない“しゃぶしゃぶ”形式の鍋であり、新しい食感、味付け、材料や調味料等を組み合わせて食事を楽しめるシステム等を採用し、新たなビジネスモデルを確立するとともに、革新的食文化をモンゴルの消費者に提供した。このような店舗づくり、調理方法、さらに接客サービスなどのソフト面でも完成度を高めるために日本人専門家の指導を仰いだ。

「新鮮かつ高品質な材料、食事を楽しめる店舗デザイン、レイアウト、接客サービスで美味しい料理をリーズナブルな価格で提供する」という理念で、ビジネスモデルを確立した。前例がなく、課題も多いビジネスモデルで収益性を確保するため、高回転率を目標とした経営手法に基軸を置いている。また、新鮮かつ美味しい肉を顧客に提供するため、良質の牛肉や馬肉等を自らの足で探し、直接仕入れるという原料調達方法を重視し、実践している。

従業員はモンゴルのパイオニアとしての自覚と自信を持っており、給料等処遇は利益分配方式の労務対策をとっているため、従業員のモチベーションが高く維持されている。

### ③経営上の問題点

現在の従業員の約 6 割は創業以来の従業員である。しかし、最近では採用後直ぐに会社を辞める人も多く、従業員教育と定着率アップ、サービス力の維持が問題となっている。

<The Bull の店内風景>



## 4) DARKHAN NEKHII 社（皮革製品の製造・販売）

### ①概要

革コートのネヒー（NEKHII）ブランドは、品質が良くデザインも優れているため、多くのモンゴル人に知られている。

国営企業からの民営化後にはうまく行かないケースが多いと言われるが、同社も 1993 年にダルハンの国営企業からの民営化後には、大きな困難が待ち構えていた。1,000 人の従業員、年間 70 万枚の革コート生産工場が、1999 年には 160 人近くにまで激減した。この間、経営者が 10 人近くも変わり、大幅な債務を抱え、1997 年には一時的に操業停止にまで追い込まれていた。

この危機を立て直したのが、2000年に就任したバットサイハン社長（Mr. Batsaikhan）（2012年5月から会長）である。就任と同時に債権5か年計画をたて、2002年には債務を解消した。現在、従業員は500人迄に回復している。同社が立ち直った最大の要因は、現会長の経営手腕に負うところが大きい。

さらに同社は、将来の発展に向けて、現在次のような新たな挑戦を続けている。

ア．革コート以外の新製品への挑戦

- ・革靴
- ・車の革シート（トヨタ、ホンダ、日産車などの高級車向け）
- ・ソファ、床のシート等家具製品

イ．新たな良い製品を作るために原材料となる動物を実験的に飼育

- ・ロシアから輸入した羊
- ・中国から輸入したウサギ（コート等衣料用）、黒キツネ

## ②成功要因

従来なめしの技術が高いことが成功要因の一つではあるが、同社が経営危機から立ち直り、更に発展を続けている最大の要因は現会長が以下の方針を打ち出して着実に実行したことにある。

経営理念、経営方針を明確化し、「従業員が目指す4つの方向（2011年完成）」をわかりやすく作り上げて従業員へ浸透させ、社員を巻き込んでの会社運営を行った。“4つの方向”とは、Value（価値）、Mission（使命）、Slogan（モットー）、Customer（顧客）である。また、決算書の一つにして経理のオープン化も行っている。

さらに、イギリス人コンサルタントから「計画の重要性、経営理念を持つこと」等のアドバイスを、日本人専門家からはマネジメントのアドバイスを仰いだことも成功要因の一つである。

## 5) MUGEN LINK (IT、情報通信)

### ①概要

日本のディーエムソリューションズ株式会社との合弁（日本側は60%の出資）で、2007年12月に設立、従業員数は10人である。事業概要はWeb開発（HPやアプリケーション中心）、SEO（Search Engine Optimization：検索エンジン最適化）対策等を行っている。

日本の親会社からのオフショア開発からスタートし、現在は国内企業や行政のWeb開発にシフトである。最近は、MCS企業グループの全てのWebシステム案件や旅行会社10社からの案件を受託していて、将来、国内市場が安定拡大し、日本からのオフショア事業を目指す。

モンゴルで事業を始めた経緯は、同社代表のバヤル氏が1995年に亜細亜大学経済学部へ留学し博士課程を修了後、上述した日本企業へ就職、3年間の勤務の後に2007年に帰国後会社を設立した。

### ②成功要因

新規参入が激しく開発の容易なWebデザインなどの領域では勝負せず、経験とシステム投資が必要なアプリケーション開発を主軸とし、日本企業に関わり日本語を話せるスタッフも数名抱えていることで、クライアントに安心・信頼感を与えている。

モンゴルには優秀なプログラマー人材が少ないため、日本の親会社から年に数回講師を招き1週間ほどのIT研修を実施している。また、特に政府系プロジェクトでは日本の専門家SE（Systems Engineer：システムエンジニア）と共同プロジェクトを行っている。

## 6) 新モンゴル学校 (私立校)

### ①概要

2000年に設立、日本式教育を取り入れ、小学校から高校までの12年間の一貫校で、生徒数は814名(2010年時点)である。

世界中に認められる人材の育成することを経営理念とし日本式教育を取り入れている。創始者でもある現校長のガルバドラッハ氏は、かつて日本政府の国費留学生として、山形大学で修士課程を、さらに東北大学で教育学の博士課程を修了した。その際に日本の優れた教育に関心を持ったことから日本式教育を取り入れた。

実績として、9年間で199名が東大、京大、一橋大、阪大、東北大などを始めとする日本の大学へ留学しており、年々受験者数は増え、日本式教育の人気の高いことが窺える。

当校の特徴としては以下が挙げられる。

- ・日本の高等学校をモデルにしたカリキュラム、学風で「挨拶」の習慣、制服、給食等を導入している。また、モンゴル初の入学試験制度導入や理系科目、各基礎科目に重点を置いた学習指導を行っている。
- ・学習内容は、国内標準より30%充実させていること、第2外国語として英語と日本語を習う他、10種以上の選択教科を用意している。
- ・学習施設、特別教室棟の完備し、地方から通う教職員及び生徒向けの寮「セミナーハウス」の設置している。
- ・日本から講師を招いての日本語「サマースクール」の実施や日本での教員研修プログラム(毎年3ヶ月間)、日本留学の入試、諸手続きを包括的にサポートしている。

### ②成功要因

根強い人気がある日本留学のニーズに応えるため、入試対策や諸手続きを包括的にサポートし、日本との連携を深めている。

学校カリキュラムの面においても、日本の学校のシラバスを参考にし理系科目や基礎科目に重点を置き、教師は独学で日本語を勉強しながら日本の専門教科書を活用している。日本の文化でもある5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の導入により生徒の意識が変え、特に挨拶等を徹底させることにより学力にも良い影響を及ぼしている。

## (2) 本邦企業の例

### 1) INI (IT、情報通信)

#### ①概要

富士インフォックス・ネット(株)の100%子会社で、2005年7月に設立され、従業員数は30人である。経営理念は、グローバルIT人材の育成、モンゴルのIT分野の発展を牽引、市場ニーズに合ったソフトウェア開発、高品質のソリューションの提供等である。事業概要は、業務システムコンサルティング、ビジネスコンサルティング、日モノのビジネスマッチング等を行っている。

日本市場では、オフショア開発を2011年から本格的にスタートしており、現在15人ほどの若手スタッフが大手企業のシステム導入のために6~8カ月間訪日している。

又、モンゴル市場においては、FIFTAの業務システム、モンゴル銀行と市中銀行間の連携システムやホームページ作成、インフォメーションセンターに設置するタッチパネルの導入等の実績がある。

モンゴルで事業を始めた経緯は、1997年に採用したモンゴル人エンジニアが非常に優秀だったため、モンゴル国立科学技術大学などとの交流を通じてモンゴルから技術者を日本へ招

聘したことがきっかけである。また、モンゴル政府が IT を産業化するために IT 立国政策を実行中であることや、モンゴル人技術者のプログラミング能力が高いこと、人件費が中国と比較して 1/3～2/3 である事などがモンゴル進出を後押ししている。

## ②成功要因

日本市場では、小さなプログラミングの案件にしっかり取り組んだことでレベルを認められ、信頼関係を築くのに地道な努力を続け、日本を始め海外のクライアント企業から信頼を得、徐々に大きな案件につなげている。

モンゴル市場では、設立当初は知名度もなく営業が大変だったが、モンゴル人の知人などを通じて徐々に新規顧客を開拓した。要件定義から仕様設計、マニュアル等のドキュメント作成に至る一連の日本的な丁寧なプロジェクト管理がモンゴル企業に認められている。

## 2) SANKOU TECH MONGOLIA Co., Ltd. (部品加工)

### ①概要

埼玉県本庄市に本社をおく賛光精機㈱が 100%出資している現地法人である。2005 年 2 月に資本金 1.5 万ドル、従業員 5 人でスタートし、現在はマシニングセンター（以下 MC 機）7 台、従業員 22 名となっている。MC 機による空圧機器部品や半導体製造装置部品等のアルミニウム部材の超精密の切削加工を実施している。

アルミニウム材等の材料は日本から持ち込み、又、加工後の製品は全て日本の賛光精機㈱に納入している。アルミニウム材料は船便を使い、また製品は船便を基本とするも納期の関係から航空便を使うケースが増えている。

社長を始め従業員は全てモンゴル人であり、日本人はアドバイザーとして必要に応じて滞在している。社長以下数名はモンゴル国立科学技術大学（以下科技大）機械学部を卒業し、研修生派遣事業を活用して日本の本社工場で 3～4 年間の実践的な教育を受けている。彼らは高度なソフト制作を含む加工技術等を習得してモンゴルに帰国している。又、日本語をマスターすると同時に、MC 機を操作できる高度なノウハウを習得している。

モンゴルには、機械金属加工等の製造業が少ない。更に、超精密加工が出来る機械もないために、先端的な機械設備を使いこなせる技術者が育っていない。同社の進出が、機械加工を行うメンテナンス部門を持つ企業等へ大きなインパクトを与えたり、科技大等教育分野にも好影響を及ぼしている。モンゴル政府としても、このような企業の進出は大いに歓迎されるものであり、今後も日本から「ものづくり」の基礎部門である機械金属加工の製造業が出てくることを望んでいる。当社はその先駆けとなっている。

尚、賛光精機㈱は、SANKOU TECH.の他に SANKOU SOLAR MONGOLIA Co. Ltd. の工場を設立し、太陽光パネルの生産を開始した。この製品は主として日本及びロシアや EU へ輸出し、Made in Mongolia の先駆けとなる製品を目指している。

### ②成功要因

社長を始め中心となる人材は、日本での数年間に及ぶ実践的な教育を受け、高度な技術を習得している。日本語をマスターするとともに日本的経営を身につけているために、企業活動を進める上で本社との違和感はない。

日本の高度な機械設備を持ち込み、材料もすべて日本製であるために、高い品質が確保されている。賛光精機㈱の他国の外注工場と遜色ない品質、納期を継続し、安価な原価を確保している。

同社は、ものづくりの基礎を担い、また先端技術を持った製造業であるために、モンゴル

にとって大変重要な分野である。モンゴルでは、1990年までの社会主義時代はコメコンの一部に組み込まれていたためにこの分野の産業は殆ど育っていない。国内にはマーケットが存在しないため、製品を日本への輸出に位置付けたことが成功の要因である。

今後モンゴルが多方面の産業分野を確立し、雇用の機会を増やしていくために大変重要な産業である。国内に競合する企業はなく、むしろ他の企業を始め大学等に対して好影響を与えるとして歓迎されている。従って、政府も同社に対して便宜を図る場面も見られる。

### 3) Sakura Construction (建設)

#### ①概要

会社設立は2010年、資本金は10万ドル(旭葉工務店60%、Chinzorig個人40%)、従業員は27名である。業務内容は、高級戸建物件(1棟100万ドルクラスの物件)の建築販売である。粗利益は計画目標の50%までは届いていないが、現状、30~40%の間の見込みである。今後は、2013年から中規模クラスのアパートの建築販売を計画している。

#### ②成功要因

モンゴル人パートナーの選定が良かったこと。当パートナーは、横浜国立大学を卒業し日本語が堪能であることに加え、道路の施工管理業務について既存事業の経験が豊富で、本事業の立ち上げが円滑に進んだ。

### (3) 外資企業の例

#### 1) Ulaanbaatar Songdo Hospital (韓国系私立病院)

##### ①概要

モンゴルの病院はどこも多く多くの患者で溢れている。国立病院とても例外ではない。検査機器は古く、圧倒的に数が足りない。薬品も種類が少なく、難しい病気に対応出来ない。国立第一病院の建物や設備は、80年前にチェコスロバキアの援助で設立されたもので、その後のメンテナンスも十分には行き届いていない。モンゴル人は、医療の遅れを承知の上で不安を抱いたまま、これらの病院を利用せざるを得ない。

その間隙をついて韓国のソングド(Songdo)病院がモンゴルの人々に先進医療を提供することを目的に、2007年12月にUBの中心に近代設備を備えた病院を建設した。韓国ソングド病院は、1981年にソウルに小さなクリニックとしてスタートし、現在は韓国内に5つの病院を持つ有数のグループとなっている。

モンゴルソングド病院は、当初の目的を十分に果たし、且つ事業としても十分に収益を上げている状態でモンゴルの大企業グループであるMCSに売却した。但し、理事長は今でも韓国人が務めており、今までの経験を生かし全体のマネジメントは依然として韓国スタイルを踏襲している。

##### ②成功要因

モンゴルの医療レベルが低く、課題が多いことを事前の調査で十分に確認した上で、進出しており、近代的な設備と高い水準を持った医師の派遣で、モンゴル人の信頼を得ている。

韓国のソングドグループとの十分な連携がとられており、モンゴルソングド病院で対応が困難な患者を韓国へ送るシステムが確立されているために、モンゴル人に安心感を与えている。



## 2) Siryak LLC (仏：チーズの製造販売)

### ①概要

2006年、フランス人 Food Process Adviser の Mr.Le Goff がモンゴルを訪問した際に、ソーセージ、ハムを含め、西欧流の食品技術が十分浸透していないことに気づいた。また 2009年時点でも、牛乳が市販されていない状況であった中で、ヤクミルクの存在を知った。ヤクの乳は濃厚で、コレステロールが牛のチーズと比べてはるかに少ないので健康食品として希少価値があり、またヤクは高地のチベットとモンゴルにしか生息していない生き物である。

2010年に土地、機械等に40万ドルを投資し、モンゴル人と合弁で会社を設立した。従業員は運転手、販売員等を含め、8名である。2011年5月から生産を開始し、1,000Lの牛乳を使って8タイプのチーズを製造している。UB郊外のガチョールトに工場があり、チーズ以外にヨーグルト、クリーム、バター等も製造している。年産規模は年間7tで、UBの大手スーパーでの販売及び、ケンピンスキーホテルへも独占的に納入している。また同社社長は、ケンピンスキーホテルでパンとパティスリーの製法を教えている。

また、2013年からは100%ヤクミルクを使用する製品を作る予定で、香港、ロシア、西欧、日本等の市場も開拓していくとい意向がある。将来の計画としてはヤク100%のチーズ作りの他に、南ゴビでのゴートチーズの製造、ヤク肉の生産販売のための牧場にも投資も望んでいる。同社は早くも2012年度には利益が生まれる模様である。

モンゴルでは、同社社長を含め、チーズ作りの専門家と呼べる人は数名ほどしかいない。モンゴル伝統のチーズは沸騰させて作るもので、初めは柔らかいが、時間が経つと硬くなる。味は淡白で、豆腐に似ている。これが硬くなったのがアーロールと呼ばれるモンゴル伝統菓子である。

### ②成功要因

フランス技術のチーズ作りは、モンゴルで殆ど競合がない。さらにフランス人の社長が食品及び食品機械、ならびに食品技術に詳しい。100%のヤクミルクを使ったチーズは、希少性があり、かつオーガニック兼健康志向チーズとして、非常に差別化が図られている。

<Siryak 社の商品写真>



## 3.4. 日本企業がモンゴルに進出する上でのリスク及びボトルネック

モンゴルに進出する上ではリスクやボトルネックがあり、以下に挙げることに十分注意を払いながら、ビジネス活動を進めることが肝要である。

### (1) リスク

#### ①現地パートナーの選定について

100%独資で事業を起こす場合を除いて、現地パートナーが必要となる。信用調査機関がなく、

信頼出来る現地パートナーを見つけるには困難が伴う。相手方の財務諸表が提出されないケースもあり、信用性に乏しい場合もある。

このような状況から、現地パートナーの選定についてはいわゆる風評もしくは定性的な情報を取るしかなく、銀行も顧客情報を漏出しないことから、様々な機会を捉え、信頼に足る現地パートナーを見つけることが肝要である。

## ②企業の統治について

定款その他、企業の統治については十分検討し慎重に構成すべきである。そこを疎かにし相手任せにすると、悪意のあるパートナーに実権を取られてしまう場合がある。執行役員の権限が強く、過半数を取ったとしても安心はできない。

日本側が過半の資金を出す場合は、財務部門と資金の出し入れ、銀行印等を日本側にて管理する仕組みを構築しておく必要がある。

## ③契約等の文書化について

会社法による経営者の遵守事項等については、経営判断のプロセス及び、判断した結果を文書化する等、明確に管理する必要がある。

中小企業や個人企業の場合は、言葉の問題からモンゴルの制度が十分に理解できないという事情で、モンゴル人に全て任せてしまう場合には、契約内容等のチェックを行った上で任せる必要がある。会社統治関係その他、JV 契約等、弁護士を交えて交渉・確認した上で、文書で明確にしておくことを薦める。

## ④法の安定性について

ア. 法律は整備されているが、執行面で問題があるため、法の規定があっても遵守されないケースがある。法律よりも官の力が強く権限乱用が生じる等、特に官との間で問題が起こることがある。

イ. 法律の改定が頻繁に行われるため、法の安定性が阻害されるケースがある。大規模投資等、資金回収に長期間を要する投資は、その間、税制、免許、許認可関係等、投資の前提となった事項が事業家にとり不利な形で改定される可能性も否定出来ず、事業運営上のリスクにも成り得る。

## (2) ボトルネック

### ①労務管理

人材の流動性はかなり高い。従業員の働きがいと昇進の可能性を展望できるような仕組みを作る必要がある。又、従業員が反倫理的行為をすることもあり、警告や罰則等のルールを明確にしておくことも重要である。

### ②言葉の問題

日本の経営文化を理解しているモンゴル人は多くはないので、日本式経営等を伝えることが難しい。そのため、日本に長年滞在し日本人及び日本の事情を理解している、信頼の出来るモンゴル人をアシスタントに使う必要がある。

### ③資金繰りと債権回収

中堅クラスの経営者でも、資金繰りの記録もなく社長一人の考えだけでやっているケースが多く、お金が入るとすぐに使ってしまう。会社として計画的な資金繰りが出来ず、債権回収の

問題に繋がり、大きなビジネス障害の一つとなっている。このため、現在のモンゴルでのビジネスは現金売りが原則となっている。

#### ④政府の圧力

利益が出ている外国企業には、政府要人その他から圧力がかかる場合もあり、政治資金の供出を求められるなど、種々の嫌がらせが起きるケースもあると言われている。一旦要求等を受けるとその後も続くことがあるため、毅然とした対処が肝要である。

#### ⑤賄 賂

政府関係の規制が大きいこと、公務員の給与が比較的低いこと等もあり、権限そのものが利権化しているケースがある。モンゴルは市場経済になってまだ 20 年超であり、人とのつながりを中心にビジネスが動いている所がある。

#### ⑥インフラの未整備

日本企業による投資活動の際には、インフラの未整備が阻害事由となることが多い。特に、鉱山向け投資については大きな阻害事由となる。日本国等外国からの支援を受けて、モンゴル政府もインフラ整備を進めて行く意向を示しており、各種計画の立案及びその実施は始まりつつあるが、整備すべきインフラが沢山あり、これを整備するには多くの時間を要するため、進出企業がモンゴルにてビジネス展開を行う際にインフラの整備状況を確認する必要がある。

## 第Ⅱ部 モンゴルへの進出に必要な手引き

### 第4章 外国投資関連制度

#### 4.1. 外国投資政策

モンゴルにおける外国投資政策は経済開発省が管轄し、外国投資を受け入れる促進機関として、経済開発省の外国投資調整・登記局がある。市場経済化以降、資源開発を中心に外国投資が流入している中で、2006年に外国投資法が以下のように投資を抑制する方向へ改訂された。

第一に、外国投資優遇措置の削減（※）である。外国投資優遇はモンゴル企業へ不利であると捉えられ、モンゴル経済に対する外国投資の意義が過小評価された結果である。

第二に、戦略的重要鉱床にかかる権益の政府所有の拡大である。

第三は、2008年に施行された外国投資企業の資産規制で、外国投資企業の資産基準がこれまでの1万ドル以上から10万ドル以上に引き上げられた。外国投資企業の要件は外国資本による25%以上の出資が義務付けられているため、新設会社の場合は、少なくとも外国資本25,000ドル、モンゴル資本75,000ドルが必要ということになる。この措置は外国投資導入の促進及び創業支援、雇用支援の観点から賛否両論あるが、背景は、主として中国や韓国の企業を想定したものであり、小資本で創業し反社会的物資の輸入等が横行している状況を抑えるためである。

（※）外国投資優遇措置の削減について

2006年6月の法人所得税法改正により、以下の恩典が廃止された。

- ・発電、送電線、通信、道路、鉄道、エンジニアリング・建設、通信ネットワークへの外国投資は、10年間の免税及びその後5年間、税の半額措置。
- ・石油、石炭、金属、化学、機械、電機部門への外国投資、5年間の免税及びその後5年間の税の半額措置。
- ・その他分野では、生産額の50%以上を輸出する外国企業は、3年間の免税及びその後5年間の税の半額措置。

しかしながらモンゴルの外国資本政策は、開放路線であることには変わらない。国内資本と技術資源が不足しているため、外国資本をてこにする方針である。特にモンゴル外務省は、これまで以上に経済外交を強める政策を図っている。

中国、ロシアの両大国に挟まれているため、自国の安全保障上の理由からも第3隣国政策（The Third Neighbor Policy）を標榜しており、主に日本、韓国、米国等が対象である。特に、日本との間では経済連携協定の交渉入りに意欲的である。モンゴルは現在、どの国とも自由貿易協定（Free Trade Agreement、FTA）、経済連携協定（Economic Partnership Agreement、以下EPA）の締結実績はないが、日本とのEPA交渉を機にモンゴルの投資環境が改善することが期待されている。

2012年は、投資環境改善の年とされ、外国投資受け入れ促進のためのワンストップサービスや既存外国投資企業との情報交換の深化が行動目標にもなっている。また、戦略的投資法が2012年12月中旬に策定された。

#### 4.2. 外国投資法

##### （1）基本理念

モンゴルの外資導入政策は自由貿易を標榜したもので基本的にはリベラルである。モンゴル政府は1990年代の政治・経済体制の改革以来、経済の対外開放を進め、雇用創出、技術移転等を進めるために外国直接投資を促進する政策を進めている。

市場化経済の促進を目的として、1990年に外国投資法（1993、1998、2002、2008年に改正）が採択されたが、同法は外国投資を奨励し、モンゴルにおける外国投資家の権利及び財産を保護し、並びに外国投資に関する諸事項を規律したものである。

外国投資家は、法で禁止されたものを除き、すべての生産、サービス分野において、いかなる事業でも行うことができる。投資（有形・無形を問わず）の25%以上が外国資本による場合、外国投資とみなされ、100%外国資本も可能である。外国投資家は、国内投資家と同様に扱われる。また利益や配当、資産の売却代金の本国への送金は自由である。

モンゴル憲法は外国直接投資を保護しており、外国投資法はその他の補完的な法律・規則、及びモンゴルが遵守義務のある国際条約や協定（※）とともに、外国投資の国有化を禁止している。外国投資家の資本・資産を不当に収容することも禁止している。外国投資家は、資産と資本を所有、利用する権利について、国内投資家と同等の扱いを受けられる。

（※）モンゴルが関わる国際条約や協定

- ・ 1997年にWTO（World Trade Organization：世界貿易機関、以下WTO）に加盟。
- ・ 1996年に投資紛争解決にかかるワシントン条約を締結。
- ・ 1999年にソウル協約に参加。
- ・ 世界銀行グループの多数国間投資保証機関（Multilateral Investment Guarantee Agency、MIGA）に加盟。
- ・ 39か国と相互投資促進・保護条約を締結。
- ・ 30ヵ国前後の国と二重課税防止条約を締結。日本とは締結のための協議が継続中。

## （２）外国投資法の改正

2012年5月に、外国投資法の改正（Law of Mongolia on Regulation of Foreign Investment in Business Entities Operating in Sectors in of Strategic Importance）が国会を通過した。戦略的重要部門における外国企業投資を制限する目的である。詳細運用方針についてはまだ明確になっていないが（2012年10月現在）、要旨は以下の通りである。

- ①対象となる部門は鉱物資源、金融、メディア及び通信部門である。戦略的重要性の定義は、国民の基本的ニーズ、独立の維持、経済の健全な機能、国家収入の獲得、国家安全の観点から重要性を持つものとされている。議会がその都度、戦略的部門を決定することも謳われている（第5条）。
- ②戦略的重要部門に属する企業における外国投資家の株式保有は49%までとする。これを超える場合、投資額を含めて国会が審議する。
- ③戦略部門に属する企業の以下の取引については政府の許可が必要になる（第6条）。
  - ア. 1/3以上の株式を取得する場合
  - イ. 経営陣の全部または多数を任命する場合、留保条件なしに取締役会の多数を任命する場合
  - ウ. 経営判断における拒否権を規定する場合
  - エ. 経營業務の執行、または経営活動を実施する権利を規定する場合
  - オ. 国内外市場で買主または売主としての独占を創設する場合
  - カ. モンゴル産物の輸出製品にかかる価格設定等市場に影響を与える場合
  - キ. 他社や子会社等の第三者と契約をすることにより、当該企業の株式保有の希薄化が生じる場合

### (3) 外国投資法改正の背景

この改正が為された背景には、中国とモンゴルとの確執がある。南ゴビの石炭鉱山企業であるSGS社に対して、中国のチャルコ社（Chinalco）が60%の株式を購入することとなり、これにモンゴル政府が反発した形となっている。チャルコ社は、昨年TT鉱山を運営するモンゴル政府企業であるエルデネスMGL社との間で、原料炭の引き取りを決め、前渡金を支払った企業である。また、チャルコ社はモンゴルの石炭を初めとする鉱物資源の専門商社である香港のウィンズウェイ社に30%の出資もしている。

モンゴル政府は、中国企業が資源企業を買収し、結果的に重要鉱山を入手することに対して神経質になっている。モンゴル国家の安全保障にも大きな影響が生じることを危惧している。アメリカ企業による中国企業への石油権益の売却や、カナダ企業によるウラン権益の中国企業への売却の際も、モンゴル政府は直ちに反応した。以後、鉱工業権の売却に対するモンゴル政府の関与は強まり、また、原子力法の制定によってウラン開発に関わるモンゴル政府の管理体制が強化された。

今回の改正案は3年ほど前から準備されていたが、チャルコ社の巨額投資が早急な議会通過に繋がった。外国投資にリベラルな法制が、中国関係の影響でゆがめられているように映るが、日本の直接投資家という立場で将来の投資環境悪化を防ぐには、現在、交渉が続けられているEPAの中で、安定的、持続的な制度、環境が保全されるよう議論が尽くされることが重要である。

### 4.3. 外国投資調整・登記局（旧外国投資貿易庁（FIFTA））

2012年6月28日の総選挙以降、民主党主導の新政権下の機構改革により、FIFTAは廃止され、その機能は新設された経済開発省の外国投資調整・登録局に引き継がれている。従来は外国からの投資に関する事務手続きが主な業務であったが、今後は法案作成や投資に関する調整業務なども担うこととなり業務範囲は広がる。

便宜上、以下、FIFTAの名称で記述する。

FIFTAは外国投資促進機関であり、外国投資家の手続きはFIFTAを窓口を始められる。外国投資家がモンゴル法人を設立しようとする際には、まずFIFTAで外国投資家IDカードを受ける。外国投資の許可が下りたら、国家税務総局の登記所にて法人登記をする。

モンゴルの会社法によれば、会社には株式会社（open or joint stock company）と有限会社（closed or limited liability company）があり、会社設立時に必要な資本金は株式会社が10,000,000トゥグルグ、有限会社が100,000トゥグルグである（外国投資会社の必要資本金は2008年4月に10万ドル相当に引き上げされた）。また、駐在員事務所の設立に関しても、FIFTAに申請する。事務所の設立許可は当初3年間、その後は2年ずつの延長となる。

鉱工業や会社資本に対する投資に関しては、政府と安定協定（鉱工業の場合は投資協定）を締結することが可能である。これにより、10年、15年もしくは30年間、法人税等の直接税や輸入税の固定化が保証される。

#### (1) FIFTAの業務

FIFTAは主に以下の業務を行う。

- ①外国投資にかかる政策、立法を実施する。
- ②外国投資の増加を図る可能性を調査する。
- ③投資促進活動を組織する。
- ④投資家に適切な情報を提供する。
- ⑤外国投資家にプロジェクトの入札機会を与える。
- ⑥外国投資家に完全なワンストップサービスを提供する。

- ⑦外国投資統計にかかる情報を提供する。
- ⑧外国投資家または外国法人の支店の開設を承認または不承認する。
- ⑨外国投資家にかかる事業会社または外国法人の支店に対して、法で定められた権利を一時的または完全に停止する。

## (2) ワンストップサービス

FIFTA のワンストップサービスは、事業会社の設立を希望する投資家に対する支援を目的としており、投資家が全ての登録手続きをできるように国内ネットワークを提供する。主なサービスは以下のとおりである。

- ①登録事前サービス：投資家は、税、税関、労働及びその他の事業許可機関である主な政府当局代表から、専門的アドバイスと支援を受けることができる。
- ②登録サービス：投資家の申請に基づき、外国投資または駐在事務所の設立証明書を発行する。
- ③登録事後サービス：投資家の次のステップを容易にするため、及び経営存続のための支援を行う。設備資本の輸入支援、投資家の居住許可のための ID カードの発行、モンゴルへの数字査証の発行、官庁レベルで直面する問題への援助及び指導が含まれる。

## 4.4. 外国投資企業

### (1) 外国投資企業の定義

外国投資企業の定義は、モンゴルの立法に従って設立された企業であって、資本の 25 % 以上を外国投資家が有し、その資産額が 10 万ドル（またはトゥグルグで同等額）であるものをいう。

### (2) 外国投資の形態

外国投資家は、外国投資法（1993 年 5 月 10 日制定）第 6 条により、以下の形態で事業活動ができると定められている。

- ①全額外資の事業体の設立
- ②モンゴル投資家との合弁事業体の設立
- ③モンゴル企業への直接投資（株式その他証券の取得）
- ④自然資源の採掘権の取得及び加工
- ⑤マーケティング及びマネジメント契約の締結
- ⑥ファイナンシャル・リーシング及びフランチャイズを通じた投資

また、外国投資法では駐在員事務所の設立を認めており、特に最低資本の規制は設けられていない。駐在員事務所は、海外親会社の代理人という扱いになるため、すべての責任は親会社が負う。また駐在員事務所は独立の法主体ではないので、収入を伴う契約を他の企業と締結することはできない。

### (3) モンゴルの会社形態

モンゴルでは次のいずれかの形態をとる。

- ①有限会社（Limited Liability Company）：株式の譲渡制限あり。
- ②株式会社（Joint Stock Company）：株式の譲渡自由。

一般的に外国法人の持分規制はないが、以下の点については規制がかかる。

- ・戦略鉱物資源の開発関係で一定の政府の持ち分が要求される。
- ・鉱山業、銀行業、通信業等、基幹産業については外資持分 49% 以上の場合、政府の承認が必要（2012 年 5 月に議会を通過した外国投資法改正による）。

外国投資家がモンゴル企業に25%以上投資する場合は、外国投資企業として分類される。外国投資企業としては、最低資本金が10万ドルまたはトゥグルグで相当額が要求される。産業セクターに特有の要求事項として、特別ライセンスを取得するには、例えば、建設業ライセンス取得の場合、さらに高い最低資本金規制がある。

モンゴル事業税法（The Business Entities Tax Law of Mongolia (June 29, 2006)）によると、企業の財務に関して、負債自己資本比率が1:3を超える企業の場合、投資家への金利支払い控除に制限がある。

#### ① 有限会社 (Limited Liability Company)

外国投資による有限会社の設立は、主に民法 (Civil Code)、会社法 (Company Law)、外国投資法 (Foreign Investment Law) 及び The Law of Mongolia on the State Registration of Legal Entities (the Legal Entities Registration Law) により規制される。

主に以下の特徴がある。

- ・株主は株式の範囲でしか会社債務に責任を負わない。
- ・企業統治に関し取締役会を設けなくても良いため、外国投資家は比較的柔軟な経営権を与えられている。また最高権威は株主である。
- ・日常業務はいわゆる執行役員（取締役会の構成員ではない）によって遂行される。または平等に権限を有する執行機関（チェアマン及び他のメンバー）に日常業務を委託することもできる。
- ・法による義務付けはないが、取締役会、監査役等の設置も可能である。

#### ② 株式会社 (Joint Stock Company)

株式会社には公開会社と非公開会社との二つのタイプがある。公開会社は MSE に上場登録されている会社である。非公開会社は、証券預託機構に登録されているが、株式の売買は MSE 外で取引される。上場した後に基準を満たせず、公開取引が機能しなくなる会社のケースを想定したものと思われる。

すべての株式会社は有限会社よりも詳細な会社の統治機構が定められる。取締役会の設置は必須事項であり、取締役会構成員は9人以上と義務付けられ、1/3は社外取締役でなければならない。この基準を満たしていない場合、取締役会はその権限を行使できない。

### 4.5. 投資申請手続き（会社設立等）

#### (1) 外国投資企業設立の流れ

外国投資企業が企業を設立する際の手続きは図表 4.5.1 の通りである。



図表 4.5.1 外国投資企業設立のステップ

	所要日数	費用
税務局に申請書（会社名等明記）を提出し、 チェック後暫定口座開設のためのカードを FIFTA から受領	1 日	1.5 ドル
銀行にて 10 万ドル以上を支払い 口座を開設	1 日	
公証人に定款等の認証を受ける	1 日	100 ドル
FIFTA へ登録書類を提出	10 営業日	20 ドル
FIFTA から外国投資 ID カードを受領	1 日	印紙代 18 ドル
国家登録局へ登録書類を提出	10 営業日	
国家登録局から会社設立許可書を受領	2 日	1.5 ドル
拠点元の税務局へ登録	1 日	2.5 ドル
社会保証庁にて社会保証番号の登録	1 日	60 ドル
社印（代表、経理用）の作成		

（出典：Creative Solutions Co.Ltd、世界銀行、2012）

#### <FIFTA へ提出する書類>

- ア. 申請レター
- イ. 投資家の紹介状
  - ・ 個人の場合：パスポートのコピーと規定様式
  - ・ 法人の場合：認証書のコピーと企業概要
- ウ. 企業名の承認証
- エ. 銀行口座証明書
- オ. 企業設立に関する定款及び同意書（相互の同意書）
  - ・ 企業の構成員が 1 人の場合：定款のみ
  - ・ 企業の構成員が 2 人以上の場合：定款及び同意書
  - ・ いずれもモンゴル語と他言語（自由選択）で作成し、公証人に認定された上で 4 部ずつのコピーを用意
  - ・ 資本金は 10 万ドル以上
- カ. 企業の住所証明書（オフィスを賃貸する場合は賃貸契約書）
- キ. 事業計画

#### <外国投資家IDカード（Foreign Investor ID Card）の発行>

FIFTAは、外国投資家やマネジャー層の居住許可及びマルチビザを取得するために必要となる外国投資家IDカードを発行する。この申請には以下が必要である。

- ア. マルチエントリーブイザ及び居住許可申請のためのオフィシャルレター
- イ. 投資家のパスポートコピー
- ウ. 所定の申請書
- エ. 外国投資企業証明書のコピー及び国家登録庁からの証明書コピー（両面）

#### (2) 外国投資企業設立に関わる申請書類

投資形態別の申請書類は以下の通りである。

##### ①J/V 企業の設立にかかる申請書類

- ア. 双方会社の定款
- イ. 双方会社の協定
- ウ. 投資企業の免許のコピー
- エ. 双方会社の投資家申請書（所定様式）
- オ. J/V 企業を設立することに関する各会社の取締役会の決定事項
- カ. 各企業の取締役会議事録
- キ. 投資家情報（国家登録免許ナンバーを含む）及び UB-03 様式による持株比率
- ク. J/V 協定書及び J/V 企業の定款

##### ②単独企業の設立にかかる申請書類

- ア. 投資企業の定款
- イ. 投資企業の免許のコピー
- ウ. 投資家申請書（所定様式）
- エ. 会社新設にかかる取締役会の決定事項（2 通）
- オ. 取締役会議事録
- カ. 投資家情報（国家登録免許ナンバーを含む）及び UB-03 様式による持株比率
- キ. 会社定款

③支店開設にかかる申請書類

- ア. 国家登録局宛の公式書簡
- イ. 支店新設にかかる設立者の決定事項（2通）
- ウ. 支店の従業員任命にかかる設立者の決定事項（2通）
- エ. 税金証明書
- オ. 申請書
- カ. 銀行から国家登録局への送金代（1ドル）
- キ. 代表者及び設立者のパスポートコピー（各人2通）
- ク. 支店にかかる定款

④駐在員事務所の設立

外国企業、銀行、その他営利組織は駐在員事務所を開設できる。ただし役務提供による対価を得ることはできない。FIFTA からの設立許可は3年間、以後2年間ごとの延長が可能である。申請には以下を揃える。

- ア. 申請書（駐在員事務所設立の目的、モンゴル企業との事業契約及び協力の範囲、業務展開の意思及びその他の事項）
- イ. 申請外国企業の概要、定款
- ウ. 銀行の確認書（外国の取引銀行）
- エ. 会社登録証のコピー
- オ. 駐在員事務所の定款（組織構造、主要活動、従業員数、彼らの権利義務）

- ・申請後10営業日以内に外国駐在員事務所証明書が付与される。
- ・設立日は当該証明書の日付になる。その後6ヶ月以内に活動が開始されないと証明書は無効になる。
- ・複数の外国組織が共同で事務所を開設することもできる。
- ・営利活動はできない。
- ・駐在員事務所の登録費用は700ドル、延長許可の場合は300ドル。

＜モンゴルにおける外国駐在員事務所の設立に関する規則＞

1. 外国企業、銀行及びその他の商業的組織（以下、外国企業という）は、モンゴルの規則に従い駐在員事務所を設立することができる。
2. 外国駐在員事務所設立の目的は次のとおりとする。
  - 2.1 モンゴルの事業法と外国企業との間の貿易・経済、通貨・金融、科学・技術、運輸・観光及びその他の分野並びに先進的技術についての情報交換及び導入等に関する協力を行う。
  - 2.2 外国投資の奨励及び推進のための支援を行う。
  - 2.3 契約及びその他の取引について効率的に取り決め、実施する。
3. 外国投資貿易庁は、他のモンゴル法律により規定されていなければ外国駐在員事務所の設立を認めることとする。

外国駐在員事務所の設立に対する許可は3年間与えられ、外国企業がその間に義務を十分果たすことができないと考えた場合はその期間を2年間延長することができる。
4. 外国駐在員事務所を設立しようとする外国企業は、以下の書類を外国投資貿易庁に提出しなければならない。
  - 4.1 申請レター（駐在員事務所設立の目的、モンゴル組織との間の事業契約及び協力範囲、

今後の発展計画及びその他の事項について言及、説明しなければならない。)

- 4.2 外国企業とその法的地位についての説明
- 4.3 投資者の国の銀行による銀行確認書
- 4.4 国家登録証の写し
- 4.5 外国における駐在員事務所設立許可の写し(当該国の法律により関係機関からの許可が必要な場合もしくは公証人により認証されなければならない場合)
- 4.6 駐在員事務所の法的地位(駐在員事務所の組織構造、主たる活動、職員数及びその権利と責任について言及しなければならない。)
5. 駐在員事務所に対する許可証は外国企業からの申請レターを受理してから 10 労働日以内に交付されることとする。
6. 駐在員事務所に対する許可証は、住所、目的、条件及び活動期間を示さなければならない。許可証発行日を以て設立日とする。駐在員事務所が許可証発行日から 6 ヶ月以内に機能しない場合、当該許可証は無効となる。
7. 複数の外国企業は共同で事務所を持つことができる。
8. 駐在員事務所はモンゴルの法律の枠内で所属する組織を代表し活動しなければならない。駐在員事務所はモンゴル国内で利益獲得の目的のための活動を行ってはならない。
9. 駐在員事務所に許可証を与えた担当部局は、駐在員事務所の正常な運営に必要な条件を整えるため支援しなければならない。
10. 駐在員事務所は、関係機関及び個人との間で締結された契約書に基づきモンゴル国内に事務所及び住居を持ち、国内サービスの提供を受けなければならない。
11. 駐在員事務所は、モンゴルの法律に従い労働契約に基づきモンゴル市民を雇用することができる。
12. 駐在員事務所所長は、外国企業から与えられた権限の範囲内で行動しなければならない。駐在員事務所所長は、許可証を発行した当局に対し活動内容、職員数及び変更を報告しなければならない。
13. 駐在員事務所は、モンゴルの担当部局に対し要求により活動内容に関する情報を提供する義務を有する。
14. 駐在員事務所所長は、以下の場合が生じたときその解決を図らなければならない。
  - 14.1. 許可証の期限が切れた場合
  - 14.2. モンゴルに駐在員事務所を設立しようとした外国企業が消滅した場合
  - 14.3. 駐在員事務所設立のベースとなる協定及び契約が無効である場合
  - 14.4. モンゴルの法律に反し駐在員事務所の設立及び活動に対する要件に違反した場合
  - 14.5. 外国企業が駐在員事務所の解散を決定した場合
15. 外国駐在員事務所許可証の取得のための登録料として 700 ドルもしくは他の交換可能な通貨による同等の金額を支払わなければならない。許可証を延長するためには、300 ドルもしくは他の交換可能な通貨による同等の金額を支払わなければならない。

### (3) 法人用銀行口座開設の手続きなど (2012 年 11 月時点での大手市中銀行の例)

#### ①法人の口座を開設する際に必要な書類

- ア. 口座開設を依頼する企業のヘッダー付カバーレター (口座の種類や通貨の指定)
- イ. FIFTA に登録した企業の登記証のコピー (1 部)
- ウ. 国家登録局から受領した「銀行口座開設\*閉鎖用紙」(緑色紙)
- エ. 各銀行独自の申請書への記入及び捺印
- オ. 企業の印鑑

カ. サインする本人の身分証明書（パスポート）のコピー  
以上を銀行窓口を持参すれば 10～20 分程度で開設できる。

②必要な資金、費用

- ア. 最小残高：2 万トゥグルグもしくはそれに相当する円、ドル
- イ. 口座管理費：現地通貨（1,000 トゥグルグ）、外貨（1,400 トゥグルグ）
- ウ. 閉鎖に係る費用：10,000 トゥグルグ

③送金に関して

- ア. 手数料（日本円の場合）
  - ・50 万円未満：15,000 トゥグルグ+送金額の 0.05%（三菱東京 UFJ、三井住友以外は 0.1%）
  - ・50 万円以上（上限なし）：25,000 トゥグルグ+送金額の 0.05%（同上）
- イ. 手数料（米ドルの場合）
  - ・500 ドル未満：15,000 トゥグルグ+15 ドル
  - ・5000～10 万ドル：20,000 トゥグルグ+15 ドル
  - ・10 万ドル以上：30,000 トゥグルグ+15 ドル
- ウ. 送金に係る所要日数
  - ・日本円：即日～翌営業日（送金、入金ともに）
  - ・米ドル：翌営業日～翌々営業日（同上）

#### 4.6. 外国人滞在及び登録手続き等

##### （1）滞在手続き

モンゴル政府は日本国の旅券（外交、公用及び一般旅券）を所持する者に対し、30 日以内の短期滞在であれば、渡航目的を問わず査証を免除している（2011 年 4 月 1 日より）。しかし、留学や投資、労働等何らかの都合で 30 日以上引き続きモンゴルに滞在する場合には手続きが必要となる。

<30 日間以上滞在する場合の諸手続き>

- ①入国後 1 週間以内に外国人登録事務所（Office of Immigration）において外国人登録を行う義務がある。
- ②入国後 14 日以内に居住するホロー（\*）事務所への居住登録を行う。
- ③入国後 21 日以内に外国人登録事務所への在籍証明書（学校、会社が発行）を提出する。
- ④帰国（出国）する際には外国人登録事務所にて登録抹消手続きを行う必要がある。外国人登録及び登録抹消を怠った場合、出国が延期されたり、罰金を請求されることもある。（ホロー\*：モンゴルの行政の地域管理区分名のこと。UB 市には 9 つの区があり、その区の中でホローにわかれている。）

<90 日間以上滞在する場合の手続き>

90 日以上滞目的で入国した外国人は、在留許可書（外国人登録証明書カード）が必要になる。また、1 年間に短期滞目的の合計日数が 180 日を越えた場合も同様に在留許可書を取得する必要がある。在留許可書の申請はモンゴル国に入国してから 21 日以内に外国人登録事務所で行う。在留許可書の期間は入国した翌日から計算され、さらに延長する場合は在留期間終了日から計算し延長することが可能。

##### （2）外国人登録

30 日以上滞目的で滞在する外国人は、入国した日より 7 日間以内に外国人登録事務所に登録する必要がある。海外の外交使節、領事館、国連や国連関連の駐在事務所、国際報道機関の職員や

その家族、外交などの目的で入国した外国人は外国人登録事務所に登録して、出国の際は抹消登録をする必要がある。

外国人を招待したモンゴル国民や法人は、外国人登録の手続きを行う義務があり、本人にかわり代行することができる。それ以外の場合は外国人本人が外国人登録事務所に出向き登録しなければならない。

＜必要書類＞

- ア. 入国登録する外国人の申請をする招待側の法人や組織からの申請書。招待するものがない場合は申請者本人の申請書が必要となる。
- イ. 本人のパスポート、あるいはそれと同じ証明する書類及びその写し 1 通
- ウ. 3×4cm の顔写真 1 葉
- エ. 登録申請書用紙（用紙代 2,000 トゥグルグ）

**（3）居住登録**

プライベートや公務、政府機関に勤務などでモンゴル国に居住する外国人は入国日から 14 日間以内に所轄の郡役所またはホローにて居住登録を行う。居住する住所を変更した場合には登録した郡役所またはホローにて抹消登録を行い、引越先の郡役所またはホローにて 14 日間以内に新たに居住登録を行う必要がある。

**（4）在職証明書**

投資や労働でモンゴルに滞在する場合には、投資先の会社や就労先の会社から在職証明書をもらい、外国人登録事務所に届け出る必要がある。留学生の場合は、就学する学校から就学証明書を発行してもらい外国人登録事務所に届け出る。

**（5）在留許可書（外国人登録証明書カードの取得）**

モンゴル国に 90 日以上滞る目的で入国した外国人は在留許可書（外国人登録証明書カード）が必要となる。また、1 年間に短期滞在の合計日数が 180 日を越えた場合には入国する目的に合ったビザで再入国し、在留許可書を取得する必要がある。

在留許可申請はモンゴル国に入国してから 21 日以内に申請する必要がある、在留許可書の期間は入国した翌日から計算される。さらに延長する場合は在留期間が終わった日から 計算し延長することが可能。

在留許可書を申請する 16 歳以上の外国人の場合は申請者本人が外国人登録事務所へ行き申請する。外国人登録証明書カード用の写真撮影と指紋の採取を行う。16 歳以下の子供の外国人登録証明書カードの申請をする場合は 3.5×4.5cm の肖像写真が必要になる。

モンゴル国在留様式は目的などにより 16 種類あり、それぞれ必要な書類や所要日数、手数料が異なる。どの様式の場合でも、有効期限のある本人のパスポートとそのコピー（1 通）、本人の写真（3.5×4.5cm、1 葉）、居住証明書、申請書（窓口に用意）が必要となる。

図表 4.6.1 外国人登録申請手続き一覧表

<p><b>モンゴル国で労働する外国人（モンゴル国在留様式 HG）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 勤労福祉サービスセンターからの許可</li> <li>② 引受企業からの外国人労働者願書</li> <li>③（外国投資）法人登録証明書</li> <li>④ 特別許可の要る活動を行っている場合は特別許可及び写し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手数料：70,000Tg</li> <li>・ 発行期間：平日の 5 日間 (在留許可延長の場合)</li> <li>・ 手数料：41,000Tg</li> <li>・ 発行期間：平日の 3 日間</li> </ul>
<p><b>モンゴル国に投資する外国人（モンゴル国在留様式 T）</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手数料：70,000Tg</li> </ul>

①引き受けた企業からの願書（外国人投資家の在留理由書） ②投資者カード、法人登録証明書、外国投資法人登録証明書及び写し ③特別許可の要る活動を行っている場合は特別許可及び写し ④事務所の契約の写し ⑤納税証明書 ⑥投資したことを証明する書類	・発行期間：平日の 5 日間 （在留許可延長の場合） ・手数料：41,000Tg ・発行期間：平日の 3 日間
<b>留学、研究、科学調査を目的に在留する外国人（モンゴル国在留様式 S）</b> ①教育科学省や勤労福祉サービスセンターが発行した留学許可書 ②引き受けた企業からの在留許可理由書 ③（外国投資）法人登録証明書 ④特別許可の要る活動を行っている場合は特別許可及び写し	・手数料：31,500Tg ・発行期間：平日の 5 日間 （在留許可延長の場合） ・手数料：41,000Tg ・発行期間：平日の 3 日間
<b>プライベートの目的で在留する外国人（モンゴル国在留様式 H-5）</b> ①申請書 ②在留する郡、ホローの住所証明書 ③追加資料	・手数料：70,000Tg ・発行期間：平日の 30 日間 （在留許可延長の場合） ・手数料：41,000Tg ・発行期間：平日の 3 日間

#### (6) 注意事項

- ・パスポートは在留許可書の場合は 1 年間以上、期間延長するためには 6 ヶ月以上の有効期間が必要となる。
- ・外国人は公務や個人の目的で在留許可書を申請するとき本人の申請が必要になる。
- ・在留許可書を紛失した場合は新しい在留許可書が交付されるが、紛失日より 2 週間以内に再交付申請をする必要がある。
- ・在留許可書はその外国人の身分証明書になるので常時携帯する義務がある。在留許可書を他人に渡したり、担保に出すことはできない。

#### (7) 外国人登録事務所住所

<外国人登録事務所>

モンゴル国ウランバートル市ハンウール地区第 10 ホロー、ボヤント・ウハー10 番

(The Mongolian Immigration Agency office is at Buyant-Ukhaa, 10th khoroo, Khan-Uul District, Ulaanbaatar, Mongolia)

専用電話:1882

### 4.7. 投資保護等

#### (1) 法的保障

外国投資法第 2 章第 8 条では、外国投資に関し、次の法的保障を与えている。

- ①モンゴル内の外国投資は憲法、外国投資法及びその他の法律、モンゴルが交わした国際条約によって法的保証を与えられている。
- ②モンゴル内の外国投資は不当に接收されない。
- ③外国投資家の投資は公的目的の場合においてのみ、かつ無差別、完全補償、適切な法手続きによってのみ接收される。

- ④モンゴルが当事者である国際条約に規定されている場合を除き、補償金額は、接收時あるいは、接收の公告時の接收資産の価額によって決定される。補償は、遅滞なく支払われるものとする。
- ⑤モンゴルにおける非常事態あるいは戦争により外国投資家が被った損失は、モンゴルの投資家が被った損失と同等に扱われる。

## (2) 投資家の権利

外国投資家は、次の権利を享受する。

- ①外国投資企業の資本に起因する投資の海外送金や、財産の所有、使用及び処分。
- ②外国投資を伴う事業体を経営しまたはその事業体の経営に参加する。
- ③法令に従って他の者に権利及び義務を譲渡する。
- ④外国投資家による投資の所有、使用及び処分に関して、モンゴル投資家に与えられる待遇よりも不利でない待遇を付与される。
- ⑤法令によって確認されているその他権利を有する。
- ⑥外国投資家は、モンゴルの法令に従ってモンゴルの領域において操業するいかなる事業構成体の株式またはその他の証券をも購入することができる。

## (3) 安定化協定の申請

200 万ドル以上またはそれに相当するモンゴル通貨で投資を行う外国投資家は、大蔵大臣に対して事業活動の安定的環境の法的保証を求めて安定協定 (Stability Agreement) 締結の申請を行うことができる (外資法第 19 条 1 項)。安定協定は、一定期間中の課税条件を安定化させるものである (同条 2 項)。

投資額が 200 万~1,000 万ドルの場合には協定の有効期間は 10 年、1,000 万ドル以上の場合は 15 年とされる (同条 3 項)。

大蔵大臣は、申請書を受け取った日から 14 日以内に申請書と取決め草案を審査する。変更の必要があれば、その旨を 7 事業日以内に申請人に通知する。問題がなければ申請人との間で安定協定を締結する (同条 2 項)。

## 4.8. 投資優遇措置

2012 年 5 月に制定された外国投資法の改訂により、国内・国外の企業を同等に扱う方針となったため、従来のような外資向けの特別な優遇措置は見当たらないが、その分一般的な優遇措置はより充実してきている。

### (1) 投資減税

- ・ 50%の投資減税：以下の植物、生産物から得られる法人所得  
穀物、ジャガイモ、野菜、牛乳、フルーツ及びベリー、家畜飼料作物
- ・ 10%の投資減税：モンゴルの優先部門における投資  
新規生産、サービス、既存生産の拡張、修理、既存サービスの拡張、改善のための償却可能資産への投資などが対象となる。また投資減税額が該年度での全税額より大きい場合、超過額は利益の出る連続 3 年間、適用できる。

減税措置は二重課税防止条約に基づき、外国で税を支払った企業に与えられる。また、繰り延べ損失は 2 年間可能である。ただし損失控除の年間額は課税年の課税所得の 50%を越えることはできない。



## (2) コンセプション法

2010年1月制定、国家及び地方公共団体の社会資本整備に対し民間資金を利用して進めようとするもので、各種支援方針が定められている。

## (3) イノベーション法

2012年5月に制定されたもので、イノベーションの推進にかかる基本政策方針及び支援措置が定められている。サイエンスパークやベンチャーキャピタルの創設、技術開発や人材育成の推進など多岐にわたる施策が講じられている。

2013年末には制度が整う予定だが、現時点(2012年12月)でも適用可能な分野はある(付属資料7. イノベーション法参照)。

## (4) その他

- ・中小企業の生産設備や用役(電気、水道等)は、関税とVAT(Value-added Tax:付加価値税、以下VAT)が免除される。
- ・ハイテク産業は税の免除などの優遇措置がある。
- ・EUへの輸出関税が免除される「GSP+(Generalized System of Preferences Plus)制度」が7,200品目を対象に適用されている(付属資料9.「GSP+制度」7200リスト参照)。

また、以下は労働省中小企業開発局による100%モンゴル資本の中小企業向けの優遇政策であるが、今後は外資が関与する企業にも適用できる施策が検討される予定である。

- ・輸入代替品事業、新規ビジネスを手掛ける企業及び成長企業に対し、5年間にわたり7%という低金利での融資(1年目は利子返済のみ)。
- ・機械を担保に銀行から貸出しを受けられるローン制度。
- ・「中小企業の機械と道具を無税にする法」により、対象となる620種類の機械や道具を購入した場合に関税やVATがゼロとなる。

その他、金融上の企業向け優遇措置については、第6章6.1.資金調達を参照。

## 4.9. 自由経済地域

モンゴルの自由経済地域は、計画、法令の準備はあるものの、全体的に制度設計、運用面での課題があり、実際に地域内で操業している企業は見当たらない(2012年現在)。

### 4.9.1. 自由経済地域に関する法律

モンゴルの自由経済地域を設けるという構想は1995年に議会で採択された。自由経済地域にかかる法律とアルタンブラグ自由貿易地域の法的地位に関する法律が2002年に採択され、自由経済地域の法的環境と地域の形態、経営主体、管理システム、税金、関税体系が定義された。

#### (1) 自由経済地域に関する法律

- ・外国から自由経済地域に輸入される製品については、物品税、VAT、輸入税は賦課されない。
- ・自由経済地域からモンゴルの税関地域に入る製品については、輸入関税及びVAT、物品税が課される。
- ・モンゴル企業及び外国の企業、機関、個人は、自由経済地域との協定により、その義務の履行次第で、特定の期間において、土地使用料の減額または免除を受けることができる。

## (2) 自由経済地域で操業するための免許取得

自由経済地域法 (Law of Free Zone) 第 13 条により、自由経済地域で操業することを計画する企業は、次の要件を満たさねばならない。

- ①自由経済地域での目的、事業活動に応じた、貿易、生産、サービスに従事すること。
- ②国家及び国際的標準に合った生産、サービスの方法・技術を使用すること。
- ③環境インパクト評価を行うこと。

自由経済地域で操業を希望する企業は、自由経済地域管理局への登録のため、以下の書類を提出する。

- ア. 権限のある人物による申請書で、経営組織、登録名称、住所、国籍、企業業種、投資形態、投資金額、投資領域、事業活動、投資期間、投資の段階を含む
- イ. 投資家が法人の場合は、公証人により公証された定款の写し
- ウ. 投資家が個人の場合は、国民 ID カードの公証済み写し、簡単な履歴書
- エ. 必要の場合は、特別な活動許可ライセンス
- オ. 許可書及び契約書
- カ. 新会社を設立する場合は、事業者名の許可

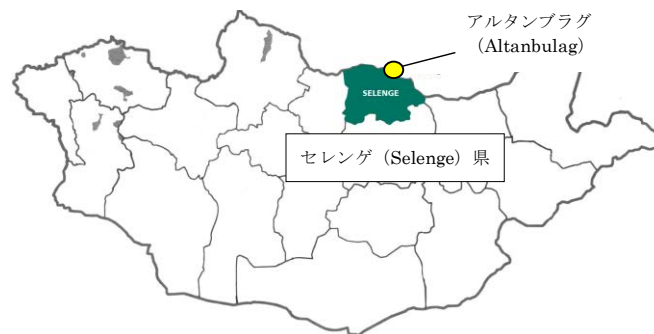
申請が法律上の要件を満たす場合は、自由経済地域の管理者は国家登録を行うものとし、申請を受領後 5 日以内に証明書が発行される。

### 4.9.2. 各自由経済地域の概要

モンゴル国内には、3 箇所の自由経済地域があるが、すでにロシア、中国、韓国等の企業と土地の賃貸契約が完了しており、日本企業が進出する余地は少ない。

従って、3 箇所の自由経済地域について以下の通り簡単に記す。

#### (1) アルタンブラグ自由貿易地域 (Altanbulag Free Trade Zone)



##### 1) 概要

議会は 2002 年に、アルタンブラグ自由貿易地域を創設する決議 38 号を公布した。

アルタンブラグ自由貿易地域管理局は、すでにロシア、中国、韓国等の企業と地面の賃貸契約を完了しており、400ha の土地が賃貸されている。

アルタンブラグ自由貿易地域の法的地位に関する法律第 4 条により、投資者に所得税の控除または免税措置が与えられる。

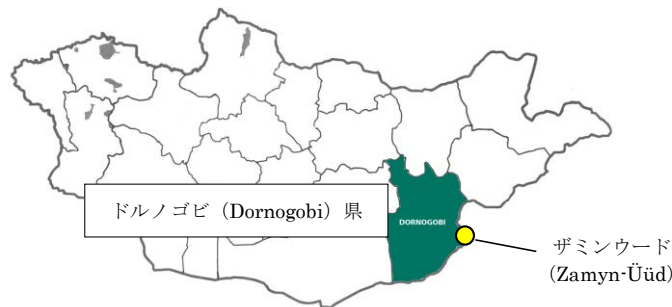
##### 2) 自由地域での操業許可の取得

アルタンブラグ自由貿易地域での操業許可に必要な主な書類は、以下の通りである。

- ア. 申請書

- イ. 企業登録のコピー
- ウ. 定款のコピー（公証付）
- エ. 事業計画書
- オ. 投資計画
- カ. 人員計画、採算計画、資金計画等

(2) ザミンウード自由経済地域 (Zamyn-Uud Free Economic Zone)



1) 概要

ザミンウード自由経済地域 (Free Economic Zones、FEZ) は、ドルノゴビ県の中国との国境の町であるザミンウードに位置し、UB から 780km、ドルノゴビ県の中心地であるサインシヤンドから 230km 離れ、中国のオーリアン (Erlian) 市からは 8km の位置にある。ザミンウードは交通の要衝であり、広大な敷地 (900ha) があり、中国からの援助が決まっている。

国際標準に見合う自由地域を設置することにより、モンゴルの社会、経済開発に大きく寄与すること及び地域発展を促進することが主とした目的である。

2) 活動計画

この地域では、次の三つの主要部門の発展を目指して活動が計画されている。

- ①工業部門：製造業や組み立て業及び、水の節約と環境に優しく土壌汚染のない工業生産
- ②商業部門：商品取引所、銀行、金融サービス、情報通信センター等の事業
- ③旅行・娯楽部門：カジノ、ゴルフ場等の開発

(3) ツァガンヌール自由貿易地域 (Tsagaannuur Free Trade Zone)



ツァガンヌール自由貿易地域の設立理由は、国際貿易を推進すること、また、地域の失業・貧困減少、旅行・観光業の支援、外国及び国内の投資家を招致することにある。

国境及び税関の新コンプレクスは、ウランバイシント（Ulaanbaishint）の 2.7ha の中に、27 の建物がある。近代装備による税関検査場があり、一日にトラック・バス 80 台、車 20 台、400 人の乗客を運搬、検査する能力があるロシアのタシャントポート（Tashant Port）と連結している。

ツァガンヌール村には、2005 年末現在で、312 家族、1,626 人が住んでおり、8 年制の学校（300 人収容可能）、寮、30 ベッドの病院、幼稚園、浴場、郵便局支店、300 席の文化センター、倉庫（3,500m<sup>2</sup>）、石油貯蔵所（600m<sup>3</sup>）、軍事基地がある。

## 第5章 会社関連法規及び諸制度

### 5.1. 貿易及び通関制度

#### 5.1.1. 関税

関税法は、関税、関税の修正、関税価額評価、関税の徴収に関する事項について規定している。また、不定期に召集される関税評議会は、関税率の採択・修正、反ダンピング、相殺関税の賦課等、関税システムの発展にかかる事項について政府への提案を行う。

政府は関税表に基づき、関税評議会の勧告（関税法第4条及び第6条）により、税率の50%までを限度に自由裁量で税率の増減を行える。

また、モンゴルの関税は以下の3つのレートから構成されている。

- ・最恵国 (Most-Favored-Nation、以下 MFN) レート  
：モンゴルに MFN の地位を与える諸国からの物資に適用
- ・特惠レート：モンゴルに優遇関税レートを与える国を原産地とする物資に適用
- ・普通レート：その他の国からの物資に適用 (MFN レートの2倍の課税)

現在、モンゴルは殆どの輸入品に5%の従量 MFN レートを適用しているが、以下の2つは例外レートである。

##### ①ゼロレート：49項目に適用（全体の0.9%）

生育目的の生きた動物、牛、豚、羊、山羊、情報拡張機器及び部品、その他情報開発機器、トランジスタダイオード及び類似トランジスタ、ならびに各種医療機器を含む。2000年以降、種々な目的での関税免除が設けられている。例えば、モンゴルが当事者となっている国際協定、協力プログラムの下で輸入される機器や物資、ミレニアム道路プロジェクトで輸入される重機械、石炭・エネルギープロジェクトのために輸入される重機械などである。

##### ②季節レート：季節的な輸入品目に15%の課税

小麦や野菜（ジャガイモ、タマネギ、キャベツ、大根、鐮菜、人参）を対象とし、これらの国内生産者を保護する目的がある。生産物の収穫期の後にあたる8月1日から4月1日の期間に課せられる。この期間以外の税率は5%である。

尚、モンゴルは HS (Harmonized Commodity Description and Coding System) 条約（商品の名称及び分類についての統一システムに関する国際条約）を1993年に採択している。

#### 5.1.2. 関税手続き

モンゴルへの輸入を規律するのは、1996年制定の関税法である。同法の下では、モンゴルへの輸入は、数少ない製品に課される輸入許可制を除き、規制対象にはなっていない。

輸入者は、関税当局ならびに国家登録局への登録が必要である。

##### (1) 通関にかかる主要書類

必須書類は、関税当局指定の税関申告書 (Custom Document Eormat、CDF) であるが、税関が通関に必要と判断した場合は輸入者に対し、以下のような書類を要求することもある。尚、書類はモンゴル語での作成が義務付けられている（翻訳のコピーでも可）。

- ア. 外国貿易契約
- イ. インボイス
- ウ. 運送契約
- エ. パッキングリスト

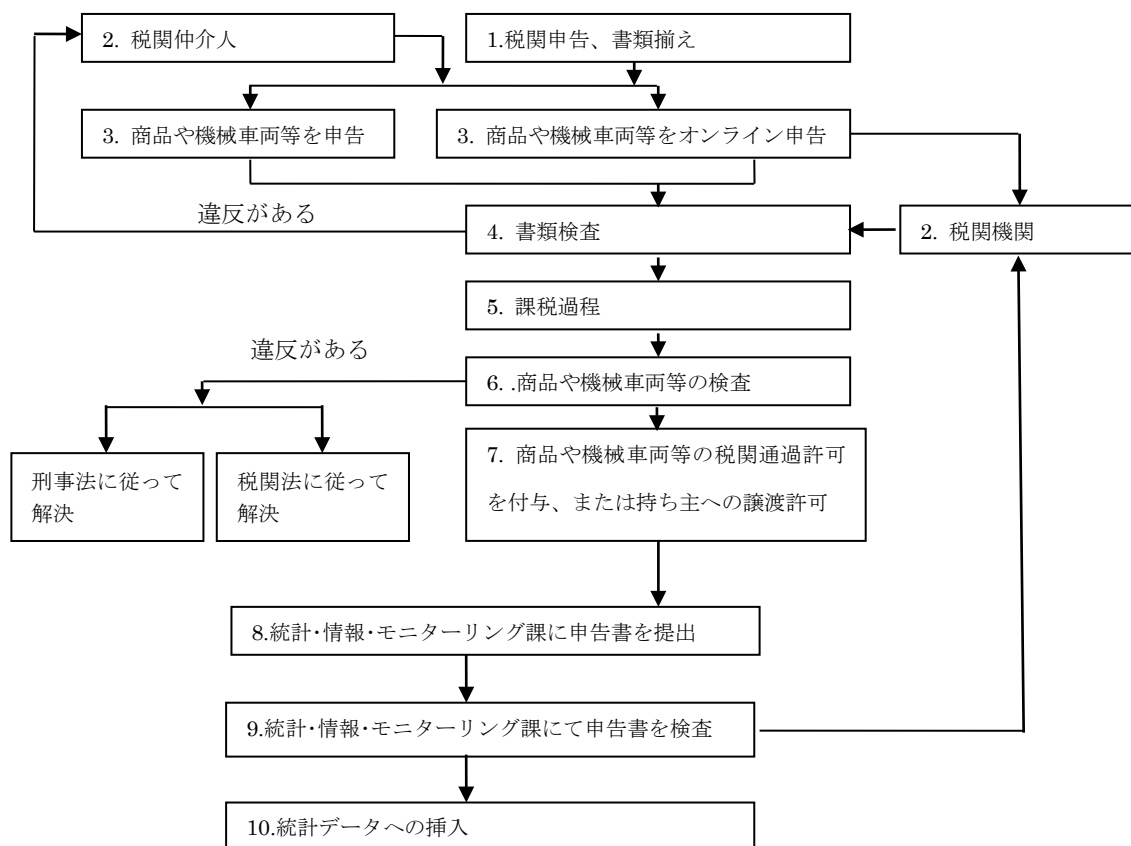
- オ. 原産地証明
- カ. 所轄官庁により発給された許可書

## (2) 手続きの主な流れ

通関手続きの大まかな流れは以下の通りで、詳細は図表 5.1.1 に示す。

- ①通関書類を税関窓口にて提出する。
- ②税関が提出書類の関税価額を承認した後、輸入者が輸入税、VAT 及び物品税を支払う。
- ③税関は申告物資の輸入を承認する。

図表 5.1.1 通関手続きの流れ



(出典：FIFTA、2011)

## (3) 特別な手続きのケース

以下のケースでは特別な手続きがとられる。

- ・一度の船積が大量の物品を含み、保税倉庫の利用もしくは輸入先国から関税特別地域への直接輸送などを要する場合は、簡素化された通関手続きが採用され、必要書類も簡素化される。
- ・ある種の危険物（例えば核物質）、血液、血液製品、及び治療目的で使われる臓器を輸入する場合は事前の通関申告書で通関がなされる。この特別手続きを認められた企業及び個人は、通関前に関税及びその他税を支払うことができる。また特別な取り扱いを要する危険物（ウランウム、高度に有毒な化学物質）または動物については、審査は 8 営業日以内に終了することとなっている。

尚、決められた基準に合致する良質企業に対しては、ゴールドカードシステムが採用され、全てもしくはランダムで積荷検査が免除される。

#### (4) 通関業者の活用

企業の負担軽減及び輸入者の時間節約のため、輸入者は、代理で書類作成その他の手続きを行う通関業者を指定することができる。さらには主要税関事務所では、必要な税関書類及びその他の公式手続きが1カ所で行えるワンストップサービスが提供されている。これには税関検査官による書類の審査、通関価額評価、関税及びその他諸税の支払い、及び税関検査等が含まれる。(通関業者については参考情報一覧⑨に示す)

#### (5) 税関への異議申し立て

国家税関検査官の決定が正当でないと判断した場合は、決定後10日以内に所轄税関事務所長または税関長官に訴えることができる。そこでの決定に不服であれば、さらに上層部の税関官吏に訴えを提起することができ、それでも不服の場合は、法廷に訴えを提起できる。

### 5.1.3. 関税評価、船積前検査、原産地規則

輸入品にかかる関税評価は、関税法に則って行われる。評価の基準としては、輸入品のCIF価格(Cost(価格)とInsurance(保険料)とFreight(運賃)の関税要素に係る三要素から構成される、CIF条件下での貿易取引の価格)が適用される。その決定は、第10条から18条に従い取引価額に基づく。すなわち、モンゴルの税関領域で輸出として販売された物資に実際に支払われた、または支払われる価格を指す。

税関が申告された価額の正当性を疑う場合、または輸入者が申告された輸入価額を正当化できない場合は、税関は“減殺方法”、“計算方法”、あるいは“撤退方式”を採用する。モンゴルでは特惠輸入スキームを保持していないため、船積前検査手続きは行っておらず、輸入品に関しても原産地規則を要求していないことが背景にある。

### 5.1.4. 輸入禁止及び制限

国家の防衛と人間、動物、及び植物の健康維持を保護する目的で、現在モンゴルで輸入が禁止もしくは制限されているものは以下の通りである。

#### ①輸入禁止

ある種のドラッグや麻薬、それらの原料または生産するための装置、以下の純蒸留酒の輸入が禁止されている。

- ・80%及びそれ以上の無変性エチルアルコール
- ・変性エチルアルコールやその他のアルコール
- ・80%以下の無変性エチルアルコール

#### ②輸入制限

- ・ある種の牛、馬、羊、山羊及びラクダ
- ・動物関連の原料及び希少動物の胴体部分
- ・自然植物
- ・ウラニウム及びその濃縮物
- ・イオン化された紫外線物質
- ・低リスクの化学物質
- ・オゾン層に悪影響を与える、モントリオール議定書規定のすべての化学物質
- ・危険な産業廃棄物、献血血液

- ・ドラッグに関する 1961 年の国連議定書、物質に関する 1971 年の国連議定書、ドラッグの不法取引に関する 1998 年の国連議定書による人間の精神に影響を与える医薬品
- ・武器、獣医機器、最終ニット製品、及び文化工芸品

### 5.1.5. 輸出に直接影響を与える措置

#### (1) 手続き

輸出通関には、租税登録と国家登録局への企業登録が必要である。必須書類は、関税当局指定の税関申告書（CDF）であるが、税関が通関に必要と判断した場合はインボイス、パッキングリスト、原産地証明を要求することもある。

尚、輸出品の関税価額はモンゴル国境価額である。また輸入の際と同様、モンゴルの主要税関事務所でワンストップサービスが受けられ、ゴールドカードシステムも導入されている。

特に、米国及び欧州同盟に輸出する繊維製品輸出者に対してはモンゴル商工会議所（Mongolian Chamber of Commerce and Industry、MCCI）が原産地証明を発行する。原産地証明を要求するには、輸出者は契約書のコピーとインボイス、パッキングリスト、商工会議所に対する申請書を提出しなければならない。商工会議所では通常、書類受領後 4 時間以内に発行する。商工会議所は輸出品を工場で検査することもできる。

#### (2) 輸出税、諸掛、公租

モンゴルでは、1996 年 3 月 29 日に制定された The Law of Mongolia Determining the Amount of Export Customs Duty to be imposed on Certain Commodities に従っていくつかの品目に対して輸出税を課している。

#### (3) 輸出禁止、制限及び許可

以下の輸出は禁止されている。

- ・ドラッグと麻薬（及びそれらを生産する原料・装置）
- ・ある種の危険かつ毒性のある化学品

生皮、皮革、カシミア用原毛は、国内加工業者を保護するため、原則として禁止されている。また、モンゴルでは鉄砲、爆発物、及びある種のドラッグ等以外は、輸出者に対する許認可も必要なく、価格規制もない。

#### (4) 輸出者に対する優遇税、補助金

農産物を含む輸出品に対し直接補助金などの措置はないが、輸出者は物品税や VAT が免除になる。

## 5.2. 会社法（付属資料 6. 会社法参照）

会社の形態としては二つある。ひとつは公開または共同株式会社と呼ばれるもので、株式は自由に譲渡できる。二つ目は有限会社または非公開と呼ばれるもので、株式の譲渡は定款で制限される。

### (1) 会社の種類

#### ①株式会社

株式会社は、公開会社と非公開会社に分けられ以下の特徴がある。

- ア. 公開会社の株式は証券取引所に登録しなければならず、株主は証券取引所または取引所外で自由に株式を取引できる。
- イ. 非公開会社の株式は証券保有機構に登録され、証券取引所外で取引される。



ウ. 株式会社は、公募または私募により増資することができ、また債券も発行できる。株式会社の株主は合意の上で株の処分に関する制限を設けることもできる。

## ②有限会社

有限会社には以下の特徴がある。

ア. 発起人は、50人以下でなければならない。

イ. 私募の形態であれば株式の発行や株式オプション、転換社債なども発行でき、株主はこれらにつき優先的に引き受けができる。株主の株式処分については、他の株主が優先取得件を持つ。権利は比例配分される。定款で別の定めをすることも可能である。

ウ. 有限会社の株主は会社に関する情報を取得できる権利や、財務書類その他の情報を閲覧できる権利を有する。

## ③会社の存続期間

定款で定めない限り無期限である。会社は法律で禁止されていない限り、いかなる行為も行うことができる。定款で行為を制限できるが、善意の第3者には対抗できない。特別許可を要する行為については所轄官庁からの許可があれば、その行為を行うことができる。

## (2) 会社の設立

①会社は一人でも設立できる。

②複数の発起人による設立の場合、発起人協定を締結できる。発起人協定は、発起人間の協力手続き、各発起人の義務、各々の種類株式の数、価格、購入日、及び購入されたその他債券、その他必要事項を含む。

③発起人協定は設立に必要な書類ではない。

④数人に株式をオファーし（閉鎖的引き受け）、非公開株式会社を新設する場合の手続きは以下の通りである。

ア. 閉鎖的引き受けは、引受人の氏名、父親（母親）の氏名、株式の種類、タイプ、数量、株式価額を含む引受書により証明される。

イ. 引受けは引受人の署名または権限のある代表者による署名があつて有効とされる。

ウ. 引受け株式の総額は引受期間終了後30日営業以内に払い込まなければならない。

エ. 発起人集会で予定された期日までに会社が設立されない場合は、発起人は、設立予定日から14営業日以内に前払い金を返還しなければならない。

⑤発起人は必ずしも会社の株式を保有しなくてもよい。

⑥発起人は連帯して設立費用を負担する。

⑦発起人集会または、会社の取締役会で決議があつた場合は、設立費用は会社の負担とする。

⑧発起人集会での決議事項は、以下の通りである。

ア. 会社の設立

イ. 定款

ウ. 授権株式数、発行株式数と発起人が取得する価格

エ. 取締役会を設ける場合は、役員を選定、給料、ボーナス

オ. 設立費用の充当手続き

カ. 出資金支払い期日

キ. 発起人協定で定めがない限り、発起人集会の議決は出席者の多数決による。

ク. 議長は出席者の互選で決める。

ケ. 現物出資がある場合、出資価額は、評価機関または他の資格ある専門家により評価され、発起人集会での議論のために提出されねばならない。

- コ. 現物出資の価額は、発起人集会参加者全員の承認が必要である。
- サ. 関連書類は会社設立決定から30日以内に登記所に登録されなければならない。

### (3) 会社定款

定款は設立にあたっての基本的な書類である。

定款は以下を含む。

- ①会社の名称及び略称、及び会社のタイプを表す頭文字
- ②会社の授権及び払い込み普通株式の数量、名目価格及び資本投資額
- ③優先株を発行する場合は、優先株の数量、保持者の権利
- ④取締役会を設置する場合は、取締役の数
- ⑤株主総会での株主の権利、取締役会、監査役会の権利
- ⑥会社の業務の種類
- ⑦会社定款に反映されるべきその他の事項
  - ア. 民法あるいは他の適用法に矛盾しない事項は会社定款に含めることができる。
  - イ. 株主の要求があれば、会社は定款及びその変更の写しを交付しなければならない。

### (4) 定款の変更

定款の変更は株主総会の承認を要する。

### (5) 株主総会

- ①株主総会は会社の最高の統治機関である。
- ②株主総会は通常総会と特別総会がある。
- ③通常総会は取締役会（存置されていないときは役員会）が召集する。会社の財政年度終了後4ヶ月以内に召集されねばならない。
- ④株主総会の専権事項
  - ア. 定款の改定、新定款の作成
  - イ. 会社の再編
  - ウ. 債務や資産の交換、増資、新株数の決定
  - エ. 会社の形態の変更
  - オ. 会社の清算、清算委員会の任命
  - カ. 株式の分割、併合
  - キ. 取締役会構成員の選定、任期前罷免
  - ク. 株主による株式取得優先権の行使、その他債券の優先取得権の行使
  - ケ. 取締役会が作成する会社の年度活動報告、年度財務諸表の検討、承認
  - コ. 重要取引の承認
  - サ. 自己株式取得の承認
  - シ. 利益相反取引の承認
  - ス. 本法または定款により株主総会に付議される事項
  - セ. 取締役会構成員に与えられる給与、ボーナスの承認
  - ソ. 取締役会を持たない有限会社の株主総会は、上記に加え、以下に関し専権を有する。
    - ・ 債券の発行
    - ・ 執行部の権限
    - ・ 執行役員あるいは執行部の構成員の任命、権限の決定、任期前の罷免
    - ・ 執行部構成員に与えられる給与、ボーナスの決定

- ・ 執行部による会社の年度活動報告、年度財務諸表の検討、承認
- ・ 監査人の選定、監査契約の締結
- ・ 配当額の決定と支払い手続き
- ・ 執行部の内部組織の承認
- ・ 支店及び駐在員事務所の設置
- ・ 財産及び財産権の市場価値の決定
- ・ 本法及び定款により要求されるその他事項
- ・ 執行部及び株主から検討を求められるその他事項

## (6) 取締役会

取締役会は株主総会と会社間の統治機関である。

株式会社は取締役会を持たねばならない。有限会社は定款に別の定めがない限り、取締役会を持たないという選択ができる。取締役会の人数は、定款に記載される。株式会社及び国営会社の取締役会の人数は少なくとも9人とし、1/3は社外取締役とする。定款で定めた場合、有限会社の取締役会は社外取締役を設けることができる。

## (7) 取締役会の権限

本法及び株主総会の専権事項として定款に記載された事項を除き、会社の活動及び政策を決定する取締役会は以下の権限を有する。

- ① 通常及び特別株主総会の開催
- ② 株主総会の議題及び出席株主権の確認
- ③ 授權資本内における株式の発行
- ④ 普通株に関する債券の発行及び定款に記載されたその他債券の発行
- ⑤ 本法55条による財産及び財産権の市場価格の決定
- ⑥ 株式及びその他債券の取得及び償却
- ⑦ 会社執行部の選定、更迭及び権限の決定
- ⑧ 執行部構成員と締結されるべき契約条件の設定、ボーナスの額、及び各々の責任と義務の決定
- ⑨ 会社の監査人の選定及び監査人と締結されるべき契約条件の設定
- ⑩ 年次事業報告と財務諸表の作成
- ⑪ 定款に定める場合を除き、配当額及び支払い手続きの決定
- ⑫ 取締役会及び執行部が準拠すべき手続き規則の承認
- ⑬ 支店及び駐在員事務所の創設
- ⑭ 株主総会に提出し承認を求める会社の再編にかかる決議の準備と再編の実行
- ⑮ 主要取引締結の承認
- ⑯ 利益相反行為の承認
- ⑰ 本法及び定款に記載されたその他事項

## (8) 執行部

- ① 会社の執行部は定款及び取締役会（不在の場合は株主総会）との協定により与えられた権限内で会社の日常業務を遂行する。
- ② 定款が複数の執行部を規定しない限り、執行部は個人とする。
- ③ 執行部が個人である場合、当該個人は執行役員となる。

- ④執行部は会社の取締役会構成員とする。しかし、取締役会の議長にはなることは禁止される。
- ⑤法律及び定款に別の定めがあるときを除き、取締役会（不在の場合は株主総会）の同意がある場合、執行役員または、他の執行部構成員は別会社または事業体の役員であっても兼務できる。
- ⑥執行部は取締役会（不在の場合、株主総会）との協定に定められた権限範囲で行動する。この協定は執行部の権利義務、責任範囲、責任除外の事由、給与・ボーナスを含むものとし、取締役会議長（取締役会不在の場合、株主総会議長）により署名される。
- ⑦執行部は授權書なしで、会社のために活動する。取締役会から与えられた権限内で、会社を代表して、契約その他の締結を行い、取引を実施できる。
- ⑧複数の執行部がある場合、定款及び取締役会により課せられた義務と責任の遂行に関し、取締役会（不在の場合、株主総会）と合意した手続きに従うものとする。
- ⑨取締役会（不在の場合、株主総会）は、いつでも、執行部の権限を終了せしめることができる。

### （9）会社法の改正

すべてのモンゴル企業は、会計年度終了後 4 ヶ月以内に定例株主総会を開催しなければならない。これを遵守しない場合は、取締役会及び執行役員は権限を失い、その日以降のすべての契約、取引は無効になる。また、取締役会は会計年度終了後 50 日以内に配当宣言を行い、その根拠を説明する必要がある。

取締役会会長は、従来、授權なしに会社を代表して契約を締結できる慣行があったが、改正法では授權書の発行なしに会社を代表することができなくなった。

## 5.3. 土地取引に関する制度

### （1）土地の権利

土地法（Law on Land、2002 年制定、2003 年改訂）では土地に関する権利について、「所有」「占有」「利用」の三つの形態を認めている。外国投資家及び外国投資企業には土地「利用」権のみが与えられる。モンゴル国民は市街地（国土の 0.01%）における以下の広さの私的権利が与えられており、所有の拡大を図る場合は権利を購入する必要がある。

- ・首都に居住する家庭：0.07ha
- ・アイマグセンター：0.35ha
- ・ソムセンター：0.5ha

### （2）土地の所有

土地所有権には「自由に占有できる権利」、「利用権」、「処分権」の 3 つが含まれる。

モンゴルの全ての土地は国家のもの、というのがモンゴル憲法の一般的規定であるが、唯一の例外として、国家は土地を私的所有のためにモンゴル国民に配分することができるが認められている。しかしながら、国民は自ら所有する土地の区画を外国市民に譲渡することは禁止されている。

### （3）土地の占有

土地の占有権は、利用目的に応じ国家との間で締結される土地占有契約の特定の条件に従って法的管理を有する占有者の権利であり、モンゴル国民と国内資本企業・組織にのみ与えられる。土地法に従い、以下の権利が認められている。

- ①60年間（延長も可能）、土地を占有することができる。
- ②占有下にある土地の全部または一部をリースすることができる。
- ③他のモンゴル国民、企業、組織に対して土地所有証明書を譲渡、質権設定ができる。

#### （４）土地の利用

土地利用権は、土地所有者（国家またはモンゴル国民）または土地占有権保持者との間の契約によって、土地の有益な特性を利用する権利であり、以下の特徴がある。

- ①議会はリースまたは利権協定により、外国、外国法人、国際機関による土地の利用を決定する権限を有する。
- ②政府は当該土地の境界、土地利用の手続きを決定する。
- ③モンゴルに183日以上居住する外国市民、無国籍人は、地方政府の決定により、土地オークションを通じて、通常の家庭的利用のために土地利用権を保持することができる。

#### （５）外国投資土地利用権

土地法では、外国投資に関わるモンゴル企業が特別の条件に従って土地を利用することを認めている。

- ①政府が当該土地利用の期間を決定する。
- ②外国投資法では外国投資企業の土地利用に関する主要条件を規定している。
- ③土地法では期間は5年が上限とされ、一度に更新できる期間も5年となっている。
- ④土地官庁では最大期間100年を超えない限り、1回以上の延長を認めている。

### 5.4. 税制及び会計制度

#### （１）税務制度

2006年6月、モンゴル議会は、法人所得税、個人所得税、VAT、物品税を改定した。モンゴルの税制度を他国と比べて競争的にすること、雇用創設のために事業会社の負担を減らすこと、インフォーマル経済の減少を図るという税制度の枠組みの中で、国内投資家との差別規定の除去や、VAT免税等の歪みを取り除くために実施したものである。

##### ①所得に関する各税の概要

##### <法人所得税>

新しい法人所得税法（Law of Mongolia on Economic Entity Income Tax, June 29, 2006）では、最低税率を15%から10%へ、最高税率を30%から25%へ各々引き下げた。また、最高税率の所得基準を100万トゥグルグから30億トゥグルグに引き上げた。これにより、法人税納税者の99%がフラットな税環境下に置かれることになった。

加えて、新法人所得税法は、より一層の事業支出の控除、投資税額控除、損失繰り延べ、新事業及び一時的な困難に遭遇した企業の支援、差別的な控除または免税措置の廃止、外国・国内投資家の公平化を規定し、法律を最善の国際慣行に近づけたと説明されている。

##### <源泉徴収税>

非居住者に支払われる配当所得、利子所得、ロイヤリティは20%の源泉徴収税に従う（二重課税防止協定があれば減額される）。また居住者に支払われるそれらは10%の源泉徴収税に従う。

##### <海外利潤送金税>

モンゴルで永続的事業を行う外国企業は20%の外国利潤送金税を課される（二重租税協定があれば減額される）。

##### <権利の売却からの所得>

モンゴルでは特別なキャピタルゲイン税はない。しかしながら、例えば不動産の売却等では、

粗額の 2%が課税される。株式や証券の売却純額は、モンゴル法人税率の漸進税率（30%）に従う。

#### <個人所得税>

就業所得及び財産からの所得を含め、10%のフラットレートである。

モンゴルの非居住者はモンゴル内で得た所得に対し所得税を課される。非居住者の定義は課税対象年度に 183 日以上モンゴルに居住していない者である。183 日以上モンゴルに居住するものは永住居住者とみなされ、世帯所得を基準にして、モンゴルの課税に従う。年間所得にかかる 84,000 トゥグルグの所得控除が与えられる。

図表 5.4.1 その他の所得源泉税率

その他の所得源泉	税率(%)
配当	10
ロイヤリティ	10
利子	10
ギャンブル、賭けゲーム、宝くじ、風俗関連	40
不動産販売（粗額）	2
権利の販売（粗額）	30

(出典：FIFTA、2011)

#### <社会保険料>

モンゴルで活動する企業、政府、宗教その他の組織、外国企業と契約ベースで雇用されるモンゴル国民、外国市民、無国籍者は、図表 5.4.2 の社会保険料の割合に従う。従業員への請求は 140,000 トゥグルグの上限があるが、雇用主に支払い上限はない。また、これらの支出は所得控除の対象である。

図表 5.4.2 社会保険料金の割合（単位：%）

保険種類	雇用者	被保険者	自主的
			被保険者
年金保険	7	7	10
介護保険	0.5	0.5	1
健康保険	2	2	1
労災保険	1~3		
失業保険	0.5	0.5	
合計	11~13	10	12

(出典：FIFTA、2011)

#### ②付加価値税（VAT）

新付加価値税法では、VAT 率を 15%から 10%に引き下げ、歪みを是正するために、免税措置の多くを削減した。残された免税対象は、技術輸入、設備、材料、原材料、部品、ガソリン、ディーゼル燃料である。ガソリン、ディーゼル燃料は政府と生産分与協定下でなされる石油生産を奨励する目的がある。他にもガス燃料、その容器、特別目的設備、機械、付属品にも免税が適用される。

#### <輸入品に課される VAT>

輸入品に課される VAT は、2007 年 1 月 1 日から課税対象評価額の 10%となった。輸入品の VAT 課税額は、関税法に従い特定価格に関税や物品税及びその他の税金を課して定める。販売

目的でのモンゴルからの輸出品に対しては0%とする。

海外貿易を行っている企業は、輸出入をする際に税関に対し関税や各種手数料を支払う。この関税額は、商品の価格や数量、税形態などによって異なる。モンゴルの場合、主な輸入品の関税率は5%、VATは10%であり、一部特定製品の税率は季節により変更される。

### ③物品税

酒類、タバコ、ビール、ガソリン、ディーゼル燃料、自動車などが物品税課税対象である。新物品税については以下の項目が挙げられる。

- ・ゲーム機器に対して毎月課税する。
- ・輸入車への課税方式を変更するとともに、大気汚染に影響する旧式の車両の輸入を抑えるため、税額を引き上げる。
- ・アルコール製品の税率を引き上げる。

### ④固定資産税

固定資産税は政府登記所への登記額の0.6%である。

登記されていない場合は保険価額か、または、これがない場合は会計金額が適用される。

### ⑤輸入税

モンゴルへの輸入品には5%の統一輸入税が課される。中小企業が輸入する特定機器・設備については免税になる。以下は、輸入税に関する例外である。

<輸入税が免税となる品目>

- ・純血種の馬、牛、豚、羊、ヤギ
- ・情報処理自動機械や情報をコード化して書き込む機械等、それらの部品や器具
- ・ダイオード、トランジスタ及び類似機械、光感知器、半導体、モジュール等
- ・電子完全デバイスや電子マイクロデバイス
- ・病院や手術用、歯科医、獣医専用の機械設備や器具、視力測定器
- ・病院や手術用、歯科医、獣医専用のレントゲン、アルファ線やベータ線、ガンマ線の放射線機械、診察用の台や椅子、モニター等

<季節輸入税が課される品目（8/1～4/1：15%、それ以外の期間：5%）>

- ・小麦粉 ・ジャガイモ ・タマネギ ・キャベツ ・ニンジン ・黄色かぶ

<物品税が課される品目>

- ・アルコール原料 ・全種の酒類（ワイン、ビール等） ・タバコ類 ・軽油
- ・ガソリン

### ⑥輸出税

以下の原材料について制限的に輸出税を課している。

- ・キャメルウールの原材料 ・山羊の皮 ・木材 ・金属、アルミ廃棄物、スクラップ

### ⑦徴税責任

徴税は国税当局（the General Department of National Taxation、以下GDNT）が主管する。

1992年に大蔵省の監督下で設立された政府機関である。GDNTは21の県所在地に税務事務所、首都税務署の管轄下で9つの区税務事務所を保有している。県税務署・その他市管轄下で360の税務事務所がある。

UBの本部では100人を超えるスタッフがおり、県税務事務所では10～20人、UBの区税務

署では約 280 人、各村落では 1～5 人の徴税官を抱える。

諸税、公租、公課が存在し、税当局は 19 種類の国税と 4 種類の地方税を管轄する。税関は、輸入品にかかる輸入税、物品税、VAT 及び、ある種の輸出品に課される輸出税を管轄する。

#### ⑧二重租税協定

二国間の外国税額控除はモンゴルの居住者のみに適用される。二重課税を防止するために税節約方式を採用している。この場合、外国での支払い税額は、同一所得または資本について、支払われるモンゴルでの税金に対する控除として認められる。しかし、当該控除額はモンゴルでの同一所得にかかる支払い税額を超えることはできない。

モンゴルは二重租税協定を中国、フランス、ドイツ、インド、韓国、ロシア、英国と締結したが、米国や日本とはまだ締結していない。包括的な二国間租税条約が存在しないと、外国投資家は当該投資家の母国とモンゴルとで二重課税のリスクを被ることになる。

### (2) 会計制度

モンゴル政府は 2001 年 12 月に会計法を採択している（2002 年、2003 年、2006 年、2010 年に改定）。

現行法の目的は、会計原則、管理そして制度にかかる公的根拠を決定すること、会計記録の保持と事業会社及び組織が財務諸表を準備する際の関連規律を提供することである。

すべての企業は国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards、IFRS）に準拠し、政府機関は国際公会計基準（International Public Sector Accounting Standards、IPSAS）に則り以下の書類を作成する必要がある。

<作成書類>

- ・貸借対照表
- ・損益計算書
- ・財産変動表
- ・キャッシュフロー計算書
- ・その他要求される財務諸表の付属書類

これらの書類は、最高経営責任者（Chief Executive Officer、CEO）または役員会の議長、最高財務責任者（Chief Financial Officer、CFO）、監査人などのサインや捺印が必要である。

<会計年度と財務諸表の提出時期>

各年、1 月 1 日に始まり、12 月 31 日に終了する。

- ・事業会社と組織
  - 四半期財務諸表：翌月の 20 日までに提出
  - 年度の財務諸表：翌年の 2 月 10 日までに提出
- ・連結財務諸表を提出する事業会社、組織
  - 四半期財務諸表：翌月の 25 日までに提出
  - 年度の財務諸表：翌年の 2 月 25 日までに提出

### (3) 監査

1997 年に監査法が採択され、2006 年に改訂された。すべての監査は、国際監査標準（International Standards on Auditing、ISA）に従うことが要求される。

当局は、国際監査標準にあった国家監査標準を承認している。

各企業は、モンゴル公認会計士協会（Mongolian Institute of Certified Public Accountants、MONICPA）に認定された公認会計士により監査を受け、全ての取引及び財務諸表への記入にか



かる十分な証拠書類を保持する必要がある。監査期間に渡って財務諸表が財政状況を表わしていることを確保しなければならない。

#### <監査の監督制度>

監査活動を管理監督する国家機関は大蔵省である。「企業活動の特別許可に関する法律」または「監査法」に違反、或いは悪用した監査機関は大蔵省により許可が剥奪される。

監査法では、モンゴル公認会計士協会の役割が以下の通り定められている。

- ・専門会計士及び監査人の遵守事項を定め、それを遵守させること
- ・専門的な講習会を開催すること
- ・専門会計士の資格取得試験を行うこと
- ・監査機関に対し、運営上の指導や情報提供を行うこと

## 5.5. 労働及び雇用

モンゴルにおける労使関係、雇用、労働条件その他の労働関連事項は、モンゴル国憲法及び労働法によって定められている。以下に、外国投資企業が企業活動を実施する上でモンゴル国民の労働条件や雇用などについて述べると共に、モンゴルの労働市場についても言及する。

### (1) 労働法（付属資料 5. 労働法参照）

労働法の基本事項は The Law of Mongolia on Labor（1994年5月14日）で規定される。労働法は、モンゴル国内で運営されるすべての外国法人に適用される。被雇用者及び雇用者の法的権利、労働の基本的条件、雇用契約、解雇の手続き、集団交渉のルール、労働動議の解決、最低賃金、社会保障、職場の安全・保健に影響を与える種々の法律・規則が存在する。

労働法は、被雇用者の組合を結成する権利を与え、雇用主との個別交渉または組合交渉を通じて保障されるものよりも有利な労働者の権利または法的地位を認めている。

最低就労年齢は16歳である。ただし、保護者、あるいは関連官庁の同意があれば、14歳に達した者も雇用できる。18歳以下にはある種の保護措置も定められている。

雇用主は、社会保障及び健康保険を提供すること、業務上の事故、毒物、作業関連の疾病に対し補償する義務がある。法はさらに、身体不自由者を差別することを禁じている。25人以上の被雇用者を雇う企業は最低4%の身体不自由者を雇用するか、政府に月毎の支払いをしなければならない。

雇用者は、労働法に定められる特定の根拠がない限り、契約期間中は雇用契約を解消できない。組合争議は仲介人の利用、または労働仲裁法廷を使って解決される。被雇用者と雇用者との個別争議は、労働争議解決委員会または法廷で解決される。

### (2) 外国投資企業や駐在員事務所で勤務するモンゴル国民の労働条件

モンゴルの労働法に基づき、雇用者は労働者と労働契約を締結しなければならない。労働契約に基づき、労働関係における労働者、雇用者らの共通権利や義務、協定、労働に関する個人的及び共同協議、労働条件の指導、監督及び法律等に違反する者に負わせる責任を明確に定め、両者の相互平等の権利を尊重している。

#### ①労働契約の締結

雇用者は労働者と労働契約を書面にて締結し、一部を労働者に保有させねばならない。

#### ②労働契約の期間

- ・労働契約は有期と無期の2種類ある。
- ・労働契約の期間は実施内容や役割により、両者が定める。

- ・有期労働契約の期限が到来した後、両者が解約を希望しない場合、また、当該労働者が作業を引き続き行っている場合は、労働契約を、初期指定期間から延長したものと見なす。

### ③労働時間、休暇

- ・週間労働時間：40 時間（別に定めがない限り、土日は休日。年間の公共休日は9 日間。）
- ・1 日の労働時間：8 時間
- ・産休：週間の休日に加え法的公共休日と 120 日間の産休を取ることができる。
- ・年次有給休暇：年次有給休暇の基本期間は 15 労働日である。労働条件及び勤続年数を考慮して、15 日間の基本有給休暇に以下の日数を加える（2008.5.22 改正）。

6～10 年間 -----	平日 5 日
11～15 年間 -----	平日 7 日
16～20 年間 -----	平日 9 日
21～25 年間 -----	平日 12 日
26～31 年間 -----	平日 15 日
32 年以上 -----	平日 18 日

### ④給料、賃金

- ・2011 年 4 月 5 日から、最低労働賃金額は 140,400 トウグルグ/月と改定した。
- ・労働者の賃金は、月 2 回或いはそれ以上の回数で、一定の期日を定めて支払う。
- ・労働者の賃金は、時給、日給、週給で換算して支払うことができる。
- ・超過労働の場合は、22 時まででは標準時給の 1.5 倍、22 時以降は 2 倍を支払う。
- ・祝祭日の労働条件は、合意があることと、2 倍の時給が支払われることである。

### ⑤社会保険

雇用者及び労働契約による労働者は、社会保険、健康保険に必ず登録し、法律に定められた金額の社会保険料を毎月支払う義務がある。雇用者は、労働契約締結日以降、適額の手数料や料金が支払われた記録を労働者の社会保険手帳及び健康保険通帳に記帳する義務がある。社会保険料の割合については図表 5.4.2 を参照すること。

## (3) 雇用

### ①モンゴル市民の雇用

外国投資法によれば、外資法人は優先的にモンゴル人を雇用しなければならない、外国人を雇用する場合は特別な資格や技能をもっていなければならないとされており、社会保障・労働省の許可が必要である。

外国投資企業は、第一にモンゴル市民を雇用するものとする。外国市民は、特別または高度の資質を要する職務のために雇用される。労働力の移入に関する問題は、モンゴルの関連立法によって規律されるものとする（2002 年 1 月 3 日付改正、2008 年 5 月 29 日付修正）。

外国投資企業によって雇用されるモンゴル国民にかかる労働及び社会保障の事項は労働及び社会保障に関するモンゴルの法令によって規律されるものとする（2002 年 1 月 3 日付改正、2008 年 5 月 29 日付修正）。

外国投資企業によって雇用される外国市民は、モンゴルの法令に従って所得税を納付する義務を負い、納税後には自己の所得を海外へ送金することができる（2002 年 1 月 3 日付改正、2008 年 5 月 29 日付修正）。

## ②外国人の雇用

労働者の海外派遣及び海外からの労働力や専門家受け入れに関する法(The Law of Mongolia on Dispatching Workforce Abroad and Bringing Workforce and Specialist from Abroad, “the Labour Export and Import Law”、2001年4月12日)は、モンゴルでの雇用のための、外国人労働者の受け入れに係る主要手続きを定めている。同法第7条第1項は、モンゴル企業あるいはモンゴル人が以下の専門的技量を要する地位に外国人労働者及び専門家を雇うことを認めている。

- ・科学 ・教育 ・先進技術の紹介 ・新しい製造やサービスの実行
- ・装置の組み立て及び修理

また、関連官庁の事前承認を得たモンゴルでのプロジェクトでもその雇用を認めている。モンゴル政府は以下の主要3条件に基づいて外国労働者の年間割当を定めている。

ア. 産業部門、またはサブ部門

イ. 全労働者員数

ウ. 払込み資本金

外国労働者割り当てリストに載っていない企業は、モンゴル労働者に対する外国労働者比率(2011年は5%)に従わねばならない。

同法第7条第3項では、政府が次の二つのケースで、必要な労働者が国内では手当てできないという判断をすれば外国労働者を雇用できるとしている。

ア. プロジェクトや計画を実施するとき、又は国家的規模で建築物を建築する場合

イ. 自然災害の結果に対処する場合

## (4) 労働市場

モンゴルでは、マクロ経済の好調を受けて図表 5.5.1 の通り失業率は低下している。

図表 5.5.1 失業率の推移 (単位：%)

	2009年	2010年	2011年
失業率(男性)	11.6	9.9	7.7
失業率(女性)	11.5	9.2	7.4

(出典：NSO、2011)

図表 5.5.2 に見られる通り、賃金・給与の面では、鉱工業部門の活況により同部門で急上昇が見られる。その他高額な部門として金融、運輸通信部門、政府部門があり、鉱工業部門の経済成長による他部門への波及が始まっていると思われる。実際に建設業では建築技術者の不足もあり、鉱工業部門の給与高を踏まえ給与水準の上昇を求める動きが出てきているようである。

図表 5.5.2 産業別月額平均賃金（単位：千トゥグルグ）

	2008年	2009年	2010年	2011年
<b>国家平均</b>	<b>274.2</b>	<b>300.5</b>	<b>341.5</b>	<b>424.2</b>
農林漁業	158.1	175.2	172.5	203.1
鉱工業	328.6	405.8	572.2	732.4
製造業	268	271.9	326.2	402.6
電気ガス水道	240.9	297.3	337.5	411.3
建設	223.2	235.2	247.5	341.7
卸小売、修理	193.8	214	231.6	273
ホテルレストラン	193.2	239.7	267.1	298.3
運輸倉庫通信	255.6	294.7	369	487.2
金融仲介	471.4	600.3	696.7	886.9
不動産、賃貸その他	251.7	264.9	277.3	330.1
政府国防社会保障	327.3	332	351.1	434.3
教育	289.2	297.3	311.6	366.1
保健、社会保障	295.8	298.4	319.1	382.4
その他サービス	213.9	265	257.6	305.3

（出典：NSO、2011）

尚、新卒者の雇用に関しては、モンゴル国立大学、科学技術大学等の有名大学の卒業生は就職先が見つかる確率が高いが、知名度の低い大学については就職先がなかなか見つからない実態がある。

その一方で、鉱工業や建設業では、労働者や中間層の技術者が不足しており、特に現場労働者に関しては中国や北朝鮮から雇い入れている状況である。

## 5.6. 知的財産権

モンゴルは、1997年のWTO加盟にあたりTRIPS協定（Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property rights：知的所有権の貿易関連の側面に関する協定、以下TRIPS協定）に対するWTO協定の規定を完全に採択するコミットをしている。それに伴い、政府は、TRIPS協定、その他国際憲章、知的財産権に関する協定に準じて知的財産権にかかる国内法制を以下の通り制定した。

- ・特許及び著作権法（The Law on Patent and Copyright）を、TRIPS協定に一致するよう改定
- ・著作権に関する世界知的所有権機関条約（The World Intellectual Property Organization Copyright Treaty：WIPO著作権条約）及び、実演及びレコードに関する世界知的所有権機関条約（The WIPO Performances and Phonograms Treaty（in 2002）：WIPO実演・レコード条約）に加盟する法律を採択

副首相直轄の知的財産局がこれらの法律の執行や、紛争及び抗議の解決を担当する。紛争当事者が知的財産局の決定に不満がある場合は法廷に訴えることもできる。

### 5.6.1. 著作権及び著作隣接権

1993年の著作権法第3条で、著作物はその創造の時点から保護されると規定されている。法律では著作権の保護に関連した事項及び著作権に従う著作物の使用に関連して生じる問題を規定し

ている。

また著作者は、著作物または権利の移転契約を登録することができる（著作権の保護のための登録は不要）。さらに演技者の保護及びアーティストの権利（保護の範囲、期間を含む）、放送機関の権利、複製の製造者の権利も法律で定義されている。

### 5.6.2. 特許

モンゴル特許法の要点は以下の通りである。

#### ①特許保護期間

申請後 20 年間

#### ②特許の対象

方法（製造方法等）と製品（微生物、薬品、化学品、肥料、殺虫剤、除草剤、バイオテクノロジープロセス、バイオロジー及びジェネリック材料に関する発明を含む）

#### ③申請について

- ・申請先：知的財産局
- ・申請書の内容：申請、発明の記述、特許の要求及び内容
- ・受理日：申請後 20 日以内に必要書類の提出を経て申請受領日を受理日とする

#### ④審査

知的財産局は、所与の発明が特許法に規定した基準に合致するかどうか審査し、特許の可否を受理日から 9 ヶ月以内に決定しなくてはならない。承認されると公開される。公開後 3 ヶ月間、知的財産局に反対通知がなされない場合、特許が与えられる。

### 5.6.3. 商標及びその他の標識

2003 年に商標及び産地法（The Law on Trademark and Geographical Indications）が、商号及び商標法（Law on Trade Names and Trademarks）に代わり制定された。

#### ①保護の対象

商標、サービスマーク、集合マーク、証明マーク

#### ②申請について

- ・申請先：知的財産局
- ・申請者：国内及び外国の自然人及び法人
- ・登録期間：申請受理後 10 年間（更新も可能）
- ・受理日：申請が法律第 6 条 1 項に規定された条件に合致する場合は、申請受領日を申請受理日とする

#### ③審査

知的財産局は、申請受理後 12 ヶ月以内に標識が商標として登録に的確かどうかを審査する（6 ヶ月まで延長可能）。商標が認められた場合は、知的財産局は証明書を発行し申請を登録する。登録をもって商標と関連書面データが公開される。

### 5.6.4. 産地

商標及び産地法によると、産地は生産物が生産される国または地域の地理上の名称として定義される。これにより、品質、評価、その他生産物の特徴が特定される。しかし、地理名がモンゴルのある物資のシンボルとなる一般的な名称となる場合にはその名前は産地として保護されない可能性がある。

また、以下の場合には産地名は登録できない。

- ・モンゴルにおける同一商品で既に登録済みの商標または産地と同一である場合

・消費者の側で、その使用が同一性の混乱を生じさせる類似品にかかる、モンゴルで登録された商標または産地と類似または同一である場合

尚、産地の申請は、製品の特徴が地域と関連しており、その地域で生産されたものでなければ認められない。認められると知的財産局が、産地を国家産地登録簿に記録し証明書を発行する。それを経て登録された産地及び書面によるデータが公開される。

## 5.7. モンゴルの PPP (Public Private Partnership) 制度及び運用状況

### (1) PPP 制度の背景と定義

モンゴルでは全国的に社会インフラが未整備であるため、今後 10 年で推定インフラ投資額は 80 億～100 億ドル (モンゴル南部だけで 52 億ドル) に上ると言われる。しかしながら現状の政府予算では、マクロ経済安定化のための予算の平準化を図る予算安定法のため、政府資金からの支出に制限が設けられている。よって政府予算のみでは膨大な投資資金を賄いきれないため、民間部門に期待が寄せられている。

PPP とは民間の資金、経営能力及び技術力等を活用して、公共施設等の設計・建設、維持管理及び運営を行い、住民に対する公共サービスの提供を行う事業の調達方式をいう。日本では平成 11 年に民間の資金、経営能力、技術能力を活用して公共施設等の整備を図るため、PFI (Private Finance Initiative : プライベート・ファイナンス・イニシアティブ) 法が成立して以来多くの実績があるが、モンゴルではコンセッション法が成立したのが 2010 年 1 月である。

PPP を支援する法体系としては、コンセッション法、予算法、コンセッションの項目リスト、コンセッション付与に関する競争手続き規則及び評価手続き規則、モデル暫定資格書類、モデル入札書類等は準備済みである。

コンセッション協定は政府と民間の長期契約で、民間企業が公共サービスを提供する。最初のコンセッション協定は、The Mogoi River Thermal and Heating Power Plant (モゴイ川炭田 (ザブハン県) を拠点としたの火力発電所の建設) で、国有財産委員会とニューアジアマイニング社 (New Asia Mining) との間で BOT (Build Operate Transfer : 建設・運営・移転、以下 BOT) 契約として、締結された。コンセッション法は BOT 等 7 つのタイプのコンセッション 契約を定めている。

2012 年 9 月に新政権が発足したのを機に PPP の管理運営は経済開発省に全て集約された。同省イノベーション・官民パートナーシップ局コンセッション課 (旧 SPC) では、国際弁護士及び ADB の援助を受けて、標準コンセッション協定案を作成している。コンセッション法は政府が事業者を、ローン保証、一部融資、税額控除・免除、最低収入保証等で支援することを認めている。

#### <PPP のタイプ>

コンセッション法第 10 条に以下の 6 タイプが規定されている。

- ①建設・運用・移転 (Build-Operate-Transfer)
- ②建設・所有・運用 (Build-Own-Operate)
- ③建設・所有・運用・移転 (Build-Own-Operate-Transfer)
- ④建設・リース・移転 (Build-Lease-Transfer)
- ⑤設計・建設・ファイナンス・運用 (Design-Build-Finance-Operate)
- ⑥修復・運用・移転 (Renovate-Operate-Transfer)

#### <政府支援>

PPP への政府の支援は大きく以下の 3 点にまとめられる。

- ①土地取得

②投資・運営に対する補助金

③最低収入保証

また、コンセッション法第 30 条 Concession Law Art.30 (The state financial support) には次のように規定されている。

30.1. The state may provide the following financial support to the concessionaire:

30.1.1.借入保証

30.1.2.コンセッション融資の一部を提供

30.1.3.関連法律に基づき、税額控除及び税免除の提供

30.1.4.保険の付保

30.1.5.コンセッション協定に基づき、事業者の利益の最低額を保証

30.1.6.本法及びコンセッション協定が定める場合、補償を提供

30.1.7.その他

## (2) 運用状況

コンセッション法の制定以来、モンゴルでは公共サービスを民間の資金と経営で行おうという PPP 制度を導入している。現在、PPP 対象プロジェクトは 80 以上がリストアップされており、これまでに PPP 案件 2 件が締結、5 件が競争入札手続中である(道路 3 案件、エネルギー 2 案件)。

尚、PPP は各省庁から挙げられる国家 PPP と、市や県から挙げられる地域 PPP の 2 タイプがあるが、地域 PPP は未だ実績はない。

国家 PPP 案件の採択の流れは以下の通りである。

①担当官庁が案件を組成し経済開発省イノベーション・官民パートナーシップ局が国家の中長期発展の観点からチェックする。

②経済開発省総合企画課が予算の観点から審査し、大臣経由で閣議へ挙げる。

③承認後の案件運営は経済開発省イノベーション・官民パートナーシップ局コンセッション課が行う(外資からの提案についても F/S を踏まえた費用対経済効果等を記した書類をコンセッション課に提出すれば審査の対象となる)。

尚、PPP 案件の対象領域は社会部門、インフラ部門、環境部門を含む。

PPP は、そもそも、公共サービスを民間が行うのであるから、対象となる特定事業の選定、民間事業者の選定、客観的な評価、議会の議決、事業契約の締結等、一連の作業が必要となる。当事者としては、公共、民間事業主体、資金提供者が関わる。融資方式はプロジェクトファイナンス方式が取られることが多く、プロジェクトの実施上の当事者が多いことに加え、極めて複雑な書類手続きが必要になる。公共側が PPP の理念と手続きをプロジェクトの進行から終了時点まで、継続的にしっかり理解する必要がある。PPP は公共官庁-実施民間業者-資金提供者の間で、権利義務関係を定めた提出書類が必要になるが、各ステークホルダーが、仕組みや PPP の基本(公共サービスであること等)を十分認識しないとリスク配分が適切になされないまま実施され、結果的に失敗する恐れがある。

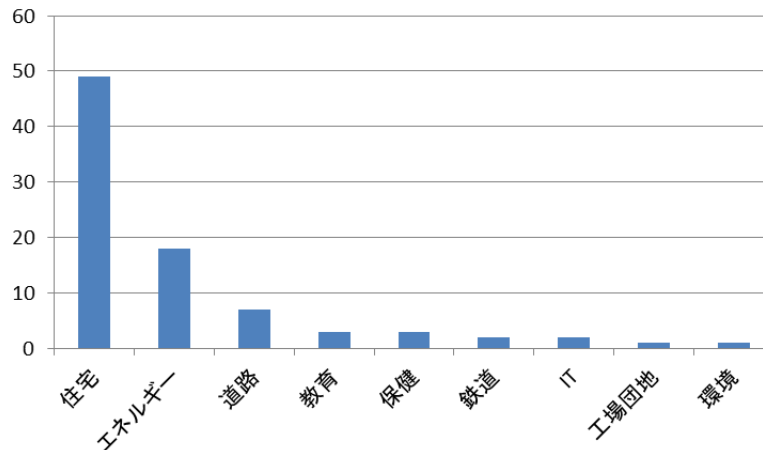
さらにモンゴルでは組織が縦割りの文化でもあるので、PPP の実現は基本的に困難な側面もあると言える。案件が開始されても問題が起こると資金提供者が処理を押し付けられることになる可能性が高い。

また、EBRD による「民間でできるのは MCS 社とニューコム社ぐらいだろう」という指摘は示唆に富む。それだけ盤石な企業基盤や政府とのネットワークがないと取り組めないということでもある。

<コンセッション案件リスト>

①PPP の分野別件数

図表 5.7.1 コンセッションリストにある PPP の分野別件数



(出典：SPC)

②PPP の代表的案件

- ・ UB での Combined Heat and Power Plant#5 (CHP5)  
：発電量 450MW (第 1 フェーズ分)
- ・ ドルノド (Dornod) 地方発電所：発電量 100MW
- ・ 3 ハイウェイプロジェクト：367 km (UB – ロシア)  
630 km (UB – 中国)  
53km (UB – 新空港)

③コンセッション適格設備のタイプ

図表 5.7.2 コンセッション適格設備のタイプ

社会分野	インフラ分野	環境分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康</li> <li>・教育</li> <li>・芸術</li> <li>・科学</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー、再生エネルギー</li> <li>・送配電設備</li> <li>・情報、通信</li> <li>・水供給、廃水処理</li> <li>・公共輸送</li> <li>・道路</li> <li>・建設</li> <li>・その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系</li> <li>・廃棄物処理</li> </ul>

(出典：SPC)

## 5.8. 環境保護法 (Environmental Protection Law of Mongolia, March 30, 1995)

### (1) 基本理念

本法の目的は健康で安全な環境のもとで生活する人権及び自然と調和した社会経済の発展、現在及び将来の世代の保護、自然資源の適切な利用、利用可能資源の回復を保障するために、国家、市民、企業と機関の関係を規律することにある。本法は、自然が不均衡に陥らないよう、次の資源を対象に悪影響からの保護を行う。



- ア. 土地及び土壌
- イ. 地下資源及び鉱物
- ウ. 水
- エ. 植物
- オ. 動物
- カ. 大気

市民は環境悪化の影響を受けて、身体、資産に損害を蒙った場合は、損害に責任を有する相手に対し、損害賠償の訴えを提起できる。国家は、健康で安全な環境の中で生活できる人権を確保するため、自然の均衡の維持及び環境の悪影響の回避に努めねばならない。

環境評価は自然資源を担当する中央官庁により承認された認定企業及び認定機関が実施する。国家行政機関は、環境観察ネットワーク（Environment Monitoring Network）を創設、維持しなければならない。モンゴル議会は、環境保護及び自然資源の適切な利用、回復にかかる国家政策を策定する。政府は、環境保護及び自然保護に関する国家計画を実施、推進するための組織を作る権利を有する。

首長は、中央国家行政機関、県、首都の勧告を受け市民、企業、機関身体に悪影響を与える生産その他の活動を禁止する権利を有する。

環境保護に関する政府の権限は、国家計画を策定し実施する為に組織を作ること、及び法に基づき、資源の利用、輸入、輸出量を制約できること、政府行政機関、県、首都の首長の勧告により、市民、企業、機関が所有の形態に拘わらず、健康及び環境に悪影響を与える生産その他の活動の実施を禁止することができる。中央国家行政機関は環境保護にかかる法及び国家政策の実施を行う。その他、県及び首都、ソム及び区についても管轄領域における環境保護の諸権利を有する。

環境保護法制に違反したものは刑罰及び行政罰の対象となる。刑法罰の対象とならない場合は、罰金が課される。

## （２）環境影響調査（EIA）制度

Law of Mongolia on Environmental Impact Assessment, January 22, 1998 第4条が基本となる。

自然資源を使用する新規プロジェクト及び工業、サービス及び建設にかかる現プロジェクトの改修や拡張は、審査を受けなければならない。審査はプロジェクトの実施とともに鉱工業、土地の使用権の所有または取得の前に行われる。県、首都、ソム、区の市民代表会議、首長及び地方環境監察官は、市民、企業及びプロジェクトを実施する機関による環境影響評価の実行を確認するものとする。プロジェクト実施者はプロジェクト説明書、技術的、経済的 F/S、仕事図、その他関連書類を自然・環境を担当する中央官庁に審査のために提出する。中央官庁は専門能力、業務経験を勘案して、環境影響評価の専門家を任命する。専門家が 12 営業日以内に以下の中から、結論を出す。

- ア. 詳細環境評価を行わないで、プロジェクトを実施する。
- イ. プロジェクトの実施に特別条件をつける。
- ウ. 詳細環境影響評価を求める。
- エ. 関連法規に違反している、装置及び技術の点で環境に悪影響がある、または土地の管理計画が欠如しているという理由でプロジェクトを却下する。

詳細環境評価を要求する場合は、本法 9 条により認定を受けた企業が実施する。詳細環境評価に含まれる事項は本法で特定されている。

プロジェクト実施者は詳細環境影響評価の勧告、結論を実施するために、環境保護計画及び環境モ

ニタリング計画を作成しなければならない。詳細及び手続きは本法に記載されている。詳細環境評価に従うプロジェクトが、住民の健康または環境に損害を与えた場合は、環境評価が再審査される。

本法の違反については、違反の程度に応じ、刑法罰、行政罰の対象になる。

大気、水質、騒音の環境基準については付属資料 10. 環境基準（規制）値を参照。

## 第6章 事業活動関連情報及び諸手続き

### 6.1. 資金調達

#### (1) 資金調達の方法

モンゴルでの資金調達には、①民間借入れ、②資本市場での調達、③政府資金、④リース利用等がある。

一般的に銀行貸付金利は、図表 6.1.1 に示す通り大変高く、また政府による資本支援や貸付制度は整っていない。資本市場での調達は IPO の基準を満たせば、モンゴル証券市場での株式発行による資金調達が可能であるが、成長支援資金という色合いが強く一定の事業活動の継続も求められる。

また、私募債の発行は制度的には認められている。

日本企業にとって最も効率的な資金調達は、日本で円を調達する方法である。一般的に日本の銀行でも初期取引の場合は金利が高く相応の担保が要求されるが、モンゴルでの資金調達に比べれば金利が低く、日本の制度金融が使えるので有利である。

#### (2) 商業銀行の貸付金利

図表 6.1.1 にモンゴル商業銀行の貸付金利表（1年物）を示す。

図表 6.1.1 モンゴル商業銀行の貸付金利表（年率%）

銀行名	2008年	2009年	2010年	2011年
ゴロムト銀行	19.3	21.4	18.9	15.6
キャピトン銀行	21.4	20.4	19.6	16.9
キャピタル銀行	22.1	20.5	20.9	18.8
クレジット銀行	18.5	—	20.0	19.8
運輸開発銀行	3.6	21.6	24.0	24.0
セービング銀行	21.6	20.6	20.1	20.1
ハス銀行	25.5	27.5	2.1	20.1
ハーン銀行	21.1	22.2	20.4	17.0
TDB(貿易開発銀行)	17.4	20.8	18.8	14.5
ウランバートルシティ銀行	19.4	18.4	17.3	14.2
エレル銀行	23.1	25.8	25.5	24.3
ナショナルインベストメント銀行	14.8	7.6	11.7	12.8
チンギスハーン銀行	14.4	17.2	15.8	15.9
ステート銀行	—	16.0	18.9	17.1

(出典：NSO、2010)

#### (3) 政府支援の貸付制度

政府支援による貸付制度は以下のようなものがある。

##### ①世界銀行の民間セクター開発ローン I 及び II

- ・現地通貨：年率 15%
- ・ドル：年率 11%（ただし、金額、期間、対象事業により異なる）

##### ②日本の ODA 「ツーステップローン」(対象：モンゴル資本が 50%以上の企業)

- ・現地通貨：年率 6～7%（商業銀行経由のため銀行のマージン約 3%が加算）

- ・ドル：LIBOR（ロンドン銀行間取引金利）＋ 商業銀行のマージン約 3%  
（金額、期間、対象事業により異なる）
- ③政府による中小企業支援のための基金「SME Development Fund」（対象：モンゴル資本が 100%の企業）
  - ・商業銀行経由の貸付
  - ・金利：50 百万トゥグルグまで----- 0.8%（月利）  
500 百万トゥグルグまで----- 1%（月利）
- ④PPP、コンセッション法に基づく金融支援
- ⑤その他政府で予算化されたプロジェクト資金

## 6.2. 外国為替

モンゴルでは報告制度はあるが、為替割当、送金制限等の為替管理は殆どなく自由である。従って、利潤の外貨送金も自由である。多額の外貨の持込については入国時に申告しなければならない。大手銀行はドル、日本円、中国元等の外貨預金も取り扱っており、金利は日本で円預金または外貨預金を行うより有利である。

## 6.3. 訴訟環境

### （1）外国投資家の観点

1992年に憲法が制定され、法律、規則等の憲法適合性については憲法法廷で審議される。民法（Civil Code）は2002年1月10日に交付された。契約の自由が規定されており、英国法の基礎である、禁止されていないものはすべて許されるという概念を含んでいる。株主の権利義務及び固定資産にかかるある種の契約を除き、契約当事者は海外の準拠法、外国言語による契約言語の優先、紛争の際のモンゴル及び海外での仲裁法廷等について合意できる。良く使われるのはロンドン法及びシンガポール法である。外国商事仲裁裁定に関する相五認定及び執行に関するニューヨーク協定に署名しているため、モンゴル法廷は外国での仲裁裁定を認知、執行する義務を有している。

モンゴル憲法第16条第3項は、市民の私的財産の没収徴用は禁止される。国家及びその機関が絶対的な公共目的のために、私的財産を没収・徴用する場合は、公正な補償と費用を支払うものとする規定している。外国投資法第8条にも投資保護規定が存在する。

### （2）法廷制度及び司法制度

#### ①法廷の階層

普通法廷には以下の3階層がある。

- ア. 第1審：ソム、インターソム、及び地方裁判所
- イ. 第2審：UB及び県（アイマグ）にある控訴裁判所
- ウ. 第3審：UBにある最高裁（最高法廷）

モンゴル最高裁は、米国、ロシア、中国、韓国の最高裁との間で国際協力を積極的に発展させている。

#### ②法廷での当事者

- ア. 判事：法務委員会の推薦を受け、大統領により終身職として任命された430人の判事がいる。急激に変化する法的環境に十分対応できておらず、特に市場経済知識が不十分で、商法適用に関して改善の余地が多い。

- イ. 弁護士：商法と市場経済知識が不足しており、さらに、実力よりも法廷に関わるネットワークを有している弁護士が引き立てられる傾向にある。  
また、弁護士は法廷聴聞で判事に多くの影響を与えられない仕組みになっている。判事が聴聞前にすでに決定しているためである。
- ウ. 検 事：1930年に設立された検事総局は大変強力な機関で、審議過程でかなりの影響力を保持している。

### ③行政裁判所

2004年に司法と行政の均衡をとるため、行政裁判所が設立された。行政裁判所は法的枠組みの中で行政機関の活動を管理する。

### ④憲法裁判所

1992年憲法では憲法裁判所を設定している。憲法裁判所は議会、大統領、最高裁判所、検事総局からの要請、または自身の権能、市民からの訴えで憲法上の論争を審議する。

### ⑤国際紛争

次の国際紛争はモンゴル法に従い、モンゴル法廷が特別管轄権を有する。

- ア. モンゴル内の不動産の所有、占有、利用に関する紛争
- イ. モンゴルで設立された法人の再編、破産に関する紛争、及びその法人、その支店、駐在員により提起された決定に関する紛争
- ウ. モンゴル法廷及びその他の権限ある組織による登録が有効か無効かの紛争
- エ. 特許、商標その他知的財産権の登録及び登録申請にかかる紛争
- オ. モンゴルで執行される判決、及びモンゴルで判決を執行する個人的要請

### ⑥国家仲裁法廷

1960年にモンゴル国家仲裁法廷が設立された。仲裁人は1名である。しかし、モンゴルでは一方の当事者が仲裁手続きの不公正を認めた場合、控訴審に法廷援助を要求することができる。

### ⑦国際訴訟

上記のモンゴル法廷の特別管轄を除き、外国司法を選択するにあたり法的制限はない。商事契約ではモンゴル当事者は自発的に外国の裁判所に提起するのはごく一般的なことである。

またモンゴルは「仲裁判断に関するニューヨーク条約」(New York Convention on Enforcement of Arbitration Awards)の締約国であるので、いかなる契約上の紛争でも仲裁条項を取り入れることを進めている。仲裁は当該条約の締約国であればどこでも構わない。仲裁であれば、手続きが弾力的であり、より高度の公平性が保たれる可能性がある。仲裁判断は契約当事者が条約の締約国での仲裁を選択すれば、モンゴルで執行可能である。

## (3) 訴訟手続き及び判決の執行

### ①一般的訴訟手続き

訴訟当事者は第1審の判決に不服の場合、第2審に14日以内に訴えを提起できる。訴訟当事者は控訴審に訴えを提起しても良いし、または30日以内であれば、直接最高裁に訴えることもできる。

## ②判決の執行

判決の執行機関は判決執行庁、刑務所、UB 及びアイマグの判決執行事務所から構成されている。判決執行庁は、その他判決執行機関の代理で、外国人や国内人とのコンタクトを取ることとなる。

## 6.4. ビジネスコスト

モンゴルへの外国投資は、首都 UB に集中しているため、UB における 2012 年時点のビジネスコストを以下に示す。進出を希望する企業は、事前に最新のビジネスコストの情報を入手することが必要である。

### 6.4.1. 人件費

各役職、職種別にかかる平均月給や必要な待遇例は図表 6.4.1 の通りである。

図表 6.4.1 各職業別の平均月給

役職	平均月給(トゥグルグ)	待遇
事務職、建設業、製造業、工場員	219,000~395,000	四半期ごとのボーナス
ドライバー、修理工、電気技工、配管工	250,000	四半期ごとまたは年間ボーナス
営業員、銀行員、受付係	600,000~900,000	製品・食品の割引、家賃補助、年間ボーナス
マーケティング専門家、会計スタッフ、翻訳・通訳者、公証人	500,000~600,000	コミッション、経費補助、住宅補助、年間ボーナス
シニアマネジャー、建築家、医師、エンジニア、弁護士、起業家、地質学者	800,000~900,000	ドライバー付、経費補助、諸待遇、年間ボーナス
会社役員、CEO、VP(副社長)、高学歴の学識者、政治家	2,500,000	利益配分、ストックオプション、車・住宅手当、海外旅行、年間ボーナス

(出典：International Labour Organization, Ministry of social welfare and labor)

### 6.4.2. オフィス賃料

地区や種類別のオフィス賃料の相場は図表 6.4.2 の通りである。

図表 6.4.2 各地区・種類別のオフィス賃料の相場

地区	種類	オフィス名	賃料(ドル/m <sup>2</sup> )
・市街地	オフィス(グレードA)	・セントラルタワー ・モニス(Monnis)タワー ・NCP	50 ~ 75
	オフィス(グレードB)	・Jiguur Grand ・ボディ(Bodi)タワー ・マックスタワー	35 ~ 50
	オフィス(グレードC)	・4万世帯プロジェクト(旧式ビル)	20 ~ 25
・工場地区 ・大使館地区 ・ナラントゥールザハ(Narantuul Zakh)周辺	オフィス(工場や小売店からの転用物件)	・モンフレッシュ(Monfresh) ・旧SOSクリニック ・ノマド	10 ~ 20
・工場地区、大使館地区 ・ナラントゥールザハ(Narantuul Zakh)周辺 ・空港周辺	工場や倉庫の空きスペース	・未使用工場や転用倉庫	5 ~ 15

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

- ・頭金：2～5年間の賃貸契約の場合はおおよそ賃料の1～2ヶ月分
- ・改装費：一般的に入居者の自己責任（特にグレードAタイプ）
- ・維持費：毎月の賃料の5～10%

### 6.4.3. 水道光熱費

モンゴルでは行政による補助金のおかげで、事業に係る水道光熱費は安価である。インフラ管理が一極集中型なのでオフィスビル単位で費用を配分する仕組みが大勢を占めている。図表6.4.3は、UB市の水道光熱費の概略である。

図表 6.4.3 UB市における水道光熱費

費用項目	価格
水道（産業用）	0.4～0.8ドル/1,000L （浄水、不純水に応じて変動）
電気	0.04～0.1ドル/ kWh （使用時間帯に応じて変動）
暖房	0.3～0.6ドル/m <sup>2</sup> /月 （建物や利用形態に応じて変動）

（出典：Creative Solutions Co.Ltd）

### 6.4.4. 通信費

#### （1）一般概要

1996年までモンゴルでは固定電話を取り扱うモンゴルテレコム社（Mongol Telecom Co.,Ltd）が唯一存在していたが、モンゴル政府が行った移動通信事業の入札により日本資本が参入しているモビコム社（Mobicom Co.,Ltd）が携帯電話事業を始めた。公衆電話については携帯電話が普及して以来、ほとんど見あたらない。

現在、固定電話会社1社、携帯電話会社5社が事業を行っている。

<固定電話会社>

- ・モンゴルテレコム社

<携帯電話会社>

- ・モビコム社
- ・スカイテル社（Skytel Co.,Ltd）
- ・ユニテル社（Unitel Co.,Ltd）
- ・ジーモバイル社（G Mobile）
- ・モンゴリアテレコム社（Mongolia Telecom Co.,Ltd）

#### （2）固定電話

電話会社から電話加入権（20～150ドル：番号に応じて変動）を購入し、HD（High Definition：高精度画質）ボックス（50ドル～）をケーブルに接続すれば、電話やインターネット、FAX、ケーブルTV等を利用できる。

図表 6.4.4 固定電話価格表

利用ケース	価格
国内(市内の固定電話)	10(トゥグルグ/分)
国内(市外の固定電話)	70(トゥグルグ/分)
国内(市内の携帯電話)	26~50(トゥグルグ/分)
国内(市外の携帯電話)	120~160(トゥグルグ/分)
国外(日本)	0.35(米セント/分)
国外(日本以外)	0.35~1.4(米セント/分)

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

### (3) 携帯電話、インターネット

携帯電話の使い方は基本的に、毎月利用した分を払う後払い方式とカードを購入して利用するプリペイド方式がある。後払い方式の場合、上述の携帯電話会社にて新規の契約を行う必要がある。支払いは現金及び振込で可能である。プリペイド方式は契約締結が不要で、上記携帯電話会社のロゴが出ているキオスク等でカードを入手して使用する。

インターネット接続プロバイダーが数社あり、申し込み同日にアカウントの取得ができるところがほとんどである。料金はプロバイダー、利用形態によって異なる。インターネットプロバイダー会社と契約を締結し、定期的に支払を行う。料金は速度やその他の条件により異なるが、例えば時間制限なしで2mbps~4mbps の速度であれば20,000~30,000 トゥグルグ/月程度である。

図表 6.4.5 インターネットプロバイダーの種類と料金

プロバイダー	携帯電話		インターネット			
	携帯番号取得価格 (トゥグルグ)	使用料 (トゥグルグ/分)	メニュー	料金 (トゥグルグ/月)	速度 (bps)	
モビコム (Mobicom Co.,Ltd)	ゴールド	55,000	プランA 70 (モビコム網)	9,900	512k	
	シルバー	47,500		プランB 100 (他社網)	14,900	1m
	ノーマル	7,000				
スカイテル (Skytel Co.,Ltd)	ゴールド	300,000	50	プランA	10,000	1g
	シルバー	150,000		プランB	24,000	5g
	ノーマル	20,000		プランC	120,000	30g
ユニテル (Unitel Co.,Ltd)	ゴールド	800,000	70	プランA	29,900	1m
	シルバー	300,000		プランB	39,900	2m
	ノーマル	100,000		プランC	54,900	3m
ジーモバイル (G Mobile Co.,Ltd)	ゴールド	500,000	50	プランA	12,000	2g
	シルバー	50,000		プランB	20,000	5g
	ノーマル	40,000		プランC	30,000	10g
モンゴリアテレコム (Mongolia Telecom Co.,Ltd)				プランA	27,900	2m
				プランB	45,900	3m
				プランC	160,900	4m

(出典：Creative Solutions Co.Ltd)

## 6.5. インフラ整備状況

モンゴルで事業活動を実施するには、インフラの整備状況を認識しておくことが大変重要となってくる。中国とロシアに挟まれた内陸国で海上への出口がないこと、人口がUB以外の地域ではまばらであることから、鉄道や道路の輸送ルートが未整備である。製品の輸送や人の移動が大変不便であることについての対応策を確立しておくことが求められる。以下に現在のインフラの状況を記述する。



## 6.5.1. 道路、鉄道、航空

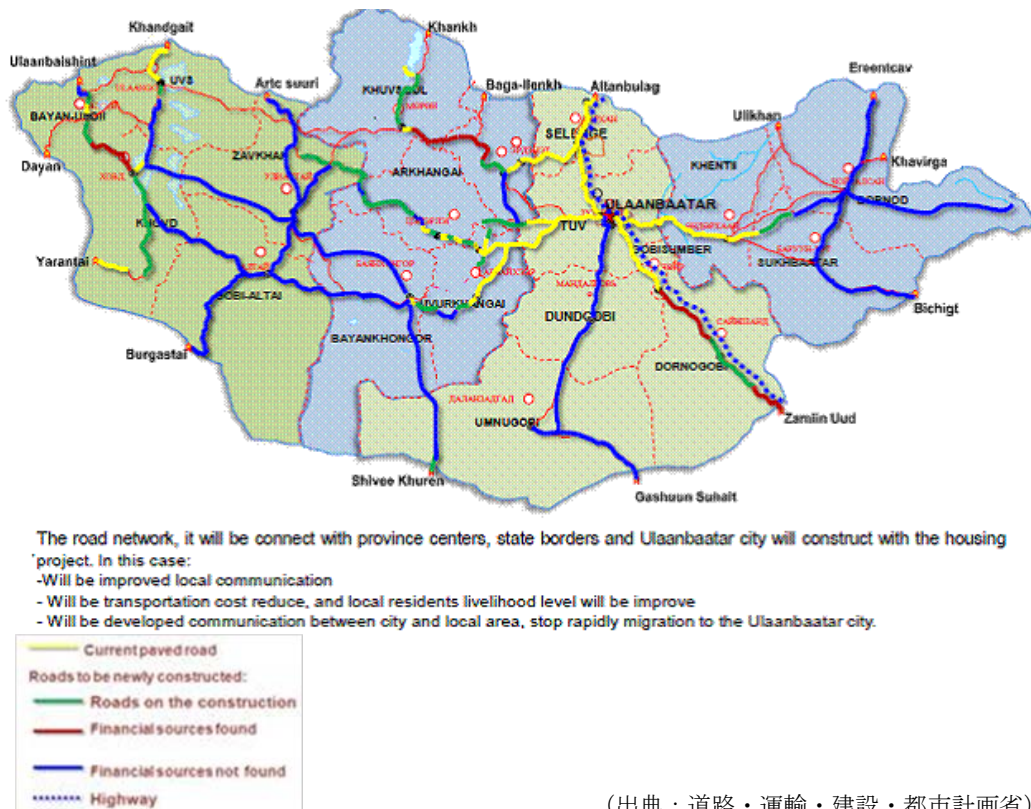
### (1) 道路

#### ①概況

国内の道路整備状況は、経済発展のペースに比べて大変遅れている。全国の国道は総長 11,200 km であるが、その内、舗装道路は 1,500km しかなく、1,440km は礫道、1,346km は改良自然道、6,900km は自然道である。橋が 364 ある内、178 が木橋である。また、橋の平均長は 37m である。

政府は約 48 億ドルをかけて新たに 7,875km の道路を建設する予定である。

図表 6.5.1 インフラ実行計画図



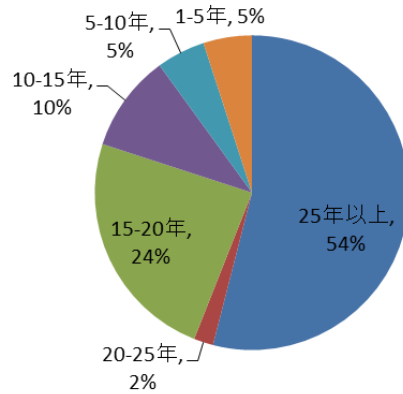
(出典：道路・運輸・建設・都市計画省)

#### ②UBの道路開発計画

モンゴル政府は、UBの新しい道路開発だけでなく、古い既存道路が多いため道路改修にも力を入れている（図表 6.5.2 参照）。

UBは急速に人口が増加しており、道路整備が追いつかない郊外地にアパート等住宅建設を行っている。UBから約 50km 離れたトブ（Tob）県における新空港の建設や、UB中心地の過密化及び大気汚染問題による複数大学の学園都市バガヌール（Baganuur）地域への移転等を計画している。

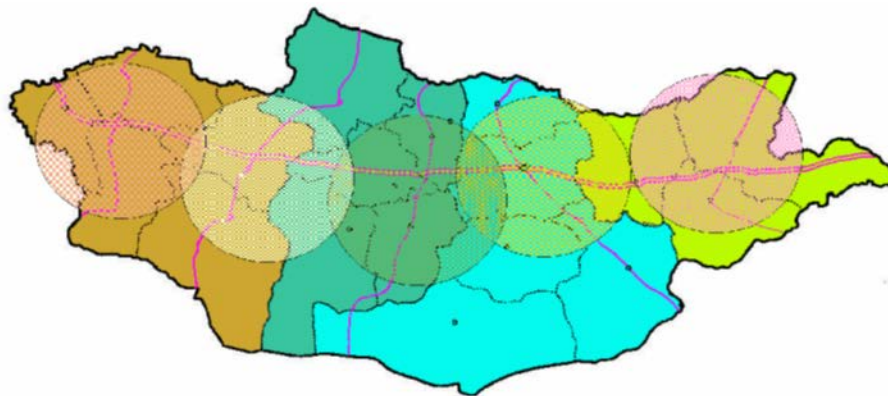
図表 6.5.2 UBにおける既存道路の経過年数（単位：％）



（出典：モンゴル政府資料）

また、図表 6.5.3 に示すように 2001 年に議会で構想が承認されたミレニアム道路 (Millennium Road) が、UB を基点に東西に 8~10 年かけて建設される。

図表 6.5.3 ミレニアム道路建設



（出典：モンゴル政府資料）

## （2）鉄 道

モンゴルの鉄道路線は総長 1,815km あり、このうち 1,110km がロシアと中国を結ぶ幹線鐵路である。239km が東部モンゴルにおける別系統の路線でロシア鉄道と連結していて、残りの 477km が幹線からの支線である。

モンゴルの鉄道は、特に南ゴビでの巨大鉱山からの鉱石運搬上極めて重要な機能を担う。モンゴル政府は、TT、OT に近いウハー フダグ (Ukhaa Khudag) からサインシャンドを經由、チョイバルサンに連結し、さらにチョイバルサンから既存鉄道でロシアを經由し太平洋に出る、全長 2,000km (30 億ドルの投資) の鉄道開発を計画している。

図表 6.5.4 鉄道計画

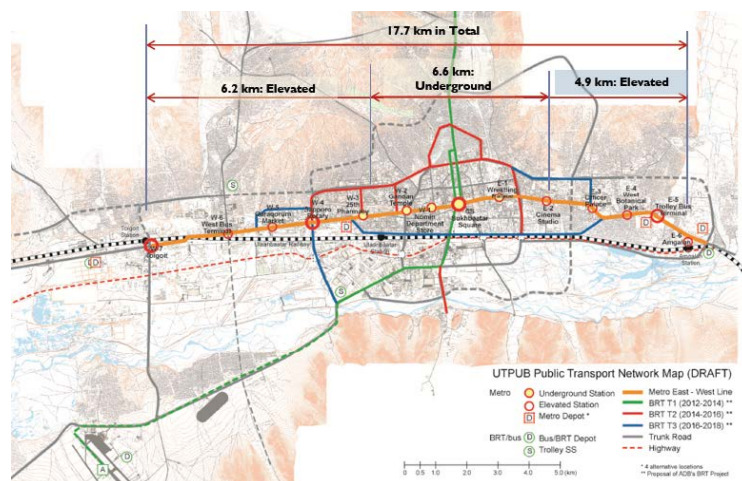


(3) UBでの地下鉄建設プロジェクト

UB市内の交通渋滞を解消するために、2013~2017年にかけてスーソング (Su Song) とソウルメトロ (Seoul Metro) とのコンソーシアムによる地下鉄建設プロジェクトが計画されている。

日本は2012年現在、協力準備調査 (PPPインフラ事業) を活用しUB地下鉄建設プロジェクトのF/Sを行なっている (図表 6.5.5 参照)。F/Sの結果により実施の可否が決定される。

図表 6.5.5 UB地下鉄建設プロジェクト

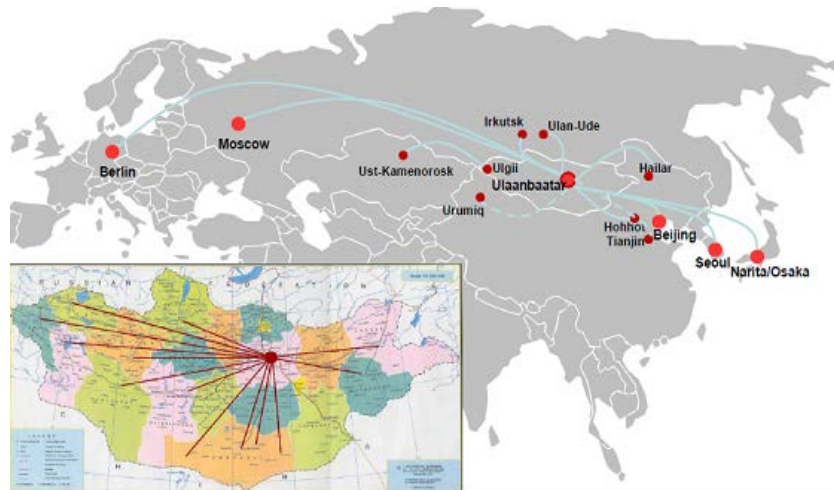


#### (4) 航空

社会経済活動において空運はモンゴルにとり重要であり、特に観光業の促進には不可欠である。国際航空輸送の98%はチンギスハン国際空港が使用されているが、強風や砂、降雪、視界不良によりしばしば閉鎖されることもある。

国内航空については、ターボプロップ航空機専用の17の地方空港がある。国内航空会社は、エズニス・エアウェイズ社、アエロモンゴリア航空 (Aeromongolia Airways)、モンゴリアン航空 (Mongolian Airlines) で国内航空運賃は距離により片道140～260ドル程度である (図表6.5.9参照)。

図表 6.5.6 既存の航空路線



(出典：道路・運輸・建設・都市計画省)

### 6.5.2. 輸送ルート

#### (1) 輸送ルート

日本 (東京、横浜、名古屋、神戸、博多) - モンゴル (UB) 間の輸送ルートとして、以下が挙げられる (図表 6.5.7 参照)。

- ①中国天津経由：所要日数 24～34 日 (5～9 月のピーク時はさらに延びる可能性あり)
- ②ロシア極東港 (ウラジオストク) 経由：所要日数 40 日以上

現在、②のロシア経由はコストも日数もかかることから、輸送のほとんどが①の天津経由となっている。

図表 6.5.7 モンゴルからの輸出ルート



(出典：モンゴル政府資料)

## (2) 輸送回廊の問題

内陸国であるため、陸上輸送で貿易財を輸出・輸入するには隣国である中国かロシアを通過しないと太平洋には出られず、①通過輸送と②輸送コストが問題となる。

尚、当問題は、韓国も陸上輸送を行うことができず、天津港を利用することとなり、日本と同様の問題を抱えている。

### ①通過輸送の問題

WTO その他の条約で内陸国に対する特別配慮が定められている。

モンゴル製品については、中国で輸出税等が賦課されずに輸出できる。しかしながら、石炭に関しては、モンゴルには選炭設備がなく、一旦中国へ輸出し選炭することで付加価値をつけて諸外国へ輸出することになるため、中国の税制に従うこととなり、モンゴルからの輸出が不利となる。

### ②輸送コストの問題

太平洋側に輸送するためには、ロシア経由よりも中国経由の方が圧倒的に距離は短い、以下のような問題点がある。

- ・石炭やコークス等は中国側の輸送能力不足のため、受入れを拒否されることがある。
- ・中国側から輸送運賃の値上げをされる。
- ・鉄道ゲージ（軌間）の基準の相違がある。モンゴルはロシアゲージで広軌を採用しているが中国は狭軌であるため、国境では各々の鉄道貨車への積み替え施設があり、時間と経費がかかる。
- ・石油製品については、中国側で特別ライセンスを受けた 5 社でないと中国国内を輸送することができない。

他方、ロシア経由に関しては距離が長く輸送コストが高くつき、又、ロシアが WTO に加盟していないため、国際上での議論が容易でない等の問題がある。しかし、以下の理由から既にロシアルートでの鉄道建設が始まっている。

- ・複数のルートが利用できる。
- ・社会主義時代を通じて、中国よりも関係が深い。
- ・ロシアのシベリア開発需要と併せて、モンゴル資源をロシアルートで太平洋側に送ることができる。
- ・TT 開発にロシア企業が参画した場合、シベリア鉄道の運賃が下がると言われている。

また、モンゴルの東側ドルノド県から満州を通して、豆満江の羅津あるいはロシアによる北朝鮮からの港湾借用地に運ぶルートは、輸送混雑が回避でき、距離的にも比較的短いというメリットがあるが、日本としては北朝鮮が絡むため安定性に難があると思われる。

今後も鉄道輸送の経済性、信頼性、安定性が確保されなければ、特に資源等は国際競争価格で海外へ輸出できないため、モンゴルの資源輸出は中国市場に依存するというリスクを負うことになる。中国、ロシアの港湾を借りて、モンゴル側の専用列車で輸送できればリスクは低減できるが、莫大な投資資金と隣国との交渉が絡むため困難な状況でもある。

従って、現状での最善策として、モンゴル国内で付加価値をつけて価格競争力を強化した上で輸送すること等が考えられる。政府が重化学工業化を推進しているのも付加価値を重視する姿勢の表れであると考えられる。

日本とモンゴルの貿易は日本からの輸出に大きく偏っている状況で、モンゴルから日本への便は貨物量が少なく輸送効率が低い状態にある。

### (3) 輸送にかかるコスト (モンゴル大手物流会社の例)

図表 6.5.8 輸送にかかるコスト

通過拠点	費用	コンテナのサイズ		備考
		20フィート	40フィート	
日本				
↓ ↑	輸送費	2,500ドル	4,500ドル	天津などで追加検査による手数料や輸送遅延料などが追加でかかることもある
ウランバートル駅				
↓ ↑	輸送費	100ドル	140ドル	
コンテナヤード	通関申請料	70ドル～	70ドル～	輸送品数目に応じて書類が増えるごとに1ページ当たり6～9ドル追加でかかる
↓ ↑	輸送費	320,000トゥグルグ	460,000トゥグルグ	
目的地				

(1フィート=30.48cm)

(出典：JICA 調査団)

### (4) 輸送に必要な書類

#### ①輸 出

- ア. 船荷証券 (Bill of lading)
- イ. 原産地証明書 (Certificate of origin)
- ウ. 商業送り状 (Commercial invoice)
- エ. 輸出申告書 (Customs export declaration)

- オ. 輸出予定届出証明書 (Export certificate)
- カ. 保険書類 (Insurance certificate)
- キ. パッキングリスト (Packing List)
- ク. 鉄道貨物引換証 (Railway Bill)
- ケ. 技術基準/衛生証明書 (Technical standard/health certificate)
- コ. 中国税関用の通行書類 (Transit document (for Chinese customs))

②輸 入

- ア. 船荷証券 (Bill of lading)
- イ. 原産地証明書 (Certificate of origin)
- ウ. 商業送り状 (Commercial invoice)
- エ. 輸入申告書 (Customs export declaration)
- オ. 輸入許可証 (Import permit)
- カ. 保険書類 (Insurance certificate)
- キ. 信用状 (Letter of Credit)
- ク. パッキングリスト (Packing List)
- ケ. 鉄道貨物引換証 (Railway Bill)
- コ. 技術基準/衛生証明書 (Technical standard/health certificate)
- サ. 中国税関用の通行税関申告書 (Transit document (for Chinese customs))

6.5.3. 主要都市から国内・国外市場へアクセス

(1) 航空 (UB 発、2012 年 11 月時点)

①国 内

図表 6.5.9 国内線フライト料金一覧 (UB 発)

行き先	所要時間	片道料金 (ドル)
ダラザドガド	1時間30分	177.63
チョイバルサン	1時間30分	257.1
ホフト	3時間	243.17
ムルン	1時間30分	177.63
オランゴム	1時間30分	138.1
バヤンホンゴル	1時間30分	177.63
バヤン・ウルギー	2時間30分	205
アルタイ	3時間	186.5

②国 外

図表 6.5.10 国際線フライト料金一覧 (UB 発)

行き先	所要時間	片道料金 (ドル)	備考
東京	4時間30分	567	
北京	4時間30分	231	
ソウル	3時間	357	
モスクワ	5時間50分	436	
米国 (NY)	15時間	720	トランジット2回
ベルリン	7時間	415	
カザフスタン	14時間35分	750	トランジット2回
ウズベキスタン	14時間20分	820	トランジット1回

(2) 鉄道 (UB 発、2012 年 11 月時点)

図表 6.5.11 鉄道料金一覧表

行き先	距離 (km)	指定席(トゥグルグ)	
		運賃	特急料金
スフバートル	372	6,300	18,900
エルデネット	402	6,800	20,300
ダルハン	273	5,000	15,300
バガハンガイ	107	2,600	8,400
アイラグ	350	6,000	18,300
サインシャンド	474	9,600	27,300
ザミンウード	709	7,400	21,500

(3) バス (UB 発、2012 年 11 月時点)

図表 6.5.12 バス料金一覧表

行き先	距離 (km)	料金 (トゥグルグ)
アルハンガイ(エルデネブルガン)	493	23,000
ハシャート	328	18,000
エルデネマンダル	510	25,000
ツェツェルレグ	570	27,000
ジャラガラント(Tuv Province)	135	6,500
バヤンホンゴル	630	27,000
グラバンブラグ	276	24,000
サンサル(ラシャント)	260	12,000
ゴビ・アルタイ(ユソソボラグ)	1,047	51,000
ダルハン	219	8,500
シャリーンゴル	236	10,000
サインツァガーン	260	13,000
デルゲルハンガイ	375	19,000
アダーツァグ	213	12,000
エルデネダライ	275	12,000
エルデネット(バヤンウンドル)	371	15,000
オリヤスタイ	1,023	48,000
アルバイヘール	431	20,000
ホジルト	400	18,000
サント	381	18,000
ハラホリン	365	17,000
ブルド・ズイル(ユスンズイル)	369	17,000
オラーンゴム	1,427	63,000
ムルン	671	32,000
南ゴビ(ダランザドガド)	553	32,000
バヤンジャラガラ	168	8,000
バヤン・ウルギー	1,709	80,000
ホブド	1,487	65,000

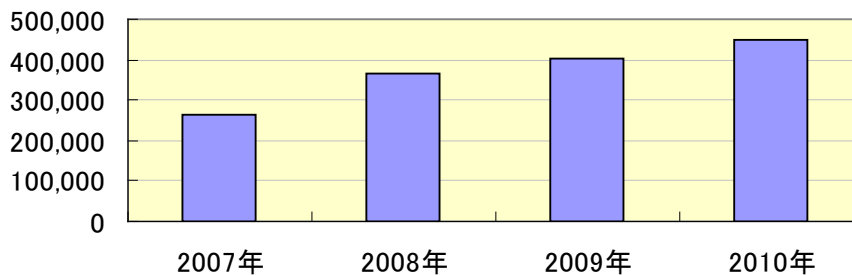


## 第7章 モンゴルの生活事情

### 7.1. 世帯所得

モンゴル人の世帯所得は図表 7.1.1 の通り年々増加し、2007～2010 年の間に 2 倍近くになっている。

図表 7.1.1 世帯所得の年度推移（単位：トゥグルグ）



(出典：NSO、2010)

### 7.2. 住居

#### (1) 住宅

住宅私有法の施行で、大半のアパートが住民の所有となったが、多くの住民が「ゲル」という伝統的な住居を含むゲル地区に住んでいる。ゲル地区には電気は通っているが、下水道が完備されていないため、近年、独立家屋の住宅建設が進んでいる。

賃貸物件を取り扱う不動産会社は複数あるが、一般的に、外国人は友人や知り合いの紹介によってアパートを借りることが多い。スタンダードな住居の家賃は敷地、部屋の大きさにより約 400～4,000 ドル/月である。外国人向けのアパートには、建物の入口に鍵が付いていたり管理人がいる等、セキュリティが整っている所が多く、階段等共有の場も清潔である。

一般的なモンゴル人が住んでいるアパートの管理は、各地域の住宅管理公社が行っており、公社によっては公共部分の汚れが目立ち、階段の電球がなかったりするところもある。尚、UB 市街はそれほど広くなくアパート群は中心部にあるため、居住地区による利便性の差はほとんどないが、近年、車両の増加による渋滞が激しくなっていることから、住居の選択においては周辺道路や日常良く利用する道路の渋滞状況について確認することが必要である。

停電や断水（毎年 6 月から 8 月末まで、冬期のための準備期間で暖房システムの定期的な修理を行う期間）がしばしばある。停電時用の非常灯、ろうそく、カセットコンロ等を常備する必要がある。断水時の蛇口の閉め忘れから水漏れの恐れがあるため、十分な注意が必要である。

#### (2) ホテル

モンゴルの高級ホテルでは英語が通じる。料金はシーズンによって変わるため、その都度問い合わせた方がよい。特に 6～8 月は観光客で込み合うため、価格が割高になる。また、外国投資の増加によりビジネス客の利用も増加傾向にあることから、早めの予約が必要である。赴任当初はホテルから徒歩で勤務先へ移動できるように、街の中心部にあるホテルを選ぶとよい。中規模ホテルではクレジットカードの表示があっても使えないことがあるため、事前に確認する必要がある。日本人がよく利用するホテルは次の通りである。

図表 7.2.1 日本人がよく利用するホテルの概要

クラス	ホテル名	連絡先	部屋数	場所
高級 ホテル	ケンピンスキー (Kempinski Hotel)	Web: www.kempinski-ulaanbaatar.com Mail: reservations.ulaanbaatar@kempinski.com Tel: +976-11-463463	102	エンフタイヴァン(平和)通 り東交差点
	ラマダ (Ramada Hotel)	Web: www.ramada.com Mail: ramada@ramadaubcitycenter.mn Tel: +976-70-141111,+976-70-142222	128	バヤンゴル地区17
	フラワー (Flower Hotel)	Web: www.flower-hotel.mn Mail: flowerhotel@maqicnet.mn Tel: +976-11-455652	184	サンサル商業センター向 かい
	チンギスハーン (Chingiskhaan Hotel)	Web: www.chinggis-hotel.com Mail: marketing@chinggis-hotel.com Tel: +976-11-313380	182	東京通り10
	バヤンゴル (Bayangol Hotel)	Web: www.bayangolhotel.mn Mail: info@bayangolhotel.mn Tel: +976-11-312255	208	チンギス通り、子供会館 はす向かい
	コンチネンタル (Continental Hotel)	Web: www.ubcontinentalhotel.com Mail: sales@ubcontinentalhotel.com Tel: +976-11-323829	37	日本大使館の近く
	パレス (Palace Hotel)	Web: www.palace.mn Mail: reservation@palace.mn Tel: +976-11-343565	88	ハンオール区の対独戦勝 記念碑北側
中級 ホテル	ミカ (Mika Hotel)	Web: www.mika.mn Tel: +976-11-310903,+976-11-310566	20	日本大使館を東へ
	ホワイト・ハウス (White House)	Web: www.whitehousehotel.mn Mail: info@whitehousehotel.mn Tel: +976-11-367872,+976-11-369967	67	市内西部の団地地区、エ ンフタイヴァン大通りから アマルサナー通りを北上
	テムジン (Temuujin Hotel)	Web: www.temuujin-hotel.com Mail: hotel_temuujin@yahoo.com Tel: +976-11-463322	29	15地区エンフタイヴァン (平和)大通り北側

(出典：JICA 調査団)

## 7.3. 食関係

### (1) 一般事情

UB 市内には、地区ごとにスーパーマーケット、商店、食品「ザハ」等が数多くあり、日常生活に必要な食料品と飲料の入手が可能である。近年、食材は輸入加工品も含め、かなり豊富に出回りつつある。ただし、肉や野菜については食品衛生の基準に満たしていない食品「ザハ」もある。尚、賞味期限が切れたものや鮮度の悪いものを販売していることもあるので、購入時には自分でよく確かめる必要がある。

### (2) 主な食品の購入可能な場所

#### ①パン、めん類

パンは常時入手でき、モンゴル産の黒パン、韓国系の菓子パン等も出回っている。めん類では、モンゴルめんが一般食品店で購入できるが、スパゲティ等は一部スーパー、大手市場のみで販売されている。

#### ②米

UB では比較的入手しやすい。中国米や韓国米が主流だが、時々日本米も出回っている。

#### ③肉

羊肉や牛肉が主だが、鶏肉や豚肉、馬肉も売られており、「骨付き」の量り売り（キロ単位）が現地では一般的である。韓国系スーパーでは挽き肉やスライス肉も販売されている。また、ハム、ソーセージ、ベーコンの食肉加工品は種類も豊富に出回っている。

#### ④野菜

ジャガイモ、タマネギ、ニンジン、ビートの根菜類の他、キャベツ、トマト、キュウリ、も

やし等も一年中見られるようになった。UB市内の一部食品「ザハ」では、市内近郊で栽培された野菜や北京からの輸入品の野菜（大根、白菜、ネギ、ピーマン、ナス、ホウレンソウ、ブロッコリー、カリフラワー、ニンニク、香菜等）も出回っているが、葉菜類をはじめ、真冬には野菜の流通量が減ることもある。

#### ⑤牛乳、乳製品

モンゴルでは「スーテイツァイ」と呼ばれるミルクティーを日常的に飲む習慣があるので、牛乳は多く消費されている。最近ではモンゴル製、ロシア製のパック入りの牛乳が販売されており、長期保管が可能になる等使い易い製品が多く販売されている。乳製品については、モンゴルの伝統的な乳製品（馬乳酒、ウルム、アーロール等）はUB市内のスーパーマーケット、大手食品市場等で販売されている。ヨーグルト、チーズ、バター等はモンゴル製品、輸入品も含め豊富に出回っている。

#### ⑥果物

輸入リンゴ、オレンジ、バナナは一年を通して出回っており、時期によってはイチゴ、キウイ、スイカ、モモ、ブドウ等が出回る。また、秋には地方で野摘みされたブルーベリーや「チャチャルガン」と呼ばれるサージ、苜桃等が出回り、風物詩となっている。

#### ⑦魚介類

内陸国であるため魚介類は少ないが、スーパーマーケットや一年中冷凍魚を売るための専用コーナーがある食品「ザハ」で購入できる。UB市内の一部店舗ではキャビア、イクラ、スモークサーモン等のロシア産品や中国等からのエビやイカの冷凍食品を置いていることもある。

#### ⑧調味料

みそ、しょうゆ、みりん、だしの素等の日本の調味料を入手できる店は、「スカイ・プラザ」や「エブリデイ」等があるが、品数は少なく高価である。それ以外の調味料（塩、砂糖）は十分入手できる。食用油はロシア製、韓国製等が豊富に出回っており、オリーブオイルも購入できる。また、各種スパイス類もUB市では輸入品が多く出回るようになっている。

#### ⑨酒類

国内製品では、特産品のアルヒ（多種のモンゴルウオッカ）の他、ドイツとの技術提携によるドラフトビールも出回っている。また、外国産、特にヨーロッパの酒類も豊富で、ビール、ウォッカ、ワイン、ウイスキー等一通りが揃う。日本酒や韓国焼酎は、一部の日本料理店、韓国料理店や高級スーパー等で入手できる。

#### ⑩飲料水

水道水を煮沸して飲めばまず安全であるが、国内製品も含めミネラルウォーターが豊富に出回っている。

### （3） 外食

UBではモンゴル料理に加え、日本料理、中国料理、ロシア料理、韓国料理、メキシコ料理、タイ料理、アフリカ料理、さらにはピザやハンバーガー等のファストフード、バーベキュー等もあり、種類は豊富である。また、バーやディスコも多数ある。ただし、酔っ払い客に絡まれたり、スリ等の犯罪被害を受けたりすることもあるので注意が必要である。最近では、深夜営業規制（深夜1時まで）が敷かれるケースもある。

## 7.4. 交通事情

市内の交通機関としては、バス、トロリーバス、タクシーがある。バスとトロリーバスは一律200トゥグルグで、朝7:00から夜22:00過ぎまで運行している。バスが増え、混雑は多少緩和されたものの、車内ではスリに対する注意が必要である。

タクシーは走行メーター制で、1kmあたり500トゥグルグであるが、ホテルからタクシーを呼ぶと1km分追加される。白タクも利用できるが、ほとんどのドライバーは英語が通じないのでお薦めはできない。

市外へは鉄道、長距離バス、国内航空等の公共交通を利用する。鉄道は、中国、ロシアへ続く南北に1本、途中分岐してエルデネット市へ走っているだけである。

## 7.5. 通信

### (1) 電話

1996年までモンゴルでは固定電話のモンゴルテレコム社が唯一存在していたが、モンゴル政府が行った移動通信事業の入札により日本資本が入っているモビコム社が携帯電話事業を始めて以来、大多数の市民が固定電話より携帯電話を利用している。

### (2) インターネット

接続コネクタの形状は、一般的に日本と同じモジュラージャックである。尚、大手のホテルでは部屋にインターネットの接続環境が整っている。UB市内にはインターネットカフェが数多く存在しており、日本語による利用が可能である。インターネットカフェの営業時間は朝10時頃からとなっているが、24時間営業をしている所もある。利用料金は600～800トゥグルグ/1時間程度である。また、日本センターではインターネットを利用することが出来る。原則的に利用時間は1時間である。

また、一部のレストランやカフェではWi-Fiが整備されており、インターネット環境はかなり改善されてきている。

## 7.6. 教育

### (1) 一般事情

モンゴルの教育制度は、1～6年生は小学、7～9年生は中学、10～12年生は高校という6・3・3制であり、9月に新学期が始まり6月まで授業がある。さらには4～6年間の学士課程や、職業訓練過程等様々な教育課程がある。基本的にモンゴル語で授業が行われているが、外国語（ロシア語、英語）で授業が行われる学校もいくつかある。教育水準は必ずしも高いとは言えず、教員の人材育成が重要な課題となっている。

### (2) 現地校、外国人学校

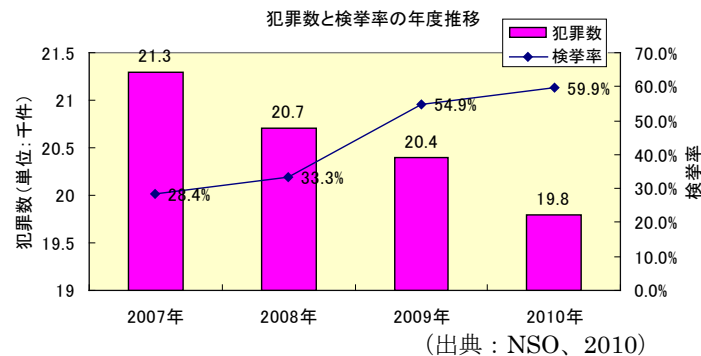
アメリカ人によってインターナショナルスクールが設立され、幼稚園児から中学生までが通っている。教材はアメリカ通信教育用のものを使用している。2011年10月現在、7～8名の日本人の子供が通っている。

## 7.7. 治安

### (1) 犯罪数

犯罪数が年々減少しているとともに、検挙率もこの4年間で2倍に向上している。

図表 7.7.1 犯罪数と検挙率の推移



## (2) 一般的状況

置き引き、空き巣、窃盗、バスの中や市場でのスリ等がほとんどであったが、近年、強盗、暴行、殺人等の凶悪犯罪も増加の傾向にあり、注意が必要である。また、人が多く混雑している「ザハ」(市場)等では特にスリに注意する。

<市中での防犯対策>

- ・外出時は派手な服装を避け、不必要な貴重品や現金は持ち歩かない。
- ・バッグは簡単に切ることのできない革製等の丈夫なものにし、例え切られても中の物が取り出せないよう、中身をまとめて袋に入れておく。バスや市場等では両手で抱えるよう心がける。
- ・旧正月の時等、酔っ払いを見かけたら、からまれないように相手をジロジロ見たりしない。からまれた場合は、相手が逆上しないよう激しい抵抗はせず、さりげなく人通りのあるほうへ移動し、警官、親子連れ等に話しかける等して注意をそらすよう努める。
- ・夜間の一人歩きはしない。

## 7.8. 医療、衛生

モンゴルは気温の年較差及び日較差が激しく、雨量の少ない典型的な大陸性気候である。また、近年、冬期の UB 市では、自動車の排気ガス、火力発電やゲルの暖房の煤煙等が原因と考えられる大気汚染が深刻化している。このような環境の中で、乾燥・脱水、日焼けや日射病、また、低温による凍傷や低体温症、呼吸器疾患等が問題となっている。

市民は原則として家庭医院・地区病院で初期診察を受け、必要に応じて、個々の専門病院または総合病院(国立)に紹介される体制が採られている。

邦人の場合、直接国立病院を受診することも可能だが、医薬品の不足や医療機器の老朽化等の理由で、入院が必要となる様なやむを得ない場合のみとなっている。またモンゴル国内で、日本と同等の医療対応を期待することはできないため、重症で手術や高度な検査等が必要となった場合は、全て国外への緊急移送が必要となる。保険未加入者は、数百万円を超える経費を自己負担しなければならないこともあるので、緊急移送も含まれた旅行傷害保険に加入しておく必要がある。

公共の救急車(電話 103)は利用できるが、モンゴル語しか通じないことも多く、また到着に時間がかかることもある。同乗した医師が現場で処置だけを行い、搬送されないことや搬送先が希望の医療機関にはならないこと、不要な料金が請求されること等の問題もあるといわれる。

日本で処方される医薬品と同じ効能・品質の薬剤を、モンゴルで入手することは一部を除いて困難である。政府は、比較的信頼度が高い大きな薬局での薬剤の購入を勧めているが、種類は多くない。常備薬や緊急時の医薬品は、日本の医療機関や薬局で十分な量を処方してもらい、持参

することが重要である。また、接種可能なワクチンも限られているため、予防接種は日本国内で済ませておくといよい。

基本的に、どの病院も予約なしで受診可能である。日本語を話せる医師はほとんどおらず、一部の医師は英語を話せることもあるが、モンゴル語の通訳を伴って受診した方が無難である。ホテルからの依頼をすれば、病院から医師の往診が可能な場合もある。

UB市内の主な医療機関は以下のとおりである。

- ・ SOS クリニック (SOS Medica Mongolia UB international clinic)

TEL : 11-464325, 11-464326, 11-464327

- ・ ウランバートル・ソングド病院

TEL : 70129000 FAX : 70111164

- ・ 国立外傷病院

TEL/FAX : 11-687795

- ・ 国立第一病院

TEL : 11-311544, 11-325122 FAX : 11-328857

- ・ 国立第二病院

TEL/FAX : 70-150200

- ・ 第三病院

TEL : 11-684049, 11-687885

※さらなる医療情報は外務省ホームページの「在外公館医務官情報：モンゴル」を参照

## 参考情報一覧（政府関連、投資関連ほか）

### （1）政府、公的機関

#### ■モンゴル経済開発省 外国投資調整・登記局

住所：Government Building-11 8<sup>th</sup> floor, Sambuu Street-11, Ulaanbaatar-211238, Mongolia

TEL：976-11-326040 FAX：976-11-324076

URL：www.investmongolia.com

#### ■モンゴル商工会議所

住所：MNCCI Building, Mahatma Gandhi street, 1st khoroo, Khan-Uul district, Ulaanbaatar 17011, Mongolia

TEL：976-11-327176 FAX：976-11-324620

URL：<http://en.mongolchamber.mn/>

Eメール：chamber@mongolchamber.mn

#### ■外国人登録事務所

住所：Buyant-Ukhaa, 10<sup>th</sup> Khoroo, Khan-Uul District, Ulaanbaatar, Mongolia

URL：<http://immigration.gov.mn/>

#### ■在モンゴル日本大使館

住所：Olympic Street, Sukhbaatar District, Ulaanbaatar, Mongolia

TEL：976-11-320777 FAX：976-11-313332

#### ■JICA モンゴル事務所

住所：7F,Bodi Tower, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia

郵便物宛先：JICA Mongolia Office P.O.BOX 682,Ulaanbaatar 13, MONGOLIA

TEL：976-11-325939 FAX：976-11-310845

URL：<http://www.jica.go.jp/mongolia/index.html>

Eメール：mg\_oso\_rep@jica.go.jp

#### ■モンゴル・日本人材開発センター

住所：Mongolia-Japan center Bldg., Ulaanbaatar, Mongolia

TEL：976-11-310879 FAX：976-11-317528

URL：<http://jp.japan-center.mn/>

Eメール：mjc@japan-center.mn

#### ■日本留学帰国学生の会（JUGAMO）

住所：Bridge Plaza Room301, Peace avenue, Bayanzurkh district, Ulaanbaatar-51, Mongolia

TEL：976-11-450941 FAX：976-11-458005

■モンゴル日本人商工会

問合せ窓口：住友商事（青木会長）

TEL：9911-2255

Eメール：yasunori.aoki@sumitomocorp.co.jp

加盟企業：DSMC、ISC、ハーン銀行、KU International、MobiCom、MYK Corp、UNIGAS LLC、アダマスマイニング、スルガコーポレーション、フロンティア証券、モンゴルサンコウセイキ、丸紅、伊藤忠商事、鴻池組、三井物産、住友商事、三菱商事、双日、大日本土木 等

(2) 民間機関

あくまでも参考情報として、当ガイド作成時点において英語もしくは日本語対応が可能と思われる民間機関を掲載する。

①法律事務所一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Legal Consulting LLC	TEL:+976-50-002277 FAX:+976-50-002277	Mail: info@legalconsulting.mn Web: http://www.legalconsulting.mn
Umguulul	TEL: 1933 FAX: -	Mail: info@umguulul.mn Web: http://www.umguulul.mn
Mongol-Umguulugh laws firm	TEL:+976-70-129206, +976-11-329206, +976-99-112572 FAX:+976-11-329206	Mail: info@advocate.mn Web: http://www.advocate.mn
Ulaanbaatar capital LLC	TEL:+976-11-319041 /ext 231/ FAX:+976-11-312839	Mail: info@ubcapital.mn Web: http://www.ubcapital.mn
Advocates professional law firm	TEL:+976-11-329442 FAX:+976-70-119442	Mail: batzaya@anand-advocates.mn Web: http://www.anand-advocates.mn
MahoneyLiotta LLC	TEL:+976-11-325344 FAX:+976-11-325358	Mail: info@mlmongolia.com Web: http://www.mlmongolia.com

②会計事務所一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Boston Star Consulting Co.,LTD	TEL: - FAX: -	Mail: sukhee@inv-m.com Web: http://www.inv-m.com
Ulaanbaatar capital LLC	TEL:+976-11-319041 /ext 231/ FAX:+976-11-312839	Mail: info@ubcapital.mn Web: http://www.ubcapital.mn
Sankhuu	TEL:+976-70-131045,+976-88-119010 FAX: -	Mail: magic.choice@yahoo.com Web: http://www.sanhuu.mn
DSMongoliaLLC	TEL:+976-77-224007,+976-77-224008 FAX:+976-77-224001	Mail: contact@dsmongolia.org Web: http://www.dsmongolia.org
Zuvluh	TEL:+976-11-461145 FAX:+976-11-461048	Mail: info@zuvluh.mn Web: http://www.zuvluh.mn
PWC Co.LTD	TEL: - FAX: -	Mail: - Web: http://www.pwc.com



③税理士事務所一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Sankhuu	TEL: +976-70-131045, +976-88-119015	Mail: magic.choice@yahoo.com
	FAX: -	Web: http://www.sankhuu.mn
Mongolian accountant's agency	TEL: +976-11-324647	Mail: tcc@mta.mn
	FAX: +976-11-324647	Web: http://www.mta.mn

④会社設立等支援会社一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Mad Investment solutions	TEL: +976-95-853377, +976-99-770439	Mail: info@mad-mongolia.com
	FAX: +976-11-312500	Web: http://www.mad-mongolia.com
Corporate Management Company (ICMC)	TEL: +976-11-319270	Mail: info@icmc-mongolia.net
	FAX: +976-11-327829	Web: http://www.icmc-mongolia.net
Citiko Audit LLC	TEL: +976-70-116489, +976-70-116494	Mail: citicoinfo@citicoaudit.mn
	FAX: +976-70-116489	Web: http://www.citicoaudit.mn
Mongol Advocates Law firm	TEL: +976-11-329206	Mail: info@advocate.mn
	FAX: +976-11-329206	Web: http://www.advocate.mn
Corporate INTL	TEL: +976-11-462393	Mail: tsets@tsetslaw.mn
	FAX: +976-11-462392	Web: http://www.tsetslaw.mn

⑤通訳・翻訳業者一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Beril translation center	TEL: +976-96-659047, +976-96-206122	Mail: odnoo1115@yahoo.com
	FAX: -	Web: -
Soyon translation center	TEL: +976-88-115344, +976-98-115344	Mail: unenbat@soyon.mn
	FAX: +976-70-110296	Web: http://www.soyon.mn
Santis translation center	TEL: +976-11-318313	Mail: -
	FAX: +976-11-326373	Web: http://www.santis.mn
Monarch LLC	TEL: +976-99-033956, +976-70-106020	Mail: monarch.agency@yahoo.com
	FAX: +976-70-106020	Web: http://www.monarch.mn,
Ayumi learning LLC	TEL: +976-70-151617, +976-99-059653	Mail: ayumi@yahoo.com
	FAX: +976-70-151617	Web: bubuu10@yahoo.com
Duuren trade LLC	TEL: +976-99-086168, +976-11-319089	Mail: info@duurentrade.mn
	FAX: +976-11-319089	Web: -
GT Nomin LLC	TEL: +976-11-312782, +976-99-192411	Mail: t_nomin@yahoo.com
	FAX: +976-11-312782	Web: -
Enjoy Mongolia LLC	TEL: +976-99-291898, +976-91-913929	Mail: enjoymongolia@yahoo.com
	FAX: -	Web: http://www.enjoy-mongolia.mn
Pageis translation center	TEL: +976-96-667885	Mail: -
	FAX: -	Web: http://www.pagei-s.mn
I.C.M.C LLC	TEL: +976-11-319270	Mail: bebarnes@icmc-mongolia.net
	FAX: -	Web: http://www.icmc-mongolia.net

⑥ レンタカー、ドライバー斡旋業者一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Noyon zuuch company	TEL: +976-70-1111950	Mail: info@call1950.mn
	FAX: +976-70-1111950	Web: http://www.call1950.mn
Sain service company	TEL: +976-11-310909	Mail: -
	FAX: -	Web: -
Auto 103 LLC	TEL: +976-70-120120	Mail: -
	FAX: -	Web: -
GSCN company	TEL: +976-91-026666	Mail: -
	FAX: +976-11-451133	Web: http://gscn.blog.gogo.mn/index.html

⑦ 輸送会社一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Land Bridge International freight forwarders	TEL: +976-70-131310	Mail: info@landbridge.mn
	FAX: +976-70-131306	Web: www.landbridge.mn/
Material Impex	TEL: +976-11-363806, +976-11-305305	Mail: bolortuya@materialimpex.mn
	FAX: +976-11-367904, +976-11-367877	Web: www.materialimpex.mn
NOTSLLC	TEL: +976-70-181234	Mail: auto@nots.mn
	FAX: +976-70-181234	Web: www.nots.mn
Global worldwide LLC	TEL: +976-70-112239, +976-99-086414	Mail: battsatsral@globalworld.mn
	FAX: +976-11-344383	Web: www.globalworld.mn
Transgate Co.,Ltd	TEL: +976-77-310569, +976-77-310568, +976-77-310567	Mail: info@transgate.mn
	FAX: +976-70-310570	Web: www.transgate.mn
Tuushin LLC	TEL: +976-11-320064, +976-11-312092	Mail: info@tuushin.mn
	FAX: +976-11-325510	Web: www.tuushin.mn
ACW Trans LLC	TEL: +976-70-115068, +976-70-115028	Mail: acwtrans@magicnet.mn
	FAX: +976-70-115028	Web: www.acwtrans.mn
Monlogistics World Wide LLC	TEL: +976-70-111616, +976-70-115454	Mail: admin@mlw.mn
	FAX: +976-70-111616	Web: www.mlw.mn
DHL LLC	TEL: +976-70-114456, +976-99-114456, +976-11-310919	Mail: dhl.mongolia@dhl.com
	FAX: +976-11-325772	Web: www.dhl.mn
Mongolian National International freight forwards	TEL: +976-91-917443	Mail: info@mnffa.mn
	FAX: -	Web: www.mnffa.mn

⑧ 通関業者一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Erin International LLC	TEL: +976-11-680289	Mail: info@erininternational.mn
	FAX: +976-11-681709	Web: www.erininternational.mn
Tuushin Co.,LTD	TEL: +976-11-320064	Mail: info@tuushin.mn
	FAX: +976-11-322800	Web: www.tuushin.mn
Manbu LLC	TEL: +976-01-10818	Mail: manbu_iff@yahoo.com
	FAX: +976-11-253250	Web: www.manbu_CB.com
UB Trans LLC	TEL: +976-11-242163, +976-11-301766	Mail: info@ubtrans.mn
	FAX: +976-11-360102	Web: www.ubtrans.mn
Transgate LLC	TEL: +976-70-111616, +976-77-310569	Mail: info@transgate.mn
	FAX: +976-70-310569	Web: www.transgate.mn
Mongol Trans LLC	TEL: +976-70-188803	Mail: mtc@mongoltrans.mn
	FAX: +976-70-188803	Web: www.yp.mn

⑨旅行会社

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
Ar Mongol	TEL: +976-11-325152	Mail: ar_mongol_travel@magicnet.mn
	FAX: +976-11-325153	Web: www.mongoliatourism.info/
HIS Mongol	TEL: +976-11-332348	Mail: info@his-mongol.com
	FAX: -	Web: www.his-j.com/dst/mongol.htm
JIGUUR	TEL: +976-99-028887	Mail: jiguur@visit2mongolia.mn
	FAX: +976-11-461542, +976-11-462319	Web: www.visit2mongolia.mn
JUULCHIN TOURISM CORPORATION	TEL: +976-11-328898, +976-11-323144	Mail: info@juulchin.com
	FAX: -	Web: www.juulchin.com
OT Tour	TEL: +976-99-136772, +976-99-191760	Mail: contact@ottour.com
	FAX: +976-11-305762	Web: www.ottour.com
GREAT GENGHIS TOURS EXPEDITIONS	TEL: +976-11-323812	Mail: greatgenghis@magicnet.mn
	FAX: +976-11-310455	Web: www.greatgenghis.com
MONGOLIA EXPEDITIONS	TEL: +976-99-086929, +976-99-096911	Mail: info@mongolia-expeditions.com
	FAX: +976-11-329279	Web: www.mongolia-expeditions.com
MONGOLIAN GUIDE	TEL: +976-91-913166, +976-99-903166	Mail: info@mongolianguideschool.com
	FAX: +976-11-320493	Web: www.mongolianguidetours.com
NEW JUULCHIN TOURS	TEL: +976-99-909401, +976-88-099401	Mail: info@juulchinworld.com
	FAX: +976-11-319401, +976-11-319402	Web: www.juulchinworld.com

⑩金融機関一覧

企業名	電話、FAX	連絡先メールアドレス、Webサイト
ハーン銀行 (Khan bank)	TEL: +976-11-332333	Mail: -
	FAX: +976-70-117023	Web: www.khanbank.com
貿易開発銀行 (Trade and Development Bank)	TEL: +976-11-322362	Mail: info@tdbm.mn
	FAX: +976-70-161988	Web: www.tdbm.mn
フロンティア証券 (Frontier Securities)	TEL: +976-7011-9999	Mail: info@frontier.mn
	FAX: +976-7011-1991	Web: www.frontier.mn/

## 付属資料

付属資料1. 事業活動開始のフロー

参考図表-1 雇用や会計処理に係る納税の概要とサンプル様式

手続き	付属資料1の該当番号		備考
	詳細	参考フォーム	
社員の雇用			
雇用契約		⑥	
社会保険加入	①	⑦	
納税(社会保険料)	①	⑦	毎月、管轄機関へ納める。
会計処理			
納税			
・法人税	②	⑧	
・所得税(個人)	③		
・付加価値税	④		
・輸出入に係る関税	⑤		
財務諸表の提出		⑨	四半期ごとに翌月の10日までに提出。 年度決算は翌年2月10日までに提出。

①社会保険

Social insurance is a socioeconomic measure including the payment of insurance premiums by citizens (hereinafter referred to as insured), state and business entities and organizations in accordance with the prescribed procedure, the formation of social insurance funds and payment of pensions, benefits and payments, as provided by law to an insured directly in case of retirement, loss of the ability to work, sickness, or unemployment, and to his or her dependents in case of death.

There shall be the following types of social insurance:

1. Pension insurance;
2. Benefit insurance;
3. Health insurance;
4. Industrial accident and occupational disease insurance;
5. Unemployment insurance;

The insured and employers shall pay monthly social insurance premiums in the following amounts:

参考図表-2 社会保障の種類

Insurance type	Premium amount (by percentage)	
	employer's payroll and similar revenue	insured's salary and similar income
1) Pension insurance	7.0	7.0
2) Benefit insurance	0.5	0.5
3) Health insurance	2.0	2.0
4) Industrial accident and occupational disease insurance	1.0, 2.0 & 3.0	—
5) Unemployment insurance	0.5	0.5

**Procedure for payment of social insurance premiums**

A foreign entity, a foreign business enterprise and international institutions carrying out any activities in the territory of Mongolia shall pay the premiums of its Mongolian employees to the social insurance organization within that territory at the rate stated in the paragraph 1 of article 15 and article 16 of law of Mongolia on Social Insurance.

1. Employers shall retain social insurance premium due to be paid by the insured from their

wages and other similar income at each payment, calculated in the amounts and in the proportions stated in paragraph 1 of Article 15 of law of Mongolia on Social Insurance, and shall transfer it to the central bank account of the insurance authority within that month.

2. Premiums shall be calculated according to the premium report or the employer's payroll and similar revenue, the insured's wages and similar income, and premium identifying sheet, and shall be paid by means of a bank. The insured referred to in paragraph 3 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance may pay his or her premiums in cash.

3. The monthly premiums to be paid by the insured and employers, as referred to in paragraph 2 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance, shall be paid before the 5th of the following month. The deadline for paying premiums and reporting is the same for all types of social insurance. If this deadline coincides with a weekend or public holiday, the premium shall be paid and reported next working day.

4. The calculation of the premium to be paid by an insured referred to in paragraph 2 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance, shall be done by the accountant of the relevant business entity or organization, and for an insured referred to in paragraph 3 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance by an employee of the social insurance authority.

5. A foreign entity, a foreign business enterprise and international institutions carrying out any activities in the territory of Mongolia shall pay the premiums of its Mongolian employees to the social insurance organization within that territory at the rate stated in the paragraph 1 of article 15 and paragraphs 1,2,3,4 of article 16 of law of Mongolia on Social Insurance.

6. An insured referred to in paragraph 3 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance shall pay premiums in accordance with the contract concluded with the insurer.

### **The duty of the employer and employee to pay insurance premiums**

1. Employers and insured as defined in paragraph 2 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance shall assume the following duties:

1) to honestly and correctly calculate the payroll and similar income and the premium levied on them, and to pay it by the due date;

2) to submit information and reports in respect of imposing and paying premiums to the insurance authority;

3) to keep primary and accounting records related to social insurance in proper order and to prepare balance statements;

4) to meet the legitimate demands of the competent authority or official to eliminate any violation of social insurance legislation.

2. An insured as defined in paragraph 3 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance shall discharge the duties in respect of paying the social insurance premiums provided in the insurance contract concluded with the insurer.

### **Termination of the duty to pay premiums or transfer of this duty to another or suspension of this duty**

1. The duty to pay premiums shall terminate in the following cases:

1) on the death of the insured or if the insured is declared to be deceased;

2) on the employer's dissolution or bankruptcy;

3) on expiry of the term of the insurance policy;

4) on termination of a labor contract.

2. If an employer merges, splits or undergoes any other form of reorganization, the duty to pay premiums shall be assigned to the newly formed entity.

3. As provided in paragraph 5 of Article 19 of law of Mongolia on Social Insurance, complaints of the insured shall not form a basis for halting or terminating the duty to pay premiums.

Only a decision of the appropriate level court considering complaint may lead to suspension of the payment of premiums.

4. If an employer becomes bankrupt or dissolves for other reasons, the dissolution commission or the creditors' council shall transfer any unpaid premium from the employer's property to the appropriate social insurance fund in accordance with the procedure stipulated by law.

## **Rights of employers and insured to in respect of the payment of premiums**

Employers and insured shall enjoy the following rights to in respect of payment of premiums:

1) to familiarize themselves with the audit reports or deeds of the social insurance authority or inspector, and if necessary to make comments;

2) to receive or give comments on the imposition or payment of premiums, and to audit results;

3) to be compensated for damage caused by the fault of the social insurance authority or its employees in accordance with the procedures provided in law;

4) to recover excesses of premiums paid or to have them deducted from the next premium;

5) to make complaints about unlawful actions of the social insurance authority or its employees to their higher authorities or officials, and shall take court action if in disagreement with their decision.

## **Liability**

1. If breach of the social insurance legislation does not involve criminal responsibility the social insurance premium the payer shall incur the following liabilities:

1) if an employer has willfully concealed or reduced the payroll and similar income on which premiums are imposed, the premium that would have been imposed on the concealed or reduced the revenues shall be paid and penalties equal to the revenue will be imposed;

2) penalties at the rate of **0.3 % of the total amount of underpaid** or outstanding premium shall be imposed for each day the premium is in arrears;

3) if underpayment of the premium is due to errors in calculation, the underpaid premium shall be paid and penalties imposed at the **rate of 0.1% for each day after the calculation error**, but the total amount of the penalties shall not exceed 30% of the underpaid premium;

4) In event of breaching the paragraphs 1 and 3 of Article 16 of law of Mongolia on Social Insurance, not officially opening registered social insurance book and causing damages the insured's rights and entitlements because of such infringements, a fine of 10000-50000 tugrugs shall be imposed to the responsible official and 100000-250000 tugrugs to the responsible organization or business entity respectively;

5) In event of disbursing or using the resources of social insurance fund for non-intended purpose, the illegally obtained income or assets shall be confiscated and a fine of 5000-50000 tugrugs shall be imposed to the responsible official and 100000-250000 tugrugs to the responsible organization or business entity respectively;

6) A fine of 10000-50000 tugrugs shall be imposed to the official who wrongly determined the reason of work ability lose, percentage, time duration and labor conditions;

7) other liabilities provided by law of Mongolia on Social Insurance.

2. If pensions, benefits or payments are set without justifiable basis or in excessive amounts as result of compiling false documents or providing wrong information, the unjustified pensions, benefits and payments shall be paid back and a fine of 5000-30000 tugrugs for the citizen, 30000-60000 tugrugs shall be imposed respectively for the responsible official and 100000-250000 tugrugs to the responsible organization or business entity.

3. If pensions and benefits are not paid at the due time a penalty shall be paid for each day of delaying in the amount calculated at the current interest rate in deposits of the bank issuing

the pension or benefit, based on the total amount of pension or benefit and the guilty employee will be imposed under penalty equal to 25000-50000 tugrugs.

4. Subparagraph 2 of paragraph 1, paragraphs 2 and 3 of the present Article are applied to insured as defined in paragraph 3 of Article 4 of law of Mongolia on Social Insurance.

②法人税

Who is Tax Payer?

An economic entity that earns gross taxable income for the tax year or that is liable to pay tax under this law, even though the same income may not have been earned, shall be a taxpayer.

Taxable income and rates

参考図表-3 A taxpayer that resides in Mongolia

1.	Income from primary and auxiliary production and sale of work and services;	Income within 0-3.0 billion tugriks, it shall be taxed at the rate of 10 percent	
2.	Income from goods, work and service received from others free of charge;		
3.	Realized gain from foreign currency exchange rate;		
4.	Income from technical, management, consulting, and other services;		
5.	Income from interest and/or penalty for nonperformance of contract duties, and compensation for a damage;		Income that exceeds 3.0 billion tugriks shall be taxed 300.0 million tugriks plus 25 percent of income exceeding 3.0 billion tugriks
6.	Income from immovable and movable property lease;		
7.	Income from sale of movable property;		
8.	Income from sale of share and securities;		
9.	Income from sale tangible asset;		
10.	Income from interest;		
11.	Income from dividend;	10%	
12.	Income from royalty;	30%	
13.	Income from sale of rights;		
14.	Income from quiz, gambling and lottery;	40%	
15.	Income from sale and rental of erotic publications, books, and video recording and service of erotic performance		
16.	Income from sale of immovable property;	2%	

\*Notes: Tugrik=Mongolian currency

A taxpayer that does not reside in Mongolia

1. Income from primary and auxiliary production and sale of work and services;

参考図表-4 Income within 0-3.0 billion tugriks, it shall be taxed at the rate of 10 percent

1.	Income from dividend;	20%
2.	Loan interest and payment for issuing a guarantee;	
3.	Income from royalty;	
4.	Income from interest on finance lease, payment for administrative expense;	



5.	Lease payment;	
6.	Income from tangible and intangible asset lease;	
7.	Income from goods sold, work performed, and service provided in the territory of Mongolia;	
8.	In the case of the representative office of a foreign economic entity transfers its own profit to overseas;	20%

### Time frame for tax reporting

Quarterly tax statement shall be reported by the 20th of the first month of the following quarter. Annual tax statement shall be reported by the February 10th of the following year to the corresponding tax authority and make yearend settlement.

### ③個人所得稅

#### Who is Tax Payer?

A citizen of Mongolia, foreign national and stateless person who resides in Mongolia and earns income subject to tax for the tax year or who is liable to pay tax under this law, even though the same income is not earned, shall be a taxpayer.

The taxpayer shall be classified as a resident taxpayer who resides in Mongolia for 183 or more days in a tax year, of Mongolia and non-resident taxpayer who does not possess a place for residence and did not reside in Mongolia for more than 183 days in a given year, of Mongolia.

Salaries, wages, bonuses, incentives and similar employment income		Income*10%
		(Income-SIP)*10%
Income from Activities		(Income-CIT law's exempt income)*10%
Income from property		TI*10%
Income from sale of property	Sale of immoveable property;	TI*2%
	Sale of movable property;	(TI-SP,RC)*10%
	Sale of stocks and securities;	(PP-SP)*10%
Creation of scientific, literary, and artistic works, invention, product designing, organizing and participating in sports competition, art performance, and other similar income		TI* 5%
Quiz, gambling, and lottery		TI*40%

\*Notes:

TI=Total income

SIP=Social insurance premium

CIT=Corporate income tax

SP=Selling price

PP=Purchasing price

RC=Related cost

### Time frame for tax reporting

Salaries, wages, bonuses, incentives and similar employment income shall be reported within 10th of the following month. Other income shall be reported within 15th of the first month of the following quarter.

#### ④付加価値税

##### Who is Tax Payer?

An entity that imports or exports goods and citizen and legal entity that produces or sells goods, performs work, or provides services in the territory of Mongolia shall be a value-added taxpayer.

Taxable income

All types of goods sold in the territory of Mongolia;

All types of goods exported for the purpose of sale, consumption, or use outside the territory of Mongolia;

All types of goods imported for the purpose of sale, consumption, or use in the territory of Mongolia;

Work performed and services provided in the territory of Mongolia.

Tax rates

Value-added tax rate shall be 10 percent of the taxable amount of goods imported, produced or sold, work performed, or services provided.

Value-added tax shall be imposed on goods, work, or services specified in article 12 of Value added Tax law shall zero ("0").

##### Timeframe for tax reporting

The time of imposition of value-added tax on income of a person or legal entity registered as a taxpayer shall commence on the day of the certificate issued by the tax authority.

#### ⑤輸出入に係る関税

The term "Customs duty" means an amount of tax levied on, collected from or paid for goods entering or leaving the Customs territory, based on the Customs tariff. The Customs duties shall be of the following types:

- ad valorem;
- specific;
- combination of the two above;
- any of the first two above which entails higher amount of duty.

The most of imported goods are subject to 5% ad valorem Customs duty while some others are subject to seasonal duties. Certain goods for export are subject to specific Customs duties. Any person (physical or legal) engaged in foreign trade is liable to paying Customs duties as well as some other taxes and fees upon importation or exportation of goods.

## **THE VALUE ADDED TAX**

-----

According the Value Added Tax (VAT) Law, the VAT is levied and collected by or paid to the Customs offices.

The VAT rate on imported goods is 10 percent of the tax base value since 1 January 2007. The VAT base value is a value determined in accordance with the Law on the Customs Tariffs and Customs Duties (the Customs Value) plus additions of Customs duty, excise duty and other tax amounts. For goods sold for export from Mongolia and declared to the Customs, the zero amount should be added. The amounts payable thus vary depending on the Customs value and quantity of goods, kinds or types of duties and taxes as well as tariffs (the duty and tax rates).

The following is a formula used for calculation of the VAT:

$$\text{VAT}=(\text{CV}+\text{CD}+\text{ED}+\text{OT})\times\text{R3}$$

VAT Value Added Tax Amount Payable;

CV - Customs Value;

CD - Customs Duty;

ED - Excise Duty;  
OT - other taxes;  
R3 - VAT Rate.

## **THE EXCISE DUTIES**

/From the Law of 26 June 2006/  
-----

Imported vodka, wine, beer, tobacco products, vehicle gasoline and diesel oil as well as cars, etc. are subject to the excise duties.

The ranges of goods subject to the excise duties and the tax base units of measure:  
-----

- № The Ranges of Goods Subject to the Excise Duty The Tax Base Units of Measure
1. All kinds of alcoholic beverages 1 liter
  2. Cigarettes and Other Similar Items 100 pieces
  3. Pipe and Bulk Tobaccos and Similar Items (such as Rolling Tobacco, etc.) 1 kilogram
  4. Vehicle Gasoline and Diesel Oils 1 ton
  5. Cars 1 unit

The Excise Duties Imposed on Imported Cars:  
-----

№ Vehicle Engine (Cylinder) Capacity /in Cubic Centimeters or cc/ The Excise Duty /in USD/  
manufactured year

0-3 years 4-6 years 7-9 years 10 years and over

1. 1500 or under 500 1000 1000 6000
2. 1501-2500 1500 2000 3000 7000
3. 2501-3500 2000 2500 4000 8000
4. 3501-4500 4500 5000 6500 10500
3. 4501 and over 7000 7500 9000 13000

## **CALCULATIONS OF DUTIES AND TAXES METHODOLOGIES**

-----

Calculations of duties and taxes are made in the following two ways depending on the types of duties or taxes:

1. Where there is an ad valorem duty:

The following formula is used:

$CD=CV \times R1$ , where:

CD – Customs Duty Amount Payable;

CV – Customs Value;

R1 - Ad valorem Customs Duty Rate.

2. Where there is a specific duty:

The following formula is used:

$CD=UM \times R2$ , where:

CD – Customs Duty Amount Payable;

UM – Unit of Measure (in certain piece(s), weight or volume, etc.) set as a tax base for calculation of Customs Duty;

R2 – Specific Customs Duty Rate.

For determination of Customs value, the following formula is used:

$CV=TV+(T+CB+A+RL+P)-D$ , where:

- CV – Customs Value;

- TV – Transaction Value or a Value Actually Paid or Payable for the Imported Goods;
- T– Transportation Costs, etc.;
- CB – Commissions and Brokerage, etc.;
- A – Assists;
- RL – Royalties and License Fees;
- P – Proceeds;
- D– Deductions.

The above mentioned adjustments should be understood in the following ways:

1.T or the transportation costs, etc. include charges for transportation of goods until a border post of Mongolia, loading or unloading costs, costs and fees for completion of transportation documents, insurance costs and handling charges, i.e. charges for heating, humidification, ventilation or freezing of goods in order to maintain their safety and quality as well as costs of feeding or treatment (medical care) of live animals in the course of their transportation.

2.CB or the commissions and brokerages, etc. include those commissions and brokerages (except buying commissions) incurred by the buyer in connection with the sale, costs of containers which are treated as one with the imported goods and costs of packing.

3.A or the assists include the cost or value, apportioned as appropriate of certain goods and services supplied directly or indirectly by the buyer free of charge or at reduced cost for use in connection with the production and sale for export to Mongolia of the imported good.

4.RL or the royalties and license fees may include payments directly or indirectly made or to be made by the buyer in respect to, among other things, patents, trademarks and copyrights as a condition of the sale.

5.P or the proceeds include the value of any part of the proceeds of any subsequent resale, disposal or use of the imported goods that accrues directly or indirectly to the seller (i.e. any payments which, by contractual agreement, are paid by the buyer from such proceeds either directly or indirectly back to the seller of the goods being valued) excluding those relating to patents, trademarks or copyright

6.D or the deductions include the charges for construction, erection, assembly, maintenance or technical assistance undertaken after importation, on imported goods such as industrial plant, machinery or equipment as well as the related training costs paid to the seller; the transportation costs after importation and the duties and taxes paid in the country of importation, etc.

## EXAMPLES OF CALCULATIONS OF DUTIES AND TAXES

### EXAMPLE 1: /Goods Subject to the Excise Duties/

An importer has imported from Japan into Mongolia a car of a model Mark-II. The car was manufactured in 2001 and its engine (cylinder) capacity is 2000 cubic centimeters. The price of the car itself is 2100 USD. The transportation of the car from Japan to Mongolia and other related services in the course of the transportation cost 1400 USD. 1USD = 1180₮. The Customs (ad valorem) duty (CD) rate (R1) is 5% and the VAT rate (R3) is 10% while the excise duty (ED) rate (R3) is specific. There are no other taxes (OT) payable, i.e. the OT is 0. Below are the calculations of the duties and taxes payable.

$$CD=CV \times R1=(2100+1400) \times 1180 \times 0.05=4130000 \times 0.05=206500₮$$

$$CD=CV \times R1=(2100+1400) \times 1180 \times 0.05=4130000 \times 0.05=206500₮$$

According to its year of manufacture and engine capacity as set in the 2006 Law on the Excise Duties, the car is subject to the (specific) excise duty of 2000 USD.

$$VAT=(CV+CD+ED+OT) \times R3=(4130000+206500+(2000 \times 1180)+0) \times 0.10=669650₮$$

The total amount (TA) of duties and taxes payable for the imported car is:

$$TA=CD+ED+VAT=206500+2360000+669650= 3236150₮.$$

**EXAMPLE 2: /Goods Not Subject to the Excise Duties/**

An importer has concluded a sales contract to buy 60 tons of sugar from Finland for 325 USD per ton on a commercial term CIF Tyanjin (China). The transportation cost from Tyanjin to Ulaanbaatar (Mongolia) is 1850 USD and the insurance cost is 250 USD. 1USD = 1180₮. The Customs (ad valorem) duty (CD) rate (R1) is 5% and the VAT rate (R3) is 10% while there are no excise duties (ED) and other taxes (OT) payable, i.e. the ED and OT are 0. Below are the calculations of the duties and taxes payable.

$$CD=CV \times R1=(325 \times 60+1850+250) \times 1180 \times 0.05=1274400₮$$

$$VAT=(CV+CD+ED+OT) \times R3=(25488000+1274400+0+0) \times 0.10=25615440₮$$

The total amount (TA) of duties and taxes payable for the imported sugar is:

$$TA=CD+VAT=1274400+25615440=26889840₮.$$

⑥フォーム (雇用契約)

**Employment Contract**

Sample

**Contract#**

**Contract effective from** ..... **to** .....

..... (hereinafter referred to as “Employer”) represented by  
..... and  
..... a citizen of Mongolia, (Personal ID.....,  
Registration number.....) have negotiated and concluded this Contract on the  
following items.

**1. GENERAL PROVISION**

- 1.1 This Contract regulates the Labor Relations between the Employer and Employee and other matters related here to.
- 1.2 Provisions of this Contract shall be governed by the Labor Laws of Mongolia and the laws of Employer Internal Labor Policy.
- 1.3 Employee shall be working under the direct supervisor of, and be responsible to the .....
- 1.4 Normal working condition
- 1.5 The Company shall ensure safety and health precautions at the Employee’s workplace. The minimum requirements for work conditions shall be satisfy to legislation specified in labor and to requirements fixed by authorized government organization charged for labor matters.
- 1.6 This Contract shall be come into force from the date signature by the Employer and Employee and shall be valid for a period of ..... month(s) from the date here to.
- 1.7 If either of Parties wishes to terminate the Contract, it shall submit a formal notification to the other Party, 30 days prior to the expiry or termination of this Contract.
- 1.8 Employer shall be pay Employee the salary as following .... Base rate ..... tugrug (MNT) per hour.
- 1.9 The salary shall be paid in two payments on the 15th and the 30th day of each month (or previous working day if required due to national holidays).

**2. JOB DUTIES AND OBLIGATIONS OF EMPLOYEE**

- 2.1 .....shall work as a ..... (fill the position) in the Company and has read and agreed to the terms of this Contract. This Contract regulates the Labor Relations between the Employer and Employee and other matters related here to.

- 2.2 The work of Employee specified in this Contract shall be, but not limited to, the Job Description attached to this Contract.
- 2.3 Once a year Employee shall have annual paid leave for 15 working days. Additional leave time shall be provided to the basic leave depending on the number of Employee's working years. Employer shall set the dates for annual leave with due consideration of Employee's wish.
- 2.4 Employee shall inform to related Section or Department Heads about expected absence from work.

### **3. RIGHTS AND OBLIGATIONS OF EMPLOYEE**

- 3.1 Employee undertakes the following obligations to.
  - 3.1.1 Work honestly, strictly observe the Company rules and policies, fulfill the duties undertaken under this Contract, show honest attitude to Employee's responsibilities and exploit the working hours to the full extent.
  - 3.1.2 Perform tasks and duties assigned by legislation, Administration, Company Supervisors and this Contract and keep the Company's information and business confidential.
  - 3.1.3 Keep workplace tidy and clean and behave properly and friendly towards co-workers.
  - 3.1.4 Safeguard Company's properties and assets, operate efficiently assigned assets, machinery, equipment and other valuables and save working time and materials.
  - 3.1.5 Argue, ignore or fail to comply with recommendations, directions and instructions by direct Supervisors, set or organize other employees against Administration, change the make or standard of a product etc;
  - 3.1.6 Spend working hours inefficiently, loiter, disrupt other Employees from work, to scold violently, shout, argue, swear, be rude with client, be slow, ignore question, leave the workplace without the supervisor's permission, leave the work place to the people's responsibility, pollute work place
  - 3.1.7 Use equipment offhandedly, steal, sell or remove company's properties.
  - 3.1.8 Be absent from work without informing to administration and supervisor, come late or leave early.
  - 3.1.9 Drink alcohol or use drugs during working hours or in the workplace, bring alcohol to the work place, come to the work place drunk, and smoke in restricted areas in the work place.

### **4. DUTIES AND RESPONSIBILITIES OF EMPLOYER**

- 4.1 Abide by the terms of this Contract.
- 4.2 Employer shall pay for the payment of Social Insurance according to the Law on Social Insurance and other legislation.
- 4.3 Employer shall withhold and pay income taxes from Employee's salary to the government accounts at rates specified as per the Personal Income Tax Law.
- 4.4 Ensure conditions for the uninterrupted and regular performance of work by the Employee.
- 4.5 Provide Employee with all necessary information and guidelines for performing the duties and for improving skills and expertise.
- 4.6 The Employer shall support Employee training and develop him or her to work productive and stable for long period.
- 4.7 Employer shall implement the task related with the Employees social issues as per the business plan and cooperation agreement.
- 4.8 Ensure safety and health conditions at Employee's workplace.

4.9 Pay to Employee's salary in due time and without delay.

**5. RIGHTS OF EMPLOYER**

5.1 Employer has the right to temporarily assign other work as allowed by the Internal Labor Regulation of Company.

5.2 Employer may require Employee to travel on field assignments. The travel expense shall be borne by Company according to the set schedule.

**6. DISCIPLINARY ACTIONS**

6.1 Employer shall take one of the following disciplinary actions on Employee who has violated provisions and articles of this Contract and Internal Labor Regulation or disciplinary or ethical limits:

- Warning
- Reduction of basic salary up to 20 percent with a term up to 3 months.
- Termination of Employment Contract
- Employee may remain responsible for damaging inventory or property despite taking administrative, disciplinary or criminal case measures on thereof.

**7. TERMINATION CONTRACT**

7.1 If Employee breaches the provisions 3.1.5 and 4.4 of this Contract, Employer can terminate this Contract. This Contract can be terminated before its expiration by Employer's or Employee's initiative on the grounds and procedures set by the Law on Labor of Mongolia.

7.2

7.3 30 days after the submission of Employee's notification of termination of this Contract, Employee can leave the work.

7.4 If the grounds of the terminating this Contract correspond to the grounds specified in Article 42 of the Labor Law, **severance payment** will be paid to Employee.

**8. OTHERS**

8.1 Amendments to this Contract can only be made in mutual agreement of the two sides and can come into effect after signed by both sides.

8.2 Disputes in regard of this Contract shall be submitted to the Labor Dispute Resolving Commission or to the Mongolian Court in accordance with the dispute manner. The laws of Mongolia shall govern this Contract.

8.3 This Contract is made in Mongolian and .....languages and with copies for the Employer and Employee. The Mongolian and the ..... originals have equal legal force.

**CONTRACT MADE BY:**

Employer:

Employee:

Date

Date

Approved by:

GENERAL DIRECTOR

.....

⑦フォーム (社会保険：個人別シート)

The Employee's Social Insurance Benefit Report for ..... Company

/Employer's Name/ Reg. Number of Soc. Insurance:		/Bank Name/ Address:		/Account number/	
1	〒				
A	B				
1	Remaining balance on .....	Overplus Omitted	Column 1	Insured for social insurance and health insurance	Only for health insurance /militars/
	Number of insured		2		For caring of baby and for learners and militars
2	Related to the Report time	Total amount of insured's wages and other related income	3		
		Basic and added wages	4		
		Bonus salary	5		
		Other additional payments	6		
		Payments for meal and transportation	7		
		Sub Total/4 - 8/	8		
		Percentage for benefit /29-31%/	9		
		To the Social Insurance Fund	10		
		Should be paid Social Insurance benefit	11		
		Paid of this	12		
3	Paid back to the Company from the Social Insurance		13		
	Remaining balance on .....	Overplus Omitted	14		
			15		
		Total amount of benefit to the .....			Total amount (1 + 2 + 3 + 4)

Total amounts of benefit to the ..... account number

Date of paid

Total amount

Warning:



⑦フォーム (社会保険：加入者リスト)

**The Social Insurance Benefit Sheet for the insured at ..... Company**

**Soc.Sec №8**

№	The Insured names	Registration Number	Soc.Sec.Book number	Health Book number	Wages and other similar Income Total payment	Paid benefit to the Social Insurance Fund		Comments
						Employer	Of this Employee	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

\* Comments: It should be reported about the new hired employees or left employee during the report time.

Prepared by:

Director

Accountant

Date.....

Checked and received by:

Social Insurance Officer

Date.....

⑧フォーム (法人税記入)

The 2<sup>nd</sup> attachment of resolution 492 of the  
 chairman of general department of taxation  
 dated on 10<sup>th</sup> of May

**General Department of Taxation** Slip TT- 02

**Corporate Income Tax Record**

1. Taxpayers number: [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ] 2. Name: \_\_\_\_\_ 3. Types of liability: \_\_\_\_\_

4. Accounting period: Year [ ][ ][ ][ ] Quarter [ ] ( ) If did not do any activities in the accounting period fill out (x).

5. Address of Taxpayer:

[ ][ ] Province, city: \_\_\_\_\_ [ ][ ] Soum, district: \_\_\_\_\_

[ ][ ] Bag, khoroo: \_\_\_\_\_ [ ][ ] Street, micro-district: \_\_\_\_\_

[ ][ ] Building: \_\_\_\_\_ [ ][ ] Fence, door: \_\_\_\_\_

Phone 1: \_\_\_\_\_ Phone 2: \_\_\_\_\_ Fax : \_\_\_\_\_

Postal box No: \_\_\_\_\_ E-Mail: \_\_\_\_\_

6. Business activity General: code [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ]

Subsidiary: code [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ]

Subsidiary: code [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ]

7. Register number and name of primary company [ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ][ ] \_\_\_\_\_

8. The amount of Subsidiary company [ ][ ][ ][ ], names \_\_\_\_\_

9. The percent of foreign investment [ ][ ][ ], amount \_\_\_\_\_

A. Calculation of taxable income and rates: (thousand tugruqs)

Indicators	Row	Defined by taxpayer	Received by Tax department
1. Sum total income (row 2+3+4+5+6)	1		
Hence:			
1.1. Sum total taxable income from immunity from taxation (Slip TT-02(b), total of A part)	2		
1.2. Sum total taxable income from special percent, rate (Table B, row 32+34+39+43+43)	3		
1.3. Sum income from deducted tax by the law (Table C, seep 46+48+50+52)	4		
1.4. Other sum income	5		
1.5. Sum total taxable income from general percent, rate (row 7+8+...+17)	6		
Hence:			
Income from primary and auxiliary production and sale of work and services	7		
Income from auxiliary production and sale of work and services	8		
Income from bond and share sale	9		
Income from goods, work and service received from others free of charge	10		
Income from intangible asset	11		
Income from technical, management, consulting and other services	12		
Income from interest and/or penalty for nonperformance of contract duties, and compensation for a damage	13		
Realized gain from foreign currency exchange rate	14		
Income from immovable and movable property lease	15		
Income from sale of movable property	16		
Other income for taxable	17		
2. Cost of sales	18		
3. Expenses of administration and sales activities	19		
4. Expenses of non-general activity	20		
5. Profit and Loss before the tax +, - (row 1-18-19-20)	21		
6. Sum nondeductible expenses for taxable income by the law and/or sum total row A1, B3 of "Statement of gap arrangement between corporate income tax and financial statement- /Raise amount of profit before tax/	22		
7. Sum total row A2, B4 of "Statement of gap arrangement between corporate income tax and financial statement and/or reduce amount of taxable income	23		
8. Sum total taxable income (row 21+22-23)	24		
9. Exceed of voluntary insurance premium	25		
10. Sum of adjustment taxable income (row 24+25)	26		
11. Transferred amounts from losses of previous years approved by tax department (Slip TT-02(b), amount of 3 <sup>rd</sup> part of A)	27		
12. Sum total taxable income from general percent, rate (row 26-27)	28		
13. Tax levy (row 28 * by percent of law)	29		
14. Deductible tax (Slip TT-02(b), B table sum)	30		
15. PAYABLE TAX AMOUNT (row 29-30)	31		

<b>B. Taxable income from special percent, rate:</b>			
16. Income from sale and rental of erotic publications, books, video recording, and service of erotic performance	32		
Income tax from Income from sale and rental of erotic publications, books, video recording, and service of erotic performance (32 * 40 percent)	33		
17. Income from quizzing, gambling, and lotteries	34		
Proven expenses by the evidence	35		
Goods price and payment for winnings	36		
Taxable income (row 34-35-36)	37		
Tax levy (37 * 40 %)	38		
18. Interest income	39		
Tax amount for interest income (39 * 10 percent)	40		
19. Tax amount for dividend and interest income (According to the "Double Taxation Agreement")	41		
Tax amount for dividend and interest income (According to the "Double Taxation Agreement") (row 41 * percent by the agreement)	42		
20. Taxable income from foreign country according to the Corporate Income /for the non-residents/	43		
Charged tax from foreign country according to the Corporate Income (row 43 * percent by the law)	44		
<b>21. TAX AMOUNT OF PAYABLE SPECIAL PERCENT, RATE</b> (row 33+38+40+42+44)	<b>45</b>		
<b>C. Tax calculation of deducted to others by the law:</b>			
22. Dividend Income	46		
Deducted tax on dividend income (row 46 * 10 percent)	47		
23. Right commissions income from	48		
Deducted tax on right commissions income (row 48 * 10 percent)	49		
24. Income from right sales	50		
Deducted tax on right sales (50 * 30 percent)	51		
25. Income from immovable property	52		
Deducted tax on sales of immovable property (52 * 2 percent)	53		
<b>26. TAX AMOUNT OF DEDUCTED OTHERS BY THE LAW</b> (row 47+49+51+53)	<b>54</b>		
<b>23. SUM TOTAL OF PAYABLE TAX (Table A, row 31+Table B, row 45+Slip TT-13, row 24)</b>	<b>55</b>		

**D. Tax Calculations:**

Debit      Credit

The first remaining of the record	Surplus	56		
	Less	57		
Tax levy for the accounting period (row 55)		58		
Paid by the transaction during the accounting period	Performance	59		
	Change /+,-/	60		
Paid by between the Tax department and other taxpayers calculations		61		
Deducted and calculated from the other taxes surplus payment		62		
Refunded and invalid taxes		63		
Calculated for tax debt (except surplus)		64		
The last remaining of the record	Surplus	65		
	Less	66		

Created by:

Received by:

Director/: ..... /

Tax state Officer: .....

sgn

sgn

General Accountant: .....

am

Date: .....

Date: .....

⑨フォーム（財務諸表：貸借対照表）

Company Name

**Balance Sheet**

Date

**1. Assets**

Current Assets:					
Cash				0¥	
Accounts Receivable				0¥	
Less:	Reserve for Bad Debts			0¥	
Merchandise Inventory				0¥	
Prepaid Expenses				0¥	
Notes Receivable				0¥	
<b>Total Current Assets</b>					<b>0¥</b>
Fixed Assets:					
Vehicles					
Less:	Accumulated Depreciation			0¥	
Furniture and Fixtures				0¥	
Less:	Accumulated Depreciation			0¥	
Equipment					
Less:	Accumulated Depreciation			0¥	
Buildings					
Less:	Accumulated Depreciation	0¥		0¥	
Land				0¥	
Total Fixed Assets					0¥
Other Assets:					
Goodwill				0¥	
Total Other Assets					0¥
<b>Total Assets</b>					<b>0¥</b>
<b>2. Liabilities and Capital</b>					
Current Liabilities:					
Accounts Payable				0¥	
Sales Taxes Payable				0¥	
Payroll Taxes Payable				0¥	
Accrued Wages Payable				0¥	
Unearned Revenues				0¥	
Short-Term Notes Payable				0¥	
Short-Term Bank Loan Payable				0¥	
<b>Total Current Liabilities</b>					<b>0¥</b>
Long-Term Liabilities:					
Long-Term Notes Payable				0¥	
Mortgage Payable				0¥	
Total Long-Term Liabilities					0¥
<b>Total Liabilities</b>					<b>0¥</b>
Capital:					
Owner's Equity				0¥	
Net Profit				0¥	
Total Capital					0¥
<b>3.Total Liabilities and Capital</b>					<b>0¥</b>

⑨フォーム（財務諸表：損益計算書）

Company Name

## Income Statement

For the Year Ended

<b>1. Revenue:</b>		
1.1	Gross Sales	0¥
1.2	Less: Sales Returns and Allowances	0¥
1.3	Net Sales	0¥
<b>2. Cost of Goods Sold:</b>		
2.1	Beginning Inventory	0¥
2.2	Add: Purchases	0¥
	Freight-in	0¥
	Direct Labor	
2.3	Less: Ending Inventory	0¥
2.4	Cost of Goods Sold	0¥
	<b>Gross Profit (Loss)</b>	<b>0¥</b>
<b>3. Expenses:</b>		
3.1	Advertising	0¥
3.2	Amortization	0¥
3.3	Bad Debts	0¥
3.4	Bank Charges	0¥
3.5	Charitable Contributions	0¥
3.6	Commissions	0¥
3.7	Contract Labor	0¥
3.8	Credit Card Fees	0¥
3.9	Delivery Expenses	0¥
3.10	Depreciation	0¥
3.11	Dues and Subscriptions	0¥
3.12	Insurance	0¥
3.13	Interest	0¥
3.14	Maintenance	0¥
3.15	Miscellaneous	0¥
3.16	Office Expenses	0¥
3.17	Operating Supplies	0¥
3.18	Payroll Taxes	0¥
3.19	Permits and Licenses	0¥
3.20	Postage	0¥
3.21	Professional Fees	0¥
3.22	Property Taxes	0¥
3.23	Rent	0¥
3.24	Repairs	0¥
3.25	Telephone	0¥
3.26	Travel	0¥
3.27	Utilities	0¥
3.28	Vehicle Expenses	0¥
3.29	Wages	0¥
	<b>Total Expenses</b>	<b>0¥</b>
	<b>Net Operating Income</b>	<b>0¥</b>
<b>4. Other Income:</b>		
	Gain (Loss) on Sale of Assets	
	Interest Income	
	Total Other Income	0¥
<b>5. Net Income (Loss)</b>		

付属資料2. モンゴルにおける産業別上位企業

付属図表-1 モンゴルにおける産業別上位企業リスト

	<b>Name of organizations</b>	<b>Types of business activity</b>
<b>Auto and Logistics</b>		
1	Bodi Automotive LLC	Auto spare parts trade
2	Tenuun Ogoo LLC	Public Transpotation
3	Asian Road LLC	International Transport Logistics
4	Ilinks Express LLC	International Transport Logistics
5	Mongol Trans LLC	International Transport Logistics
6	Monlogistics Worldwide LLC	International Transport Logistics
<b>Banking and Finance</b>		
1	Khaan Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
2	Golomt Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
3	Trade and Development Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
4	Khas Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
5	Savings Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
6	Capital Bank of Mongolia	Banking and Financial activities
7	Credit Mongolia Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
8	We Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
9	Mongolian Financial Group Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
10	Ochir Undraa Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
11	Land Partners Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
12	Net Capital Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
13	Vision Fund Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
14	Trans Capital Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
15	NewFond Non-Banking and Financial Organization	Banking and Financial activities
<b>Geology and Mining</b>		
1	Mongolian Gold Corporation LLC	Geology and mining
2	Energy Resource LLC	Geology and mining
3	South Gobi Sands LLC	Geology and mining
4	Tsairt Mineral LLC	Geology and mining
5	Baganuur share-holding company	Geology and mining
6	Blast LLC	Geology and mining
7	Monpolimet LLC	Geology and mining

8	Shivee Ovoo LLC	Geology and mining
9	Mera LLC	Geology and mining
10	Tanan Impex LLC	Geology and mining
11	Hasu Megavatt LLC	Geology and mining
12	Monmag LLC	Geology and mining
13	Sod gazar LLC	Geology and mining
<b>Construction</b>		
1	New Progress Group Company	Apartment Building
2	Speed Group Company	Apartment Building
3	Gatsuurt Trade LLC	Apartment Building
4	Tsast Impex LLC	Apartment Building
5	Monroad LLC	Transportation Building
6	Tedment LLC	Apartment Building
7	Odkon Holding LLC	Apartment Building and Construction Equipment Supply
8	Allience Tech LLC	Construction and Plumbing Building and Installation
9	Remikon Share-holding Company	Concrete production and Light block production and construction materials
10	Ecological Civil Construction (ECC) LLC	Apartment Building
<b>Trade</b>		
1	Tavan Bogd Group Company	All types of trade
2	Nomin Holding Company	All types of trade
3	Max Group Company	All types of trade
4	Naran Trade LLC	All types of trade
5	Oyuni Unrdaa Group Company	All types of trade
6	BSB Service LLC	Electronics trade
7	Bimeks Holding Company	Food Trade
8	Bishreлт Holding LLC	All types of trade
9	Bridge Group Company	Food Trade
10	Seekl LLC	Food Trade
11	BOSA Group Company	Food Trade
12	Next Electronics LLC	Electronics trade
13	Global Electronics LLC	Electronics trade
14	Agmarko LLC	Food Trade
<b>Insurance</b>		
1	Mongol National Insurance Company	Insurance
2	Ard Insurance LLC	Insurance
3	Tenger Insurance LLC	Insurance
4	Bodi Insurance LLC	Insurance
5	Practical Insurance LLC	Insurance
<b>Information and Professional Advices</b>		

1	Mongol 999 National Consortium share-holding Company	
<b>Hotel and Restaurant</b>		
1	Bayangol Hotel share-holding Company	Hotel and restaurant
<b>Petroleum and Gas</b>		
1	Petrovis Company	Petroleum and gas trade
2	Magnai Trade Group Company	Petroleum and gas trade
3	Sod Mongol Group Company	Petroleum and gas trade
4	Shunkhlai Group Company	Petroleum and gas trade
5	M-Oil Company	Petroleum and gas trade
6	Oin Birj Company	Petroleum and gas trade
7	Unigaz Company	Petroleum and gas trade
<b>Information Technology</b>		
1	Grape City Mongol LLC	Information technology
2	Mongolian Online secured Transactions Payment Service Provider (Most PSP) Company	
<b>Wool and Cashmere</b>		
1	Gobi share-holding Company	Wool and Cashmere product trade
2	KhanBogd Cashmere Company	Wool and Cashmere product trade
3	Altai Cashmere Company	Wool and Cashmere product trade
<b>Television and Radio</b>		
1	Sansar Cable LLC	Cable channel
<b>Education</b>		
1	Santis Educational services Company	English Training Courses for all ages
<b>National Producer</b>		
1	APU share-holding Company	Milk, vodka, beer, tonic, pure water production
2	GEM international Company	Vodka, beer, juice, pure water production
3	Vitafit Group Company	Juice, pure water, yogurt, milk production
4	Mongolia Cigarette Company	Cigarette production
5	UFC Group Company	Seabuckthorn juice production
6	Erdenet Carpet Company	Carpet, wool and cashmere production
7	Uguuj Sweet and Biscuit Company	All types of food productions
8	Teso Company	All types of food productions
9	MTS Company	Vodka, beer, juice, pure water production
10	Khaan Khuns Company	Buuz and dumplings production
11	Darkhan Nekhii share-holding Company	Clothes production
12	Ekh Gazriin chuluu LLC	Work clothes productions
<b>Real Estate</b>		



1	AIMM LLC	Real Estate Agency
<b>Security Services</b>		
1	Bambai Security Service LLC	Security service
<b>Publication</b>		
1	Munkhiin useg LLC	Publication services
2	Ulaanbaatar Print LLC	Publication services
3	Daily News LLC	Daily newspaper
<b>Pharmaceutical company and Drug production</b>		
1	Mongol Drug Impex Concern share-holding Company	Drug Production and trade
2	Monos Group Company	Drug Production and trade
3	Monolab LLC	Drug Production and trade
<b>Importer Companies</b>		
1	Wagner Asia Equipment LLC	Equipment for heavy and mining sectors
2	Monnis International LLC	Auto trade and services
3	Bodi Group Company	Auto trade and services
4	Hera Holding Company	Equipment for heavy and mining sectors
5	Oriflame Mongolia LLC	Beauty products trade
6	Beren Group Company	
7	Voltam LLC	
8	Cosmo Trade LLC	Food wholesale network
9	Global Bridge LLC	Food trade
10	Green City LLC	Food trade

(出典：モンゴル商工会議所 2012 年 11 月)

### 付属資料3. 外国投資法（1）

#### モンゴル外国投資法

1990年承認、1993、98、2001、02年改正

#### 第1章 一般規定

##### 第1条（法の目的）

この法の目的は、外国投資を奨励し、モンゴルにおける外国投資家の権利及び財産を保護し、並びに外国投資に関する諸事項を規律することであるものとする。

（この条は、2002年1月3日付法律によって文言を修正された。）

##### 第2条（外国投資に関する立法）

1 外国投資に関する立法は、モンゴル憲法、法律及びこれらの法令と整合性を有するその他関連立法から構成される。

2 モンゴルが締約国である国際条約がこの法と整合性を有しない場合には、国際条約の規定が優先するものとする。

##### 第3条（定義）

1 「外国投資」とは、モンゴル領域内に外国投資企業を設立することを目的として又はモンゴルの既存企業と共同して操業することを目的として外国投資家によって投資されるあらゆる種類の有体財産及び無体財産をいう。

2 「外国投資家」とは、モンゴルに投資を行う外国の法人又は個人（モンゴルに永久的に居住していない外国市民若しくは無国籍者又は永久的に海外に居住しているモンゴル市民）をいう。

3 「モンゴル投資家」とは、モンゴルに投資を行うモンゴルの法人又は個人（モンゴル市民、移民又はモンゴルに永久的に居住している無国籍者）をいう。

4 「投資協定」は、法人を設立せずに、具体的なプロジェクトの実施のために外国投資家が締結するコンセッション、生産物分与（プロダクション・シェアリング）、マーケティング、マネジメント、ファイナンシャル・リーシング及びフランチャイズ投資に関する取決め及び（又は）契約である。

（この項は2002年1月3日付法律によって追加された。）

5 「ワンストップ・サービス」は、外国投資企業の設置に関する申請書その他関連書類を受け付け、事業活動を開始するための証明書、ライセンス及び特別許可書を発給し、1カ所で結論を出し評価を行うとともに関連官庁によるこれら問題の決定を円滑化し、また、投資家に必要な情報を提供し、コンサルティングサービスを提供する複合サービスである。

（この項は2002年1月3日付法律によって追加された。さらに2008年5月29日付法律によって修正された。）

##### 第4条（外国投資の分野）

1 外国投資は、すべての生産分野及びすべてのサービス分野で法令が禁止していないものに実施することができる。

2 外国投資は、実施される生産又は提供されるサービスの種類がモンゴルの法令によって禁止されていない場合には、モンゴルの領域のすべての区域で実施することができる。

##### 第5条（外国投資のタイプ）

外国投資家は、次のタイプによって投資を行うことができる。

- （1）自由に兌換可能な通貨及び投資によって稼得したトグルグの再投資
- （2）動産及び不動産並びに所有権
- （3）知的財産権及び工業所有権

##### 第6条（外国投資の形態）

外国投資は、次の方法で行われるものとする。

- (1) 全額外資の事業体の設立、(2008年5月29日付法律により修正された。)
- (2) モンゴル投資家との合弁事業体の設立、
- (3) 外国投資家がモンゴルの法令に基づいてモンゴルの事業体の株式、持分その他証券を購入することによる直接投資を行うもの、  
(この号は、2002年1月3日付法律によって文言を修正された。)
- (4) 天然資源を開発し及び加工するために、法令に基づく権利、コンセッション及び生産物分与契約を取得することによるもの、  
(この号は、2002年1月3日付法律によって文言を修正された。)
- (5) マーケティング及びマネジメントのための契約を締結することによるもの、
- (6) ファイナンシャル・リーシング及びフランチャイズを通じて投資を行うもの。  
(第5、6項は、2002年1月3日付法律によって追加された。)

#### 第7条 (株式又はその他証券)

外国投資家は、モンゴルの法令に従ってモンゴルの領域において操業するいかなる事業構成体の株式又はその他の証券をも購入することができる。

## 第2章 投資保護

#### 第8条 (外国投資に対する法的保証)

- 1 モンゴルの領域にある外国投資は、憲法、法律及びそれらの法に整合するその他立法によって保証され並びにモンゴルが当事国である国際条約によって保証される法的保護を享受するものとする。
- 2 モンゴルの領域にある外国投資は、不法に収用されないものとする。  
(“nationalized” という用語は、2002年1月3日付法律によって、この項から削除された。)
- 3 外国投資家の投資は、公共目的のため若しくは公益のためにのみ及び無差別ベースに基づき及び十分な補償の支払に基づき法の正当な手続に従う場合にのみ収用されるものとする。
- 4 モンゴルが締約国である条約に定めがある場合のほかは、補償額は収用時又は収用公告時の収用資産の額によって決定されるものとする。かかる補償は、遅滞なく支払われるものとする。
- 5 緊急事態乃至戦争に起因して外国投資家が蒙る損失は、モンゴル投資家が蒙る損失と同等に取り扱われるものとする。

#### 第9条 (外国投資家に対する待遇)

モンゴルは、外国投資家に対して、投資の所有、使用及び処分に関してモンゴル投資家に対して与えられる待遇よりも不利でない待遇を付与するものとする。

#### 第10条 (外国投資家の権利及び義務)

- 1 外国投資家は、次の権利を享受するものとする。
  - (1) 外国投資企業のエクイティに起因する投資の海外送金を含み財産を所有し、使用し及び処分すること  
(この号は、2002年1月3日付法律によって改正された。)
  - (2) 外国投資を伴う事業体を経営し又はその事業体の経営に参加すること
  - (3) 法令に従って他の者に権利及び義務を譲渡すること
  - (4) なんらの障害もなく海外に次の所得、利益及び支払を送金すること
    - (a) 株主に対する所得及び株主配当
    - (b) 財産及び証券の売却、財産権の譲渡、投資取決めの完了及び事業体の清算の後の利得
    - (c) 債務その他同様の支払に関わる元本及び利子
    - (d) 没収財産に対する支払補償金
    - (e) その他モンゴルの法令に基づいて得られた所得

(この号は、2002年1月3日付法律によって再編された。)

(5) 法令によって確認されているその他権利

2 外国投資家は、次の義務を有するものとする。

(1) モンゴルの法を遵守すること、

(2) 外国投資を伴う事業体の契約及び定款に記載された義務を果たすこと、

(この小項は、2002年1月3日付法律によって再編された。2008年5月29日付法律により修正された。)

(3) 自然環境の保護及び保存を確保するための措置を実施すること

(4) モンゴル人民の慣習及び伝統を尊重すること

### 第3章 外国企業の活動及び外国法人の駐在員

(2008年5月29日付法律により修正)

#### 第11条 (外国投資企業)

1 外国投資企業は、モンゴルの立法に従って設立された企業であって、エクイティの25パーセント以上が外国投資家の投資を以って構成されるもので、その資産額が100千\$、または、モンゴルトグルグ同等額であるものをいう。

(この項は、2002年1月3日付法律によって再編された。2008年5月29日付法律により修正された。)

2 外国投資企業は、その登録日からモンゴル法人になるものとし、モンゴルの法令に従って操業を行うものとする。

#### 第12条 外国投資企業の設立許可及び外国法人の駐在員

1 外国投資担当の国家行政機関は、申請及びその他の資料に基づき、外国投資の設立許可及び外国法人の駐在員の設置許可を発行する。

2 外国投資企業の設立申請にあたっては以下を含まねばならない。

(1) 投資者の名称、住所、国籍

(2) 投資の形態、金額

(3) 業種

(4) 投資、運営、サービスのセクター

(5) 準備工程、投資期間

3 外国投資企業の設立申請では以下の資料が添付されねばならない。

(1) 投資者の紹介、パスポート、法人登録のコピー

(2) 外国投資企業の定款または協定

(3) 他の法人と名称が同一でないことの証明

(4) 銀行による投資家の残高証明、資産保有証明

(5) 技術、経済性の根拠

(6) 外国投資企業の正式住所

(7) ライセンスにかかるモンゴル法に基づいた許可

4 外国投資担当国家行政機関は申請及び付属書類を受理した日以降、14日以内に関連官庁と協議して、決定を出すものとする。

(1) 法律との整合性

(2) 環境インパクト

(3) 標準、衛生にかかる要求事項との整合性

(4) 技能・技術の評価

5 前項における決定はモンゴル政府が定めた規則に基づいてなされるものとする。

6 外国法人の駐在員設置申請は、外国投資にかかる国家行政機関に申請されるものとし、以下を含まねばならない。

- (1) 外国法人の名称、住所
- (2) 外国法人の国籍
- (3) 駐在員の住所および場所
- (4) 駐在員の正式住所

7 外国法人の駐在員設置申請では、以下の資料が添付されねばならない。

- (1) 外国法人の駐在員の紹介および定款
- (2) 外国法人の駐在員証明書のコピー
- (3) 銀行口座証明
- (4) 駐在員の履歴書
- (5) 在員の住所

8 外国投資企業及び駐在員が許可を取得した場合、外国投資担当国家行政機関の長官による承認に基づく、外国企業の設置及び外国法人の駐在員設置にかかる証明書を取得することができる。

9 外国投資企業の協定又は定款が変更される場合は、10日以内に担当官庁に報告されるものとし、証明書の修正は14日以内に決定されるものとする。

10 外国投資担当国家行政機関が外国投資企業を設立する申請を却下した場合は、14日以内に理由を付して、返答をするものとする。

11 外国投資担当国家行政機関は外国法人の駐在員を設置する申請および付属書類を受理した日以降、10日以内に決定を行なう。(2008年5月29日付法律により修正された。)

### 第13条 (有体財産及び無体財産の評価)

1 外国投資企業の投資家は、通貨交換性を有する通貨及びトグルグ(現地通貨)に適用される同一の原則に従って事業体のエクイティを構成するために投資される財産及び知的に価値を有するアイテムの評価に関して交渉するものとする。投資家が必要であると認めたときは、その評価は資産評価を行うことを認許されたモンゴル又は外国の専門会社によって行われるものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって再編された。)

2 自由な交換可能な通貨へのトグルグの交換は、モンゴル銀行によって設定されかつ評価時に適用される交換レートで行われるものとする。

### 第14条 (外国投資を担当する国家行政機関の権限)

1 外国投資を管轄する国家の中央行政機関は、外国投資に関して次の権限を有するものとする。

- (1) 開発国の経済及び社会に関する政府の一般行動計画に従って投資政策を形成すること、
- (2) 外国投資に関する立法を確実に実施し監督すること、
- (3) 主導的な部門に関する提案及び外国投資を方向づけを行うこと。

2 外国投資を担当する国家の行政機関は、次の権限を有するものとする。

- (1) 外国投資に関する政策と立法を施行すること、
- (2) 外国投資を増加させ、投資促進活動を組織し、投資家に関連情報を提供し、及び各国投資家をプロジェクトテンダーに参加させること、
- (3) 外国投資家に「ワンストップ・サービス」を提供すること、
- (4) 労働、租税、関税、社会保障、外国人担当の行政機関から、外子億投資企業にかかる統計データを半年および通年で、収集、準備すること、
  - a. 投資金額・自社資産
  - b. 税金の支払い
  - c. 社会保障控除の支払い
  - d. 職場数

- e. 外国人許可
- f. 輸出入の品目、形態、金額

(2008年5月29日付法律により修正された。)

- (5) 外国投資企業及び外国法人の駐在員事務所の設立を承認すること、(2008年5月29日法律により修正された。)
- (6) 外国企業の活動を一時的、または、永久に終了させること、(2008年5月29日法律により修正された。)
- (7) 立法で定められたその他権限。

3 外国投資を担当する国家の行政機関は、この条第2項(3)に定められたサービスのいくつかを提供するものとする。(2002年1月3日付法律により再編された。)

#### **第15条 (外国投資企業および投資協定の登録)**

(2008年5月29日付法律により修正された。)

- 1 外国投資を担当する国家の行政機関から証明書を受け取った外国投資企業は、「国家租税総局」に登録されるものとする。(2008年5月29日付法律により修正された。)
- 2 外国投資企業の投資協定又は定款に対する修正は、外国投資を担当する国家の行政機関による承認後、「国家租税総局」に登録されるものとする。(2008年5月29日法律により修正された。)
- 3 外国投資を担当する国家の行政機関は、投資協定の申請書および投資協定の公証済み謄本に基づき、投資協定を登録し、申請の受理後10日以内に証明書を発給するものとする。  
(この項は、2002年1月3日付法律によって再編された。)

#### **第16条 (外国投資企業及び外国法人の支店の終了)**

- 1 外国投資企業の業務は、モンゴルの法令に定められた理由に基づき、休止又は終了される。  
(この項は、2002年1月3日付法律によって再編された。2008年5月29日付法律により修正された。)
- 2 外国投資を担当する国家行政機関は、本法第12条4項による承認を順守していないとの監督官庁の決定に基づき、外国投資企業の業務を中止または終了させることができる。(2008年5月29日付法律により修正された。)

#### **第17条 外国投資企業の清算**

(2008年5月29日付法律により修正された。)

- 1 外国投資企業がその業務を休止し又は終了することを決議したときは、その決議を14日以内に外国投資を管轄する国家中央行政機関及び国家租税総局に提出するものとする。  
(この項は、2001年11月30日付法律によって文言を修正され、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)
- 2 投資協定期間が終了し及び(又は)投資家が協定を破棄し若しくはモンゴルの法令に違反したときは、投資協定は登録から抹消されかつ承認証書は無効とされるものとする。  
(この項は、2002年1月3日付法律によって追加された。)
- 3 外国法人が清算する場合は、外国投資を担当する国家行政機関は、本法第12条1項に規定された証明書を無効にし、国家租税総局に通知するものとする(2008年5月29日付法律により修正された。)
- 4 本条第1項という通知を受理したときは、国家租税総局は外国投資企業を国家の登録(登記)から抹消し、その事実を公示するものとする。  
(この項は、2001年11月30日付法律及び2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)
- 5 外国投資企業の業務が清算されるときは、当該外国投資家は当該企業の最終勘定精算の完了後に、本法第10条第4項という収益を送金する資格を有するものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって修正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

#### **第18条 (課税)**

1 外国投資企業は、モンゴルの税法に基づいて税を納付するものとする。(2008年5月29日付法律により修正された。)

2 外国投資企業に関連した税制上の優遇及び免除は、モンゴル法人所得税法、関税法、付加価値税法、物品税法及び土地法に従うものとする。

(この項は、1998年1月15日付法律により削除され、2002年1月3日付法律によって追加された。また、2008年5月20日付法律により改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

#### **第19条 (安定協定)**

1 200万ドル以上又はそれに相当するモンゴル国通貨トグルグでモンゴルにおいて投資プロジェクトを実施することを企図する投資家による要請がある場合には、モンゴル政府によって承認されて租税政策問題を所掌する閣僚は、投資家との間で事業活動を遂行するための安定的環境の法的保証としての安定性に関する取決めに署名することができる。

2 安定協定の雛形は、モンゴル政府によって承認される。この取決めの雛形は、一定期間中の安定的な課税条件を確実なものとするための規定を含み、並びに投資の目的及び額、その実施期間及び終了根拠について定めるものとする。

3 外国投資家によって実施されるプロジェクトのスタートアップ投資額が200万～1000万ドル又はモンゴル通貨トグルグ相当額であるときは、安定協定は10年について署名することができ、及びその額が50百万ドルを超えるか又はモンゴル通貨トグルグ相当額であるときは、15年について署名することができる。(2008年5月29日付法律により修正された。)

4 外国投資企業がモンゴルの法令に従って破産したものでなく、かつ各当事者が相互の合意に基づいて契約を終了させたものでない場合に、安定協定期間の満了前に、投資家の一方的なイニシアティブによって活動を終了させたときは、その投資家に付与されていた課税軽減額及び免除額は投資家によって補償されるものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

#### **第20条 (安定協定の締結)**

1 安定協定を締結することを希望する投資家は、租税政策問題を担当する国家中央行政機関にその申請書と安定協定の草案を提出するものとする。

2 租税政策問題を管轄する政府閣僚は受理後14日以内に申請書と取決め草案を検討し、明確化を要しないときは申請人との間で安定協定を締結するものとする。明確化の追加が必要でない場合には、申請人は7事業日以内にそれを通知されるものとする。

3 関係する諸機関はかかる安定取決めを通知されるものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。)

#### **第21条 (外国投資企業による土地の使用)**

(2008年5月29日付法律により修正された。)

1 外国投資企業は、リースという方法により及びモンゴルの立法によって定められた条件と手続に従うことを条件として、対価を支払い土地を使用することができる。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

2 いかなるリースも、使用の条件及び期間、環境を確実にその自然な状態に保護し保全するために必要とされる措置、年間賃貸額並びに賃貸人及び賃借人の責任を含むものとする。

3 外国投資企業及び外国法人の支店に対するリースは、以下の手続に従って付与されるものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。)

(1) 全額出資外国企業による国有地の使用のためのリースは、モンゴルの土地所有者と外国投資家によって締結され、かつ関連の地元の議会とその常務委員会によって認可されるものとする。

(2) モンゴルの投資家が参加する外国投資企業による国有地のリースは、モンゴルの土地所有者と当該企業の長によって締結され、かつ関連の地元の議会とその常務委員会によって認可されるものとする。

(3) モンゴル投資家が参加者である外国投資企業による私有地のリースは、モンゴル土地所有者と外国投資企業の長によって締結され、かつ所轄の国家当局によって認可されるものとする。

4 外国投資企業の長によって発効する本条第3項第2号及び3号にいうリースから生じる義務は、モンゴル投資家と外国投資家とその事業体のエクイティへの出資に比例して分担されるものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。)

5 いかなるリースの存続期間も、外国投資企業の業務存続期間によって決定されるものとする。リースの当初期間は、60年を超えないものとする。リースは、原リースと同一の条件に基づいて40年までの期間につき1回延長することができる。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

6 外国投資企業がリース満了前に解散されるときは、そのリースは同時に終了するものとする。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律により修正された。)

7 リースされた用地は、特別の国家目的のために代替され又は取り戻されることがある。この件に関する決定は、モンゴル政府によってのみ行われる。かかる行為の結果として外国投資家が被る損害に対する補償は、遅滞なく支払われるものとする。補償額は、かかる代替又は移譲の時の価額を基準に決定されるものとする。

8 リースされた用地が公衆衛生、自然環境又は国家安全保障の権益を損なうように使用されるときは、そのリースは破棄されるものとする。

## **第22条 (金融、ローン、銀行取引及び検査)**

1 外国投資企業は、モンゴルの法令に従って金融、ローン、銀行取引及び外国通貨活動に関する活動を行うものとする。(2008年5月29日付法律により修正された。)

2 外国投資企業は、モンゴルの法令に従って会計帳簿及び財務諸表を作成するものとする。(2002年1月3日付法律、2008年5月29日付法律によって修正された。)

3 外国投資企業及び外国法人の支店の会計帳簿および金融および事業取引は、モンゴルの法令に従って国家の金融検査官又は公認監査役によって監査されるものとする。外国の独立監査機関は、必要があれば招聘されることがある。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律によって修正された。)

## **第23条 (保険)**

外国投資企業は、モンゴルの法令に従ってモンゴルの保険機関に付保することができる。

(この項は、2002年1月3日付法律によって改正された。2008年5月29日付法律によって修正された。)



#### **第 24 条（労使関係及び社会保障）**

（本条は 2002 年 1 月 3 日付法律により修正された。）

1 外国投資企業は、第一にモンゴル市民を雇用するものとする。外国市民は、特別又は高度の資質を要する職務のために雇用される。労働力の移入に関する問題は、モンゴルの関連立法によって規律されるものとする。

（この項は、2002 年 1 月 3 日付法律によって改正された。2008 年 5 月 29 日付法律によって修正された。）

2 外国投資企業によって雇用されるモンゴル市民に係る労働及び社会保障の事項は、労働及び社会保障に関するモンゴルの法令によって規律されるものとする。

（この項は、2002 年 1 月 3 日付法律によって改正された。2008 年 5 月 29 日付法律によって修正された。）

3 外国投資企業によって雇用される外国市民は、モンゴルの法令に従って所得税を納付する義務を負い、納税後には自己の所得を海外へ送金することができる。

（この項は、2002 年 1 月 3 日付法律によって改正された。2008 年 5 月 29 日付法律によって修正された。）

### **第 4 章 雑 則**

#### **第 25 条（紛争解決）**

外国投資家とモンゴル投資家との間の紛争及び外国投資、外国投資企業の業務、外国法人の支店業務にかかる外国投資家とモンゴルの法人又は自然人との間の紛争は、モンゴルが当事国である国際条約に定めがない限りモンゴルの裁判所によって、又は紛争当事者間の契約によって解決されるものとする。

（この項は、2002 年 1 月 3 日付法律によって改正された。2008 年 5 月 29 日付法律によって修正された。）

#### **第 26 条（この法律の発効）**

この法律は、1993 年 7 月 1 日に発効するものとする。

モンゴル国会議長 N・バガバンディ

国会事務総長 N・リンチンドルジ

## 付属資料4. 外国投資法（2）

### 総会の最終討議

2012.05.15

モンゴル国法律

2012年 月 日

ウランバートル市

戦略的に重要な分野において活動している企業における海外投資について

#### 第1条 共通事項

#### 1. 目的

- 1.1 本法律の目的は、国家安全保障を守るための戦略的分野において活動している企業に対する海外の投資者、それらと共通の目的を持つ者あるいは第三者の投資及び許可についてである。
2. 戦略的分野において活動している企業への海外投資法
- 2.1 戦略的分野において活動している企業への海外投資法、モンゴル国憲法、モンゴル国安全保障についての法律、海外投資法、国家安全保障についての原則、競争法などの法律及びそれらと関連する条例や諸事項と当法をから構成される。
- 2.2 モンゴル国の加盟している国際協定の定めている事項と当法に明記している事項が異なっている場合、国際協定に従うものとする。

#### 3. 当法の履行範囲

- 3.1 外国の行政法人及び行政関係法人、国際機関、それらと共通目的の者あるいは第三者がモンゴル国でこれから活動を行おうとする団体あるいはすでに活動している団体がそれらと共通目的の者および第三者に投資しようとする場合、モンゴル国政府より許可を得る必要がある。
- 3.2 海外の投資者およびそれらと共通の目的の者あるいは第三者は当法の 5.1 に明記したこれから戦略的分野において活動する企業あるいは戦略的分野において活動している企業と当法の第6条に明記している協定を結ぶ場合にはモンゴル国政府(以下「政府」と言う)から許可を取らなければならない。
- 3.3 この法律はモンゴル国が加盟している国際協定の範囲で実施されている投資には関連しないものである。
- 3.4 海外の投資者およびそれと共通の目的の者あるいは第三者が当法に違反して戦略的分野において活動している企業を契約を結ぶことを禁ずる。
- 3.5 モンゴル国の領土でない場所で結ばれた協定は当法の 3.1-3.2 に関連するものであれば、当法に従うものとする。
- 3.6 当法の 4.1.1 に定められている通り、新たに企業を設立する場合、あるいは 4.1.1 に定められた通りに戦略的企業の株を手に入れている投資者およびそれらと共通の目的の者あるいは第三者に対して当法は同様に効力を持つ。
- 3.7 戦略的分野において活動している企業の海外投資の割合は 49%以下でなければならず、それを超えた場合、内閣から決議要請をし、国会で決定する。
- 3.8 戦略的分野において活動している企業が商品、労働力、サービスを購入する場合、モンゴル国に登録されている行政機関を優先的に利用するという原則に基づくものであり、この原則を内閣が該当する戦略的分野において活動している企業と共同で決定し、これに従うものとする。

#### 4. 法律の名称の規定について

- 4.1 当法に使用されている名称を今後、以下のように明記するものとする。
  - 4.1.1 「戦略的分野において活動している企業(以下「戦略的企業」と言う)」とは、当法の 5. に定めている通りの活動を行っている企業を指す。

- 4.1.2 「管理側の決定を阻止する」とは、法律あるいはその企業の定款および契約において多数決で決定されると規定されている取締役の決定を海外の投資者、それらと共通の目的の者あるいは第三者を通して阻止することを指す。
- 4.1.3 「海外の投資者」とは、海外投資に関する法律の 3.2 に定められている者を指す。
- 4.1.4 「共通の目的の者」とは、会社法 99.1 に定めているものである。
- 4.1.5 「第三者」とは、海外の投資者あるいはそれと共通の目的の者で、モンゴル国に登録されていないそれらに關係する法人または個人を指す。
- 4.1.6 「政府の企業」とは、モンゴル国の国民、法人が設立した企業で、株式の 100%をモンゴルの国民または法人が所有している会社を指す。
- 4.1.7 「投資する」とは、海外投資についての法律の第 6 条に定めている通り、戦略的企業で海外に登録されている会社、その子会社あるいは関連会社、それらと共通の目的の機関の株を購入または委託することを指す。

## 第 2 条

### 戦略的分野、許可を取るための交渉

#### 5. 戦略的分野

- 5.1 国民生活の最低限の需要を満たし、経済的に正常で独立した活動を保障し、国民所得を構成するため、国家安全保障を強化するために戦略的に重要な役割を果たす資源、金融、マスメディア、通信の分野を国家安全保障において戦略的分野と言う。
- 5.2 内閣が必要であるとみなした分野を戦略的分野とするか否かについてその度に国会で討議し、決定する。

#### 6. 許可を取るための協定

- 6.1 この法律に基づいて許可を取る必要がある協定(以下、「協定」と言う)の範囲は以下である。
  - 6.1.1 戦略的企業である会社の株の 3 分の 1 あるいはそれ以上を所有する権利をもつための協定。
  - 6.1.2 戦略的企業の実務取締役が単独で、その管理職および取締役委員会の構成を条件なしで決定できる権利をもつために協定。
  - 6.1.3 戦略的企業の実務取締役の決定を否定する協定
  - 6.1.4 戦略的企業の実務取締役の役割を果たす、決定を出す、それらの運営する各権利を得るための協定
  - 6.1.5 鉱山業由来の原料における国際およびモンゴル国内市場における購入側および販売側が寡占状態をつくる可能性のある協定
  - 6.1.6 モンゴル国の鉱山業の輸出品の市場、価格に直接または間接的に影響を及ぼす可能性のある協定
  - 6.1.7 戦略的企業である会社とその株価が下がる可能性のある契約を会社自身、その共通目的の会社または第三者となる会社が他の企業と結ぶ。
- 6.2 当法の 3.1、3.2 に定めた者が当法の 6.1 に定めた交渉をする場合、決議してから 30 日以内に関係行政機関に許可申請をしなければならない。
- 6.3 当法の 6.1.1 に定めている交渉をした海外の投資者、それらと共通の目的を持つ者、第三者がこれに関して支払った金額に対してモンゴル国税法律に基づいて税金を納め、それらは国家財政に組み込まれる。

## 第 3 条

### 行政機関が申請を受け、決定を出す

#### 7. 許可申請および申請に対する決定

- 7.1 この法律の 6 における交渉を計画している当法の 3.1、3.2 に定められた者は、許可申請の旨を海外投資を担当する行政機関に提出する。

- 7.2 当法の 7.1 に指定されている申請を受け、決定を出す際の詳細な規則を内閣が当法と調整の上、作成する。
- 7.3 海外投資を担当する行政機関は当法の 7.1 で定めた申請を受け、次の状況が発生するかどうか審査する。
- 7.3.1 投資者の活動あるいはその投資の方法が国家安全保障の原則に違反しているかどうか。
- 7.3.2 申請者がモンゴル国の法律や条令、事業規則を守る条件を満たしているかどうか。
- 7.3.3 投資によってその分野の競争において制限あるいは一方に偏った状況をつくる可能性を含むかどうか。
- 7.3.4 投資によってモンゴル国歳入やその他の政策、活動に決定的な影響を及ぼすかどうか。
- 7.3.5 投資によってその分野の活動において悪影響を及ぼすかどうか。
- 7.4 海外投資を担当する行政機関は当法の 7.1 に定めている申請を受け取ってから 45 日以内に協定可能かどうかをという意思を内閣に提示しなければならない。
- 7.5 内閣は当法の 7.4 に定めている意思を受けてから 45 日以内に許可するかどうか決定を出す。
- 7.6 海外投資を担当する行政機関は当法の 7.5 に定めている決定を出してから 5 日以内に申請者にその決定の内容を伝えなければならない。
8. 協定成立の報告
- 8.1 海外の投資者、共通目的の者あるいは第 3 者は戦略的企業の 5 パーセントから当法の 6.1.1 に明記されたパーセントまでの株を所有したという旨を海外投資を担当する行政機関に 30 日以内に報告をしなければならない。
- 8.2 この法律が執行されてから 180 日以内に当法の 3.1、3.2 に定めている者が海外投資を担当する行政機関にこの法律が執行前に戦略的企業の株を 5 パーセント以上所有していることを報告しなければならない。

#### 第 4 条 その他

9. 法律の結論
- 9.1 この法律で定められた要求、または当法の 3.1、3.2 に明記している事項に違反している協定は無効とされる。
- 9.2 当該する権力を持つ機関が、この法律を違反した戦略的企業の活動を停止あるいは特別許可証を無効にすることができる。
10. 法律の執行
- 10.1 当法を執行した日より当法は有効となる。

サイン

## 付属資料5. 労働法

### モンゴル国法 労働に関する法律

1999年5月14日

ウランバートル市

#### 第一章総則

##### 第1条 (法律の目的)

本法の目的は、労働契約に基づき労使関係の当事者となる使用者および労働者の一般的権利義務ならびに労働協約、団体協定、個別労働紛争、集団的労使紛争、労働条件、労働基準監督、法律違反者に対する罰則等について定め、もって労使間の公平を図ることにある。

##### 第2条 (労働に関する法令)

2.1 労働に関する法令は、モンゴル国憲法、本法律<sup>1</sup>、その他これらの趣旨に反しない法律により構成される。

2.2 モンゴル国が締結した国際条約は本法律に優先する。

##### 第3条 (定義)

3.1 本法律で使用されている用語の定義は、以下のとおりである。

3.1.1 「使用者」とは、労働契約にもとづいて労働者を使用する者をいう；

3.1.2 「労働者」とは、使用者との労働契約締結の上、使用される個人をいう；

3.1.3 「労働契約」とは、一方から労働者が使用者の法律に基づいて策定した就業規則<sup>2</sup>に則って特定の業務を遂行する旨、もう一方から使用者が労働者の労働の対償として賃金を支払い、関連法令および労働協約等において定められる労働条件を提供する旨相互に義務を負う合意をいう；

3.1.4 「労働協約」とは、当該企業および組織の全労働者の労働基本権および関連する利益を法律の基準以上に保障する旨、さらに本法律に規定のない事項等について使用者および労働者の代表<sup>3</sup>間で結ぶ合意をいう。

3.1.5 「団体協定」<sup>4</sup>とは、個人の労働基本権および関連する利益を共同で保障する目的で全国レベル、地域圏レベル、行政単位レベル、専門分野レベルにおいて使用者および労働者の代表、行政機関との間で交わされた合意をいう；

3.1.6 「使用者の代表」とは、企業又は組織の管理者、使用者により権利を委任されている者、あるいはその規則において使用者の権利利益を代表する義務が規定されている組織をいう。

3.1.7 「労働者の代表」とは、労働者の権利利益を代表する義務を負う労働組合、組合がない場合労働者の全体会議において選任された代表者らをいう；

3.1.8 「個別労働紛争」とは、労働基本権<sup>5</sup>および関連する利益について労働契約の

<sup>1</sup>民法第369条にいう、「労働契約」の「特別の定め」が本法にあたる。

<sup>2</sup>第130条に就業規則についての規定がある。就業規則は、労務管理、労働者の権利義務や責任について規定する重要な機能を持つが、本労働法は作成方法、規定すべき内容などについて詳細な規定を欠いている。また、就業規則と労働契約との効力関係や就業規則の不利益変更の場合の労働契約規律効についても明らかでない。

<sup>3</sup>労働組合が結成されていれば労働組合、結成されていない場合には、労働者の全体会議で選任された代表者のことをいう(3.1.8参照)。なお、労働者の全体で選ばれた代表者を労使協定の当事者とする従業員代表制度は、日本やアメリカでは制度化されていない。ドイツやフランスの制度が代表的であり、労使の対立を予定する団体交渉とは異なり、使用者と労働者との協調を基本理念とする制度である。

<sup>4</sup>日本の労働法には存在しない概念である。日本でいえば、地域一般労組や、連合組合などが行う労使協定がこれに近い。ただし、三者協定として、労働者、使用者以外に、行政機関が加わる点異なる。行政機関が契約当事者として加わることにより、一種の法規範のごとき効力が生じることとなる。

<sup>5</sup>労働者がその労働に関して持つ権利のことであり、特に雇用者に対し労働条件・労働環境の促進または維持を求める行為に関する基本権を言う。労働基本権の内容については国によって様々であるが、本労働法には労働基本権の定義規定は存在していない。モンゴル国憲法16条4号が定める以下の内容のことを労働基本権と理解しているものと考えられる。

「モンゴル国市民は、以下の権利および自由の享受を保証される。4) 職業の自由な選択、望ましい労働、賃金、休息条件の自由な選択および私的企業に関する選択の権利。何人も不法に労働を強制されない。」

当事者間で生じた意見の不一致をいう；

3.1.9 「集団的労使紛争」とは、労働協約又は団体協定の締結および履行、履行監督に際して労働協約又は団体協定の当事者間で生じた意見の不一致をいう；

3.1.10 「労働条件」とは、労働の際に労働者の労働能力あるいは健康に単独および併合的に影響を与える職場環境の諸要素をいう；（本規定は 2008. 5. 22 に改正された。）

3.1.11 （本規定は 2008. 5. 22 に削除された。）

3.1.12 （本規定は 2008. 5. 22 に削除された。）

3.1.13 「同盟罷業」とは、労働者が集団的労使紛争を解決する目的で特定の期間中において自主的にその業務を部分的又は全面的に停止することをいう；

3.1.14 「強制労働」とは、懲戒目的で、あるいは同盟罷業への参加または政治経済、社会体制に関する意見表明を罰する目的で、あるいは社会的身分や国籍、人種、宗教により差別する目的で、あるいは労働者の生命および健康が危険にさらされているにもかかわらず労働者に強いた労働をいう；（本規定は 2003. 5. 22 に追加された。）

3.1.15 「職務」とは、使用者の指定する職場において、既定の規則に基づいて、使用者の支給する道具を利用して、使用者およびその代表者の指揮命令下において、所定の賃金表に従って賃金を支払われ、労働日に、定期的に遂行する業務をいう。（本規定は 2003. 5. 22 に追加された。）

#### **第 4 条（労働法の対象範囲）**

4.1 本法律は以下の各当事者間で締結された労働契約に基づいた労使関係およびそれに派生するその他の労使関係を規定する。

4.1.1 モンゴル国内で事業を実施する国内外の企業とモンゴル国民との間の；

4.1.2 モンゴル国民または外国人、無国籍者とモンゴル国民との間の；

4.1.3 国内企業と外国人または無国籍者との間の；

4.1.4 モンゴル国国際条約に別段の定めがない限り、モンゴル国内で事業を実施する外国の企業、個人、無国籍者間の；

4.2 財産および労働力を共有する労働者団体がその労使関係に関する規則を定めていない場合、あるいは本法律の適用について合意している場合、本法律の関連規定を適用する。

4.3 労働安全衛生および労働条件に関しては法律で別途定める。（本規定は 2008. 5. 22 に追加された。）

#### **第 5 条（使用者の権利義務）**

5.1 使用者は、法律に基づいて就業規則を作成し、これを遵守させる権利、労働者に労働契約上の義務の履行を求める権利、本法律の罰則の規定を労働者に適用する権利を有する。

5.2 使用者は、労働者に業務を提供する義務、安全衛生上の基準を満たす労働条件を整備する義務、労働の対償として賃金を支払う義務、本法律および労働契約、労働協約、団体協定、就業規則に規定のある使用者の義務を履行する義務を有する。（本規定は 2008. 5. 22 に改正された。）

5.3 使用者はジェンダーの平等に関する法律に定めのある権利を有し、義務を負う。（本規定は 2011. 2. 2 に追加された。）

#### **第 6 条（労働者の権利義務）**

6.1 労働者は、安全衛生上の基準を満たす労働条件を整備してもらう権利、賃金を支払われる権利、休暇を取得する権利、自身およびその代表者を通じてその権利利益を守るべく団結する権利、法律に基づいて年金や給付金を支給される権利、労働契約および労働協約、団体協定に規定のあるその他の権利および保障を受ける権利を有する。

6.2 労働者は、誠実に働く義務、法律に定めのある職務上の機密の守秘義務、労働契約および労働協約、就業規則、安全衛生上の基準等を遵守する義務を負う。（本規定は 2008. 5. 22 に改正された。）

6.3 労働者はジェンダーの平等に関する法律に定めのある権利を有し、義務を負う。（本規定は 2011. 2. 2 に追加された。）

#### **第 7 条（労使関係における差別、制限、優位な取り扱いの禁止）**

7.1 何人も労働を強要されてはならない。

7.2 労使関係において国籍、人種、年齢、性別、社会的身分、資力、職務、役職、教育、宗教、信条を理由として差別すること、制限を設けること、優位に取り扱うことを禁じる。（本規定は 2011. 2. 2 に追加された。）

- 7.3 使用者は、労働者の採用時あるいは労使関係継続中において、その業務の特性および必要性により労働者の権利自由を制限した場合、その根拠を立証する義務を負う。
- 7.4 使用者は、労働者の採用に際して業務の特性に関係なくその私生活および信条、配偶者の有無、政党への所属、宗教、妊娠の有無について質問をしてはならない。
- 7.5 本法律第7条4項に違反して質問をした場合、労働者は答える義務を負わない。

## 第二章労働協約、団体協定

### 第8条（労働協約または団体協定締結の基本原則）

- 8.1 労働協約または団体協定を締結するときは、次の原則に従う。
- 8.1.1 透明性が確保されていること；
- 8.1.2 適法な内容であること；
- 8.1.3 交渉当事者の代表者の数が同じであること；
- 8.1.4 交渉当事者が平等であること；
- 8.1.5 労働協約および団体協定の合意条項を自由に選択し、協議すること；
- 8.1.6 自主的に義務を負うこと；
- 8.1.7 責任を明確に規定していること。

### 第9条（情報の提供）

- 9.1 労働協約または団体協定の草案作成段階および交渉の過程において、関連する行政組織および使用者は労働者の代表者に対して必要な情報を提供する義務を負う。
- 9.2 交渉当事者は、労働協約または団体協定の履行監督に際して、その履行状況および経過に関して自身の持つすべての情報を共有しなければならない。

### 第10条（介入の禁止）

- 10.1 労働協約または団体協定の締結時および履行時において、政府組織および非政府組織、宗教団体、政党、個人、管理職員等が交渉当事者の法的権利を制限し、権利行使を違法に妨害し、介入することを禁止する。

### 第11条（労働協約または団体協定の提案）

- 11.1 労働協約または団体協定の締結および修正等ほどの当事者からも提案できる。
- 11.2 労働協約または団体協定の締結、交渉を提案する当事者は、その提案を書面で相手方に通知する。
- 11.3 使用者に代わって交渉を行う権利は、本法律第3条1項6号の使用上の代表にある。
- 11.4 本法律第3条1項7号の労働者の代表は、労働者を代表して交渉に参加し、労働協約又は団体協定を締結する権利を有する。
- 11.5 国レベル、地域圏レベル、行政単位レベル、専門分野レベル、あるいは企業レベルにおいていくつかの労働組合が存在する場合、各組合の組合員数に比例した数の代表者を任命し、労働協約または団体協定の交渉および締結に参加させる。

### 第12条（交渉）

- 12.1 労働協約または団体協定の締結は交渉により行う。
- 12.2 交渉の提案者は、交渉参加者のリスト、労働協約または団体協定の草案、あるいはその修正案を作成し、交渉通知書に添付の上相手方に届ける。
- 12.3 通知書を受け取った当事者は、5労働日以内に書面で回答する。
- 12.4 交渉通知書を受け取った当事者は、以下の期限内に交渉を開始させなければならない。
- 12.4.1 労働協約の締結およびその修正に関する通知書を受け取った場合、10労働日以内に；
- 12.4.2 団体協定の締結に関する通知書を受け取った場合、15労働日以内に。
- 12.5 通知書を受け取った当事者が本法律第12条3項および第12条4項の期限内に回答をしない場合、あるいは交渉を開始させない場合、あるいは当事者が交渉中に合意に達することができなかった場合、本法律第十章の集団的労使紛争の処理手続きに基づいて処理する。
- 12.6 交渉参加者は、交渉中に知り得た業務上機密および取引の秘密情報等を漏らしてはいけない。
- 12.7 交渉にかかる費用、当事者の事前合意により交渉に参加させた専門家の報酬、その他の費用は、労働協約または団体協定の規定に基づいて支出する。
- 12.8 交渉に参加する就労中の労働組合員および代表者に対してその所属機関が当該活動を理由に予告なしに懲戒処分をすること、交渉参加を理由に異動させること、交渉期間中および交渉終了後1年

以内に使用者の希望で労働者を解雇することを禁じる。

12.9 交渉は、当事者の代表全員が労働協約または団体協定に署名することで終了する。

### 第13条（労働協約または団体協定の適用範囲）

13.1 労働協約または団体協定は、交渉参加者にその権利利益を代表してもらっている全使用者、全労働者に適用される。

### 第14条（労働協約または団体協定の締結）

14.1 労働協約または団体協定の締結に際して本法律第12条の手続きに従う。労働協約は、企業の経営計画作成前にこれを締結する。（本規定は2003.5.22に追加された。）

14.2 企業においては、その支部<sup>6</sup>も含め唯一の労働協約を締結する<sup>7</sup>。

14.3 交渉提案者の数に関わらず、当該レベルに唯一の団体協定を締結する。

14.4 使用者は、労働協約または団体協定の締結時において、自身の有する情報を提供し、事務設備を提供し、勤務時間外の集会のための会議室を用意し、啓蒙宣伝活動を支援する義務を負う。

14.5 労働協約は1年以上、団体協定は2年以上の期限でそれぞれ締結する。

### 第15条（労働協約または団体協定の登録）

15.1 使用者は労働協約に署名してから10日以内に、その企業が本拠地としている郡<sup>8</sup>（Soum）役所または区役所に対して届け出る。

15.2 専門分野レベルの、地域圏レベルの、県<sup>9</sup>レベルの、首都レベルの専門職の賃金に関する団体協定は、それに署名してから10日以内に厚生労働省に届け出る。

15.3 郡または区レベルで締結された団体協定に郡または区の首長が署名してから15日以内に県役所又は首都の市役所に届け出る。

15.4 本条の届出を受けた登録権者は、労働協約または団体協定の届出を受けてから10労働日以内にそれを審査し、法令に違反していなければ登録し、違反していれば登録を拒否する。

15.5 労働協約または団体協定のうち、未登録のものや法令に違反するもの、労働者の権利および労働条件を法定の基準より下げている内容の条項は、これを無効とみなし、履行しない。

### 第16条（労働協約または団体協定の遵守）

16.1 労働協約または団体協定は、本法律第15条の登録の完了をもって有効となる。

16.2 企業の所属先および管理体制に変更があったことは、労働協約の終了事由とならない。

16.3 企業の組織改正および所有者の変更<sup>10</sup>に際して、労働協約を継続、修正、再締結するか否かは労使代表らの交渉により決定する。

16.4 法定の手続きにより企業が解散する場合、当該労働協約を解散手続きの完了までの期間中において遵守する。

16.5 労働協約または団体協定は、規定されている手続きにより当事者の合意に基づいて修正をする。労働協約または団体協定に関連する規定がない場合、締結当初の手続きによる。

### 第17条（当事者による労働協約または団体協定の履行監督）

17.1 労働協約の履行は、労使双方または労使代表らがこれを監督する。

17.2 あらゆるレベルの団体協定の履行は、交渉当事者またはその代表、厚生労働省、県や首都、郡や区の首長がこれを監督する。

17.3 当事者は履行監督に際して、労働協約または団体協定に関して自身の持つあらゆる情報を共有しなければならない。

17.4 当事者は単独または共同で、労働協約または団体協定の履行状況および経過を、半年ごとまたは労働協約もしくは団体協定に定めのある期限をもって評価し、その結果を全労働者に対して報告す

<sup>6</sup>支店、支社などの従たる事業所のこと。

<sup>7</sup>モンゴル国労働法は、1つの交渉単位における労働条件は1つであることを予定していると考えられる

（14.2, 14.3）。ただし、1つの企業内に複数労働組合が存在する場合、組合ごとに異なった条件の労使協定を締結することが認められるかどうかについては、この条文からは必ずしも明らかではない。

<sup>8</sup>モンゴルの行政単位の一つでモンゴル語では Soum という。

<sup>9</sup>モンゴルの行政単位の一つでモンゴル語では Aimag という。

<sup>10</sup>株主の変更等を意味する。



る<sup>11</sup>。

### 第18条（労働協約の対象範囲）

18.1 労働協約においては本法律で直接規定しない次の事項を規定する。

18.1.1 基本給の決定、その引き上げ、その形態および支払い時期、加給<sup>12</sup>、割増給、賞与、年金、手当、給付、保障等の額および労働基準量の決定または変更、労働者に支給する食費や交通費、その他手当での支給額の決定等に関する規定；（本規定は2003.5.22に追加された。）

18.1.2 労働者の職業訓練及び研修、新たな専門性の習得及び職場環境保全等に関する規定；

18.1.3 労働時間および休憩時間の基準等に関する規定；

18.1.4 労働者、中でも妊婦や年少者、身体障害者、小人症の者の労働安全衛生条件の改善等に関する規定；

18.1.5 企業や団体やその支部の私有化、組織変更に際して労働者の権利および法的利益を保障する規定；

18.1.6 物価上昇や通貨レートの変動に合わせて賃金を増加させる規定；

18.1.7 労働者の社会福祉に充当する資金を決定する規定；

18.1.8 環境安全、労働条件、安全衛生上の基準の確保に関する規定；

18.1.9 就業と平行して就学する労働者に対して使用者が講じる保障についての規定；

18.1.10 企業や団体の社宅や幼稚園、保育園、文化施設の建設および利用について、多子家族やシングルマザーやファザー、身体障害児を持つ労働者に対する保障、当該企業や団体に勤務していた高齢者や身体障害者、労働災害や急性中毒、職業性疾病により健康被害を受けた労働者の生活水準の改善に関する規定；

18.1.11 労働組合、その委員や代表者に対して組合活動を行うための条件を整えるための規定。

18.1 本法律において規定されている以上の保障を労働協約で規定することができる。

18.3 労働協約においては、当該協約の履行監督および評価、当事者への通知、二者間及び三者間の労使関係を発展させること等について規定する<sup>13</sup>。

### 第19条（団体協定の対象範囲）

19.1 団体協定において次の事項を規定する。

19.1.1 国レベルで締結される協定においては、国レベルで遵守すべき国民の社会保障権や労働権、関連する法的利益を保障する際に生じた労使関係上の共通事項；

19.1.2 専門分野レベルで締結される協定においては、具体職種や専門分野に就労する労働者の賃金額や労働条件、労務管理、労働基準量等にかかわる事項；

19.1.3 地域レベルで締結される協定においては、当該地域において遵守されるべき生活最低基準および最低賃金、手当、国民の労働権及び関連する法的利益の保障にかかわる共通事項；

19.1.4 県や首都、郡や区のレベルで締結される協定においては、当該行政区において遵守されるべき住民の雇用問題および労使関係にかかわる事項；

19.1.5 職業別に締結される協定においては、特定職種や職業に関する労使関係にかかわる事項。

### 第20条（団体協定の交渉当事者）

20.1 団体協定締結においては、本法律第3条1項6号及び第3条1項7号の労使の代表らに加えて行政機関の代表者も交渉に参加できる。

20.2 団体協定は、交渉当事者の数にかかわり二者間協定又は三者間協定がある。

20.3 団体協定は、交渉当事者および交渉内容にかかわり全国レベルでは国レベルまたは専門分野レベルの団体協定、行政単位レベルでは地域圏レベルの、県レベルの、首都レベルの、郡レベルの、区レベルの、職業別の団体協定にそれぞれ分類される；

<sup>11</sup>本条や第15条で登録が効力要件であることから、労働協約、団体協定が、交渉当事者となった者以外の労働者も拘束する（一般的拘束力）ことが伺われる。ただし、一般的拘束力を正面から認める規定は、本労働法には存在しない。

<sup>12</sup>「加給」とは「職務給」とほぼ同じ概念であるが、労働条件による加給も含まれる点で異なる。（第51条参照）

<sup>13</sup>これら労働協約中の労働条件以外を定める部分については、個別の労働契約を直接規律する規範的効力はなく（21.5参照）、契約としての効力（債務的効力）しか生じないと考えられる。

20.4 団体協定には、その分類に応じて次の交渉当事者が参加する。

20.4.1 国レベルで締結される協定においては、政府と、使用者や労働者の権利及び法的利益を代表する国家レベルの団体；

20.4.2 専門分野レベルで締結される協定においては、当該専門分野を担当する国の省庁と、使用者や労働者の権利及び法的利益を代表する分野レベルの団体；

20.4.3 地域レベルで締結される協定においては、当該地域圏にある県や首都の首長と、使用者や労働者の権利及び法的利益を代表する地域圏レベルの団体；

20.4.4 県や首都、郡や区のレベルで締結される協定においては、当該行政区の首長と、使用者や労働者の権利及び法的利益を代表する当該行政区レベルの団体；

20.4.5 職業別に締結される協定においては、関連する行政機関と、当該職種の使用者と労働者の権利及び法的利益を代表する団体。

### 第3章 労働契約<sup>14</sup>

#### 第21条（労働契約）

21.1 労働契約においては、次の主要条件を定めるものとする。

21.1.1 職種および役職名<sup>15</sup>；

21.1.2 職務記述書に規定される職務内容；（本規定は2003年5月22日に改正された。）

21.1.3 基本給および役職給<sup>16</sup>の額；

21.1.4 労働条件。

21.2 一方当事者が労働契約の条項を変更することを禁じる。

21.3 労働契約締結時において当事者が本法律第21条1項の主要条件のいずれかについて合意に達することができなかった場合、当該労働契約は不成立とみなされる。

21.4 労働契約は、法令や労働協約、団体協定に適合しなければいけない。

21.5 法令や労働協約、団体協定で定める基準を下回る労働条件を定める労働契約は、その条件については無効となる<sup>17</sup>。

21.6 労働契約において、当事者は、本法律第21条1項の主要条件以外のその他の条件について合意することができる。

21.7 労働契約は、当事者が署名をした日から有効となる。

#### 第22条（独立業務請負契約）

22.1 所有者またはその授権者は所有権の一部を行使する際に他者の労働を利用するため、使用者は個人の特長才能や技能を有償で利用するため、当該個人と独立業務請負契約を結ぶ。

22.2 本法律第22条1項の独立業務請負契約の締結により個人を雇うことができる職種または役職の一覧表は、厚生労働大臣が策定する。

#### 第23条（労働契約の期間）

23.1 労働契約は、有期または無期に締結される。

23.2 労働契約の期間は、次のように定める：

23.2.1 正規雇用<sup>18</sup>の場合の労働契約は無期に締結；

23.2.2 本法律第23条2項1号の労働契約は当事者の合意により有期に締結<sup>19</sup>；

23.2.3 職務および役職が法律やその他の決定に基づいて維持されている労働者の代わりに勤務する者とは欠勤者の復職までの期間、季節限定及び臨時の職務に関しては当該業務の継続期間、

<sup>14</sup>労働契約の定義については、3.1.3に規定されている。

<sup>15</sup>日本においては、長期的な雇用を予定している正規従業員については、職種・職務内容を限定せずに採用し、企業内で広範囲に配転を行うことが通常である。しかし、モンゴル労働法の規範では、職種や職務内容を限定する合意を労働契約の主要条件としており、日本のように広汎な使用者の配転命令権は認められにくいと考えられる。

<sup>16</sup>役職給という新しい概念が出てくるが、その内容に関する規定は本労働法にはない。

<sup>17</sup>労働協約・団体協定において規定される労働条件以下の条件を定める労働契約が無効となり、労働協約・団体協定の定める基準の定めによるという、労働協約・団体協定が規範的効力を規定する。なお、規範的効力を有するのは、労働協約・団体協定が規定するもののうちの「労働条件」に関する部分についてのみである。

<sup>18</sup>3.1.15の「職務」を行う場合というの意味である。

<sup>19</sup>日本では期間雇用について期間の長さの上限が規定されているが、モンゴル労働法では期間の定めのある労働契約の締結それ自体のみならず、期間の上限についても制限がない。

新入社員やインターンとは使用者が就業規則において決定した試用期間<sup>20</sup>および実習期間をもって契約を締結する。試用期間および実習期間は6か月を超えてはならない。(本規定は2003.5.22に改正された。)

23.3 有期の労働契約の契約期間が満了してもどちらの当事者からも解約の提案がされず、なおかつ労働者が業務を継続して遂行している場合、当該労働契約は当初の契約の期間更新されたとみなされる<sup>21</sup>。

#### **第24条 (労働契約の締結)**

24.1 使用者またはその権利を委任された管理者は、個人と書面により労働契約を締結し、契約書の一部を労働者に渡す義務を負う。正規雇用<sup>22</sup>に関しては労働契約以外の契約<sup>23</sup>を締結することを禁じる。(本規定は2003.5.22に改正された。)

24.2 使用者は、一つの職務に複数の労働者を従事させる場合、各々の労働者と個別に労働契約を結ぶ。

24.3 書面による労働契約が締結されない場合、労働者に何ら業務遂行を強要してはならない。

#### **第25条 (独立業務請負契約の締結、その内容)**

25.1 独立業務請負契約は書面により締結される。

25.2 独立業務請負契約の契約期間は5年以内である。

25.3 契約の当事者は、独立業務請負契約を締結する際に、契約期間や労働者の遂行する業務の最終成果、使用者に対して負うべき義務、独立業務請負契約の成果評価手続き、労働者の管理下における資産の額、その所有および利用、運用に関する手続、労働者に支給する報酬、手当、保障、業務遂行により得られた成果及び利益の配分率、その負うべき責任等を明記する。

25.4 独立業務請負契約の評価に際して労働者が業務を適切に遂行したみなされる場合、契約期間を延長することができる。

#### **第26条 (複数の職務の同時遂行)**

26.1 労働者は、労働時間内において自社および他社と締結した労働契約に基づいて他の職務および役職を兼任すること、自社内において他の業務を並行して遂行することができる。使用者は、労使間の合意により、労働者に欠勤者の職務を代行させ、業務負担を増やして労働させることができる。

26.2 労働者は、本法律第28条の場合を除き、複数の使用者と労働契約を並行して結ぶことができる。

#### **第27条 (同時就労の禁止)**

27.1 国有法人等(国が51パーセント以上の資金を提供している法人)においては、家族関係および親族関係にある者が、資金管理業務もしくは管理職に同時に就労することを禁止する。

#### **第28条 (複数の使用者への副業禁止)**

28.1 法人の資金管理業務を遂行する労働者または管理者は、並行して、類似業務を行う所有権の形態の異なる所有者との間で、当該職務及び役職と同一の職務または役職、監督的職務に就く旨の労働契約および独立業務請負契約を締結することを禁じる。

28.2 本法律第28条1項は兼業<sup>24</sup>にも適用される。

<sup>20</sup>日本では、新入社員の試用期間については、判例上、解約権留保付きの労働契約と理解されており、本採用拒否(留保解約権の行使)は、解約権留保の趣旨、目的に照らして、客観的に合理的な理由が存し社会通念上相当として是認されうる場合にのみ許される。すなわち、企業側は適格性欠如の具体的根拠を示す必要があり、その判断の妥当性が客観的に判定されることとなる。しかし、モンゴル国労働法では、試用期間は正社員の労働契約とは別個の契約であって、これは労働者の職業上の能力や適格性を判定するための特別の契約であると理解できる。このような理解からは、使用者は、適格と判断した者と改めて労働契約を締結するのであり、本採用拒否は全く使用者の自由であるという結論を導きやすいといえるだろう。

<sup>21</sup>日本民法にも同様の条文が存在するが、日本では、有期労働契約の雇い止め(更新拒否)の事例において、判例上、雇用継続に対する労働者の期待利益に合理性がある場合には、解雇権濫用法理を類推適用し、更新拒否には解雇の場合と同様客観的で合理的な理由が必要とされ、もしそのような事情が認められない場合には自動的に短期契約の更新が認められる。判例による一種の法定更新制度である。モンゴル国では、現在のところ、日本のような判例による雇い止めの規制は存在しないものと思われるが、使用者としては、有期労働契約を締結する際には、更新の都度契約書を書き換える、不用意に労働者に雇用継続の期待を抱かせない、といった点に留意することが望ましい。

<sup>22</sup>3.1.15の「職務」を行う場合というの意味である。

<sup>23</sup>請負契約など、労働契約以外の契約形態のことである。

<sup>24</sup>モンゴル語のこの言葉は simultaneous employment という英訳になっている。

28.3 本条の違反により使用者が被った損害は、労働者が本法律に基づいて補償する。

#### **第29条（行為無能力者と締結した労働契約の無効、起算時期）**

29.1 行為無能力者および制限行為能力者と締結した労働契約は、当該労働者が職務を遂行しなくなった日から無効とみなされる。

#### **第30条（労働契約の一部無効）**

30.1 労働契約の一部の条項が無効であることは、当該労働契約を完全に無効とみなす事由とならない。

#### **第31条（労働契約に規定のない業務遂行の強要禁止）**

31.1 使用者は、本法律に定めのある場合を除き、労働契約に定めのない業務の遂行を労働者に強要してはならない。

#### **第32条（やむを得ない事情による異動）**

32.1 自然災害や労働災害の防止又は災害鎮静化のために不可欠の場合または当該企業の日常業務を阻害するような予測できない事態が起きた場合、使用者は労働者を労働契約に定めのない他職務への45日以内の異動を命令できる。

#### **第33条（一時的業務停止による異動・出向）**

33.1 一時的業務停止の場合、使用者は労働者と合意の上で<sup>25</sup>、労働契約に定めのない社内の他職務へ異動または他企業へ一時出向させることができる。

#### **第34条（健康上の理由による異動）**

34.1 労働医事審査会の判定に基づいて、労働者との合意の上で、その健康に害を及ぼさない他職務へ異動させる。

#### **第35条（従事しない期間中の職務または役職の維持）**

35.1 次の場合に職務に従事しない労働者の職務または役職を維持する。

35.1.1 3か月を限度として行政機関の代表業務を遂行している場合；

35.1.2 年次有給休暇を取得している場合；

35.1.3 健康診断およびドナー活動に従事している場合や医師の証明または届出により欠勤している場合；

35.1.4 妊娠休暇および出産休暇、育児休暇を取得している場合；

35.1.5 労働協約、団体協定締結のための交渉に参加中または合法的に実行される同盟罷業に参加中の場合；

35.1.6 兵役命令書を受け取った労働者については、徴兵委員会から正式に兵役に服する旨の決定が出るまで；

35.1.7 法令および労働協約、労働契約に定めのあるその他の場合。

#### **第36条（以前従事していた職務または役職への復職）**

36.1 次の場合に、使用者は労働者を以前従事していた職務または役職に復職させなくてはならない。

36.1.1 労働災害や急性中毒、職業性疾病のために障害を蒙ったことを事由として労働契約を終了した者が、回復後1か月以内に復職した場合；

36.1.2 不当解雇により解雇された労働者を以前従事していた職務または役職へ復職させる旨の裁判所の判決が有効となった場合；

36.1.3 法律に定めのあるその他の場合。

36.2 労働者が以前従事していた職務または役職が整理解雇により削減されている場合、使用者は労働者との合意の上で他の同質の職務または役職に就かせる義務がある。

36.3 本法律第40条1項1号に基づく整理解雇が行われたものの、3か月以内に同職務を再度設置するなどして当該整理解雇が不当であったことが確認された場合、当該労働者を復職させる。

#### **第37条（労働契約の終了事由）**

37.1 労働契約は、次の事由により終了する。

37.1.1 契約当事者の相互合意により；

37.1.2 使用者又は労働者が死亡した場合；

37.1.3 労働契約の契約期間が満了し、延長されない場合；

37.1.4 法令に規定される権限ある機関の要請により；

---

<sup>25</sup>あくまで労働者の合意が必要である。

- 37.1.5 不当に解雇された労働者を以前の職務または役職に復職させた場合；
- 37.1.6 労働者が正式に徴兵された場合；
- 37.1.7 労働者が罪を犯したために業務を継続して遂行できないような刑を科す判決が有効となった場合；
- 37.1.8 使用者または労働者のいずれかの提案により労働契約が解除された場合；

#### **第 38 条（労働契約の解除事由）**

38.1 次の場合に労働契約を解除する。

- 38.1.1 使用者が提案した場合；
- 38.1.2 労働者が提案した場合；

#### **第 39 条（労働者の提案による労働契約の解除）**

39.1 法律および労働契約に特別の定めがない限り、労働者は労働契約の解除を使用者に申し出てから 30 日経過した時点で職務を放棄することができる。この場合、労働契約は解除されたものとみなされる。

39.2 特別な事由がある場合、あるいは離職時期を使用者と合意した場合、本法律第 39 条 1 項の期日以前に労働契約を解除できる。

#### **第 40 条（使用者の提案による労働契約の解除）**

40.1 労働契約は、次の事由により使用者の提案で解除できる。

- 40.1.1 企業や団体、その支部等が解散した、整理解雇した、人員削減した場合；
- 40.1.2 労働者がその専門性および能力、健康面で当該職務または役職に就くための要件を満たさないことが判明した場合；
- 40.1.3 労働者が六十歳に達し、年金受給資格を取得した場合；
- 40.1.4 労働者が懲戒処分当たる非違行為を繰り返した場合、労働契約において労使関係の自動終了事由として規定されている重大な違反行為を犯した場合；
- 40.1.5 金銭および財産を管理する立場の労働者が使用者の信用を失うに足りる重大な作為および不作為を行なったことが判明した場合；
- 40.1.6 選任および派遣により他職務または役職に任命された場合；
- 40.1.7 独立業務請負契約に定められる事由が生じた場合。

40.2 不当解雇により解雇された労働者を裁判所の判決により復職させた場合、当該労働者の以前従事していた職務または役職に新しく任命されている労働者の労働契約を解除し、可能な限り別の職務を提供する。

40.3 職務または役職が維持されている労働者の労働契約は、企業や団体の解散の場合を除き使用者の提案により解除することを禁じる。

40.4 企業や団体の所属先または所有者の変更は、労働契約の解除事由とならない。

40.5 使用者は、本法律第 40 条 1 項 1 号および第 40 条 1 項 2 号の事由に基づいて労働契約を解除する場合、1 か月前にその旨労働者に予告する。企業や団体、その支部等の解散により大幅な整理解雇を実施する場合、少なくとも 45 日前に労働者の代表らに予告し、本法律の規定に基づいて交渉をする。

#### **第 41 条（独立業務請負契約の解除事由、その手続き）**

41.1 独立業務請負契約は、本法律で規定される場合を除いて次の事由に基づいて使用者の提案により解除できる。

- 41.1.1 独立業務請負契約を評価する際に、労働者が正当な理由なく契約上の義務となっている業務の成果を出すことができなかつた場合、あるいは業務を不十分に遂行したと所有者が判断した場合；
- 41.1.2 本法律第 28 条の規定に違反して、他の使用者と並行して労働契約および独立業務請負契約を結んでいる場合；
- 41.1.3 使用者が所有権を他者に完全に移譲した場合；
- 41.1.4 独立業務請負契約に基づいて労働者の管理下とした財産<sup>26</sup>を浪費および遺失した事実、所有者から授けられた権限の越権行為を行った事実が判明した場合。

41.2 本法律第 41 条 1 項 3 号の事由に基づいて独立業務請負契約を解除する場合、使用者は 2 か月以

---

<sup>26</sup> 本法第 25 条の「労働者の管理下とした資産」とは異なる文言になっている。「財産」とした方が適当に思われるが、あえてこのままに残して翻訳した。

上前に労働者にその旨予告する義務を有する。その際に、平均賃金の3か月分以上に相当する解雇手当を支払う。

#### **第42条（解雇手当）**

42.1 使用者は、本法律第37条1項6号、第40条1項1号、第40条1項2号、第40条1項3号の事由により解雇された労働者に対して平均賃金<sup>27</sup>の1か月分以上に相当する解雇手当を支払う。

42.2 大幅な整理解雇の場合、使用者は労働者の代表らとの交渉により解雇手当の額を決定する。

#### **第43条（解雇、業務の引継ぎ）**

43.1 使用者は、労働者と結んだ労働契約を解除する際に業務の引き継ぎ期間を定め、その期間を解雇命令書に記載する。

43.2 労働者は、業務引継ぎの最終日に解雇されたものとみなされる。

43.3 使用者は、労働契約解除に関する決定文書や社会保険手帳および健康保険手帳、法律に定めがある場合に解雇手当等を解雇日に交付しなければならない。

43.4 使用者は、労働者の希望により、その職務、専門、役職、賃金等について在職証明書を発行する義務を有する。

#### **第44条（一時停職）**

44.1 権限ある機関から法令に基づく要請がなされた場合、労働者を一時的に職務や役職に就くことを禁じ、賃金支払いを停止する。

#### **第45条（職業訓練）**

45.1 使用者は、労働者に対し職業に必要な技能を習得させ、能力を開発する目的で訓練を実施し、学習環境を提供する。

45.2 職業訓練に際して、理論および実務に関する講義を労働時間内に実施することができる。

#### **第46条（社会保険への加入）**

46.1 使用者および労働契約に基づいて就労する労働者は、法令に別の定めがない限り、社会保険および健康保険に必ず加入し、法律の基準に基づいて毎月社会保険料を支払う義務がある。

46.2 使用者は、労働契約締結日から労働者に社会保険手帳および健康保険手帳を交付し、既定の手続きに基づいて毎月保険料等の徴収に関する記載をする義務がある。

46.3 季節雇用を実施する企業や団体の正職員のオフシーズン中の社会保険料および健康保険料等は、使用者が最低賃金をもとに算定して支払う。

46.4 外国企業や団体において労働契約に基づいて就労する労働者の社会保険料および健康保険料等は法令に基づいて算定する。

### **第4章 賃金、手当**

#### **第47条（賃金）**

47.1 賃金は、基本給、割増給<sup>28</sup>、加給<sup>29</sup>、賞与等で構成される。

#### **第48条（賃金調整）**

48.1 労働最低賃金は法律で定める。（本規定は2003.5.22に改正された。）

48.2 職種・役職歩合算定規則や職種・役職名総合リスト、労働基準量算定規則および平均賃金算定規則などは、使用者及び労働者の権利利益を代表し保護することを目的とする国レベルの団体の提案に基づいて厚生労働省が策定する。（本規定は2003.5.22に改正された。）

48.3 使用者は、法令及び労働協約、団体協定に基づき、次の各規則を策定し、遵守させる。

48.3.1 職務・役職リスト；

48.3.2 職務記述書および役職ランク；

48.3.3 労働基準量；

48.3.4 基本給算定表、割増給および加給の額、賞与、その支払等にかかる手続。

#### **第49条（賃金支払の原則、その形態）**

49.1 労働者の賃金は、出来高払制および時給制、その他の形態により労働の成果に応じて支払う。

49.2 同一の職務に従事する男性労働者及び女性労働者には同額の賃金を算定する。

49.3 特殊技能や知識、専門性が求められる場合、特別な条件下の労働はより評価が高い。

<sup>27</sup>平均賃金という文言は、この条文以降もたびたび出現するが、平均賃金の定義は不明瞭である。

<sup>28</sup>50条で規定している。

<sup>29</sup>51条で規定している。

49.4 労働基準量を満たすことができなかつたことが労働者の責に帰すべき事由によらない場合、遂行した業務に見合う報酬と基本給との差額を追って支払う。(本規定は2003.5.22に追加された。)

49.5 労働者が自己の責任により労働基準量を満たすことができなかつた場合、遂行した業務に見合う報酬を支払う。(本規定は2003.5.22に追加された。)

#### **第50条 (割増給)**

50.1 労働者には基本給に加え、労働成果に応じて割増給を支払うことができる。

50.2 労働者が本職以外の職務および役職を兼任した場合、欠勤者の職務を代行した場合、職務記述書に記載のない業務を遂行した場合、深夜労働および時間外労働をした場合は基本給を基準に算定した割増給を支払う。

50.3 割増給は、本法律および労働協約に基づいて労使間で決定する。

#### **第51条 (加給)**

51.1 労働者に対しては、その職務記述書に基づいて専門性または労働条件に応じた加給、その他の加給等を労働協約において決定し、支払う。

#### **第52条 (公休の祝祭日労働に対する割増給)**

52.1 公休の祝祭日に勤務した労働者に代休を与えなかつた場合、当該労働者に対して平均賃金<sup>30</sup>を2倍に割増して支払う。

#### **第53条 (時間外労働および週休日労働に対する割増給)**

53.1 時間外および週休日に勤務した労働者に代休を与えなかつた場合、当該労働者に対して1.5倍以上の割増給<sup>31</sup>を支払う。

53.2 本法律第53条1項の割増給については労働協約及び団体協定において規定する。

#### **第54条 (深夜労働に対する割増給)**

54.1 深夜労働をした労働者に代休を与えなかつた場合に支払うべき割増給については、労働協約及び団体協定において規定する。

#### **第55条 (有給休暇中の手当)**

55.1 年次有給休暇中の労働者に対しては、年次休暇手当が支給される。

55.2 年次休暇手当は、労働者の当該年度の年間平均賃金を基準として算定される。

#### **第56条 (一時的業務停止期間中の手当)**

56.1 労働者の責に帰すべきでない事由による一時的業務停止期間中において、当該労働者を他職務に異動させることができない場合には、労働協約の規定に基づいて手当を支給する。

56.2 労働協約において算定する一時的業務停止期間中の手当の額は、当該労働者の基本給の6割以上に相当する金額であるとともに最低賃金を下回ってはならない。

56.3 労働者の責に帰すべき事由による一時的業務停止期間中において手当は支給されない。

56.4 一時的業務停止期間中において他業務を遂行した場合、当該業務に見合う賃金を支払う。なお、これは本職の平均賃金を下回ってはならない。

56.5 一時的業務停止期間中において、正当な事由なく他業務の遂行を拒否した場合、当該労働者に対する手当は支給されない。

#### **第57条 (やむを得ない事由により他職務へ一時異動する場合の賃金)**

57.1 本法律第33条の事由により労働者を他職務へ異動させる場合、遂行した業務に見合う賃金を支払う。その際、本職の平均賃金を下回る場合にはその差額を支払う。

#### **第58条 (18歳未満の労働者<sup>32</sup>の賃金)**

58.1 18歳未満の労働者の賃金は、時給制あるいは出来高払制により算定し、短縮された分の労働時間に相当する基本給を追加で支払う。

#### **第59条 (引継ぎ期間中の手当)**

59.1 引継ぎ期間中における手当は、当該労働者を使用していた企業や団体が支給する。

59.2 使用者の責に帰すべき事由により引継ぎ期間が延長された場合、当該延長期間中の手当を労働者に対して支給する。

59.3 労働者の責に帰すべき事由により引継ぎ期間が延長された場合、当該労働者に対して延長期間

<sup>30</sup>祝祭日の割増給の算定にあたっては、平均賃金が基準となる。

<sup>31</sup>時間外、休日労働および次条の深夜労働の割増給の算定にあたっては、基本給が基準となる(50.2)。

<sup>32</sup>「18歳未満の労働者」という文言は、第八章の「年少労働者」と意味は同一と考えられる。なぜ文言を異にしているか不明である。

中の手当を支給しない。

#### **第 60 条（賃金支払時期）**

60.1 労働者の賃金は、月 2 回以上、一定の期日を定めて支払う<sup>33</sup>。

60.2 労働者の賃金は、時間単位、日単位、週単位で算定して支払うことができる。

60.3 労働者の要望により、支払期日前でも賃金を支払うことができる。

#### **第 61 条（賃金支払形態）<sup>34</sup>**

61.1 労働者の基本給や割増給、加給、手当は現金で支払う。

#### **第 62 条（賃金変更の通知）**

62.1 使用者は、労働協約に基づいて全労働者の賃金形態および額を変更した旨、当該決定の施行日より 10 日以上前に通知し、個別労働契約に修正を加える。

#### **第 63 条（賃金控除、控除制限）<sup>35</sup>**

63.1 次の場合に限り、労働者の賃金から控除することができる。

63.1.1 労働者に、その 1 か月の平均賃金以下に相当する損害を賠償させるべき使用者の決定が出されている場合；

63.1.1 法律に定めのあるその他の場合。

63.2 労働者の 1 か月分の賃金から控除する全額(所得税を含まない)は、賃金の 20 パーセントを超えてはならない。また、養育費の支払いや複数の控除を一度にする場合は、賃金の 50 パーセントを超えてはならない。

63.3 労働者は、控除に関する決定や控除額に関して異議がある場合、労働紛争審判委員会に不服を申し立てることができる。

63.4 控除が労働者の 1 か月の平均賃金を超える場合、損害賠償を求めて起訴する。

63.5 使用者が労働者の賃金から違法に控除を行った場合、当該控除額の返還を求めて労働紛争審判委員会に不服を申し立てる。

#### **第 64 条（職務および役職が維持されている労働者に対する手当）**

64.1 本法律第 35 条 1 項 3 号の健康診断およびドナー活動に従事している場合、第 35 条 1 項 5 号の労働協約または団体協定締結のための交渉に参加している場合、第 35 条 1 項 1 号や第 35 条 1 項 6 号の場合において、当該労働者に平均賃金に相当する手当を支給する。

64.2 本法律第 64 条 1 項を除く第 35 条の場合に支給すべき手当は、本法律およびその他の関連法令、労働協約、団体協定、労働契約において規定する。

#### **第 65 条（異なる地域への異動に伴う手当）**

65.1 特定の県や市から他県や他市への異動、県や市内における特定の郡や町から他郡や他町へ選任又は派遣された労働者に対し、受け入れ先の使用者は、交通費や引越し費用、出張費、その家族の交通費や引越し費用を追って支給する。

#### **第 66 条（正当な事由による欠勤期間中の手当）**

66.1 自然災害および公害の発生、その他正当な事由により欠勤した労働者に対しては、基本給の 50 パーセントに相当する手当を支給する。

66.2 欠勤した上で本法律第 66 条 1 項の災害等の沈静活動に参加した労働者に対しては、基本給に相当する手当を支給する。

#### **第 67 条（労働時間短縮中の賃金）**

67.1 本法律第 71 条 1 項、第 71 条 2 項、第 71 条 4 項の労働者に関しては、その短縮された分労働時間を勤務時間とみなし、平均賃金を支払う。

67.2 第 71 条 3 項、第 71 条 5 項に基づいて労働時間が短縮された労働者に対しては、以前の平均賃金を 6 か月間に渡って支払う。

#### **第 68 条（健康を害しない他職務へ異動させた場合の賃金の差額）**

68.1 妊婦や授乳中の女性を本法律第 107 条 1 項に基づいて健康を害しない他職務へ異動させた場合にその賃金が下がったときは、以前の賃金と現在の賃金との差額に相当する手当を異動期間中に支給する。

---

<sup>33</sup>毎月 2 回以上一定期日払い。

<sup>34</sup>通貨（現金）払い。

<sup>35</sup>全額払いの原則を裏から規定したものといえる。



68.2 本法律第34条に基づいて労働者をその健康を害しない他職務へ異動させた場合にその賃金が下がったときは、以前の賃金と現在の賃金との差額に相当する手当を6か月間に渡り支給する。

#### 第69条（不当解雇または不当な異動に対する補償金<sup>36)</sup>

69.1 本法律第36条1項2号に基づいて労働者を以前従事していた職務または役職へ復職させた場合、失業していた期間について以前の平均賃金に相当する補償金を支払う。異動先において以前より低い賃金で労働していた場合、その差額に相当する補償金を支払う。

### 第5章 労働時間、休憩時間

#### 第70条（労働時間）

- 70.1 労働時間は1週間につき40時間を超えてはならない。
- 70.2 通常の労働日の継続する時間は8時間を超えてはならない。
- 70.3 連続する2労働日の間の継続休憩時間は12時間を下回ってはならない。

#### 第71条（労働時間の短縮）

- 71.1 1週間の労働時間は14歳以上15歳以下の労働者に関して30時間、16歳以上17歳以下の労働者や障害をもつ労働者に関して36時間を超えてはならない。（本規定は2007.8.3に追加された。）
- 71.2 権限ある機関が、労働スタンダードおよび専門団体の評価結果に基づいて異常な職場環境を確認している場合、それに基づいて使用者は労働者の労働時間を短縮しなければならない。
- 71.3 労働者の労働時間は、労働医事審査会の決定に基づいて短縮する。
- 71.4 職業訓練や研修を受けている労働者の労働時間は、就学期間中において使用者がこれを短縮しなければならない。
- 71.5 身体障害者または小人症の労働者の遂行する業務の性質に応じ、当該労働者の意見を考慮した上で、労働時間を短縮できる。

#### 第72条（深夜）

72.1 現地時間午後10時から午前6時<sup>37)</sup>までの期間を深夜とみなす。

#### 第73条（労働時間の合算）<sup>38)</sup>

- 73.1 事業の特質により一日の労働時間又は一週間の労働時間の規定を適用することができない場合、労働時間を合算する手続きを利用することができる。
- 73.2 本法律第73条1項に基づいて労働時間を合算する場合、合計労働時間が当該期間に相当する労働時間の合計を超えてはならない。
- 73.3 労働時間の合算手続きは、政府がこれを策定する。
- 73.4 労働時間の合算は、労働者が年次有給休暇の取得または社会保険料納付期間の算定などに際して、法定手続きを利用することを妨げない。

#### 第74条（時間外労働の制限）

- 74.1 本法律に規定のある事由に基づいて、使用者の提案により就業規則に定める労働時間を超えて労働させることは、時間外労働とみなされる<sup>39)</sup>。
- 74.2 労働協約および労働契約において別段の合意がない限り<sup>40)</sup>、次の場合を除いて使用者の提案で労働者に時間外労働を強いることを禁じる。
  - 74.2.1 国防または国民の生命及び健康を保護するために不可欠な業務を遂行してもらう場合；
  - 74.2.2 自然災害および公害、労働災害の予防および災害沈静化のための業務を遂行してもら

<sup>36)</sup> ここに用いられるモンゴル語の(олговор)は、それまでの条文で使われている「手当」と同じ文言であるが、翻訳の便宜上「補償金」という文言に変えている。

<sup>37)</sup> 日本では午後10時から午前5時までの労働を深夜業と呼んでおり定義が異なるので注意。

<sup>38)</sup> 70条以下の法定労働時間の弾力化を認める規定である。この条文により変形労働時間を定めることが可能となっている。

<sup>39)</sup> 法定労働時間を超える労働のことでなく、就業規則に定める労働時間を超えた部分を時間外労働と呼んでいる点に注意。法定労働時間を超える時間外労働が認められるかどうかについては、明らかではないが、常識的には認められると考えてよいと思われる。

<sup>40)</sup> 事前に労働契約で時間外労働について概括的合意をするか、労働協約で時間外労働を命じることができる旨を定めればよいこととなる。

う場合；

74.2.3 公共給水、電気供給、火力発電、運輸、通信等の正常運転を妨げるような故障の修復にかかる場合；

74.2.4 予測不可能であり、緊急に遂行しない限り企業や団体及びその支部の正常運営に支障をきたす可能性のある障害を取り除くための必要な作業を遂行してもらう場合。

74.3 交替勤務制の場合、労働者を連続ツーシフト労働させることを禁じる。

#### **第75条（休息、食事のための休憩）<sup>41</sup>**

75.1 労働者には、休息および食事のための休憩時間を与える。

75.2 休憩時間の開始および終了は、就業規則で定める。

75.3 業務の性質上休憩できない労働者には、使用者が食事をするための機会を提供する。

#### **第76条（公休祝日）**

76.1 次の祝日は公休日となる。

76.1.1 新年 — 1月1日

76.1.2 旧暦の元旦—旧暦春季第1月目の1日目、2日目

76.1.3 国際女性日 — 3月8日（本規定は2003.5.22に追加された。）

76.1.4 子どもの日 — 6月1日（本規定は2003.5.22に改正された。）

76.1.5 ナーダム祭、モンゴル人民革命記念日 — 7月11日、12日、13日

76.1.5 人民共和國設立記念日 — 11月26日（本規定の76.1.4—76.1.6号の順番は2003.5.22に改正された。）

#### **第77条（週休日）**

77.1 土曜日および日曜日は公休日である。

77.2 事業の性質上、土曜日および日曜日に休むことができない労働者に対して、1週のうちの他の2日間において連続する休日を与える。

77.3 祝日や週休日が隣接する場合、政府の決定により当該週の公休を調整できる。（本規定は2001.12.27に追加された。）

#### **第78条（祝日及び週休日における労働制限）**

78.1 次の場合を除き、祝日および週休日に使用者の提案により労働させることを禁じる。

78.1.1 本法律第74条2項1号、第74条2項2号、第74条2項3号、第74条2項4号に定めのある場合；

78.1.2 継続的生産業務、公共サービスの提供および緊急の修理や積み下ろし業務に従事させる場合；

78.2 使用者は、合意により、公休である祝日および週休日に労働者を労働させることができる。

78.3 本法律第78条2項の場合、当該労働者に代休を提供あるいは年次有給休暇に併合して休ませることができる。

#### **第79条（年次有給休暇とその期間）**

79.1 労働者に毎年年次有給休暇を与え、身を持って使ってもらう<sup>42</sup>。業務の必要上、身を持って年次有給休暇を使うことができなかつた労働者に対して金銭報酬を支給できる<sup>43</sup>。報酬支給手続きは、労働協約または労働者との合意に基づいて使用者が決定する。（本規定は2003.5.22に追加された。）

79.2 労働者の年次有給休暇の基本期間は15労働日である。

79.3 18歳未満の労働者、障害を持つ労働者の年次有給休暇の基本期間は20労働日である。

79.4 労働者は、その要望により年次有給休暇を当該年度内に分割して取得することができる<sup>44</sup>。

79.5 通常の労働条件のもとで労働する労働者に対して、その勤続期間を考慮して次の有給休暇期間を年次有給休暇の基本期間に加えて与える。

79.5.1 勤続年数6～10年に対して3労働日

<sup>41</sup>休憩時間については、労働日の連続する場合の休憩時間（70.3）を除き、具体的な内容は定められていない。使用者は、就業規則で休憩時間の長さや位置を自由に定めることができることとなる。

<sup>42</sup>文言に忠実に訳しているが、「身を持って使う」とは、「実際に年次有給休暇を取得させる」という意味である。

<sup>43</sup>いわゆる年休の買い上げを認めた規定である。条文からは、あらかじめ年休の買い上げを予約して年休取得を認めないことを許す趣旨ではなく、結果的に未消化の年休日数に応じて手当を支給することができるという労働者保護の趣旨であると考えられる。

<sup>44</sup>一括取得するか分割して取得するかは労働者の自由な選択にゆだねられている趣旨である。

- 79.5.2 勤続年数 11～15 年に対して 5 労働日
- 79.5.3 勤続年数 16～20 年に対して 7 労働日
- 79.5.4 勤続年数 21～25 年に対して 9 労働日
- 79.5.5 勤続年数 26～31 年に対して 11 労働日
- 79.5.6 勤続年数 32 年以上に対して 14 労働日
- 79.6 労働条件および勤続年数を考慮として、労働協約に基づき次の有給休暇期間を年次有給休暇の基本期間に加えて労働者に与える。(本規定は 2008.5.22 に改正された。)
- 79.6.1 勤続年数 6～10 年に対して 5 労働日以上
- 79.6.2 勤続年数 11～15 年に対して 7 労働日以上
- 79.6.3 勤続年数 16～20 年に対して 9 労働日以上
- 79.6.4 勤続年数 21～25 年に対して 12 労働日以上
- 79.6.5 勤続年数 26～31 年に対して 15 労働日以上
- 79.6.6 勤続年数 32 年以上に対して 18 労働日以上
- 79.7 公務員に追加で与える有給休暇期については関連法令で定めることができる。

## 第 80 条 (休暇の取得)

- 80.1 使用者は、その要望により労働者に休暇を与えることができる。
- 80.2 休暇期間中において手当を支給するか否かは、労働協約及び労働契約、就業規則に基づいて決定する。

## 第 6 章 労働条件、労働安全衛生基準

第 81 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 82 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 83 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 84 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 85 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 86 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 87 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 88 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 89 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 90 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 91 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 92 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 93 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 94 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 95 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 96 条 (本条は 2008.5.22 に無効とされた。)

第 97 条 (労働災害、急性中毒、職業性疾病の損害補償)

97.1 労働災害、急性中毒、職業性疾病にかかった労働者及びこれらを原因として死亡した労働者の遺族の損害を補償する目的で、労災保険や職業性疾病保険に加入している否かに関わらず、使用者は次の補償金を支給する。

97.1.1 労働災害、急性中毒、職業性疾病により労働能力を 30%まで失った労働者に対して 5 か月分、31-50%失った労働者に対して 7 か月分、51-70%失った労働者に対して 9 か月分、71%以上失った労働者に対して 18 か月分の平均賃金に相当する補償金を 1 回以上；(本規定は 2003.5.22 に改正とされた。)

97.1.2 労働災害、急性中毒、職業性疾病により死亡した労働者の遺族に対しては、36 か月分以上の賃金<sup>45</sup>に相当する補償金を 1 回以上。

97.2 本法律第 97 条 1 項の補償金の支給は、被害者が社会保険法やその他の法令に基づいて年金や給

<sup>45</sup> 97.1.1 においては「平均賃金」を基準としているもののここにおいて単に「賃金」としている。(コンメンタール第 25 号を参照すること)

付金を支給されることを妨げない。

97.3 生活費の変動に応じて補償額をインデックス化することに関して、労働協約において定めた上で実行する。

97.4 国庫および地方財政から予算が配分されている各レベルの行政機関、国有法人や地方所有法人等(国や地方が51%以上資金を提供している法人)が解散、破綻、倒産したために責任者不在の状況に陥った場合、当該労働者に支給する補償金の問題は政府および地方自治体が特別に処理することができる。(本規定は2003.5.22に追加された。)

**第98条 (本条は2008.5.22に無効とされた。)**

**第99条 (本条は2008.5.22に無効とされた。)**

## 第7章 女性の労働

### 第100条 (妊婦、3歳未満の子をもつ母親(独身の父親)の解雇禁止)

100.1 使用者は妊婦または3歳未満の子を持つ母親を、企業や団体の解散した場合および本法律第40条1項4号、第40条1項5号の場合を除いて、解雇してはならない。

100.2 本法律第100条1項は、3歳未満の子を持つ独身の父親にも適用される。

### 第101条 (女性の就労を禁じる職務)

101.1 女性の就労を禁じる職務の一覧表は、厚生労働大臣が策定する。

### 第102条 (深夜労働および時間外労働、出張の制限)

102.1 妊婦および8歳未満の子を持つ母親、16歳未満の子を持つ独身の母親をその許可なしに深夜労働および時間外労働、出張をさせることは禁じる。

102.2 本法律第102条1項は、16歳未満の子を持つ独身の父親にも適用される。

### 第103条 (授乳および育児のための休憩時間の追加確保)

103.1 休息や食事のための公の休憩のほか授乳および育児のための休憩時間として、6か月未満の子あるいは1歳未満の双子児を持つ母親に対して2時間、6か月以上1歳未満の子を持つ母親あるいは1歳に達しているが病院で養護が必要と診断された子を持つ母親に対して1時間の休憩時間をそれぞれ追加で確保する。

103.2 本法律第103条1項は独身の父親にも適用される。

103.3 授乳および育児のための休憩時間は労働時間として通算される。

### 第104条 (妊娠出産休暇)

104.1 妊産婦に対して120日間の妊娠出産休暇を与える。

104.2 196日以上妊娠で早産または流産、医療処置として妊娠を中絶させた場合および196日以下の妊娠で生命力のある子を出産した場合には、当該女性に対し、本法律第104条1項の妊娠出産休暇を与える。

104.3 196日以下の妊娠で早産または流産、医療処置として妊娠を中絶させた場合には、当該女性に対し、傷病休暇手続により休暇を与える。

### 第105条 (新生児を養子にとった労働者の休暇)

105.1 新生児を養子にとった母親に対して子が生後60日に達するまでの間、産婦と同様に休暇を与える。

105.2 本法律第105条1項は、新生児を持つ独身の父親にも適用される。

### 第106条 (育児休暇)

106.1 使用者は、出産休暇や年次有給休暇をすでに取得している3歳未満の子を持つ母親および父親が希望すれば、その者に育児休暇を与える。また、3歳未満の子を持つ父親自身が希望すれば休暇を取得することができる。<sup>46</sup>(本規定は2003.5.22に追加された。)

106.2 育児休暇終了の時点あるいは終了前であっても母親および父親が希望すれば、使用者は、その者を職務および役職に復職させる義務を負う。なお、当該事業場の廃止や人員削減が実施されている場合は、他の職務を提供する。(本規定は2003.5.22に追加された。)

106.3 本法律第106条1項及び第106条2項は、養子をとった父親や母親にも同様に適用される。(本規定は2003.5.22に編集された。)

### 第107条 (妊婦、授乳中の女性の労働時間の短縮、他職務への異動)

<sup>46</sup>「また」以下の条文は前段と同じことを述べており、趣旨が不明である。

107.1 労働条件の軽減を必要とする旨の病院の診断結果が出された場合、妊婦や授乳中の女性の労働時間を短縮し、あるいはその健康に害のない他職務へ異動させることができる。

#### **第108条（女性の持ち上げ、運ぶ荷物の重量制限）**

108.1 厚生労働大臣の策定した基準値を超える重さの荷物を女性に持ち上げさせたり、運ばせたりすることを禁じる。

### **第8章 年少者、障害者、小人症の者、高齢者の労働**

#### **第109条（年少者の労働）**

109.1 16歳に達した者は、労働契約を締結する権利を有する。

109.2 15歳に達した者は、本法律第109条5項に反しない限り、その両親や後見人の許可により労働契約を締結することができる。

109.3 職業訓練及び実習を目的とする場合、14歳に達した者とその両親や保護者<sup>47</sup>、労働問題を担当する行政機関の許可により労働契約を締結することができる。

109.4 年少者には、その知的発達および健康に害を及ぼすような労働をさせてはならない。

109.5 年少者の就労を禁じる職務の一覧表は、厚生労働大臣が策定する。

109.6 本法律第109条1-3項の場合を除いて、年少者と労働契約を締結することを禁じる。（本規定は2003.5.22に追加された。）

#### **第110条（年少労働者の健康維持）**

110.1 年少者は健康診断受診後において採用され、18歳に達するまでの期間中において半年に1回健康診断を受けさせる。

110.2 年少労働者に深夜労働および時間外労働、公休日である祝日や週休日に労働させることを禁じる。

110.3 年少労働者を異常な職場環境のもとで労働させることを禁じる。

110.4 厚生労働大臣の策定した基準値を超える重さの荷物を年少労働者に持ち上げさせたり、運ばせたりすることを禁じる。

#### **第111条（障害者および小人症の者の労働）（本条の名称は2007.8.3に改正された。）**

111.1 25人以上の労働者を雇用する企業や団体は、全体の4%以上の職務および役職に障害者や小人症の者を採用する。（本規定は2003.5.22、2007.8.3にそれぞれ改正された。）

111.2 企業や団体は、本法律第111条1項の障害者や小人症の者を採用していない場合、採用すべき定員数に応じて毎月料金<sup>48</sup>を支払う。（本規定は2007.8.3に改正された。）

111.3 本法律第111条2項の料金の金額は、企業や団体の労働者数および支払うべき料金の総額に応じて政府が決定する。（本規定は2007.8.3に改正された。）（本規定は2008.1.15に編集した。）

111.4 本法律第111条2項の料金は雇用支援基金に徴収され、当該基金の資金は障害者や小人症の者の雇用促進のために使われる。（本規定は2003.1.2、2006.1.12、2007.8.3にそれぞれ改正された。）

111.5 障害者や小人症の者の身体状況が労働の妨げにならない場合、すなわち労働条件が身体状況に害を及ぼさない場合、その身体状況を理由に採用を拒否することを禁じる。（本規定は2007.8.3に改正された。）

111.6 企業や団体は、既定の料金<sup>49</sup>を24か月間継続して納付した場合において次の12か月間の納付義務を免除される。

111.7 企業や団体において身体障害者や小人症の者を労働させることが可能な職務や職種の一覧表は、厚生労働大臣がこれを策定する。

（上記111.6や111.7は2008.1.15に追加された。）

#### **第112条（高齢者の労働）**

112.1 年金を受給している高齢者は、労働することができる。

112.2 高齢者が年金を受給している事実は、その賃金を制限する根拠とならない。

112.3 使用者は、高齢者の希望により勤続労働時間を短縮あるいは健康に害のない職務へ異動させる

<sup>47</sup> モンゴル民法では、未成年者の法定代理人である未成年後見人は文言を使い分けている。つまり、14-18歳未満の者の未成年後見人を「後見人」、7歳未満の者および7-14歳未満の者の未成年後見人を「保護者」としている。

<sup>48</sup> 「料金」の性質を特に明記していない。ペナルティーの性質が強いと思われる。

<sup>49</sup> ここにいう「既定の料金」とは111.2の「料金」である。

ことができる。

## 第9章 外国人及び外国籍の企業や団体に就労する国民の労働

### 第113条（外国人の労働）

113.1 使用者は労働契約に基づいて外国人を採用することができる。

113.2 モンゴル国内における外国人の労働に関する事項は、本法律および外国人の法的ステータスに関する法律、労働力の国外への輸出および国外からの労働力や専門家の輸入に関する法律、雇用促進に関する法律において規定される。（本規定は2003.5.22に改正された。）

113.3 本法律第113条1項及び第113条2項は、無国籍者にも適用される。

### 第114条（外国籍の企業や団体に就労する国民の労働）

114.1 モンゴル国土内で事業を実施する外国籍の企業や団体は、モンゴル国民を採用することができる。

114.2 本法律第114条1項の場合、使用者は本法律に基づいて労働者と労働契約を締結する。

114.3 労働契約に基づいて労働者を労働させている外国籍の企業や団体は、労働者の賃金およびそれに類似する収入について権限ある機関およびその管理職員に対して適切な手続に基づいて適正な情報を提供する義務を負う。

## 第10章 集団的労使紛争の処理

### 第115条（集団的労使紛争の開始、要求書の提出、その回答）<sup>50</sup>

115.1 本法律第12条5項に基づいて労働協約および団体協定を締結する際に生じた意見の不一致をめぐって、または労働協約および団体協定における義務の履行を求めて、集団的労使紛争を開始させる権利は労働者の代表らにある。

115.2 要求は、労働協約および団体協定の一方当事者が相手方に書面で提出する。

115.3 要求書の一部は、当該行政区の首長に届ける。

115.4 要求書を受け取った当事者は、3労働日以内に書面による回答を相手方に届ける。

### 第116条（集団的労使紛争の調停）

116.1 集団的労使紛争は次の方法で調停する。

116.1.1 調停人の招聘；

116.1.2 労働仲裁委員会における審理。

116.2 当事者は、本法律第116条1項の調停を拒否することができない。

116.3 労働者の代表らは、調停期間中においてその要求を貫徹する目的で法令に基づくデモ等を行することができる。

116.4 当事者の代表らや調停人、労働仲裁委員は集団的労使紛争を処理するために法令に定めのあるあらゆる措置を活用する義務を負う。

### 第117条（集団的労使紛争調整のための調停人の招聘）

117.1 本法律第115条の要求書を使用者が受け取らない場合、期限内に回答しない場合、または労働者の代表らが使用者の回答に納得することができないとみなした場合において、集団的労使紛争の調整のために調停人を招聘する。

117.2 当事者は調停人を合意により選任するが、3労働日以内に合意に達しない場合は当該郡や区の首長に対して調停人の任命を申し出る。

117.3 郡や区の首長は、調停人を3労働日以内に任命する。

117.4 当事者は、首長の任命した調停人を忌避することができない。

117.5 集団的労使紛争を調停人の斡旋により処理する手続きは、政府がこれを策定する。

117.6 調停人は、集団的労使紛争に関連する諸書類および情報の提供を当事者に要求することができる。

117.7 当事者が調停人を招聘してから5労働日以内に調停人の参加により調停期日が開かれ、合意文書の作成あるいは意見の不一致が解消されていない旨の記録を残すことで調停手続は終了する。

### 第118条（労働仲裁委員会における集団的労使紛争の審理）

118.1 調停人の参加により集団的労使紛争について協議し合意に達しなかった場合、当該行政区の首

<sup>50</sup>本労働法は、本条以下において、団体交渉について詳細な手続とルールを規定している。

長が3労働日以内に労働仲裁委員会を設け、仲裁委員を任命する。

118.2 労働仲裁委員会は、集团的労使紛争の当事者および首長が指名した3人の仲裁委員により構成される。

118.3 当事者は、首長の任命した仲裁委員を忌避することができない。

118.4 集团的労使紛争に参加する当事者の代表らは、労働仲裁委員となることができない。

118.5 労働仲裁委員会は、設置された日から5労働日以内に労使紛争当事者の代表らの参加の上で審理をし、提言書を出す。

118.6 労使紛争の参加当事者は、労働仲裁委員会の提言を受け入れて実施することで合意した場合、その旨決定を出す。

118.7 本法律第118条6項の決定は当事者が履行する義務を負う。

118.8 労働仲裁委員会の規則は、中央労働社会委員会の提案により国会が策定する。

### **第119条（条同盟罷業権の行使）**

119.1 労働者の代表は、次の場合に同盟罷業を実行することができる。

119.1.1 使用者が本法律第116条1項の調停に参加する義務を怠った場合；

119.1.2 使用者が調停人の参加により達した合意を履行しない場合；

119.1.3 使用者が労働仲裁委員会の提言を受けて出した決定に従わない場合；

119.1.4 集团的労使紛争を労働仲裁委員会において審理したものの、その提言を受け入れて決定を出さない場合。

119.2 労働者は同盟罷業に自発的に参加する。

119.3 同盟罷業への参加、その継続、法律に定めのある場合を除く同盟罷業の中断、参加拒否を労働者に強要してはならない。

119.4 使用者の代表が同盟罷業を実行し、それに参加することは禁じられる。

### **第120条（同盟罷業の実行、一時的作業所閉鎖）**

120.1 同盟罷業の実行に関する決定は、労働者の権利および法律上の利益を代表する団体の構成員による会議または労働者の全体会議から出される。

120.2 労働者の権利および法律上の利益を代表する団体の構成員または当該企業や団体の全労働者の多数（3分の2）が参加した場合にのみ、会議の決定は有効とみなされる。

120.3 会議参加者の過半数（2分の1以上）が同盟罷業の実行に賛同する場合、同盟罷業を実行できる。

120.4 同盟罷業の実行に関する決定において次の事項を規定する。

120.4.1 同盟罷業を決行させる原因となった意見不一致の内容；

120.4.2 同盟罷業を実行する日付、時間、同盟罷業の継続期間、予測される参加者の人数；

120.4.3 同盟罷業を実行し指揮する人物、紛争解決の際に参加する代表団の構成；

120.4.4 同盟罷業の実行期間中、国民の健康および安全を確保するためにとるべき措置の一覧表。

120.5 同盟罷業の実行を指揮する者は、同盟罷業実行日より5労働日以上前に同盟罷業の実行に関する決定を相手方に届ける義務がある。

120.6 使用者は、労働者の要求を受け入れることができないと判断した場合に同盟罷業に対抗する措置として同盟罷業参加者の作業場を一時的に閉鎖（ロックアウト）することができる。

120.7 同盟罷業参加者の作業場に臨時の労働者を労働させないことを目的として、労働者の代表らが企業や団体を一時的に閉鎖（ピケッティング）することができる。

120.8 使用者は、同盟罷業および作業所閉鎖に関して消費者や卸業者、その他関係者に対して3労働日以上前に通知する。

120.9 同盟罷業の実行、作業所の一時的閉鎖、意見の不一致事項についての意見交換、選択権の自由な行使等に際して、法律に定めのある場合を除き第三者の介入を禁じる。

120.10 当事者は、同盟罷業の継続中において集团的労使紛争の調停を実施する義務を負う。

120.11 同盟罷業を実行した側および作業所を一時的に閉鎖した側は、こういった争議行為の準備および実行に際して関連する行政機関のアシストにより社会秩序および国民の健康と安全、財産等を保護するための手段を講じる。

### **第121条（同盟罷業を指揮する者、同盟罷業の一時停止、再開、終了）**

121.1 同盟罷業は、労働者の代表がこれを指揮する。

121.2 同盟罷業を指揮する者は、労働者の全体会議を召集する権利、労働者の権利及び法律上の利益

の侵害に関する情報を使用者から取得する権利、争点について鑑定をしてもらうための専門家を招聘する権利を有する。

121.3 同盟罷業を指揮する者は、同盟罷業を一時停止させることができる。

121.4 一時停止にした同盟罷業を再開するために本法律第 116 条 1 項の調停人や労働仲裁委員会の審理を経ることはない。

121.5 同盟罷業の再開は、その実行の 3 労働日前に使用者にこれを通知する。

121.6 当事者が集団的労使紛争の解決に関する合意書に署名した場合または同盟罷業が違法であるとみなされた場合において同盟罷業は終了する。

#### **第 122 条（同盟罷業の禁止、延期、一時停止）**

122.1 その組織機能が国家防衛、国家安全保障、社会秩序の維持である組織において同盟罷業を実行することは禁じられる。

122.2 意見の不一致に関する交渉が行なわれている段階、調停人や労働仲裁委員会、裁判所による集団的労使紛争の審理が行われている段階において同盟罷業を実行することは禁じられる。

122.3 裁判所は、国民の生命および健康に対する脅威が生じている場合において同盟罷業を最大 30 日間延期させることができる。なお、同盟罷業がすでに開始している場合においては同期間により一時停止させることができる。

122.4 電力供給機関や火力発電所、公共給水機関、公共交通機関、国際および国内の通信を取り扱う機関、鉄道運行管理機関等における同盟罷業は、それにより国家の安全、国民の自由や人権が侵される可能性がある場合において政府の判断で裁判所の判決が出るまでの期間、なお最大 14 日間これを延期することができる。

#### **第 123 条（同盟罷業の実行、作業所の一時閉鎖の違法性）**

123.1 集団的労使紛争に際して実行した同盟罷業は次の場合に違法とみなされる：

123.1.1 本法律第 119 条 1 項に違反する場合；

123.1.2 本法律第 122 条 1 項の組織において同盟罷業が実行された場合；

123.1.3 本法律第 18 条、第 19 条の労働協約および団体協定の対象外の事項に関する要求を出して同盟罷業を実行した場合。

123.2 同盟罷業の実行および作業所の一時閉鎖を違法とみなしている側は、それに関して裁判所に申し立てることができる。

123.3 同盟罷業の実行および作業所の一時閉鎖を違法とみなすか否かについて裁判所は判決を出す。

123.4 同盟罷業の実行および作業所の一時閉鎖を違法とみなす裁判所の判決が出た場合、当事者は直ちに当該争議行為を中止する。

#### **第 124 条（集団的労使紛争の処理にかかる権利保障）**

124.1 集団的労使紛争の処理に参加した調停人や労働仲裁委員は、かかる期間中において本職を休業させられ、平均賃金に相当する手当が支給される。

124.2 集団的労使紛争の処理に参加する労働者の代表に対して、集団的労使紛争の処理期間中において懲戒処分に処し、他職務へ異動させ、使用者の判断で解雇することを禁じる。

124.3 違法とみなされていない同盟罷業に参加した労働者を服務規律に違反したとみなさないほか、懲戒処分にはならない。

124.4 集団的労使紛争の処理に際して、同盟罷業に参加した労働者に補償金を支給する旨決定することができる。

124.5 同盟罷業に参加していないが、それにより業務を遂行できなかった労働者に対して、作業所の一時閉鎖を裁判所が違法とみなした場合にそれに参加した労働者に対して、その平均賃金に相当する補償金を支給する。

### **第 11 章 個別労働関係紛争の処理**

#### **第 125 条（個別労働関係紛争の審理）**

125.1 労使間の個別労働関係紛争は、労働紛争審判委員会および裁判所がそれぞれの管轄に基づいて処理する。

#### **第 126 条（労働紛争審判委員会管轄の紛争）**

126.1 訴訟による解決が規定される場合を除き、すべての紛争は労働紛争審判委員会において一次的に審理される。



126.2 労働紛争審判委員会の規則は、政府がこれを策定する。

#### **第 127 条 (労働紛争審判委員会の審判決に対する控訴<sup>51</sup>)**

127.1 使用者または労働者は、労働紛争審判委員会の審判決に異議がある場合、当該審判決を受け取ってから 10 日<sup>52</sup>以内に該当する郡裁判所または区裁判所に対して控訴することができる。

#### **第 128 条 (裁判所管轄の紛争)**

128.1 次の紛争は、裁判所において審理される。

128.1.1 本法律第 127 条に基づく労働紛争審判委員会の審判に対する控訴；

128.1.2 使用者の判断による不当解雇および不当異動に対する労働者の不服申立て；

128.1.3 労働者に対してその業務遂行上において企業や団体に蒙らせた損害の賠償を求める使用者の申立て；

128.1.4 業務遂行上において生じた健康被害の損害賠償を求める労働者の申立て；

128.1.5 本法律第 69 条の事項に関する紛争；

128.1.6 個人間で締結された労働契約に関する紛争；

128.1.7 不当な懲戒処分に対する労働者の不服申立て；

128.1.8 労働契約の規定が法令および労働協約において保障されている労働条件を下回っているとの労働者の申立て；

128.1.9 就業規則および労働関係を調整する目的で自社の特性に合わせて出されたその他の命令や決定が法令に違反するとの労働者の申立て；(本規定は 2003. 5. 22 に追加された。)

128.1.10 法令および契約における別の定めがない限り、財産および労働力を共有する労働者間の労働紛争；

128.1.11 法令により裁判所の管轄とされているその他の紛争。

#### **第 129 条 (紛争の不服申立て期間)**

129.1 労働契約の当事者は、本法律第 129 条 2 項の場合を除き、権利侵害を知ったあるいは知るべきだった日から 3 か月以内に労働紛争処理機関に対して不服申立てをすることができる。

129.2 労働者は、不当解雇および不当異動に対する不服を、使用者の決定を受け取った日から 1 か月以内に裁判所に申し立てる。

129.3 正当な事由により本条の時効期間が消滅した場合、裁判所は時効を回復させて紛争を審理することができる。

## **第 12 章 就業規則、服務規律、損害賠償責任**

#### **第 130 条 (就業規則)**

130.1 使用者は労働者の代表の意見を考慮の上、法令に適合する内容の就業規則を策定し、遵守させる。

130.2 就業規則において労務管理、使用者及び労働者の権利、義務、責任等について定める。

130.3 行政機関は、特別に服務規律を策定し、遵守させることができる。

#### **第 131 条 (服務規律違反に対する懲戒処分)**

131.1 使用者およびその代表、権利を委任された管理職員は、労働契約や就業規則に違反した労働者をその決定により次の懲戒処分にする。

131.1.1 戒告；

131.1.2 3 か月以下の期間における、平均賃金の 20% を超えない金額の減給(本規定は 2003. 5. 22 に改正された)；

131.1.3 免職。

131.2 服務規律に違反してから 6 か月以内に、それが発覚してから 1 か月以内に懲戒処分に処す。

131.3 服務規律に違反した 1 件の非違行為に対して複数の懲戒処分を重ねて科すことは禁じられる。

131.4 懲戒処分後 1 年が過ぎたら、懲戒履歴は抹消される。

<sup>51</sup> 「提訴」ではなく「控訴」としているところから、労働紛争審判委員会の審判が第一審とみなされると解釈できる。この場合、郡裁判所及び区裁判所は控訴審とみなされる。

<sup>52</sup> ここにおいて単に「日」とあり、「労働日」としていない。

### 第 132 条 (損害賠償責任<sup>53</sup>の発生事由)

132.1 業務遂行上の過失により使用者に財産上の損害を与えた労働者は、懲戒処分、行政処分、刑罰が科されているか否かに関わらず損害賠償責任を負う。

132.2 損害額は直接の損害を基準として算定され、逸失利益はこれに含まれない。

132.3 実験や調整作業中に発生した不可避損害は労働者に賠償させてはならない。

132.4 使用者は、労働者の管理下においた財産を管理するための環境を整備しなかったために発生した損害を労働者に賠償させてはならない。

### 第 133 条 (有限の損害賠償責任)

133.1 業務遂行上の過失により使用者に損害を与えた労働者は、本法律第 135 条の場合を除き損害賠償の有限責任を負う。賠償額は、当該労働者の 1 か月の平均賃金を超えてはならない。

### 第 134 条 (独立業務請負契約に基づく損害賠償責任)

134.1 独立業務請負契約に基づいて労働する労働者は、業務遂行上の過失により使用者に与えた財産的損害に対して、本法律第 135 条の場合を除き、その 6 か月分の平均賃金の範囲内でこれを賠償する義務を負う。

### 第 135 条 (全面的損害賠償責任)

135.1 次の場合に、労働者は全面的損害賠償責任を負う。

135.1.1 損害を与えた労働者の行為が犯罪であるとの裁判所の判決が有効となった場合；

135.1.2 業務遂行上、使用者に損害を与えた労働者に対して全面的賠償責任を負わせる旨の法律の規定がある場合。

135.1.3 事後報告制度の下、委任状やその他の文書に基づいて預かった財産および高価品等を返還しない場合。

135.1.4 直接の保管責任者ではないが、業務遂行に際してその全面的管理下におかれた作業道具や安全保護具、特殊作業着などを紛失させた場合；

135.1.5 飲酒中、麻薬使用中、または業務遂行していない時に使用者に損害を与えた場合。

135.2 ある種の財産および高価品等を横領、遺失させたことにより使用者に与えた損害の賠償手続きは、法律によってのみ定めることができる。

135.3 使用者は全面的賠償責任を課す場合において職務および役職一覧表に基づいて当該労働者と全面的賠償責任に関する契約を締結する。

135.4 全面的賠償責任に関する契約を締結していない場合、あるいは当該労働者と結んだ労働契約において規定していない場合、労働者に全面的賠償責任を負わせてはならない。

### 第 136 条 (使用者に与えた損害の額算定)

136.1 使用者が受けた損害の額は、財産や高価品等に関して会計帳簿に記録されている金額から適正な手続きにより算出した累積減価償却費を差し引き、すなわち実質的損失を基準に算定する。

136.2 財産や高価品等を横領した、あるいは故意に遺失或いは危害を加えた場合の損害額は、そのとき<sup>54</sup>の市場価格を基準に算定する。

136.3 複数の労働者の責により損害が発生している場合、過失の程度および負うべき責任の種類に応じて労働者ごとに賠償すべき損害額を算定する<sup>55</sup>。

## 第 13 章 労務管理

### 第 137 条 (労務管理体制)

137.1 労務管理体制は、厚生労働省、雇用対策機関および雇用監督機関、県や市、区の雇用対策課、郡の労務監査官により構成される。

137.2 厚生労働省は大臣の、各地方機関は首長の指揮命令のもとで活動する。(本規定は 2002. 7. 10 に改正された。)

137.3 厚生労働省は、各地方機関を専門的に指導する。

137.4 すべての行政区の首長は、その権限の範囲内で労務管理を実施する。

### 第 138 条 (中央労働社会委員会)

<sup>53</sup>労働者が負担する民事上の損害賠償責任について規定する。

<sup>54</sup>請求時ではなく、不法行為時という趣旨かもしれない。

<sup>55</sup>共同不法行為の場合の処理について、各人の過失割合に応じた賠償責任を定める。なお、各債務が連帯債務になるかどうかは必ずしも明らかではないが、本条の趣旨や規定ぶりからは分割債務と解することになるであろう。

138.1 政府、使用者または労働者の権利および利益を代表する国家レベルの各機関の代表者により構成される中央労働社会委員会(臨時の)を政府の附属として設置する。

138.2 中央労働社会委員会に所属する各三機関の代表者の数は同数である。

138.3 中央労働社会委員会の活動規則は、使用者または労働者の権利および利益を代表する国家レベルの各機関との協議の上、政府が策定する。

138.4 中央労働社会委員会の会長、副会長、委員は首相が6年の任期で任命する。副会長については、各三機関がその協議の上で各代表者を二年ごとに任命する。

138.5 中央労働社会委員会は次の権利を有する。

138.5.1 労働問題に関する国の政策策定及び施行に影響する権利、三者による社会的協議体制を発展させる権利；

138.5.2 国民の労働基本権、関連する経済的および社会的利益の保護をもとめて起こした集団的労働紛争を処理する権利；

138.5.3 三者による労働社会問題に関する交渉の結果を履行監督する権利、経済社会政策上の共通問題について協議する権利；

138.5.4 法律に定められているその他の権利。

## 第14章 労働監督

### 第139条 (労働に関する法令の施行における監督)

139.1 労働に関する法令の施行において次の者が監督をする。

139.1.1 国レベルの監督は、国会、政府、あらゆる行政地の首長、権限ある監督機関、法令により監督権限が保障されたその他の機関や監理職員がそれぞれの権限の範囲内で行う。

139.1.2 地方における労働の国家監督は、県や市、郡、区の首長および監督部が行う。

139.1.3 労働者の権利及び法律上の利益を代表して保護するNGO団体および大衆は、労働に関する法令の施行に関してそれぞれの権限の範囲内で民間の監督を行う。

### 第140条 (労働の国家監督手続)

140.1 労働監督は、国家レベルにおいて専門監査機関が、地方において監督部が実施する。(本規定は2002.7.10に改正された。)

140.2 労働の国家監督手続は、労働国家監督規則において定める。

140.3 労働国家監督規則は、政府がこれを策定する。

## 第15章 その他

### 第141条 (法令の違反者に対する罰則)

141.1 労働に関する法令に違反したことが刑罰に値しない場合、違反者に次の罰則が課される。

141.1.1 裁判官は、労働者に違法な強制労働をさせた管理職員に対して5,000-30,000トゥグリグ、企業や団体に対して100,000-250,000トゥグリグの過料を課す。

141.1.2 (本規定は2008.5.22に無効とした。)

141.1.3 裁判官は、労働関係において国籍や人種、社会的身分、性別、資力、宗教、信条により差別もしくは制限を設け、優位に扱った場合、または、採用時や労働関係上その職務の特性に関係なく労働者の権利自由を制限した場合において、その主体となった管理職員に対して5,000-25,000トゥグリグ、企業や団体に対して50,000-100,000トゥグリグの過料を課す。

141.1.4 裁判官は、障害者または小人症の者の身体状況が労働の妨げにならない場合、すなわち労働条件が身体状況に害を及ぼさない場合、その身体状況を理由に採用を拒否した管理職員に対して5,000-25,000トゥグリグの過料を、企業や団体に対して50,000-100,000トゥグリグの過料を課す。

141.1.5 労務監査官および裁判官は、本法律第111条2項の料金を支払わない企業や団体に対して50,000-100,000トゥグリグの過料を課す。

141.1.6 女性労働者または年少労働者にその就労が禁じられている業務の遂行を強いた場合、重量が基準値を上回る荷物を持ち上げさせ、運ばせた場合、年少労働者の知的発達および健康に害を及ぼすような異常な職場環境の下で労働させた場合、あるいは休日労働、深夜労働、時間外労働を強いた場合、本法律第74条に違反して時間外労働を強いた場合、労務監査官や裁判官は、当該管理職員に対して15,000-30,000トゥグリグの過料を課す。

141.1.7 (本規定は2008.5.22に無効とされた。)

141.1.8 労働協約および団体協定の締結、修正のための交渉の参加を回避した場合、期限内に開始させなかった場合、集团的労使紛争を調停人や労働仲裁委員会により処理してもらうことを根拠なく拒否した場合、裁判官は、当該管理職員に対して 10,000—50,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.9 集团的労使紛争の処理に携わった労働者の職務に外部の職員を就労させた場合、集团的労使紛争の処理およびその交渉に参加した労働者の代表らを本法律の禁止規定に違反して懲戒処分にした場合、異動させた場合、解雇した場合において、裁判官は、当該管理職員に対して 10,000—50,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.10 裁判官は、労働協約および団体協定の締結、同盟罷業の実行、作業所の一時的閉鎖、意見の不一致事項に関する意見交換、選択権の自由な行使に際して外部から介入した個人および管理職員に対して 5,000—20,000 トゥグリグの過料を、企業や団体に対して 50,000—100,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.11 労務監査官や裁判官は、労働契約を書面で作成していない場合において業務の遂行を命じた管理職員に対して 5,000—20,000 トゥグリグの過料を、企業や団体に対して 50,000—100,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.12 裁判官は、企業や団体の解散の場合を除き、職務または役職が維持されている労働者の労働契約を使用者の提案により解除した管理職員に対して 5,000—25,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.13 労働者の賃金を既定の期限内に支払わなかった場合、遅らせた場合、労働者の責に帰すべきでない事由による一時的業務停止中の手当を支給しない場合、あるいは法定の金額を下回る手当を支給した場合、裁判官は、当該管理職員に対して 5,000—15,000 トゥグリグの過料を課す。

141.1.14 本法律第 122 条 1 項に違反して、同盟罷業の実行が禁じられる組織において同盟罷業を実行した個人および管理職員に対して 40,000—50,000 トゥグリグの過料を、企業や団体に対して 100,000—200,000 トゥグリグの過料を裁判官は課す。

141.1.15 労務監査官は、就業規則、職務・役職リスト、職務記述書、役職ランク、労働基準量、基本給算定表等を策定及び遵守していない管理職員に対して 40,000—60,000 トゥグリグの過料を課す。(本規定は 2003.5.22 に追加された。)

141.1.16 (本規定は 2008.5.22 に無効とされた。)

141.1.17 (本規定は 2008.5.22 に無効とされた。)

141.1.18 労働契約締結日以降、採用命令書を発行しなかった場合、過失により社会保険手帳および健康保険手帳を未作成あるいはそれに必要な記載等をしなかった場合、労務監査官は、当該管理職員に対して 30,000—60,000 トゥグリグの過料を、企業や団体に対して 100,000—250,000 トゥグリグの過料をそれぞれ課す。(本規定は 2003.5.22 に追加された。)

141.2 本法律第 141 条 1 項 6 号の違反行為の結果、労働者の健康が損なわれた場合、民法の不法行為に関する規定に基づいて損害を賠償させる。

141.3 裁判官は、労働者の賃金を既定の期限内に支払わなかったことおよび遅らせたことが立証された場合、遅らせた 1 日当たり 0.3%の遅延損害金を当該労働者に対して支払わせる。

#### **第 142 条 (施行期日)**

142.2 本法律は 1999 年 7 月 1 日から施行する。

モンゴル国国会議長 R. GONCHIGDORJ

## 付属资料6. 会社法

Unofficial Translation

### COMPANY LAW (Revised)

#### CHAPTER ONE

##### GENERAL PROVISIONS

###### Article 1. Purpose of the Law

1.1. The purpose of this law is to regulate relations with respect to the establishment, registration and reorganization of a company, its management and organizational structure, supervisory structure, the rights and obligations of its shareholders, and its liquidation.

###### Article 2. Scope of application of the law

2.1. Unless otherwise specified in the law, all companies operating within the territory of Mongolia, irrespective of their form of ownership, the size of their property, the amount of their production, or their internal organization, shall be subject to this law.

2.2. Relations relating to establishing a company in and matters related to the specific activities of those companies in the sectors of banking, finance, insurance and securities shall be regulated by other laws, and general matters shall be regulated by this law, respectively.

2.3. The activities of companies established by means of privatization of state-owned enterprises shall be governed by this law, and relations with respect to the establishment of such companies shall be governed by the Law on State and Local Property<sup>1</sup>.

<sup>1</sup>Law on State and Local Property- published in the issue number 11 of the "State Bulletin", 1996.

2.4. The procedure to exercise state and local property representation in companies with state and local property participation shall be governed by the Law on State and Local Property, and relations with respect to electing independent members of the Board of Directors, appointing the executive management, and with respect to the committees under the board of directors, secretary of the Board of Directors and their activities shall be governed by this law.

2.5. The activities of state and locally-owned companies established by means of reorganization of state-owned enterprises shall be governed by this law.

2.6. The owner of the state-owned company established as specified in article 2.5 of this law shall be the State Great Khural representing the state, and the local Citizens Representatives Meeting for local property-based companies, and the shareholders representing them may persons authorized by the Government and local citizens Representatives Meeting.

2.7. Relations with respect to establishing profit-seeking legal entities in forms other than companies, and their activities shall be governed by other laws.

#### CHAPTER TWO

##### LEGAL STATUS OF A COMPANY

###### Article 3. Company, its forms

3.1. A legal entity whose capital invested by its shareholders is divided into numbers of shares, that has its own separate property, and that has as its primary purpose the making of profit shall be called a company.

3.2. Shares in a company represent ownership interests in the company, and do not represent respective ownership interests in the company's property.

3.3. The rights of shareholders are defined by this law and by the company charter; and the fundamental rights of a shareholder shall be to receive dividends, to participate in shareholder meetings, to vote on issues discussed at such meetings and, following the company's liquidation, to receive its share of the proceeds from the sale of assets of the company remaining after satisfaction of claims of creditors.

3.4. A company shall have the forms of limited liability company or public company.

3.5. A limited liability company is a company whose shareholders' capital is divided into shares, and the right to dispose of such shares is limited by the company charter.

3.6. The types of public company shall be open or closed.

3.7. An “open public company” is a company whose capital invested by the shareholders is divided into shares, which are registered at the securities trading organization and which may be freely traded by the public.

3.8. A “closed public company” is a company whose capital invested by the shareholders is divided into shares, which are registered at the securities depositing organization, and which are traded in the market in a closed extent outside of the securities trading organization.

#### **Article 4. Public company**

4.1. Unless otherwise specified by law, a shareholder of public company shall have the right to freely dispose of its shares without regard to the proposals of other shareholders.

4.2. If a shareholder of a public company has transferred his/her shares by means other than through the securities trading organization, such shareholder shall be obligated to register the transfer with the registrar of the securities registry of the company.

4.3. Unless otherwise provided in the company charter, a public company may issue shares and other securities through open or closed subscription.

4.4. A purchaser of additional shares issued on the basis of a closed subscription shall have the right to freely dispose of such shares. 4.5. The shareholders of a public company may enter into an agreement that mutually limits their rights to dispose of their shares.

#### **Article 5. Limited liability company**

5.1. The number of founders of a limited liability company shall not be more than fifty (50).

5.2. A limited liability company shall issue shares, options to acquire shares, and securities convertible into shares, only by means of closed subscription, and shall not issue securities to be offered to the public.

5.3. Unless otherwise provided in the company charter, shareholders of a limited liability company shall have the preemptive right to purchase shares, options to acquire shares, and securities convertible into shares, that are offered for sale by another shareholder at the price offered to a third party pro rata basisto the number of shares held by the shareholder pursuant to this law and the company charter.

5.4. A shareholder of a limited liability company offering to sell any of its shares to a third party shall notify the company of its offer and the company shall notify the other shareholders in writing of such offer.

5.5. The notice provided in article 5.4 of this law shall contain information concerning the number and class of shares offered for sale, the proposed sale price, the number of shares that may be acquired by the preemptive right, and the period and procedures of the sale.

5.6. A shareholder with a preemptive right to purchase shares shall notify the company in writing of its decision to exercise such right within the prescribed period.

5.7. The notice provided in article 5.6 of this law shall contain the father (mother)’s name, name and address of the shareholder, the number of shares to be purchased and the document confirming payment for such shares.

5.8. Unless otherwise provided in the company charter, a shareholder shall have the right to exercise its preemptive right to purchase shares offered for sale by another shareholder set forth in article 5.3 of this law, in whole or in part, or to transfer its right, in whole or in part, to another shareholder.

5.9. Unless otherwise provided in the company charter, if a shareholder does not exercise its preemptive right defined in article 5.3 of this law in whole within the prescribed period, the right shall be deemed to have been transferred to the company and the company shall issue its decision on whether to exercise such right within five (5) business days following the period specified in the notice set forth in article 5.4 of this law.

5.10. If the persons provided in article 5.3 and 5.9 of this law do not exercise their preemptive rights, the shareholder that is offering to sell its shares may sell its shares to a third party at a price no less than that specified in the notice provided in article 5.4 of this law.

5.11. The shareholder of a limited liability company has the right to obtain all information pertinent to the company and review financial and other documents.

#### **Article 6. subsidiary companies and group companies**

- 6.1. If 20-50 percent of the common shares issued by a company is owned by another (parent) company alone or in conjunction with its related parties, the company is deemed to be a controlled company.
- 6.2. A controlled company is a legal entity with independent financial statements.
- 6.3. If more than 51% of the common shares issued by an independent company is owned by another (parent) company alone or in conjunction with its related parties, the company is deemed to be a daughter company.
- 6.4. A daughter company shall have its own separate financial statements, and the parent company shall have consolidated financial statements that include the financial statements of the daughter company.
- 6.5. A controlled or daughter shall not be responsible for debts of its parent company and a parent company shall not be responsible for debts of its controlled or daughter companies, unless otherwise provided by an agreement between them.
- 6.6. If a daughter company becomes insolvent due to a decision of the parent company, the parent company shall be jointly responsible for the debt.
- 6.7. If it is deemed that the losses incurred by the daughter company is due to a decision of the parent company, the shareholder of the daughter company may claim at court for redress of such losses suffered by the daughter company by the parent company.
- 6.8. If a predominant or parent company is a controlled or daughter company of a third company, its controlled or daughter company shall be deemed to be a controlled or daughter company of the third company. This principle shall also be applicable to longer series of relationships.
- 6.9. A controlled or daughter company may own shares of its predominant or parent company.
- 6.10. Shares of a parent company owned by a daughter company set forth in article 6.9 of this law shall not have voting rights and shall not be considered as issued shares in determining a quorum of a shareholders meeting.
- 6.11. If shares set forth in article 6.9 of this law are transferred to a third party, all rights with respect to such shares shall be transferred to such third party
- 6.12. In cases other than to perform its obligations set by an agreement entered into for the purpose of coordinating its activities, the parent company shall participate in the activities of its controlled or subsidiary companies to the extent of the rights offered by the shares that it holds.
- 6.13. A group of companies [*coordinated companies.trans*] is a parent company and companies affiliated to the parent company as set forth in article 6.1, 6.3 and 6.8 of this law, a company of which the controlling shares are held by a single person or in conjunction with its related parties, or companies of which the decision of the management is possible to be determined.
- 6.14. Controlled or *daughter* companies of the same parent company, or companies holding controlling shares in conjunction with a single or related parties shall be called parallel companies.
- 6.15. A company that is part of a group of companies [*coordinated companies.trans*] shall be deemed a participating company in a group regardless of whether it is a parent company, controlled, daughter or parallel company.

#### **Article. Branches and Representative Offices of a Company**

- 7.1. A branch of a company is a unit located in a place other than the place of business of company; and may perform the principal functions of the company, in whole or in part, and may also function as the company's representative office.
- 7.2. A representative office of a company is a unit located in a place other than the principal place of business of the company and shall conduct activities of legal representation such as undertake to protect the legal interests of the company and conclude transactions on behalf of the company.
- 7.3. A company may have branches or representative offices in Mongolia or in foreign countries.
- 7.4. Unless otherwise provided in the company charter, a decision to establish a branch or representative office shall be adopted by the Board of Directors (in its absence, a shareholders meeting).
- 7.5. A branch or representative office of a foreign legal entity in Mongolia shall be registered with the registration authority.

7.6. Unless otherwise provided in an international agreement to which Mongolia is a party, the establishment of a branch or representative office by a company in a foreign country shall be governed by the laws of such foreign country.

7.7. A branch or representative office of a company shall not be deemed to be a legal entity and shall conduct its activities in accordance with procedures adopted by the establishing company.

7.8. The assets of a branch or representative office shall be shown in the balance sheet of the company that established such branch or representative office.

7.9. A branch or representative office of a company shall conduct its activities on behalf of the company that established it.

7.10. The establishing company shall be responsible for the consequences ensuing from the activities of its branches and representative offices.

7.11. Unless otherwise specified in the company charter, the Board of Directors (in its absence, the executive management) shall appoint the management of its branches and representative offices and such executive shall act on the basis of a power of attorney from the company.

#### **Article 8. Activities and duration of a company**

8.1. A company may conduct any activity not prohibited by law and shall exercise rights and incur obligations necessary to conduct such activities.

8.2. A company may limit by its charter the activities that it may conduct.

8.3. The limitations set on the activities as set forth in article 8.2 of this law, shall not release of the company from its obligations to a third party conducting its activities within the law and who has dealt with the company in good faith without knowledge of such limitations.

8.4. A company shall conduct activities which require special permits on the basis of acquiring written permission from relevant authorities.

8.5. Unless otherwise provided in the company charter, a company shall be established for an indefinite duration.

#### **Article 9. Liabilities of a Company and its Shareholders**

9.1. The assets of a company consist of the property and property rights owned by the company and the company shall be liable to the extent of all of its assets.

9.2. A company is not liable for the obligations of its shareholders.

9.3. Shareholders shall not be liable for the obligations of the company and shall only be liable to the extent of their shares in the company.

9.4. A shareholder who, alone or in conjunction with its related party, holds more than ten percent (10%) of a company's shares, or who otherwise has the power to control the management of the company, shall be liable to the extent of its own assets for any loss incurred by the company resulting from the faulty actions of such power.

9.5. If the property and property rights contributed to a company by a shareholder is not distinguished from the personal property and property rights of such shareholder, such shareholder shall be liable for the company's liabilities by all property and property rights concurrently.

#### **Article 10. Proper name and place of business of a company**

10.1. A company shall have a proper name and for every time the proper name is used an acronym distinguishing the form of the company "XK" for public company and "XXK" for limited liability company shall follow.

10.2. A company's proper name may not be identical to the proper name of another company or legal person, and upon registration of a company's proper name with the registration authorities, the company shall have the exclusive right to use such name.

10.3. A company may have its own symbol and trademark which shall be registered with the relevant registration authorities.

10.4. A company's place of business and postal address shall be determined by the place where its head office is located.

10.5. The company shall register the registration authorities of changes in the address of its principal place of business as set forth in the Law on State Registration of Legal Persons<sup>2</sup>.



2 Law on the Registration of Legal Persons – published in issue number 22 of the “State Bulletin”, 2003.

**CHAPTER THREE**  
**ESTABLISHING A COMPANY**

**Article 11. Establishing a company**

11.1. A company may be established directly or by the reorganization of another legal person (merger, consolidation, division, separation, or transformation).

11.2. In the case of establishing a company created by means of privatization, the obligations of the founder shall be borne by the state and the sale and transfer of the shares shall be implemented as set forth in the Law on State and Local Property.

**Article 12. Founder of a company**

12.1. A founder of a company may be a citizen or legal person of Mongolia and, if provided by law, a foreign citizen or legal person, or a stateless person.

12.2. Shares issued by a company may be owned by a citizen or legal person of Mongolia, by a foreign citizen or legal person, or by a stateless person.

12.3. A company may have a single founder.

12.4. A founder of a company is not required to own shares of the company.

12.5. The State and its agencies may be a founder and a shareholder in the following cases:

12.5.1. a company that is created through privatization of a state or local -owned enterprise;

12.5.2. a state-owned company that is established by the reorganization of a state-owned enterprise;

12.5.3. a company that is deemed to be bankrupt in accordance with applicable laws, and whose shares the State has acquired in exchange for debts owed to the State by such company (In such case the State must sell such shares within a period of three (3) years);

12.5.4. a company that is created jointly with a foreign legal person

12.5.5. other companies as permitted under the laws.

12.6. The founders of a company shall be jointly liable for expenses related to establishment and registration of the company.

12.7. A company may assume responsibility for expenses set forth in article 12.6 of this law if so resolved by the founders at the founding meeting, or by the Board of Directors of the company.

12.8. A founder who pays for expenses related to establishment of a company as set forth in article 12.6 and 12.7 of this law shall be entitled to receive reimbursement for such expenses from the other founders in proportion to the value of the shares owned or subscribed by such other founders, or to receive shares of value equal to such expenses.

12.9. A founder or shareholder of a company may be a founder or shareholder of another company.

**Article 13. Establishing a new company**

13.1. A company shall be established by the decision of a founding meeting.

13.2. If a single person is establishing a company, such person shall issue a founding decision.

13.3. If a company is established by more than one founder, the founders may enter into a founders agreement and such agreement shall contain the procedure with respect to cooperation among the founders, the obligations of each founder, the classification, number, price, and date of purchase of each class of shares and other securities to be acquired by such founders, and any other matters deemed necessary.

13.4. The agreement set forth in article 13.3 of this law shall not be considered to be a founding document.

13.5. The following procedure shall be adhered to in establishing a new closed public company through means of a offering of shares to few persons (hereinafter “closed subscription”):

13.5.1. closed subscriptions shall be evidenced by a subscription form which shall contain the father (mother)’s name, name of the subscriber, the class, type, number and aggregate price of the shares, and the date of the subscription and the subscription shall be deemed to be valid upon signing by the subscriber or its authorized representative;

13.5.2. The aggregate value of all subscribed shares must be paid within thirty (30) business days following the closing date of the subscription period.

13.6. If, for any reason, a company is not established as of the date scheduled by the founding meeting, the founders shall return all advance payments made by each subscriber within fourteen (14) business days following such scheduled date of the founding meeting.

**Article 14. Founding Meeting of a Company**

14.1. The founding meeting of a company shall be convened by the founders.

14.2. The founders shall have equal votes at the founding meeting unless otherwise unanimously agreed by the founders.

14.3. The founders shall consider and decide the following matters at the founding meeting:

14.3.1. establishing the company;

14.3.2. company charter;

14.3.3. the number of authorized shares, the number of shares to be issued, and the price at which the founders may acquire these shares;

14.3.4. if the company has a Board of Directors, the election of its members and the salaries and bonuses to which each member will be entitled;

14.3.5. procedure for reimbursement of expenses incurred by the founders in connection with the establishment of the company;

14.3.6. the date by which all capital to be invested in the company must be paid.

14.4. Unless otherwise provided by the founders agreement, there shall be a quorum at the founding meeting if all the founders attend the meeting, and decisions made at the meeting shall be adopted by an super majority of votes of the founders attending the meeting.

14.5. The chairperson of the founding meeting shall be elected from among the founders attending the meeting.

14.6. If any founder proposes to pay for subscribed shares by non-monetary payment, the value of such non-monetary payment if deemed necessary shall be valued by an evaluation agency or other qualified experts and shall be submitted for discussion at the founding meeting.

14.7. The value of property given as non-monetary payment for shares shall be unanimously approved by the participants in the founding meeting.

**Article 15. Registration of a company in the state registration**

15.1. The relevant documents shall be submitted for registration in the state registration within 30 days from the date of the decision to establish the company.

15.2. Relations in respect of registration of a company shall be regulated by law.

**Article 16. Company Charter**

16.1. A company charter is the basic founding document.

16.2. A company charter shall include:

16.2.1. the company's full and abbreviated name and an acronym indicating the company's form of organization;

16.2.2. the number, class, nominal price of the company's authorized and issued common shares and the amount of capital invested;

16.2.3. if the company charter establishes preferred shares, the number of authorized preferred shares and rights of holders of such shares;

16.2.4. if the company has Board of Directors, the number of its members;

16.2.5. powers of the shareholders at a meeting of shareholders, and of the Board of Directors or Supervisory Board, other than that specified in this law;

16.2.6. the type of business to be conducted by the company;

16.2.7. other provisions to be reflected in the company charter as set forth in this law.

16.3. Other matters do not conflict with the Civil Code<sup>3</sup> or other applicable laws may be provided in the company charter.

<sup>3</sup> Civil Code- published in issue number 7 of the "State Bulletin", 2002.

16.4. Upon demand of a shareholder, a company must provide such shareholder with a copy of the charter, including all amendments.

## **Article 17. Approval and Registration of Amendments to a Company Charter or of a New Version of a Company Charter**

17.1. Amendments to a company charter, or adoption of a new version of the charter, must be approved at a meeting of shareholders by a super majority of the shares held by shareholders eligible to vote who attend the meeting

17.2. Shareholders whose rights are breached or otherwise limited as a result of amendments to the company charter, or the adoption of a new version of the charter, and who voted against such amendment or adoption, or who did not participate in the voting with respect thereto, have a right to demand redemption of their shares by the company in accordance with the provisions of articles 54 and 55 of this law.

17.3. The following documents shall be submitted for the registration of amendments to a company charter, or a new version of the charter:

17.3.1. An application for registration of amendments to the company charter, or a new version of the charter, signed by an authorized person of the company;

17.3.2. the decision adopted by the shareholders meeting to amend the charter, or to adopt a new version of the charter, together with the text of the amendments or new version of the charter;

17.3.3. a copy of the company charter;

17.3.4. a document confirming payment of the registration fee.

17.4. Within ten (10) business days following the adoption of a resolution to amend or adopt a new version a company charter, such amendments or new version shall be registered in the state registration in accordance with the procedures specified by law.

17.5. Within three (3) business days following the date of submission of the documents specified in article 17.3, the decision stating the basis for its acceptance or refusal to register such amendments or new version of the charter shall be issued by the registration authority.

17.6. The registration of amendments to a company charter, or a new version of the charter shall be denied if such amendments or such version of the charter fail to satisfy the requirements set forth in article 17.3 of this law.

17.7. Within three (3) business days following the denial to register as set forth in article 17.6 of this law, the registration authority shall send a written notice stating the basis for such refusal to the company's postal address specified in the application.

17.8. If the company does not agree with the decision of the registration authority set forth in article 17.6 of this law, it may appeal to the courts.

17.9. Amendments to a company charter, or a new version of the charter shall become effective upon registration with the registration authority.

## **CHAPTER FOUR**

### **REORGANIZATION AND LIQUIDATION OF A COMPANY AND DEBT-FOR-SHARE EXCHANGES**

#### **Article 18. Reorganization of a Company**

18.1. A company may be reorganized by consolidation, merger, division, separation, or transformation pursuant to resolutions adopted at shareholder meetings in accordance with procedures established by this law.

18.2. If provided by law, a company may also be reorganized by division or separation pursuant to a court order

18.3. Except for reorganization by merger, a company shall be deemed to be reorganized as of the date of registration of the reorganized company in the state registration.

18.4. If a company is reorganized by merger, such company shall be deemed reorganized as of the date that the state registration registers the termination of the merged company and, if there are changes in the charter of the merging (surviving) company, registration of such changes.

18.5. Within fifteen (15) business days following the date of adoption of a reorganization resolution, the reorganised company shall notify its creditors and other persons with whom it has business dealings in writing of the reorganization and such notice shall contain the following information:

18.5.1. the form of reorganization;

18.5.2. the name and business address of each reorganized company and, that of any new company created by the reorganization;

18.5.3. the date of adoption of the resolution to reorganize;

18.5.4. in the case of reorganization by division or separation, the pro-forma balance sheets of each company that is a party to the reorganization.

18.6. A public company shall notify the Financial Regulatory Committee and the securities trading organization of the decision to reorganize or within three (3) business days following adoption of such decision.

#### **Article 19. Consolidation of Companies**

19.1. Consolidation of companies means termination of the legal status of two or more companies and the transfer of the rights, obligations and liabilities of such companies to a newly established company.

19.2. The Board of Directors (in its absence, the executive body) of each company participating in the consolidation shall submit to shareholder meetings of each company for consideration, a draft resolution of consolidation, an agreement containing the terms and conditions and procedures to be followed with respect to the consolidation, the charter of the new company to be formed by the consolidation, and proposed procedures for converting securities of each company into securities or other property of the new consolidated company.

19.3. The decision of consolidation and the consolidation agreement must be adopted by an overwhelming majority of the votes of shareholders eligible to vote who attend the meetings of each company.

19.4. The consolidation agreement shall specify the shares, date and place of the shareholders meeting of the new company to be held following the consolidation.

19.5. The shareholders meeting shall adopt the charter of the consolidated company and, if the consolidated company is to have a Board of Directors, its members.

19.6. The voting rights of the shareholders attending the shareholders meeting shall be equal to the converted voting rights defined by the agreement set forth in article 19.2 of this law.

#### **Article 20. Merger of companies**

20.1. A merger of companies means termination of the activities of one company and transfer of the rights, obligations and liabilities of such company to another company.

20.2. The Board of Directors (in its absence, the executive body) of each company participating in a merger shall submit to shareholder meetings of each company for consideration, a draft resolution of merger, and an agreement of merger.

20.3. The agreement set forth in article 20.3 of this law shall contain the terms and conditions and procedures to be followed with respect to the proposed merger, and procedures for converting securities of the merged company into securities or other property of the merging (surviving) company.

20.4. The merger resolution and the merger agreement shall be adopted by an overwhelming majority of votes of shareholders eligible to vote who attend the meetings set forth in article 20.2 of this law.

20.5. If, prior to a proposed merger, the merging (surviving) company owns more than seventy-five percent (75%) of the issued and outstanding common shares of the company to be merged, and if it is deemed unnecessary to amend the charter of the merging (surviving) company, the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) of the merging company may adopt a resolution of merger and determine the procedures to be followed in giving effect to the merger.

#### **Article 21. Division of a company**

21.1. Division of a company means termination of the activities of a company and transfer of the rights and obligations of such company to two or more newly established companies.

21.2. Unless otherwise provided in the resolution of division, holders of common shares of a divided company shall be deemed to be holders of common shares of each newly established company in the same proportions as their holdings of common shares of the divided company.

21.3. The Board of directors (in its absence, the executive body) of a company being divided shall submit to a meeting of its shareholders pro-forma balance sheets for each new company and the company to be divided, and proposed procedures for converting the divided company's securities into securities or other

property of the new companies, and the resolution and proposed procedures must be adopted by an overwhelming majority of votes of the shareholders eligible to vote who attend the meeting.

21.4. The shareholders meeting of each new company established by the division shall adopt a new charter for each respective company, and if the company has a Board of Directors, shall elect members of such Board.

21.5. The specific procedure for holding the meetings set forth in article 21.4 of this law shall be specified in the decision to reorganize through division.

21.6. Effective as of the division of a company, its rights and obligations shall be transferred to the newly established companies as specified in the pro-forma balance sheets.

21.7. Unless otherwise provided in the division agreement, each newly established company shall be concurrently liable for obligations of the other companies established by the division.

#### **Article 22. Separation of a company**

22.1. Separation of a company means transfer of part of the assets and rights of the company to a newly established company, without termination of the activities of the transferring company.

22.2. In the case of a reorganization by separation, the reorganized company shall become the holder of all the shares of the newly established company or companies.

22.3. The Board of Directors (in its absence, the executive body) of reorganized company shall adopt a decision that includes the conditions and procedures to be followed with respect to the separation, the pro-forma balance sheets for the separating company and on the newly established company.

22.4. The shareholder meetings of each newly created company set forth in article 22.1 of this law must approve the charter of each of the respective companies and, if any such company is to have a Board of Directors, its members.

22.5. A company that reorganizes by separation remains liable for all of its debts.

22.6. The pro-forma separation balance sheets may specify debts to be assumed by each of the newly established companies as set forth in article 22.1 of this law.

22.7. In the case the debt is to be assumed as set forth in article 22.6 of this law, the reorganizing company remains jointly liable with such companies for such transferred liabilities.

22.8. All or part of the securities of the company newly established through separation issued by such company to the reorganized company may be transferred based on the provisions of Chapter Seven (7) of this law to the shareholders of the reorganized company as a dividend.

#### **Article 23. Transformation of a Company**

23.1. The form of a company may be changed by transforming a public into a limited liability company, and a limited liability company into a public company.

23.2. The proposal to transform the company as set forth in article 23.1 of this law shall be submitted to a meeting of its shareholders for consideration by the Board of Directors (in its absence, the executive body), and such proposal shall be adopted by an overwhelming majority of votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting.

23.3. The proposal set forth in article 23.2 of this law shall specify the purpose, conditions and procedures to be followed with respect to the transformation, date/duration, the procedures to be followed with respect to conversion of old securities for new securities, and the date for the holding of a shareholders meeting.

23.4. If the authorized person set forth in article 60.1 of this law deems necessary, such person may provide for the convening of a shareholders meeting of the transformed company in accordance with the procedures provided in the law, where a new version of the company charter and the governing body of the company may be adopted and approved, which shall be reflected in the proposal to transform the company.

23.5. All of its rights and obligations shall be deemed to have been transferred to the transformed company when a company is transformed.

23.6. If a company is transformed, the name of the company and its charter shall be amended to reflect the change of the transformation.

#### **Article 24. Rights of shareholders During a Reorganization**

24.1. In the case of a reorganization of a company by consolidation, merger or transformation, any holder of voting shares of such company who voted against the reorganization, or who did not participate in such voting, shall have right to demand redemption of its shares by the company in accordance with the procedures set forth in articles 53 and 54 of this law.

24.2. Shares held by shareholders who have agreed to have their share redeemed by the company may not be converted into shares to be issued pursuant to the decision to reorganize.

24.3. In the case set forth in article 24.2 of this law, such shareholders shall lose all ownership rights with respect to their shares, other than their right to demand redemption.

24.4. Shares held by holders who have not demanded redemption shall be converted as provided in the terms of the decision to reorganize.

#### **Article 25. Exchange of a Company's Debts for Shares**

25.1. A company's securities and debts other than shares may be exchanged for shares and such exchange shall be called an exchange of debts for shares.

25.2. Unless it is otherwise specified in an agreement entered into with a creditor or other persons dealing in business, the consent of the creditor and other persons dealing business shall be obtained for any debts-for-shares exchange.

25.3. The Board of Directors (in its absence, the executive body) of a company shall prepare a proposal draft with respect to any proposed exchange of debts for shares and submit such resolution to a meeting of its shareholders for consideration and such matter shall be resolved by an overwhelming majority of votes of the shareholders eligible to vote who attend the meeting.

25.4. The draft proposal to exchange debts for shares shall indicate the debt to be exchange, the number and per share price of the shares to be issued, the terms and procedure of the exchange, and proposed amendments to the company charter.

25.5. The exercise of options to acquire shares, or the conversion of securities convertible into shares pursuant to the terms of such securities, shall not be considered to be an exchange of debts for shares.

25.6. A shareholder has the preemptive right to purchase the shares that have been issued to exchange the company debt for shares.

#### **Article 26. Liquidation of a Company**

26.1. A company may be liquidated by the decision of a shareholders meeting or by a court order based on grounds set forth in the Civil Code, this Law, and other laws.

26.2. Court shall liquidate a company on the following grounds:

26.2.1. the company is bankrupt;

26.2.2. no shareholder can be located; or

26.2.3. on the basis of other grounds provided by law

26.3. The Board of Directors (in its absence, the executive body) of a company that being liquidated by the decision of the shareholders shall submit a draft of liquidation to the company's shareholders meeting for consideration, which draft shall provide for appointment of a liquidation commission, the liquidation timeline and procedures, and the procedure for distribution of the company's property remaining after creditors' claims have been satisfied among the shareholders; and the resolution must be approved by an overwhelming majority of votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting.

26.4. Upon appointment of the liquidation commission, the authority of the company's executive body shall terminate and such authority shall be transferred to the liquidation commission, and the liquidation commission shall represent the company in all court hearings.

26.5. The liquidation commission shall redress any losses incurred by the company or its creditors caused by the commission's negligence in the performance of its duties, in accordance with the procedures set by law.

26.6. The Financial Regulatory Committee may appeal to court to issue a decision to liquidate a public company on the grounds specified in article 26.2 of this law.

#### **Article 27. Procedure for Satisfaction of Debts and Liabilities During Liquidation**

27.1. Debts and liabilities of the company at the time of liquidation shall be satisfied in accordance with relevant provisions of the Civil Code, this law and other laws.

27.2. The liquidation commission shall publish notice of the liquidation and the procedures and time periods for the presentation of claims of creditors and the time period in which creditors may present claims shall be no less than two (2) months and no more than six (6) months following the date of publication of the notice of liquidation.

27.3. The liquidation commission shall also give each of the company's creditors written notice of the liquidation and the procedures and time periods for the presentation of claims.

27.4. If, at the time of the adoption of the decision to liquidate, a company has no debts or liabilities, liquidation may be effected without publishing a public notice.

27.5. In the case set forth in article 27.4 of this law, the company's assets shall be distributed among its shareholders in accordance with the provisions of article 28 of this law.

27.6. Upon expiration of the time period during which creditors may present claims, the liquidation commission shall compile a liquidation balance sheet containing information with respect to the liquidating company's assets and liabilities and the commission's proposals for the satisfaction of claims of creditors, shall be approved by the company's Board of Directors (or in its absence, the shareholders meeting).

27.7. The liquidation commission shall give creditors written notice of its proposals for the satisfaction of claims, and if any creditor does not agree with such proposals, it may appeal to a court prior to the approval of the liquidation balance sheet.

27.8. If the liquidating company's monetary assets are not sufficient to satisfy the claims of creditors, the liquidation commission shall shell other property of the company.

27.9. If the sale of property of the company being liquidated set forth in article 27.8 of this law is deemed to constitute a conflict-of-interest transaction under Chapter Twelve (12) of this law, the sale shall be effected by public auction in accordance with procedures applicable to the Law on Court Decision Enforcement<sup>4</sup>.

<sup>4</sup> Law on Court Decision Enforcement – published in issue number 8 of the "State Bulletin", 2002.

27.10. Claims of creditors shall be satisfied by the liquidation commission in the order of priority specified in the Civil Code and in this law and in accordance with the provisions of the liquidation balance sheet from the date of the approval of such balance sheet.

27.11. The final report on satisfaction of claims shall be issued within thirty (30) business days following the date of the notice to creditors of the liquidation balance sheet by the liquidation commission upon satisfaction of the claims of all creditors.

27.12. No claims of creditors presented after the final liquidation balance sheet has been issued, as set forth in article 27.11 of this law, shall be accepted unless they are presented pursuant to a court order.

#### **Article 28. Distribution of a Liquidating Company's Assets to its Shareholders**

28.1. Following satisfaction of the claims of creditors, the liquidation commission shall distribute the revenue from the sale of the company's remaining assets among the shareholders in the following order of priority;

28.1.1. payments of accrued but unpaid dividends on preferred shares, the liquidation value of preferred shares, and payments with respect to preferred shares to be redeemed pursuant to articles 54 and 55 of this law; and

28.1.2. payments with respect to common shares to be redeemed pursuant to articles 53 and 54 of this law.

28.2. The revenue from the sale of the remaining property as set forth in article 28.1 of this law shall be distributed in proportion to the number of shares held by shareholders of common shares.

#### **Article 29. Informing of the liquidation of the company**

29.1. After distribution of all of the liquidating company's assets, the liquidation commission shall notify the registration authority of the termination of the company and submit a copy of the final liquidation balance sheet.

29.2. A company shall be deemed to be liquidated when the registration authority removes the company's name from the state registry and the registration authority shall publish a notice of such liquidation.

### **CHAPTER FIVE**

## **CHARTER CAPITAL, SHARES AND OTHER SECURITIES OF A COMPANY**

### **Article 30. Charter capital and equity of a company**

30.1. The charter capital of a company is the aggregate amount of nominal price of the total preferred and common shares issued by the company and held by the shareholders, and the authorized and redeemed premium shares of the company shall not be a part of the charter capital.

30.2. The total equity of a company is the excess of the total amount of the company's tangible and intangible assets shown on its financial balance sheet over the company's liabilities shown on such balance sheet. 30.3. The charter capital of a company shall not be more than the total equity of such company.

30.4. Unless otherwise provided by law, there shall be no minimum amount of charter capital contribution set in founding a company.

30.5. The charter capital of the company shall be specified in the company charter.

### **Article 31. Amending the amount of charter capital of the company**

31.1. Every time the charter capital of a company is amended, the company charter shall be amended.

31.2. The charter capital of the company may be amended in the following forms based on the decision of the shareholders meeting:

31.2.1. increase or decrease the nominal price of share units;

31.2.2. increase by issuing additional shares;

31.2.3. decrease by repurchasing and revoking shares issued by itself.

31.3. If the amount of total equity is less than the charter capital, as shown on the annual balance sheet of a company, the Board of Directors (in its absence, the executive body) of the company shall be obligated to convene the shareholders meeting of the company the matters of amending the charter capital, recapitalization or liquidation of the company for consideration and resolution within ten (10) working days of the date of such annual report.

31.4. The executive body shall be obligated to inform the creditors of the company of the matters set forth in article 31.3 of the law and their resolution within 30 days of the such decision.

31.5. If the matters set forth in article 31.3 of this law are not resolved according to the relevant procedures shareholders, creditors of the company, or in the case of public company the Financial Regulatory Committee, shall have the right to appeal to court to have the decision rendered to liquidate the company through judicial means.

### **Article 32. Shares of a company**

32.1. As provided in the Law on Securities Markets<sup>5</sup>, a share evidences the investment of a shareholder in a company, gives its holder the right to vote at shareholders meetings, to receive dividends and to receive a proportionate share of proceeds from the sale of the company's assets remaining following its liquidation.

<sup>5</sup> Law on Securities Markets – published in issue number 48 of the "State Bulletin", 2002.

32.2. Shares may be of two (2) classes: common and preferred.

32.3. A company is obligated to issue common shares and may issue preferred shares.

32.4. Shares shall have a nominal (or par) value as specified in the company charter and shares of the same class shall have the same nominal value.

32.5. Shares may not be issued at a price lower than the nominal value.

32.6. Unless otherwise provided by law, each share shall be entitled to one vote.

32.7. Shares shall be considered as nominal [non-bearer] security and the voting rights of a share shall be indivisible.

### **Article 33. Authorized and Issued Shares of a Company**

33.1. The number of common and preferred shares of a company shall be specified by the company charter, which shall constitute authorized shares of the company.

33.2. Issued shares are those authorized shares that are issued to and held by a company's shareholders.

33.3. Unless otherwise provided in a company's charter, the number of issued shares of each class, duration, and the terms and conditions for their issuance, shall be determined by the Company's Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting).



33.4. The number of issued shares shall be set forth in the company's balance sheet by each class.

33.5. The number of authorized shares of any class shall be no less than the sum of the number of issued shares of such class and then number of shares required for conversion of securities convertible into shares of such class.

33.6. Shares issued by a company shall remain issued until they are acquired or redeemed by the company, or converted into other securities or property.

33.7. Shares acquired or redeemed by a company shall be deemed to be authorized but unissued shares.

33.8. Unless otherwise provided in the company charter, the company may re-issue the shares set forth in article 33.7 of this law.

#### **Article 34. Rights of Holders of Common Shares**

34.1. A holder of common shares of a company shall have the following rights:

34.1.1. to participate in all shareholder meetings and to vote the number of shares held by such holder on all issues proposed at such meetings;

34.1.2. to receive dividends as determined by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) after payment of dividends on the company's preferred shares;

34.1.3. to receive a share of proceeds from the sale of the company's remaining assets following liquidation of the company pursuant to article 28 of this law.

34.2. The shareholder of a public company shall have the preemptive right to purchase additional shares, and securities related to such shares, proposed to be issued by the company, as provided in article 38 of this law and in the company's charter;

34.3. Unless otherwise provided in the company charter, the shareholder of common shares in a limited liability company has the preemptive right to purchase securities related to shares issued by a company in accordance with other procedures specified in this article.

34.4. A company charter may not limit the number of common shares that may be held by any one shareholder.

34.5. A company's common shares may not be converted into preferred shares or other securities issued by the company.

34.6. The voting rights of a holder of common shares with respect to certain matters to be decided at a shareholders meeting may be limited by this law or by the company charter.

#### **Article 35. Rights of Holders of Preferred Shares**

35.1. Holders of all series of preferred shares shall have the following rights:

35.1.1. the preemptive right to receive dividends with respect to preferred shares before dividends are distributed to the holders of common shares;

35.1.2. to attend shareholders meeting with voting rights with respect to certain matters specified in this law, the company charter, and the terms and conditions pursuant to which the particular series of preferred shares were issued;

35.1.3. Upon the liquidation of a company, to receive accumulated unpaid dividends and the liquidation value of such shares, from proceeds from the sale of assets of the company during the liquidation process.

35.2. A company charter or the decision to issue preferred shares shall specify:

35.2.1. the payment to be paid to the holder of preferred shares, procedure for determining the liquidation value of shares and the order of priority for payment of such value upon liquidation of the company;

35.2.2. the matters with respect to which a holder of each series of preferred shares has the right to vote at a shareholders meeting, and the number of votes attributable to each share;

35.2.3. if applicable, the terms for conversion of preferred shares into common shares;

35.2.4. the circumstances that will give a holder of preferred shares the right to demand redemption of such shares by the company.

35.3. A company shall have the right to redeem, or pay dividends with respect to its common shares only after payment in full of all accumulated unpaid dividends with respect to its preferred shares and the redemption of any such preferred shares that the company is obligated to redeem.

35.4. In the case set forth in article 47.3 of this law, a company shall pay dividends on preferred shares in such amount and within such time period as provided in the company charter.

35.5. In the case of liquidation of a company, the company shall pay to holders of its preferred shares the liquidation value and accumulated but unpaid dividends with respect to their preferred shares before making any payments to the holders of common shares.

35.6. Holders of preferred shares shall have the right to vote at a shareholders meeting with respect to the following matters:

35.6.1. adoption of amendments to, or a new version of the company charter, that limit the rights of such shareholders;

35.6.2. requiring conversion of preferred shares into common shares or other securities or property in the course of reorganization of the company.

35.7. Unless the company charter specifies a higher percentage, the matter specified in article 35.6 of this law shall be resolved by the majority of the holders of preferred shares attending the shareholders meeting with voting rights.

35.8. The charter of a joint stock company may provide that holders of preferred shares shall have the right to attend the shareholders meeting with rights to vote for election of members of the Board of Directors of a joint stock company in the following cases:

35.8.1. if the company charter provides that holders of preferred shares that are convertible to common shares may elect a representative to serve as a member of the Board of Directors;

35.8.2. if the dividends with respect to preferred shares has not been paid within a specified period of time.

35.9. A company shall resolve the matter of issuing preferred shares by the overwhelming majority of holders of common shares attending the shareholders meeting with voting rights.

#### **Article 36. Golden Shares**

36.1. In issuing the decision to privatize a state-owned enterprise, or a company in which the state holds a majority of the issued shares, where the state proposes to sell all of its interest, the Government may provide in such decision to issue golden shares that shall, for a specific period of time, have the right to veto any decision adopted by the company's shareholders, Board of Directors, or executive body, with respect to any matter provided in article 36.2 of this law, without the right to receive dividends, or any other rights.

36.2. The Government may veto the decision of the company's shareholders, Board of Directors, or executive body of a company with golden shares, that adversely affects the state's national security or social policy interests issued in respect of the following matters:

36.2.1. any change in the nature of the company's business conducted prior to privatization;

36.2.2. any reorganization or liquidation of the company;

36.2.3. any decision to enter into a major transaction;

36.2.4. any decision to establish or modify the company's prices for its products or services.

36.3. The Government must provide its grounds for its veto in its decision to veto as set forth in article 36.2 of this law

36.4. A decision by a company with respect to any matter specified in article 36.2 of this law shall become effective upon confirmation by the Government.

36.5. It is prohibited to transfer golden shares to others.

36.6. A golden share shall lose effect upon the expiration of its term provided in article 36.1 of this law, and such term may not be renewed.

#### **Article 37. Securities Related to Shares**

37.1. Any rights to acquire common shares, securities convertible into shares, and options, shall be deemed to be securities related to shares and procedures for the issuance and sale of such securities shall be set forth in the company's charter.

#### **Article 38. Preemptive Right to Purchase Shares**

38.1. Any holder of a company's common shares shall have a preemptive right to purchase additional common shares issued by the company in proportion to the number of the common shares held by such holder.

38.2. When a company proposes to issue additional common shares as set forth in article 62.1.3 of this law, it shall notify each common shareholder in the procedure of submitting notification of a shareholders meeting, of the number and price of the shares proposed to be issued, the number of shares that each shareholder may purchase, and the terms and procedures for purchase additional shares.

38.3. Any holder of common shares must notify of its decision to purchase additional shares that it is entitled to purchase pursuant to the exercise of its preemptive right within thirty (30) business days following the date of adoption of the decision by the shareholders meeting to issue the additional shares.

38.4. The price of the common shares that a shareholder is entitled to purchase as set forth in article 38.1 of this law pursuant to the exercise of its preemptive right may not be less than ninety percent (90%) of the market price of the shares.

38.5. The shareholder specified in article 38.1 of this law shall be deemed to have exercised its preemptive right to purchase the shares by its submission of the document specifying its name and address, the number of shares to be purchased, and a document evidencing payment for such shares.

38.6. A shareholder may exercise its preemptive right specified in article 38.1 of this law in whole or in part.

38.7. A shareholder of public company may transfer its preemptive right specified in article 38.1 of this law to others in whole or in part.

38.8. Shareholders of a public company may waive the preemptive rights to purchase such shares by a shareholders meeting by an overwhelming majority of votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting.

#### **Article 39. Securities Convertible into Shares**

39.1. A company may issue preferred shares and bonds that are convertible into a specified number of common shares under specific conditions.

39.2. In the case preferred shares or bonds that are convertible into common shares, the company must also issue securities convertible into shares.

39.3. The terms for issuance of securities convertible into shares shall specify the type of such securities, the number of common shares into which such securities may be converted, the conversion price, and the period of time in which such conversion may be effected.

39.4. The conversion price of securities convertible into common shares of a joint stock company may not be less than the average trading value of the specific class of shares in the past month prior to the day of the issuance.

39.5. If securities convertible into shares are issued, holders of common shares shall have a preemptive right to acquire any convertible securities in proportion to the number of common shares held by such holders in accordance with the procedures specified in article 38 of this law.

#### **Article 40. Options**

40.1. If the company charter allows it, the company may issue options that evidences the right to sell or acquire its common or preferred shares at a specified price and within a specified period of time.

40.2. The terms for issuance of options shall specify the number, class, and price of the optioned shares and the period of time in which the options may be exercised.

40.3. The option price to acquire common shares issued by a joint stock company may not be less than the average trading value of such common shares of the specific class of shares in the past month prior to the day of the issuance.

40.4. A holder of a company's common shares shall have a preemptive right to acquire options to sell or acquire common shares in proportion to the number of common shares held by such holder in accordance with the procedure specified in article 38 of this law.

#### **Article 41. Bonds**

41.1. A company may issue bonds secured by its owners' equity subject to terms to pay interest and to redeem the bond after the expiration of a state period.

41.2. Unless otherwise provided in a company charter, the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) shall make the decision to issue bonds set forth in article 41.1 of this law.

41.3. The decision specified in article 41.2 of this law shall specify the number, type, maturity date, issue price, interest rate, time for interest payments, and redemption price of the bonds and other relevant terms.

41.4. A company may issue bonds that mature once in whole, on a series of specified dates in parts.

41.5. Bonds issued by a company may be guaranteed by another company.

41.6. A company may redeem its bonds prior to their maturity if so provided in the decision to issue bonds.

41.7. The decision to redeem bonds set forth in article 41.6 of this law shall be issued by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting).

#### **Article 42. Resolution to Issue Securities**

42.1. Unless otherwise provided in the company charter, the decision to issue authorized shares or other securities and bonds specified in the company charter shall be adopted by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) and the decision shall specify the type and number of such securities and the terms and conditions of their issuance.

42.2. A company must issue all, or part, of its authorized common shares.

42.3. A company may issue all, or part, of its authorized preferred shares, and it may choose to not issue preferred shares for a period of time.

42.4. Securities [*initially.trans*] offered to the public company, and additional shares that are issued shall be registered with the Financial Regulatory Committee pursuant to the Law on Securities Markets.

#### **Article 43. Determining the Price of Shares and Securities Convertible into Shares**

43.1. The price of shares and other securities shall be determined by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) pursuant to article 55 of this law, except in the following cases:

43.1.1. the conversion price of securities convertible into shares and the exercise price of options were determined at time of issuance;

43.1.2. the shares are sold by the exercise of share options;

43.1.3. the issue price of shares are specified in the founding documents at the time of founding the company;

43.1.4. it is otherwise provided in the charter of the limited liability company.

#### **Article 44. Payment for securities**

44.1. Unless otherwise provided in the company charter, a company's securities may be paid for with money, securities, property, or property rights.

44.2. Payment for shares issued at the time of establishment of a company shall be made prior to the registration of the company.

44.3. Payment for additional shares to be issued shall be made in full at the time of issuance.

44.4. Unless otherwise provided in a company charter, payment for shares may be made in non-monetary form in the following cases:

44.4.1. if non-monetary payment for shares is permitted by the founding agreement in the course of establishment of company pursuant to article 13.3 of this law.

44.4.2. if non-monetary payment for additional securities is permitted by the relevant issuing authorities.

44.5. If payment for shares is made in non-monetary form during the establishment of a company, such payment shall be unanimously agreed to by the founding meeting.

44.6. In the case of the issuance of additional shares by a company, the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) shall determine the value of non-monetary payment for shares.

44.7. In the case of a joint stock company, the Board of Directors shall determine the value on non-monetary payment on the basis of an evaluation by an professional valuation organization.

#### **Article 45. Register of Security Holders**

45.1. A company is obligated to maintain a register of the holders of the company's securities and, if the company issues security certificates, arrange for the safekeeping of such certificates.

45.2. A company may delegate the duties set forth in article 45.1 of this law on a contractual basis to an organization that is authorized to perform such functions.

45.3. The register of holders of the company's securities shall include the father (mother)'s name, name and address of the holder, the number and class of securities held by such holder, a record of the number of securities transferred by such holder, the father (mother)'s name and name of the transferee of any such securities, and other pertinent information.

45.4. A holder of a company's securities shall be obligated to inform the registrar of the company's securities register of its name, address of residence, and number of securities held and of any changes in such details in a timely manner.

45.5. The right of the holder of the securities shall become effective upon registration set forth in article 45.4 of this law.

45.6. The company shall not be liable for failure to notify the shareholder of information of this law, company charter and Financial Regulatory Committee due to failure of the shareholder to notify the registrar authorized to maintain the company's register of security holders or the company of the changes in the name of address of residence as required by article 45.4 of this law.

45.7. Upon demand of the registered person, the registrar of the register of the security holders shall be obligated to certify the right of such person to hold the security by way of making a copy from the register, and such copy shall not be deemed as security.

45.8. If the company is issuing securities in intangible form, it may issue documents evidencing the right of the security holder (certificates).

## **CHAPTER SIX**

### **DIVIDENDS AND TRANSFERS OF A COMPANY'S PROPERTY**

#### **Article 46. Payment of Dividends**

46.1. Unless otherwise provided in a company charter, the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) shall decide the matter of paying dividends and the decision shall include the amount of the dividend to be paid with respect to each share, the date for issuing the list of shareholders entitled to receive dividend, and the dividend payment date.

46.2. The Board of Directors shall be obligated to inform the shareholders of the decision provided in article 46.1 of this law.

46.3. The shareholders entitled to receive dividends shall be determined as of the date of the decision to distribute dividends in the case of limited liability companies, and as of the date of the registration day specified in article 64 of this law in the case of joint stock companies, and this shall be informed to the shareholders.

46.4. The per share value of dividends with respect to shares of the same class shall be equal in amount.

46.5. The Board of Directors shall have considered and resolved the matter of distribution of dividends within fifty (50) days of the end of the financial year.

46.6. If the Board of Directors decides not to distribute dividends, it shall be obligated to report the grounds for such decision at the regular session of the shareholders meeting.

46.7. Unless otherwise provided in the company charter, dividends may be paid in cash, in property, in securities of the company, or in securities of other persons.

46.8. Dividends shall be distributed from the net profits of the company after taxes are paid.

46.9. The dividends to be distributed for preferred shares may be distributed from a specially established fund.

46.10. If the company has decided to pay dividends, the dividends shall be paid out within the time period specified in such decision.

46.11. If company fails to pay the dividend within the time period specified in article 46.10 of this law, upon the demand of any shareholder, the company shall pay a fine to such shareholder and the executive body shall reimburse the company for such fine and any losses attributable to the payment of such fine.

46.12. The failure of the shareholder to receive dividends in the time period specified in article 46.10 of this law shall not constitute waiver of the right to receive dividends or grounds for the company to not distribute dividends.

46.13. The dividend of the shareholder that has not been paid shall be recorded in the accounting books and retained under the name of the shareholder, and the company shall be obligated to pay out dividends upon the first demand of the such shareholder.

46.14. A joint stock company shall issue the report on dividend distribution within fifteen (15) working days of completion of such distribution and submit it to the Financial Regulatory Committee and the securities trading organization within the time period set by the Financial Regulatory Committee.

46.15. The Board of Directors shall be obligated to present the report on dividend distribution at the next shareholders meeting. 46.16. If a shareholder sells or transfers its shares after the dividend record date, but prior to the dividend payment date, then such shareholder shall remain entitled to receive the relevant dividend with respect to such shares, unless otherwise specified in the agreement entered into between the parties.

#### **Article 47. Conditions With Respect to Payment of Dividends**

47.1. A company shall pay dividends with respect to its common shares in the following cases:

47.1.1. the company remains solvent after payment of the dividend;

47.1.2. after payment of the dividend, the company's owner's equity will exceed the sum of the amount of share capital specified in article 30.5 of this law, accrued but unpaid dividends with respect to preferred shares, and the liquidation value of such preferred shares;

47.1.3. the company has redeemed all securities that it is obligated to redeem.

47.2. A company may not pay dividends with respect to its redeemed shares.

47.3. A company shall pay dividends with respect to preferred shares in the following cases:

47.3.1. the company remains solvent after payment of the dividend;

47.3.2. the company has redeemed all preferred shares that it is obligated to redeem.

47.4. If, as a result of a dividend payment, a company's owner's equity is reduced by more than twenty-five percent (25%), the company shall notify its creditors in writing of the remaining amount of its owner's equity within fifteen (15) business days following the date of the dividend payment.

#### **Article 48. Limitations on Disposition of a Company's Property**

48.1. For the purpose of protecting the legitimate rights of creditors, a company may not dispose of any of its property or property rights at less than market value if, as a result of such disposition, the company's owner's equity would be reduced to less than amount of the share capital of the company specified in the company charter, or the company would become insolvent.

48.2. Any transaction made in violation of article 48.1 shall be invalid.

### **CHAPTER SEVEN**

#### **REDEMPTION AND RE-PURCHASE OF A COMPANY'S SECURITIES**

##### **Article 49. Re-purchase by a Company of its Securities**

49.1. Unless otherwise provided in the company charter, a company's Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) may agree with one or more of its shareholders to re-purchase securities of the company held by such shareholders.

49.2. A company may re-purchase any such securities, other than common shares, in full or in part; however, with respect to common shares, this may not exceed twenty-five percent (25%) of the average amount of its total number of issued common shares in that specific year.

49.3. Common shares re-purchased by a company shall be deemed to be premium shares.

49.4. The Board of Directors shall specify, in its decision to re-purchase the company's securities the number of shares to be re-purchased, the price to be paid per share, the date of payment, and the proposed disposition of the shares after they have been re-purchased.

49.5. Unless otherwise provided in the company charter, the company may pay for redeemed securities with cash, securities or other forms of property as agreed with the purchasing party.

49.6. A company may not purchase its securities that are in the process of an initial public offering.

49.7. If article 49.6 of this law has been breached the person who issued the decision to enter into such transaction shall transfer the purchased securities to the ownership of the company.

49.8. If the decision in breach of article 49.6 of this law is a joint decision, joint liability should be imposed.

49.9. Unless otherwise provided in the charter of a limited liability company, or in an agreement between shareholders of such limited liability company, a company shall repurchase its common shares at the market value for such shares determined by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting) in accordance with the procedure specified in article 55 of this law.

49.10. A proposed resolution by a company to purchase more than five percent (5%) of its then issued common shares must be approved at a shareholders meeting by a majority of the votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting, except in the following cases:

49.10.1. if a company proposes to re-purchase its common shares in proportion to the number of such shares then held by its shareholders;

49.10.2. if the preemptive rights of the shareholders are exercised as set forth in this law and the company charter;

49.10.3. if other conditions are provided in the charter of a limited liability company.

49.11. If a company proposes to purchase its issued common shares in proportion to the number of shares held by each shareholder, it shall notify all shareholders within thirty (30) days of the number of shares that the company proposes to repurchase, the purchase price per share, the procedures for payment for such shares, the date of payment for the shares, and the date on or prior to which the offer shall be accepted.

49.12. If the total number of common shares presented for sale by the company exceeds the number of shares that the company offered to acquire, the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting), may decide to acquire a larger number of shares, up to the total number offered for sale

49.13. The number of shares to purchase shall not exceed the amount specified in article 49.2 of this law, and in such case, the company shall purchase such shares in proportion to the number of shares offered for sale by each shareholder.

49.14. If the repurchase of its shares reduces the owner's equity to an amount lesser than aggregate nominal price of the total number of shares issued, or the share capital that is reflected in the current balance sheets, it shall be prohibited for the company to repurchase its common shares.

#### **Article 50. Redemption by a Company of its Preferred Shares**

50.1. If a company has sufficient funds, it may offer to redeem preferred shares, which it is obligated to redeem, in full or in part, prior to the date specified for redemption, in which case, the company shall notify the holders of these securities of its offer to redeem in accordance with the procedure to inform of the shareholders meeting.

50.2. If a redemption price is not specified in the terms of the preferred shares when they were issued, such shares shall be redeemed at the market price at such time.

50.3. In the case of a mandatory redemption as of a date specified in the terms of the preferred shares when they were issued, if the company lacks sufficient funds to redeem such shares as of such date, the company may agree with the holders of such shares to postpone the redemption until sufficient funds are available.

50.4. If there is no agreement set forth in article 50.3 of this law, the company shall offer to sell to the persons specified in article 57.1 of this law.

50.5. If the repurchase of its preferred shares set forth in article 50.1 of this law reduces the company's owner's equity to an amount lesser than the share capital that is reflected in the company charter, it shall be prohibited for the company to repurchase its common shares.

#### **Article 51. Consolidation and Splitting of a Company's Shares**

51.1. A company may consolidate its shares by converting two (2) or more shares of such class into one (1) new share.

51.2. It shall be prohibited to consolidate shares of rational number equal to more than one percent of the total common shares issued by the company.

51.3. A company may split its shares by converting one (1) share of such class into two (2) or more new shares.

51.4. Fractional shares resulting from the consolidation or splitting of shares may be redeemed by the company at the value determined by the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting), in accordance with the provisions of article 55.

51.5. The matter of consolidating or splitting a company's shares must be approved by a shareholders meeting by an overwhelming majority of the votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting.

51.6. Changes in the number of authorized shares resulting from the consolidation or splitting of a company's shares shall be reflected in an amendment to the company's charter and in a notice to the registration authority.

51.7. Following the consolidation or splitting of a company's shares, the company shall be obligated to make the appropriate modifications in the share options and the terms and conditions of the securities convertible into such shares.

#### **Article 52. Conditions for Redemption of Securities by a Company**

52.1. A company may re-purchase or redeem its issued securities in the following conditions

52.1.1. the company must be solvent following such purchase or redemption;

52.1.2. the company's owner's equity reflected in the latest balance sheet of the company must exceed the sum of the amount of capital invested by the shareholders, accrued but unpaid dividends on preferred shares, and the liquidation value of outstanding preferred shares.

52.2. After redemption of all common shares that the company is obligated to redeem in accordance with article 53, a company may purchase other common shares or securities relating to such shares.

52.3. If, as a result of an re-purchase or redemption of shares, a company's owner's equity is reduced by more than twenty-five percent (25%) than the amount reflected in the latest balance sheet prior to the conclusion of such transaction, the company shall notify its creditors in writing of the amount of its remaining owner's equity within fifteen (15) business days following the date of payment for such shares.

#### **Article 53. Redemption of Shares by a Company at the Demand of Shareholders**

53.1. Each shareholder who voted against, or did not participate in voting of, the decision of the shareholders meeting with respect to the following matters, has the right to demand that the company redeem its shares:

53.1.1. reorganization of the company by consolidation, merger, division or transformation of a joint stock company into a limited liability company;

53.1.2. the company concluded a major transaction requiring approval by a shareholders meeting in accordance with Chapter 11;

53.1.3. amendments to a company charter, or adoption of a new version of the company charter which limits the rights of existing shareholders.

53.1.4. other cases as provided in the company charter.

53.2. If a shareholder, together with its affiliated persons, holds more than seventy-five percent (75%) of a company's common shares or, pursuant to the privatization of the controlling block of a company formerly owned by the state, any other holder of common shares may demand that the company redeem its shares.

53.3. The company may allow the holder(s) of the controlling block to purchase at the price determined in accordance with article 53.5 of this law.

53.4. A list of shareholders having rights of redemption as set forth in article 53.1 and 53.2 of this law, as of the date of occurrence of events or circumstances giving rise to such rights shall be compiled based on the company's registry of shareholders.

53.5. A company shall redeem shares presented pursuant to a demand of its shareholders at the market price of such shares at such time.

#### **Article 54. Procedures With Respect to the Exercise of a Shareholder's Right of Redemption**

54.1. Whenever a decision gives rise to a shareholder's right of redemption in accordance with article 53 of this law, the company must give notice to its shareholders of such right and the procedures to be followed to exercise such right, in accordance with the procedure to notify shareholders of the shareholders meeting.



54.2. A shareholder who proposes to exercise its right of redemption shall deliver to the company a written statement of such demand that contains the shareholder's father (mother)'s name, name, address of residence and the number and class of the shares being presented for redemption.

54.3. A shareholder shall submit to the company a written statement of the demand set forth in article 54.2 of this law within thirty (30) business days of issuance of such decision giving rise to the right of redemption, or since the receipt of the written notice of such right of redemption.

54.4. If a shareholder, together with its affiliated persons, acquires more than seventy-five percent (75%) of a company's common shares or, pursuant to the privatization of a company's control block of such shares previously owned by the State, the Board of Directors (in its absence, the executive body) of such company must notify shareholders of their right to demand redemption of their shares within thirty (30) days following such acquisition.

54.5. Shareholders shall present their demands to the Board of Directors (in its absence, the executive body) in writing within thirty (30) business days following receipt of the notice set forth in article 54.4 of this law.

54.6. Within thirty (30) days following receipt of a shareholder's demand for redemption of its shares set forth in article 54.5 of this law, the company shall redeem the shares at the price stated in the notice of the right of redemption or shall notify the shareholder of the reason that the company refuses to redeem such shares.

54.7. If a company refuses to redeem shares presented for redemption as set forth in article 54.6 of this law, or if the presenting shareholder deems the redemption price proposed by the Board of Directors of the company to be unrealistic in terms of market value, such shareholder may appeal to a court within three (3) months following the date of the company's decision to refuse to redeem the shares.

#### **Article 55. Determination of the Market Value of Property and Property Rights**

55.1. The market value of property and property rights (including the value of a company shares and securities), is the price agreed to by a seller who has full information on the price of the property or property rights, and who is not obligated to sell such property or property rights and a buyer who has full information on the price of the property or property rights and is not obligated to buy such property or property rights.

55.2. Unless otherwise provided in this law or in the company charter, the market value of property and property rights shall be determined by the company's Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting).

55.3. If a member of a company's Board of Directors is a party to the transaction that requires determining the price of the property or property rights of the company, or is brokering for such party, or is receiving a percentage of the direct and indirect revenue incurred from such transaction, such market value shall be determined by the votes of a majority of members of such Board of Directors who have no conflict of interest in the transaction.

55.4. A member of the Board of Directors shall be deemed to be free of conflict-of-interest if he or she has no common interests with the participant, or brokering parties of the transaction, and will not, directly or indirectly, realize any financial benefit from the transaction in the circumstances set forth in article 55.3 of this law.

55.5. If the decision specified in article 55.3 of this law is made by a shareholders meeting, any shareholder who has a conflict-of-interest in the relevant transaction may not vote on such determination.

55.6. In determining the market value of property or property rights pursuant to article 55.2 of this law, the Board of directors (in its absence, the shareholders meeting) may seek the evaluation of an independent evaluating organization.

55.7. In the case of redemption of shares by a joint stock company pursuant to article 53 of this law, the market value of the shares shall be determined on the basis of an evaluation by an independent valuation or audit organization.

55.8. The market value of publicly traded and other securities shall be determined in consideration of the average price for the preceding six (6) months as recorded in the securities trading organization and other trading official records.

55.9. In determining the market value of the shares and securities of a company, the price that a buyer with full information concerning the share capital, owner's equity, and profits of the company offers to pay, as well as other relevant factors, shall be taken into account.

## **CHAPTER EIGHT**

### **ACQUISITION OF THE CONTROLLING BLOCK OF SHARES OF A COMPANY**

#### **Article 56. Acquisition of the Controlling Block of Shares of a Company**

56.1. A controlling block of a company's shares is deemed to be one-third (1/3) or more of the company's common shares.

56.2. Any person who, alone or in conjunction with its related party, proposes to acquire a control block of common shares of a public company must make its offer to purchase such shares in accordance with procedures provided for by this law and the Law on Securities Markets.

56.3. The shareholders meeting of the public company of which the controlling block was proposed to be purchased shall not have the right to take any action that interferes with the sale of such shares to such person unless an exclusive decision was adopted by the shareholders meeting by a majority of votes of shareholders eligible to vote who attend the meeting has been issued.

#### **Article 57. Offering shareholders to purchase company shares**

57.1. A person who, alone or in conjunction with its related party, acquires the controlling block of shares of a company must, within sixty (60) business days after the date of acquisition of such shares, make an offer to the company's other shareholders to acquire the company's shares held by them at a price no less than the weighted average market price of the company's shares during the preceding six (6) months.

57.2. If a person who has acquired the controlling block of shares of a company fails to make the offer required by article 57.1 of this law, the shares held by it and its affiliated persons shall have no voting rights until such time that the offer is made and exercised according to relevant procedures.

57.3. A notice of the offer to acquire shares of other shareholders as set forth in article 57.1 of this law shall be provided to all shareholders in the same procedure as a notice with respect to the holding of a shareholders meeting.

57.4. In the case of a joint stock company, the procedure to offer as set forth in article 57.1 of this law shall be determined by the Financial Regulatory Authority.

57.5. The notice of offer set forth in article 57.1 of this law must contain the father (mother)'s name, name and address of the person, and its affiliated persons, who have acquired the control block of shares, the number of shares held by each of them, the price offered for the shares, and the period during which shareholders can accept the offer.

57.6. The person that has acquired the controlling block of the shares of the company shall set the period during which shareholders can accept the offer referred to in article 57.1 no less than thirty (30) days following the date of sending the notice of the offer to the shareholders.

57.7. Article 57.1 of this law shall not apply to the acquisition of a control block of shares owned by the State resulting from a privatization thereof and the matter of the company repurchasing its shares shall be regulated by articles 53 and 54 of this law.

#### **Article 58. Disclosure of Information upon Acquisition of the Controlling Block of Shares**

58.1. Any person who alone, or in conjunction with its affiliated persons, acquires or owns more than one third (1/3) of the common shares of a joint stock company shall, within ten (10) business days following the date of such acquisition, deliver a written notice to such company and to the Financial Regulatory Authority stating its father (mother)'s name, name and address, as well as the names and addresses of such affiliated persons, and the number or the company's shares held by each of them.

## **CHAPTER NINE**

### **COMPANY MANAGEMENT**

#### **Article 59. Shareholders meetings**

59.1. A shareholders meeting is the highest governing authority of a company.

59.2. If a company has only one shareholder, that shareholder shall exercise the authority of the shareholders meeting.

59.3. A shareholders meeting may be either regular or special.

59.4. The regular shareholders meeting shall be called by the Board of Directors (in its absence the executive body) and held within four (4) months following the end of each fiscal year of a company.

59.5. If a regular shareholder meeting is not called and held within the period specified in article 59.4 of this law, the authority of the Board of directors (in its absence, the executive body) provided by this law and the company charter except for the authority to call the shareholders meetings shall terminate.

59.6. Any agreements or transactions entered into after the termination of the authority of the Board of Directors (in its absence, the executive body) shall be invalid.

59.7. If the Board of Directors (in its absence, the executive body) of a public company fails to issue a decision to call a shareholders meeting within the period specified in article 59.4 of this law, the Financial Regulatory Committee shall inform the public of the termination of the authority of such Board of Directors except for the authority to call shareholders meetings.

59.8. The company management and the authorized official shall be obligated to assist in ensuring the preparation of the shareholders meeting called for by the authorized person specified in article 60.1 of this law, and to provide the necessary news and information in a timely manner.

59.9. The costs related to convening the regular sessions of the shareholders shall be fully borne by the company.

59.10. The person to chair the shareholders meeting shall be specified in the decision to convene the meeting by the person who has called for it.

59.11. The matters specified in article 62.1.9 of this law shall be discussed by the regular session of the shareholders meeting.

#### **Article 60. Calling of a Shareholders Meeting**

60.1. The Board of Directors (in its absence, the executive body), or persons specified in article 61.7 of this law shall call a shareholders meeting by adopting a decision to this effect.

60.2. The decision to call a shareholders meeting shall specify the following:

60.2.1. the place, date and time of the meeting;

60.2.2. agenda of the meeting;

60.2.3. in the case of a joint stock company, the date for determining shareholders who have a right to attend the meeting

60.2.4. the date and procedures to be followed for delivering notice of the meeting to the company shareholders;

60.2.5. a list of documents that will be made available to the shareholders prior to the meeting;

60.2.6. if there is to be voting by ballots, the form and content of ballots;

60.2.7. the date by which all ballots must be submitted to be effective;

60.2.8. chairperson of the meeting;

60.2.9. members of the tabulation commission.

60.3. The shareholders meeting shall be convened after no less than forty (40) days after the decision specified in article 60.1 of this law has been adopted.

60.4. The company shall be obligated to notify the shareholders through the media of the scheduled shareholders meeting within five (5) days of the adoption of the decision specified in article 60.1 of this law.

#### **Article 61. Special Shareholders Meeting**

61.1. The Board of Directors (in its absence the executive management) shall call the special shareholders meeting in the following cases:

61.1.1. If it is not possible for more than 50 percent of the Board of Directors to work;

61.1.2. If two (2) or more independent members of the Board of Directors, shareholder(s) of 10 or more percent of voting rights has issued a proposal or demand;

61.1.3. the losses incurred by the company exceeds 30 percent of the total equity at the time of the last financial report;

61.1.4. the company debt has exceeded the owner's equity two (2) years in a year, and is a negative figure;

61.1.5. the Board of Directors has issued a decision;

61.1.6. the audit committee has demanded to convene a special session of the shareholders meeting;

61.1.7. all other cases specified in the company charter.

61.2. The person specified in article 61.1.2 of this law shall have the right to make the proposal or demand to convene the special session of the shareholders meeting to the Board of Directors (in its absence the executive body).

61.3. The proposal or demand specified in article 61.2 of this law shall be issued in writing and shall contain the father (mother)'s name, names of the shareholders making such demand, the reason for calling the meeting, the agenda for the meeting, drafts of decisions to be issued from the meeting and the number calls of shares held by each shareholder.

61.4. The Board of Directors (in its absence, the executive body) shall decide whether or not to call such special shareholder meeting within ten (10) business days following the date that they receive the demand.

61.5. The Board of Directors (in its absence, the executive body) shall refuse to call such special shareholder meeting in the following cases, and it shall immediately notify the shareholders making the proposal or demand set forth in article 61.2 of this law of the reasons therefor:

61.5.1. the voting rights of the shareholders demanding the calling of the special meeting do not reach ten percent (10%) of the company's aggregate voting rights;

61.5.2. none of the issues proposed for the agenda of the special shareholders meeting are within the authority of such meeting.

61.6. The decision of the Board of Directors (in its absence, the executive body) to refuse to call a special shareholders meeting may be appealed to a court by the shareholder making such proposal or demand made in accordance with article 61.2 of this law.

61.7. If, within the period provided in article 61.4 of this law, the Board of Directors (in its absence, the executive body) fails to make a decision, the demanding shareholders set forth in article 61.2 of this law or an independent member of the Board of Directors may call such meeting.

61.8. In the case set forth in article 61.7 of this law, if authorized by the shareholders meeting, the company shall be obligated to reimburse expenses incurred in connection with the preparation for and the holding of the meeting.

61.9. If the Board of Directors (in its absence, the executive body) decides to call the special meeting demanded by the shareholders as set forth in article 61.4 of this law, such meeting shall be called within forty-five (45) days following receipt of the demand.

61.10. In the case specified in article 61.9 of this law, the company shall be responsible for all expenses incurred in connection with the holding of the meeting.

#### **Article 62. Authority of a Shareholders Meeting**

62.1. A shareholders meeting shall have exclusive authority to consider and decide the following matters

62.1.1. amendments to the company charter or the adoption of a new version of the charter;

62.1.2. reorganization of the company by consolidation, merger, division, or transformation;

62.1.3. an exchange of the company's debts for shares, issuing additional shares, determining its numbers;

62.1.4. changing the form of the company;

62.1.5. liquidation of the company and the appointment of a liquidation committee

62.1.6. a split or consolidation of the company's share;

62.1.7. election of members of the Board of Directors and termination of their power prior to the expiration of their terms;

62.1.8. whether the shareholder is to exercise the preemptive rights of shareholders to acquire the company's shares or other securities as provided in article 38 of this law;

62.1.9. consideration and approval of reports prepared by the Board of Directors with respect to the company's annual operations and financial statements;

62.1.10. approval of any major transactions specified in Chapter Eleven of this law;

62.1.11. approval of any conflict-of-interest transactions specified in Chapter Twelve (12) of this law;

62.1.12. approval of any acquisition of its shares by the company pursuant to this law

- 62.1.13. approving the amount of salaries and bonuses to be given to members of the Board of Directors, unless otherwise provided in the company`s charter;
  - 62.1.14. report set forth in article 96.4 of this law;
  - 62.1.15. other proposals submitted to the meeting by the decision of the Board of Directors;
  - 62.1.16. other matters required to be submitted to a shareholder meeting for approval as provided in this law or in the company`s charter.
- 62.2. A shareholders meeting of a limited liability company that does not have a Board of Directors shall have exclusive authority to consider and decide the following matters in addition to those specified in article 62.1 of this law:
- 62.2.1. the issuance of securities by the company;
  - 62.2.2. determining the authority of the company`s executive body;
  - 62.2.3. appointment of the executive director or members of the company`s executive body, determining their authority, and termination of their powers prior to the expiration of their terms;
  - 62.2.4. approving the amount of salaries and bonuses to be given to members of the executive body;
  - 62.2.5. consideration and approval of reports prepared by the executive body with respect to the company`s annual operations and financial statements;
  - 62.2.6. selecting and concluding a contract with the auditor for the company;
  - 62.2.7. determining the amount of dividends and the procedures for their payment;
  - 62.2.8. approving the internal organization of the executive body;
  - 62.2.9. creation of branches and representative offices;
  - 62.2.10. determining the market value of property and property rights pursuant to article 55 of this law;
  - 62.2.11. other matters required by this law or the company charter;
  - 62.2.12. other matters proposed for consideration by the executive body or shareholders.

**Article 63. Shareholders Meeting Resolutions taking Effect**

- 63.1. The rights of holders of a company`s common shares to vote on matters submitted for consideration and approval at a shareholders meeting are governed by article 34 of this law and the rights of holders of preferred shares are governed by article 35 of this law.
- 63.2. Unless otherwise provided by law, one share shall have one vote.
- 63.3. A shareholder with voting rights shall be entitled to vote on any matter submitted to a vote of shareholders.
- 63.4. The voting eligibility and number of shares of each class with respect to each matter to be discussed at the meeting shall be determined by the tabulation commission.
- 63.5. To be effective, any matter submitted to a shareholders meeting for consideration, other than election of members of the Board of Directors (or in its absence, the executive body), shall be adopted by a majority of the votes of shareholders that are eligible to vote on the matter who attend the meeting, unless a larger number of votes is specified in this law or in the company charter.
- 63.6. In the case of election of members of the Board of Directors (or in its absence, the executive body), the candidates who receive the largest number of votes shall be elected as members, unless otherwise provided in the charter of a limited liability company.
- 63.7. Any matter specified in articles 62.1.1-62.1.6 of this law that is submitted to a vote of shareholders must be adopted by a simple majority of votes of shareholders eligible to vote on the matter who attend the meeting.
- 63.8. The company charter may require a larger number of votes than specified in article 63.7 of this law to approve matters specified articles 62.1.1-62.1.6 of this law.
- 63.9. The company charter may provide for special procedures to be followed when considering certain matters on the agenda of a shareholders meeting depending on the nature of matter.
- 63.10. The Shareholders meeting may neither consider nor resolve any matter that is not included in the agenda of the meeting.
- 63.11. If deemed necessary, the company charter may specify procedures for submitting additional matters to be included in the agenda of the shareholders meeting in cases other than those specified in article 66 of this law.

**Article 64. Right to participate in a shareholders meeting**

64.1. A list of shareholders having the right to attend a shareholders meeting shall be compiled as of a specified date determined by the Board of Directors (in its absence, the executive body) by the registrar of the company's securities register and delivered to the person who called the meeting.

64.2. In the case of joint stock company, the scheduled date for compiling the list of such shareholders shall be determined by the Board of Directors at the time of the adoption of the decision to hold the shareholders meeting and such date shall be no earlier than forty-five (45) days prior to the date of the meeting.

64.3. In the case of a limited liability company, the scheduled record date shall be the date of the shareholders meeting.

64.4. The scheduled record date shall be specified in the decision to convene the shareholders meeting and the notice of the shareholders meeting.

64.5. The list of shareholders who have the right to attend the shareholders meeting shall contain the father (mother)'s name, name and address of each shareholder, and the number and class of shares they each hold.

64.6. Upon the demand of shareholders holding at least ten percent (10%) of company's shares, the company must make the list of shareholders having the right to attend a shareholders meeting available to such shareholders.

64.7. Changes to the list of shareholders having the right to attend a shareholders meeting shall be made by the Board of Directors with the approval of the registrar of the register of securities of the company.

**Article 65. Distributing notice of the shareholders meeting**

65.1. A person calling a shareholders meeting as provided in article 60.1 of this law shall be obligated to notify each shareholder who has a right to attend the meeting.

65.2. In the case of a limited liability company, the procedures and time for giving notice of the holding of a shareholders meeting may be specified in the company charter.

65.3. The Financial Regulatory Committee shall issue procedures for giving notice of the holding of shareholders meetings of a joint stock company.

65.4. A notice of the holding of a shareholders meeting shall contain the company's name and address, the date, time and place of the meeting, the record date for determining shareholders having the right to attend the meeting, the matters to be included in the agenda, drafts of resolutions to be considered at the meeting, the procedure for providing shareholders with information concerning such draft resolutions, and other information provided for by this law or the company charter.

65.5. If votes are to be cast in advance ballot, the place for delivery of ballots and the date by which such ballots must be received to be effective shall be notified separately.

65.6. The following information shall be accessible by the shareholders during the time of regular sessions of the shareholder meetings:

65.6.1. the company's annual financial statements

65.6.2. the report of the company's auditors with respect to the financial statements;

65.6.3. a list of any conflict-of-interest transactions concluded by the company during the fiscal year and certification by the auditor as to whether each such transaction was approved in accordance with the requirements of Chapter Twelve (12) of this law;

65.6.4. information with respect to the candidates for election to the Board or Directors (or appointment to the executive body) of the company;

65.6.5. a list of the company's affiliated persons, and the number and class of shares held by them;

65.6.6. information with respect to company related expenses incurred by, and salaries and bonuses paid or granted to members of the Board of Directors and executive body

65.6.7. in the case of a joint stock company, an annual report of business operations;

65.6.8. any other material information concerning the matters included in the agenda of the meeting.

65.7. The company shall be obligated to make the information specified in article 65.6 of this law accessible to the shareholders from the time of giving notice of the shareholders meeting.

65.8. The company shall be obligated to ensure the accessibility of the venue of the shareholders meeting for the shareholders.

**Article 66. Submitting proposals to be Included in the Agenda of a Shareholders Meeting**

66.1. Within sixty (60) business days after the end of the fiscal year, holders of five percent (5%) or more of the company's common shares may submit additional proposals to the agenda for the meeting and may nominate candidates for election to the Board of Directors or Tabulation Commission (if the company charter provides for such matter to be discussed by the meeting), to the Board of Directors or the executive body.

66.2. The executive management shall submit the proposal set forth in article 66.1 of this law to the Board of Directors within three (3) working days.

66.3. The shareholder specified in article 66.1 of this law shall submit the proposal in writing and it shall include a statement of the proposal, the father (mother)'s name, name of the shareholders introducing the proposal, and the number and class of shares held by each such shareholder.

66.4. If the shareholder specified in article 66.1 of this law nominates candidates for election to the Board of Directors or appointment to the executive body, it shall include the father (mother)'s name, name (if it is a shareholder of the company, the number and class of shares held by such shareholder) of the candidate, the father (mother)'s name, name of the shareholders nominating the candidate, and the number and class of shares held by each such shareholder and may specify the grounds for such nomination.

66.5. The Board of Directors (in its absence, the executive body) shall be obligated to include the submitted proposals set forth in article 66.3 of this law into the agenda for a regular shareholders meeting within fifteen (15) business days following the receipt of such proposals, except in the following cases:

66.5.1. the proposal submitter does not comply with the requirements specified in article 66.1 of this law;

66.5.2. if all information specified in article 66.3 and 66.4 of this law have not been provided.

66.6. If the Board of Directors (in its absence, the executive body) refuses to include a proposal in the agenda of a regular shareholders meeting, or to include a proposed candidate in the list of candidates as set forth in article 66.3 and 66.4 of this law, it shall deliver a notice on the reasons for such refusal to the shareholders who submitted the proposals or nominations within three (3) business days following the date of such decision.

66.7. The decision of the Board of Directors (in its absence, the executive body) specified in article 66.6 of this law may be appealed to a court by the proposal submitting person.

66.8. The Board of Directors shall have no right to amend the proposal without the consent of the proposal submitting person(s).

66.9. No changes may be made to the agenda of a shareholders meeting after the resolution to hold such meeting has been adopted

66.10. When nominating a candidate for the Board of Directors it shall be specified which of the independent member or a regular member the person is nominated to be and if the nomination is for an independent member, it shall be proven that such candidate fulfills the requirements set by this law.

**Article 67. Tabulation Commission of the Shareholders Meeting**

67.1. In the case of a joint stock company, the person who called for a shareholders meeting shall appoint the tabulation commission as specified in article

60.1 of this law, and a third party may be authorized to act as the tabulation commission.

67.2. It shall be prohibited to appoint as the member of the tabulation commission any person holding official position in the company, or their affiliated persons, if any such persons have a direct interest in any matter to be considered at the meeting.

67.3. The tabulation commission shall have the following obligations:

67.3.1. determine the existence of a quorum at a shareholders meeting and advise the chairperson of the meeting in this regard

67.3.2. determine each shareholder's voting rights with respect to each matter on the agenda of the meeting

67.3.3. explain any issues arising in connection with the exercise by shareholders of their right to vote;

- 67.3.4. explain the voting procedures;
  - 67.3.5. ensure compliance with the established voting procedures and voting rights;
  - 67.3.6. account for and preserve voting ballots if voting is conducted by ballot;
  - 67.3.7. tabulate votes and record the results of voting at the shareholders meeting;
  - 67.3.8. compile a record of voting result and provide the meeting with a report signed by the head of the tabulation commission;
  - 67.3.9. deliver voting ballots to the company` s archives for safe keeping.
- 67.4. The head of the tabulation commission shall be personally responsible for the accuracy of the record
- 67.5. The Board of Directors may assign additional duties to the tabulation commission related to the shareholders meeting.

**Article 68. Procedures for Participation in a Shareholders Meeting**

- 68.1. The right to participate in a shareholders meeting may be exercised by a shareholder either in person or through its representative, who shall act on the basis of a written power of attorney issued pursuant to the requirements of the Civil Code.
- 68.2. The representative to attend the meeting as set forth in article 68.1 of this law shall notify the Board of Directors that it is acting in this capacity prior to the meeting and the power of attorney shall only be valid for a specified meeting.
- 68.3. If such meeting is postponed, but the agenda remains the same, the power of attorney set forth in article 68.1 of this law shall remain valid for use at the next meeting.
- 68.4. Shareholders who have submitted their votes by ballot shall be deemed to be participants in the shareholders meeting.
- 68.5. In the case of a joint stock company, any shareholder that has transferred its shares after the record date for determining shareholders having the right to participate in a shareholders meeting may grant a power of attorney to the transferee of such shares authorizing such holder to participate in the meeting, or may agree to participate in person at the meeting and to vote in accordance with the transferee` s instructions.
- 68.6. If a company` s shares are jointly owned by several persons in part, the power to vote at a shareholders meeting may be exercised by any one of the owners as agreed among them or by their representative.
- 68.7. Documentation establishing the right to represent such persons as set forth in article 68.6 of this law must meet the requirements of the Civil Code.

**Article 69. Quorum Required for a Shareholders Meeting, the taking of effect of the Shareholders Meeting**

- 69.1. There shall be a quorum at a shareholders meeting if shareholders holding more than fifty percent (50%) of the company` s voting shares participate in the meeting.
- 69.2. The company` charter may establish quorum requirements higher than specified in article 69.1 of this law.
- 69.3. In the absence of a quorum as provided in article 69.1 of this law the shareholders meeting shall postponed and a date for a new shareholders meeting shall be announced, in which case no changes may be made in the agenda of the postponed meeting.
- 69.4. There shall be a quorum at the postponed shareholders meeting set forth in article 69.3 of this law if shareholders eligible to vote holding at least twenty percent (20%) of the company` s voting shares participate in the meeting, unless a higher number of shares is required by the company charter.
- 69.5. If the agenda for the postponed shareholders meeting includes matters specified in article 62.1.1-62.1.6 of this law, a quorum will be deemed to be established if shareholders eligible to vote holding at least one third (1/3) of the company`s voting shares participate in the meeting, unless a higher percentage is required by the company charter.
- 69.6. A company shall hold the postponed shareholders meeting set forth in article 69.3 of this law within twenty (20) business days and shareholders shall be given notice of the place, date and time of the postponed meeting at least seven (7) business days prior to the holding of postponed meeting.



69.7. In the case of a postponed shareholders meeting set forth in article 69.3 of this law is held by a joint stock company, the record date for determining shareholders having the right to participate in the meeting shall not be changed.

69.8. Ballots submitted for use at the shareholders meeting at which a quorum was not established set forth in article 69.3 of this law shall be counted in establishing the quorum.

69.9. If the postponed shareholders meeting is not held within the time period specified in article 69.6 of this law, a new shareholders meeting shall be called, at which the quorum requirements set forth in article 69.1 of this law must be met.

**Article 70. Shareholder meeting, appealing its decision**

70.1. The shareholder who did not attend the shareholders meeting, or who voted against the decision adopted at such meeting may appeal to a court in respect of the shareholders meeting and its decision on the following grounds:

70.1.1. the shareholders meeting was not convened in accordance with the procedure set by this law, and by the relevant authority in conformity therewith, or with the company charter.

70.1.2. the date and place of the shareholders meeting was changed after the decision to convene the shareholders meeting was issued;

70.1.3. Matters not included in the agenda of the meeting were discussed.

70.2. The shareholder who did not attend the shareholders meeting, or voted against the decision adopted at such meeting has the right to submit its complaint to the Financial Regulatory Committee based on the grounds specified in article 70.1 of this law.

**Article 71. Voting ballots**

71.1. A public company shall, and a limited liability company may, conduct voting at a shareholders meeting by the use of ballots.

71.2. Shareholders who shall vote as specified in article 71.1 of this law shall submit their ballots to the tabulation commission pursuant to procedures established in the voting ballots.

71.3. The person who called for a shareholders meeting shall adopt the content and format of the voting ballots specified in article 71.1 of this law.

71.4. Voting ballots shall contain:

71.4.1. Name of company

71.4.2. the place, date and time for holding the relevant shareholders meeting;

71.4.3. the father (mother)'s name, name of the shareholder and the class and number of shares held by such shareholder;

71.4.4. a statement of the issues on the agenda for the meeting and the father (mother)'s name, and names of candidates for election to the Board of Directors.

71.4.5. the voting method (ordinary or cumulative) to be used for electing members of the Board of Directors or the executive body.

71.5. If ordinary voting is to be used, provisions for the voting options "for", "against" and "abstain" with respect to each matter, if cumulative voting is to be used, the ballots shall include an explanation of the concept of cumulative voting and a blank next to the name of each candidate indicating the number of votes being cast for such candidate.

**Article 72. Validity of Voting Ballots at a Shareholders Meeting**

72.1. A voting ballot shall be deemed to be valid in the following cases:

72.1.1. . in the case of ordinary voting, only one blank is marked with respect to each matter to be voted on;

72.1.2. in the case of election of members of the Board of Directors or members of the executive body by ordinary voting, the number of votes cast for the candidates does not exceed the number of members to be elected.

72.1.3. in the case of election by cumulative voting, the total number of votes cast by the shareholder for each candidate for the Board of Directors or the Executive body does not exceed the total number of votes such shareholder is entitled to cast, which is the number of common shares held by the shareholder multiplied by the number or the members to be elected.

72.2. With respect to voting on all matters other than elections, a shareholder may mark only one of the possible voting options.

**Article 73. Decisions of Shareholders Adopted by External Voting**

73.1. A joint stock company may resolve a matter of the exclusive authority of the shareholders meeting by way of an external voting instead of convening a shareholders meeting and such external voting shall use voting ballots.

73.2. The regular session of the shareholders meeting may not be replaced by external voting.

73.3. A company's Board of Directors shall decide to conduct external voting and such decision shall contain:

73.3.1. a list of the matters to be submitted to shareholders for external voting;

73.3.2. the record date for determining the shareholders who have the right to participate in such external voting;

73.3.3. the date for delivering voting ballots to such shareholders;

73.3.4. the date by which ballots must be submitted to the company;

73.3.5. the content and format of the ballot;

73.3.6. a list of materials and information to be made available to shareholders with respect to the matters to be voted, the location of such information.

73.4. Shareholders having the right to participate in external voting shall be determined in accordance with article 64 of this law.

73.5. The voting ballot shall contain the information specified in articles 71.4.1, 71.4.3- 71.4.5 of this law and the date by which ballots must be submitted.

73.6. In the case of a joint stock company, voting ballots must be distributed to shareholders at least thirty (30) business days prior to the date by which ballots must be submitted to the company.

73.7. An external voting shall be considered valid if shareholders holding more than fifty percent (50%) of the total shares eligible to vote submit their ballots and the resolutions shall be deemed to be adopted if approved by a majority of votes of shareholders eligible to vote who submitted their ballots.

73.8. The tabulation commission shall count the votes cast by ballot and prepare a summary report in accordance with the provisions of article 67 of this law.

73.9. The tabulation commission shall submit its report to the Board of Directors, signed by the head and members of the commission, within three (3) business days following the date by which ballots must be submitted to the company.

73.10. The report on the result of external voting shall include:

73.10.1. the date that the voting ballots were distributed to shareholders

73.10.2. a list of the matters voted on by external voting;

73.10.3. a list of the names of shareholders who submitted ballots and the number of voting shares held by each such shareholder;

73.10.4. the total number of votes cast with respect to each issue by shareholders with voting rights;

73.10.5. the results of the external voting; and

73.10.6. the resolutions adopted by the external voting.

73.11. Based on the report of the tabulation commission of the shareholders meeting, the Board of Directors shall render a decision and shall inform the shareholders of the such decision within seven (7) business days following the date of receiving such report.

**Article 74. Minutes of a shareholders meeting**

74.1. Minutes of a shareholders meeting shall be compiled within fifteen (15) business days following the meeting and shall be signed by the chairperson of the meeting who shall be responsible for the accuracy of the minutes

74.2. The minutes of a shareholders meeting must include:

74.2.1. the date, place and time of holding the meeting;

74.2.2. the father (mother)'s name and name of the chairperson of the meeting;

74.2.3. the agenda of the meeting;

74.2.4. the total number of voting shares held by all shareholders and the number of such shares held by shareholders attending the meeting;

74.2.5. in the case of voting by ballots, the content and format of the ballot;

74.2.6. the number of votes cast for and against each resolution, the number of abstentions, the full text of resolutions adopted at the meeting.

74.3. Mistakes made in compiling the minutes of a shareholders meeting shall not constitute grounds to invalidate the decisions adopted by the meeting

74.4. In the case of a limited liability company, voting results and decisions adopted at a shareholders meeting shall be announced at the meeting.

74.5. In the case of a joint stock company, voting results and resolutions adopted at a shareholders meeting or by external voting shall either be announced at the meeting or in a report to shareholders.

74.6. If the company and the shareholder(s) deem necessary, specified technical equipments may be used to make a recording for proof of the accuracy of the minutes of the shareholders meeting.

74.7. If a shareholder made a recording set forth in article 74.6 of this law, a copy of such recording shall be retained by the company.

#### **Article 75. Board of Directors**

75.1. The Board of Directors is the governing body of a company between shareholders meetings

75.2. A public company shall have a Board of Directors and a limited liability company may choose to not have a Board of Directors unless otherwise provided in its charter

75.3. The number of members of the Board of Directors shall be set forth in the company charter.

75.4. The Board of Directors of a public company and of a state owned company shall have at least nine (9) members, and one third shall be independent members.

75.5. If specified in the company charter, the Board of Directors of a limited liability company may have independent members.

75.6. If the shareholders meeting of a joint stock company fails to elect the number of independent members to the Board of Directors as set forth in article 75.4 of this law, the Board of Directors of the company shall be deemed to be incapable of exercising its full authority.

75.7. In the case set forth in article 75.6 of this law, the Board of Directors of the company shall set the date for the convening of the next shareholders meeting within five business days of the date of the initial shareholders meeting and have the matter of electing members of the Board of Directors re-considered.

75.8. The member and secretary of the Board of Directors shall have attended a corporate governance training and obtained a certificate.

#### **Article 76. Authority of the Board of Directors**

76.1. With the exception of matters specified in this law or in the company charter as being exclusively within the authority of the shareholders meeting, the Board of Directors shall have authority with respect to the following matters:

76.1.1. determination of the activities and policies of the company;

76.1.2. the holding of regular and special shareholders meetings;

76.1.3. determination of the agenda for shareholders meetings, the record date for determining shareholders having the right to participate in such meetings, and other matters with respect to the holding of such meetings;

76.1.4. the issuance of shares within the limits of the company's authorized but unissued shares;

76.1.5. the issuance of securities related to common shares and other securities as specified in the company charter

76.1.6. determination of the market value of property and property rights in accordance with article 55 of this law;

76.1.7. acquisition and redemption of its shares and other securities

76.1.8. election and modification of the company's executive body and determining its authority;

76.1.9. establishment of the terms of contracts to be concluded with members of the executive body, the amount of bonuses to be granted to such members, and their respective liabilities and obligations;

- 76.1.10. selection of the company's auditor and establishment of the terms of the contract to be concluded with such auditor;
- 76.1.11. preparation of the company's annual report of business operations and financial statements;
- 76.1.12. unless otherwise provided in the company's charter, determination of the amount of dividends to be paid with respect to the company's shares and the procedures for payment of such dividends;
- 76.1.13. approval of the rules of procedure to be followed by the company's Board of Directors and executive body;
- 76.1.14. creation of branches and representative offices of the company;
- 76.1.15. preparation of resolutions with respect to reorganization of the company for submission to a shareholders meeting for approval and implementation of such reorganization
- 76.1.16. approval of the conclusion of a major transaction in accordance with Chapter Eleven (11) of this law;
- 76.1.17. approval of the conclusion of a conflict-of-interest transaction in accordance with Chapter Twelve of this law; and
- 76.1.18. other matters specified in this Law and in the company's charter.

76.2. In the case of a joint stock company, only independent members of the Board of Directors may consider and vote on the matters specified in articles 76.1.6, 76.1.10 and 76.1.17 of this law.

#### **Article 77. Election, Powers and Termination of Members of the Board of Directors**

77.1. Members of the Board of Directors shall be elected by a shareholders meeting pursuant to the procedures established by this law and the company charter.

77.2. Unless otherwise provided in the company charter, the authority of members of the Board of Directors shall expire on the date of the next shareholders meeting of the next year and members of the Board of Directors may be reelected at any such meeting.

77.3. The shareholders at a special shareholders meeting may terminate the authority of a member of the Board of Directors before the expiration of his or her term and if the members of the Board of Directors have been elected by cumulative voting, a shareholders meeting may terminate the authority of all members of such Board. Member of the Board of Directors must be individual persons.

77.4. The votes for regular and independent members of the Board of Directors shall be counted separately. The procedure to use the cumulative voting methods shall be determined by the Financial Regulatory Committee.

77.5. Unless otherwise provided in a company's charter, in the event of long-term incapacity or submission to be released from the post, or death of a member of the Board of Directors, the Board may appoint a person to hold this position until the election of a replacement member

77.6. The person appointed as set forth in article 77.5 of this law shall have fulfilled the requirements set for an independent member, and shall exercise the rights of the member of the Board of Directors.

#### **Article 78. Chairperson of the Board of Directors**

78.1. Unless otherwise provided in the company charter, the chairperson of a company's Board of Directors shall be elected from among the members of the Board by a majority vote of all the members.

78.2. Unless otherwise provided in a company's charter, the chairperson of the Board of Directors shall organize the activities of the Board, convene and preside at its meetings, and supervise the preparation and retention of minutes of such meeting

78.3. In the absence of the chairperson of a company's Board of Directors, his or her powers shall be exercised by another member of the Board appointed by the chairperson or by the Board.

#### **Article 79. Independent member of the Board of Directors**

79.1. The nominating committee specified in article 81.2 of this law shall nominate a person fulfilling the following requirements for independent member of the Board of Directors:

79.1.1. does not own five percent or more of the common shares of the company, alone, or in conjunction with a related party;

79.1.2. does not personally, or the related party does not hold an official position in the company, or in other members of the group of companies that the company is part of.

79.1.3. does not serve public office other than public service office;

79.1.4. is not related to the company business in any way.

79.2. In the case of state owned and state property dominated company, a person of high professional skills to lead the company may be nominated by a non-governmental organization with the purpose to support good corporate governance.

79.3. An independent member of the Board of Directors shall have the following additional obligations in addition to the rights and obligations of the other members:

79.3.1. monitor whether the activities, policies and decision of the Board of Directors and of the executive body negatively affects the interests of the company, whether the activities are in compliance with the laws, rules and procedures, prevent from violations or conflicts, demand from the relevant person to eliminate any violations, if such demand is not complied with, to submit such matter for consideration by the Board of Directors and consequently, to submit the demand to convene a shareholders meeting;

79.3.2. to guide the executive body in respect of maintaining the transparency and accessibility of the company's activities, monitor and make demands in respect thereof;

79.3.3. to take part in the shareholders meetings in person, and to inform of any different views taken in respect of the decision rendered by the Board of Directors, respond to questions by the shareholders and to make clarifications.

79.4. The independent member of the Board of Directors of state and locally owned company, or company with the involvement of the state and local property of 50 percent or more shall have the following rights and obligations in addition to those specified in article 76.1 and 79.3 of this law:

79.4.1. to develop proposals for purchases in accordance with the Law on Purchasing Works and Services with State and Local Property<sup>6</sup>.

<sup>6</sup> Law on Purchasing Works and Services with State and Local Property – published in issue number 48 of the “State Bulletin”, 2005.

79.4.2. To monitor whether the activities of purchasing goods, works and services in respect of the agreement concluded with the executive body is efficient and in compliance with the principles of the relevant laws.

#### **Article 80. Meeting of the Board of Directors**

80.1. Unless otherwise provided in the company charter, a Board of Directors meeting shall be held once monthly and, if deemed necessary, additional meetings may be held.

80.2. Decisions adopted at a meeting of the Board of Directors shall be deemed to be resolutions and shall be signed by the chairperson of the Board.

80.3. A meeting of a company's Board of Directors may be convened by the chairperson, any member of the Board, any member of the company's executive body, of any other persons specified in the company charter.

80.4. The Board of Directors shall establish and approve rules of procedure governing its activities, and the Board of Directors may issue a decision through external voting.

80.5. An overwhelming majority of members of the Board of Directors shall constitute a quorum at meetings of the Board.

80.6. Decisions of the Board of Directors must be adopted by an overwhelming majority of votes of members who participate in the meeting, unless a larger number of votes is specified in the company charter.

80.7. If, pursuant to this law or the company charter, any members of the Board of Directors are not eligible to vote on a particular matter, a decision with respect to such matter must be adopted by an overwhelming majority of the members of the Board of Directors who are eligible to vote on such matter.

80.8. If the number of elected members of the Board is reduced to less than half of the total number of members specified in the company charter, then the company shall convene a special shareholders meeting to elect new members within three (3) months.

80.9. Each member of the Board of Directors shall have one vote with respect to each matter considered at any meeting of the Board.

80.10. If an equal number of votes is cast by members of the Board of Directors with respect to any matter, either the company charter or the Procedure of the Board of Directors may provide that the chairperson of the Board of Directors may cast the deciding vote with respect such matter.

80.11. The minutes of a meeting of a company` s Board of Directors shall include the following:

80.11.1. the place and time of the meeting

80.11.2. the names of the members present at the meeting

80.11.3. the agenda for the meeting;

80.11.4. all matters submitted for consideration and the result of voting on any such matters; and

80.11.5. ensuing decision.

80.12. The minutes of a meeting of the Board of Directors shall be signed by the members of the Board of Directors present at such meeting and the chairperson shall be responsible for the accuracy of the minutes.

80.13. If any member of the Board of Directors refuses to sign the minutes of the Board of Directors meeting, such member shall issue a written clarification for such refusal.

80.14. The incorrect recording of the minutes of the Board of Directors meeting shall not constitute grounds to revoke the decision approved from such meeting.

#### **Article 81. Committee under the Board of Directors**

81.1. If it deems necessary, the Board of Directors may establish a standing and temporary committee in charge of a particular matter.

81.2. The Board of Directors of a joint stock company shall have audit, salary, bonus and nominating committees and no less than two-thirds (2/3) of these committees shall comprise of independent members of the Board of Directors.

81.3. The committee of the Board of Directors shall have specific functions and shall have the authority to render conclusions, present such conclusion to the Board of Directors and render decisions in respect of particular matters specified in this law.

81.4. The head of the audit committee specified in article 81.2 of this law shall be an independent member of the Board of Directors and such committee shall render and present conclusions in respect of the following matters:

81.4.1. ensure the compliance of the accounting policy and record-keeping in line with the international standards, monitor the current conditions of internal monitoring and risk management, and the accuracy of the financial reports and other financial and economic information;

81.4.2. appoint the management and employees of internal monitoring, develop proposals to determine their salaries and bonus;

81.4.3. develop proposal in respect of choosing and determining the work pay of an auditing organization;

81.4.4. monitor and issue conclusion on major transactions and conflict-of-interest transactions;

81.4.5. Other matters that are specified in the company charter, or deemed necessary by the Board of Directors.

81.5. The nominating committee set forth in article 81.2 of this law shall exercise the following authority:

81.5.1. determine the requirements to be set for the candidate for member of Board of Directors and for the executive body of the company, and the criteria to evaluate the skills, knowledge, education and work experience.

81.5.2. evaluate and issue conclusion on whether the candidate for the member of Board of Directors and executive body fulfill the requirements of skills, knowledge, education and experience, and the candidate for independent member fulfills the requirements set forth in article 79.1 of this law;

81.5.3. register candidates and conduct the selection process for the member of Board of Directors and nominate such candidate directly to the shareholders meeting;

81.5.4. Evaluate and issue conclusion on the activities of the members of the Board of Directors and executive body;

81.5.5. develop the terms of the agreement to be concluded with the executive body;

81.5.6. Issue conclusion on the evaluation given by the executive body on the implementation and performance of the activities of company officials other than the members of the Board of Directors;

81.5.7. To refuse to nominate a person to be member of the Board of Directors of a joint stock company who used to be a member of the Board of Directors of which the authority was terminated on the grounds specified in article 59.5 of this law for a period of three (3) years.

81.6. The committee on salary and bonuses specified in article 81.2 of this law shall issue and present a conclusion to the Board of Directors:

81.6.1. approval and monitoring of the policy in respect of the salary and bonuses of the member of Board of Directors, executive management and other company officials;

81.6.2. багтаан цалин, урамшуулал олгох санал боловсруулах; develop proposals to determine the maximum level of salary and bonus of Board of Directors, executive body and other officials and to grant such salary and bonus within the determined limits;

81.6.3. determine the incentive system of the company in respect of the performance applied in the company, evaluate its outcome.

#### **Article 82. Secretary of the Board of Directors**

82.1. The secretary of the Board of Directors shall be appointed by the Board of Directors as proposed by the chairperson of the Board of Directors

82.2. The secretary of the Board of Directors shall have the following obligations:

82.2.1. to maintain the records and documentation of the Board of Directors, and notify shareholders;

82.2.2. to ensure preparation of the shareholders and Board of Directors meeting, prepare and submit the notice of such meetings, information in respect of the items of the agenda, drafts of the resolutions to be adopted and other documents;

82.2.3. Keep the minutes of the meeting of the shareholders and Board of Directors, validate the decisions adopted according to the relevant procedures, and monitor the implementation thereof;

82.2.4. Organize and ensure the coordination of the activities of the shareholders meeting, Board of Directors, Executive director and other stakeholders;

82.2.5. Coordinate and facilitate the internal activities of the Board of Directors.

82.3. The chairperson of the Board of Directors shall appoint the person to replace the secretary of the Board of Directors in his/her absence.

#### **Article 83. Executive body**

83.1. A company's executive body shall manage the company's day-to-day activities within the scope of the authority established by the company charter and the agreement entered into with the Board of Directors (in its absence, a shareholders meeting).

83.2. Unless the company charter provides for a collegial executive body, the executive body shall be an individual.

83.3. In the case the executive body is implemented by an individual, such individual shall be the executive director.

83.4. The executive body may be a member of the company's Board of Directors, but it shall be prohibited for chairperson of the Board to exercise the authority of the executive body.

83.5. Unless otherwise provided by law or in a company charter, and with the consent of the company's Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting), the executive director of a company, or a member of the company's collegial executive body, may concurrently hold an official position in the governing body of another company or business entity.

83.6. The executive body shall act within the scope of authority set forth in the agreement entered into with the Board of Directors (in its absence, a shareholders meeting).

83.7. The agreement specified in article 83.6 of this law shall be signed by the chairperson of the Board (in its absence, by the chairperson of the shareholders meeting) and shall establish the rights and duties of the body, the extent of its responsibilities, circumstances warranting release from any such responsibilities, and the salaries and bonuses of members of the body.

83.8. The executive body may act on behalf of the company without power of attorney, including concluding transactions, entering into agreements and otherwise representing the company within the authority granted by the Board of Directors.

83.9. A collegial executive body of a company shall establish and adhere to procedures agreed to with the Board of Directors, for its members in respect of implementing their duties and responsibilities imposed on it by the company charter and its agreement with the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting).

83.10. The procedures set forth in article 83.9 of this law shall include the following:

83.10.1. the respective duties and responsibilities of the chairperson and each member of the executive body and procedures for coordinating such duties and responsibilities;

83.10.2. the procedure for appointment of the chairperson of the body; and

83.10.3. the rights, duties and responsibilities of the chairperson of the body.

83.11. Members of the collegial executive body set forth in article 83.9 of this law shall be jointly liable for actions taken on behalf of the company and accountable to the Board of Directors (in its absence, the shareholders meeting).

83.12. In concluding any transactions or agreements, or exercising representation specified in article 83.8 of this law, the chairperson of the collegial executive body shall sign all relevant documents on behalf of the company in this capacity.

83.13. The chairperson set forth in article 83.12 of this law shall be elected by the members of the executive body after consultation with the Board of Directors, and such chairperson shall act as the executive director.

84.14. The collegial executive body shall keep minutes of its meetings, including all resolutions adopted at any such meetings and the chairperson of the body shall be responsible for the accuracy of such minutes.

83.15. The power of the executive body may be terminated at any time by the Board of Directors (in its absence, a shareholder meeting).

## **CHAPTER TEN**

### **LIABILITIES OF GOVERNING PERSONS OF A COMPANY**

#### **Article 84. Governing Persons of a Company**

84.1 A person who participate directly or indirectly in the process of making official decisions of a company or concluding transactions or agreements such as members of a Board of Directors and executive management team of a company, the executive director, chief financial officer, general accountant, general specialists and secretariat of Board of Directors shall be deemed to be governing persons of the company.

84.2 A company shall contemplate the list of governing persons, taking account of its special features, in its charter.

84.3 The following persons are prohibited to work as the governing person of a company:

84.3.1 A person who works as the governing person in the state or local administrative organization, or military, police, court or prosecution organization;

84.3.2 A person who is under criminal punishment.

84.4 The governing person of a company has the following duties:

84.4.1 To work and execute its power within scope of his authorities specified in a law, the company's charter and regulations;

84.4.2 To follow the principle to respect the interest of company in its activities, and to completely execute its duties specified in this law and a company's charter;

84.4.3 To make decision in compliance with the interest of a company;

84.4.4 To avoid the conflict of interest when making decision and to notify about the conflict of interest in case of there is conflict of interest;

84.4.5 Must not receive any gift or remuneration when implementing its duties/function;

84.4.6 Must not disclose information included in the confidential information of a company to others, or use such information for the purpose of its personal interests.

84.5 Unless otherwise provided by a labor agreement concluded between the governing person and a company, such governing person shall be subject to the obligation specified in article 84.4.6 of this law for three (3) years following removal of its position of governing person.



84.6 A governing person of a company shall compensate, by its personal property, the damage to a company that arisen from its failure to fulfill or repeated breach of obligations specified in article 84.4 and article 84.5 of this law.

84.7 If a member of Board of Directors or executive management failed to fulfill its obligation under article 84.4 of this law, a shareholder of a company is entitled to bring a lawsuit against such governing person to compensate the damage incurred to such company.

84.8 If the damage was caused by a decision of Board of Directors, a member of Board of Directors who was dissenting against such decision or did not participate in the meeting where such decision made shall be exempted from the liabilities.

84.9 A governing persons who made decision in breach of article 84.4 of this law shall be jointly liable and damage shall be compensated in pro rata basis.

84.10 In the case of a limited liability company, a person who holds over twenty percent (20%) of the total issued shares of a company with its affiliated persons shall be subject to the liability of specified in article 84 of this law as well as governing person of a company.

#### **Article 85. Liability of a Company's Governing Person**

85.1 A governing person of a company shall provide the secretariat of Board of Directors with the list of its affiliated persons within ten (10) days following the appointment in such position; and a governing person of a company must inform the company about any change made in the foregoing list within 10 days following such change each time.

85.2 A governing person of a company shall compensate any damage incurred to a company or its shareholders or creditors due to the following illegal acts or omissions:

85.2.1 To use the name of a company for personal interest;

85.2.2 To deliberately provide shareholders or creditors with false information;

85.2.3 To fail to fulfill its obligation to provide information;

85.2.4 To fail to keep the documents of a company specified in article 97 of this law in accordance with applicable regulation;

85.2.5 To fail to provide a person who is authorized to receive information specified in article 98 of this law with the foregoing information or to provide the foregoing person with such information in breach of the deadline;

85.3 If a governing person is in breach of article 85.2.5 of this law, it shall compensate the damage caused to such person due to the lack of receipt of the foregoing information within the specified period.

85.4 Without regard to whether liabilities imposed upon a governing person that has caused the company damages specified in this law or other laws, liabilities specified in article 85 of this law may be imposed.

#### **Article 86. Rights of a shareholder to bring claim against a governing person**

86.1 A holder of one percent (1%) or more of a company's common shares may appeal to court against a governing person of the company for compensation of losses [*damages. trans*] caused to the company.

86.2 A company, or a holder of one percent (1%) or more of a company's common shares may also appeal to court against a person specified in article 84.10 for compensation of any loss caused to a company in accordance with procedure specified in this law.

### **CHAPTER ELEVEN MAJOR TRANSACTIONS**

#### **Article 87. Major Transaction**

87.1 The following transactions shall be deemed to be major transactions:

87.1.1 a transaction or several transactions directly connected with each other (except for transaction in respect of daily ordinary course of business) in connection with the sale, purchase, disposition or pledge of a property or property rights with market value exceeds twenty five percent (25%) of the total amount of assets as shown on the most recent balance sheet of a company prior to the conclusion of such transaction;

87.1.2 the issuance, or several issuances directly connected with each other, of common shares, certificates with right to purchase common shares or securities convertible into common shares where

the number of such common shares exceeds twenty five percent (25%) of the common shares issued before such transaction.

87.2 The market value of property and property rights that are the subject of a major transaction shall be determined by the Board of Directors (in its absence, a shareholders meeting) in accordance with article 55 of this law.

87.3 When determining the major transaction, the Board of Directors (in its absence, the executive management) may re-determine the amount of property in the balance sheet by adjusting such amount of property with inflation based on recommendations of the company's auditor.

87.4 The provisions in Chapter Eleven of this law shall not apply in the case of a company that has a sole owner and such owner is executing the executive management.

#### **Article 88. Conclusion of a Major Transaction**

88.1 A resolution to conclude a major transaction must be adopted unanimously by the Board of Directors (in its absence, by a shareholders meeting).

88.2 If the Board of Directors fail to unanimously adopt the resolution to conclude a major transaction, the major transaction matter shall be submitted into a shareholders meeting where it must be approved by a majority votes of shareholders who attend the meeting.

88.3 Shareholders who voted against a resolution to conclude a major transaction have the right to demand the company that to redeem their shares in accordance with the procedure specified in article 53 of this law.

88.4 A company is obligated to inform the public about the major transactions and their price in their quarterly and annual reports.

### **CHAPTER TWELVE**

#### **CONFLICT OF INTEREST TRANSACTIONS**

##### **Article 89. A person with conflict of interest**

89.1 If a shareholder, who holds, alone or in conjunction with its affiliated persons, twenty percent (20%) or more of the company's common shares, governing person of the company and its affiliated person of the company engages in the following relationship with the company where such shareholder, governing person or its affiliated person works or holds interest, such shareholder, governing person or its affiliated person shall be deemed as "conflict-of-interest person" of a company, or its subsidiary or controlled company:

89.1.1 is the other party to such transaction, or participates in such transaction as a representative or intermediary;

89.1.2 is a governing person of other legal entity, or holds, alone or in conjunction with its affiliated persons, twenty percent (20%) or more of the common shares (share percentage) of such legal entity that is participating in the transaction as other party, or a representative or intermediary;

89.1.3 is a governing person of parent company of the other participating legal entity, or holds, alone or in conjunction with its affiliated persons, twenty percent (20%) or more of the common shares (share percentage) of such parent company of a legal entity that is participating in the transaction as other party or a representative or intermediary; or

89.1.4 receives percentage from the income directly or indirectly raised from such transaction.

89.2 The following person shall be deemed to be affiliated person with the governing person of a company or holder of controlling package of company's shares:

89.2.1 a spouse of the governing person or holder of controlling package of company's shares or other family members who live with them;

89.2.2 parents, children, grandchildren, nephew, brothers or sisters of the governing person or holder of controlling package of company's shares;

89.2.3 If the governing person or holder of controlling package of company's shares is receiving the percentage from income directly or indirectly raises from such transaction with a company where they hold shares or are employed, the participants parties in such transaction.

89.3 The provisions in Chapter Twelve (12) of this law shall not apply in the following circumstances:

89.3.1 If common shares of a company is held by a sole person and such person is executing the executive management;

89.3.2 If a shareholder implement its pre-emptive right to purchase shares in accordance with article 38 of this law;

89.3.3 If a company purchases shares offered by shareholders in proportion to the total number of each type of shares offered by such shareholders;

89.3.4 If a company holding seventy-five percent (75%) or more of the common shares of other company that is under organization by means of merger in accordance with article 20 of this law.

89.4 If the number of shareholders of limited liability company is no more than ten (10), the company's charter may provide other circumstances apart from circumstances specified in article 89.3 of this law.

89.5 A company is obligated to inform the public about the number of conflict of interest transaction, persons who concluded such transactions, and price of such transactions during the period of such reporting year by reflecting the foregoing information into the annual report of such company.

#### **Article 90. Compensation for losses arising from conflict-of-interest transactions**

90.1 The guilty person shall compensate, by its personal property, the loss arising from the conflict of interest transaction caused to a company or its controlled or subsidiary company.

90.2 A holder of a company's common shares or an officer authorized to represent a company may file a claim in court for compensation for a loss specified in article 90.1 of this law.

#### **Article 91. Requirements for a person to conclude conflict-of-interest transactions**

91.1 A person who would make the conflict of interest transaction must provide the Board of Directors (in its absence, the executive management) and the auditor with the following information:

91.1.1 information with respect to the legal entity where such conflict of interest person holds, alone or in conjunction with its affiliated persons, twenty percent (20%) or more of the common shares and its controlled or subsidiary companies;

91.1.2 information on the legal entity where such conflict of interest person or its affiliated person works as the governing person and information on other partners of group of companies [coordinated companies] where such conflict of interest person is a governing person;

91.1.3 information that such person is a conflict-of-interest person with respect to a proposed transaction by the company; and

91.1.4 information on affiliated person of a person specified in article 89.1 of this law.

91.2 A person to conclude conflict of interest transaction is not entitled to participate in the decision making process with respect to such transaction.

91.3 A company shall keep the record of its governing persons and its affiliated persons and provide any person who interested to see such record with the foregoing record.

#### **Article 92. Conflict of interest transaction and procedure to conclude such transaction**

92.1 A transaction made by a person specified in article 89.1 of this law with the company where the foregoing person works or holds the controlling block of such company's shares is deemed as conflict of interest transaction. The decision to conclude conflict of interest transaction must be adopted by a majority of the votes of Board of Director's members (its absence, a shareholders meeting) who have no conflict-of-interest with respect to such transaction.

92.2 The market value and service price of the property, property rights or other rights which is possible to be valued by money that are subject to sale, purchase or disposition through the conflict of interest transaction shall be determined by the Board of Directors in accordance with article 55 of this law.

92.3 In the following cases, a decision by a joint stock company to conclude a conflict-of-interest transaction (or several transactions connected with each other), or to permit or demand its controlled or subsidiary companies to conclude such conflict of interest transaction, must be discussed at shareholders meeting and it must be approved by a majority of the votes of shareholders who attended such meeting and who have no conflict-of-interest;

92.3.1 if the value of transaction, property, property rights or other rights which is possible to be valued by money or the service price determined by the Board of Directors in accordance with article 55 of this

law exceeds twenty five percent (25%) of the value of the company's assets in the record as at the date of adoption of the resolution to conclude such transaction;

92.3.2 if the number of common shares, the options to purchase common shares or the securities convertible to common shares to be issued by the company pursuant to such transaction exceeds twenty five percent (25%) of the value of the common shares issued before by the company or its controlled joint stock company; or

92.3.3 if all members of the Board of Directors (for the joint stock company, all independent members of Board of Directors) are conflict-of-interest persons with respect to the transaction.

92.4 A decision by the Board of Directors of a company to submit the matter related to conclusion of conflict of interest transaction to a shareholders meeting must be approved by majority of the votes of the Board of Directors' members who have no conflict-of-interest, or in the case of a joint stock company, by a majority of the votes of independent members of the Board of Directors.

92.5 A conflict-of-interest transaction with respect to the loan to be given by the conflict of interest person, or its spouse, parents, children, brothers, sisters or affiliated persons is not required to be approved in accordance with article 92.3 of this law.

92.6. If a conflict-of-interest transaction was concluded in the ordinary course of the business of a company or its controlled company prior to the determination of a person deemed as the conflict of interest person in accordance with article 89 of this law, such transaction is not required to be approved by shareholders in accordance with article 92.3 of this law until the next regular shareholders meeting is held.

92.7 If, on the date of shareholder meeting, it is not possible to determine whether a transaction concluded, in the ordinary course of business, by the company or its controlled company is a conflict-of-interest transaction or not, the shareholders meeting shall issue a decision which reflects the type of transaction, the person who concluded such transaction and the maximum value of such transaction and approves the business which would be implemented by the company or its controlled or subsidiary company with other persons; and in this case, it shall be deemed to fulfill the requirements specified in article 92.3 of this law.

92.8 The procedures with respect to conclusion of conflict of interest transaction specified in the Chapter Twelve (12) of this law shall be followed along with other procedures provided by this law or the charter of a company with respect to conclusion of other types of transactions.

### **Article 93. Consequences of breaching the procedures to conclude a conflict-of-interest transaction**

93.1 If a person specified in article 89.1 of this law breaches the requirements and procedures specified in article 91 and 92 of this law, such person shall be liable for the amount of the loss caused to the company or its controlled or subsidiary companies as the result of such breach or for the amount of income raised by such person as a result of the transaction.

93.2 A court may deem the transaction with a person specified in article 89.1 of this law to be invalid.

93.3 A governing person of a company which concluded the conflict-of-interest transaction shall be subject to the liability specified in article 85 and 90 of this law.

93.4 If a person specified in article 89.1 of this law breaches the requirements and procedures specified in articles 91 and 92 of this law or such person holds all of the shares of legal entity that concluded a transaction with the company, the company may file a appeal to court against the foregoing legal entity for compensation for the losses incurred or to invalidate the conflict of interest transaction.

93.5 A company or a holder of company's common share, without power of attorney, may appeal to court against the person specified in article 89.1 of this law or the legal entity where such person holds all of its shares for compensation for the losses incurred to the company.

93.6 In the cases except for those specified in article 93.3 of this law, if a person breaches the requirements specified in article 92 of this law and such person did not know or did not have possibility to know about such breach, the foregoing transaction shall not be deemed as invalid transaction.

## **CHAPTER THIRTEEN**

### **THE REVIEW OF FINANCIAL AND ECONOMIC ACTIVITIES OF COMPANY**

#### **Article 94. Auditor's review in the financial or economic activities of a company**

- 94.1 Unless otherwise provided in the company charter, a company may appoint an audit organization, by concluding an agreement, in order to review and certify its financial statements and to audit, in full or in part, the company's financial and economic activities.
- 94.2 The charter of public company must provide for retaining an auditor.
- 94.3 The audit committee of Board of Directors (in its absence, a shareholder meeting) shall select auditor and approve the agreement that would be concluded with the auditor.
- 94.4 The agreement specified in article 94.3 of this law shall specify the rights and obligations of the auditor and the amount of service fee payable to the auditor.
- 94.5 An audit of a company's financial and economic activities would be regular or irregular.
- 94.6 A regular audit shall be performed to review and certify the company's annual financial statements.
- 94.7 A special audit may be performed at any time upon demand of the Board of Directors, its audit committee or a shareholder who possesses over ten percent (10%) of the common shares of a company.
- 94.8 The fee of a regular audit made by audit organization shall be paid by the company. The fee of a special audit shall be paid by a shareholder who demanded and concluded such agreement.
- 94.9 During the audit, if it is determined that the governing person of a company caused the damage [loss.trans], the guilty person shall be responsible for the fee of such audit.
- 94.10 A governing officer of the company, at the demand of the company's auditor, must provide the auditor with any documents in connection with the financial and economic activities of a company.
- 94.11 The fee for the days when the activity of auditor or audit organization was stopped as a result of breach of the obligation specified in article 94.10 of this law by the governing person, the Board of Directors shall make decision to cause the guilty person to pay such audit fee.
- 94.12 An auditor is entitled to participate in the shareholders meeting for the purpose of providing clarification.
- 94.13 It is prohibited to choose the following persons as the auditor of a company:
- 94.13.1 the affiliated person of a company, the governing person of a company, the affiliated person of such governing person, or the hired employee or governing person of a company or its affiliated company;
- 94.13.2 a person who holds the securities issued by the company or its affiliated person, or holds other property or property rights of the company or its affiliated persons; or
- 94.13.3 a person who has entered into a transaction with the company regarding the matter other than the auditing service.
- 94.14 If auditor was chosen in breach of article 94.13 of this law, the audit conclusion made by such auditor shall be deemed as void.
- 94.15 It is prohibited to set the amount of fee for the auditing service depending on the feature of conclusion made by auditing organization.
- 94.16 On the basis of its review of the financial and economic activities of a company, the auditor of a company shall issue the conclusion which includes the following information:
- 94.16.1 Information confirming whether or not the financial statement of a company is correct;
- 94.16.2 Information confirming whether or not the record of accounting books and issuance of financial statement is in compliance with the applicable regulation and if there is a breach, to determine such breach in every occasion;
- 94.16.3 The list of conflict-of-interest transactions concluded by the company during the period of such audit and confirmation on whether such conflict of interest transactions concluded in accordance with the procedure specified this law;
- 94.16.4 In the case of a joint stock company, other information required by the Financial Regulatory Commission or the Stock Exchange; and
- 94.16.5 Other information determined by the charter of a company or agreement the between the company and auditor.
- 94.17 The audit organization is responsible for, by its property, the loss [damage] caused by the audit conclusion made by it.

#### **Article 95. Accounting books and reports**

95.1 A company shall maintain financial accounting books and records, and prepare financial statements in accordance with the procedure specified by law. The financial statement shall be presented to shareholders and other authorized persons.

95.2 A joint stock company must submit the financial statements to the Financial Regulatory Committee and the securities trading organization along with the additional information required by the foregoing organizations within the settled date and inform the public.

95.3 The company charter shall specify the commencement date and termination date of the company's fiscal year.

95.4 The executive management of a company shall be responsible for the reliability and correctness of the accounting books and financial statements of a company.

#### **Article 96. Financial Statement and Annual Reports**

96.1 The financial statements of a company shall include:

96.1.1 balance sheet;

96.1.2 statement of profit and loss;

96.1.3 a statement of cash flow;

96.1.4 a statement of accumulated earnings;

96.1.5 a list of all conflict-of-interest and major transactions concluded during the period of such report, the type and value of such transactions, and the salary, award and remuneration given to the management;

96.1.6 an additional clarifications; and

96.1.7 other information determined by law or decision of authorized organization.

96.2 The company charter of a limited liability company may determine the additional items required to be inserted in the financial statements.

96.3 The state central administrative organization in charge of finance matters shall determine the additional clarification required with respect to tax matters and the Financial Regulatory Committee shall determine the content of the financial statements of joint stock company and the template and regulation of additional clarification.

96.4 The Board of Directors of a company shall prepare and deliver to its shareholders an annual report with respect to the structure, organization, assets, and business activities of the company. Such annual report shall include:

96.4.1 a description of the principal activities conducted during the reporting year, the results of such activities, changes in such activities, the structure and organization, and any changes from the preceding year with respect to such structure and organization;

96.4.2 the amount of award and remuneration granted to governing person of the company and expenses incurred by the company's management during such reporting period;

96.4.3 other information required by the company charter; and

96.4.4 in the case of a joint stock company, any additional information required to be inserted in the annual report of joint stock company by the Financial Regulatory Committee.

96.5 The Board of Directors shall submit the report with respect to the financial statements to the annual shareholders meeting of a company for discussion.

96.6 If provided by law, before the Board of Directors issues the foregoing report the audit organization shall review and certify the financial statement of a company.

#### **Article 97. Keeping of a company's documents**

97.1 A company must keep the following documents:

97.1.1 the charter of a company, amendments to the charter, the founding resolution of a company, and the state registration certificate of a company;

97.1.2 the internal documents of a company adopted by the shareholder meeting, Board of Directors and the executive management;

97.1.3 the charter of company's branches and representative offices;

97.1.4 the minutes of shareholder meeting and its decisions;

97.1.5 the documents distributed during the shareholder meeting and comments given by a shareholder regarding the agenda of shareholder meeting;

97.1.6 financial statements and business operational reports;

97.1.7 procedures to issue the common shares and securities;

97.1.8 book-keeping and accounting records;

97.1.9 a list of the company's affiliated persons and the number and class of the company's shares held by such affiliated persons;

97.1.10 the minutes of meeting of Board of Directors' and executive management, the Board of Directors' decision and executive management's resolutions;

97.1.11 the audit conclusion with respect to financial statement of a company;

97.1.12 the list of affiliated persons of a company's governing persons;

97.1.13 the list of persons who, alone or in conjunction with its affiliated persons, holds over five (5%) percent of company shares, and the class and number of their shares;

97.1.14 other documents determined by this law or the charter of a company;

97.2 A company shall keep and also provide the authorized person determined by the charter and regulations of a company and this law with the following documents, at a demand of such person:

97.2.1 The documentary proof that proves property and property rights reflected in the accounting books;

97.2.2 The minutes of Board of directors' meeting and executive management meeting;

97.2.3 The book-keeping and accounting records;

97.2.4 The reports and information submitted to state organizations authorized to inspection and regulation;

97.3 A company shall keep its charter and amendments to the charter at all times.

97.4 A company shall keep all documents specified in article 97.1 of this law except for the charter of a company for five (5) years and after conclusion of such period, it shall transfer the foregoing documents to archives.

97.5 The secretariat of the Board of Directors (in its absence , the relevant officer of the executive management) shall be responsible for the activities to keep the documents specified in article 97.1 of this law, to provide persons authorized with the foregoing documents or to transfer such documents to the archives.

97.6 A company shall keep the documents specified in article 97.1 of this law at its principal place of business or at such other place known to and reasonably accessible by the shareholders of the company.

**Article 98. Obtaining information with regard to a company**

98.1 A joint stock company must provide a holder of securities, at the request of the foregoing person, with the company's annual financial statements and reports of business operations, the names of company's affiliated persons, the number and class of shares held by such affiliated persons and other information determined by the rules and regulations of the Financial Regulatory Commission and the securities trading organization.

98.2 The secretary of a company's Board of Directors is obligated to ensure the possibility for the shareholder of a company to be acquainted with or make copy with charge the company's book-keeping and accounting records, minutes, resolutions and decisions of the executive management meetings and other information except for information prohibited to be disclosed to the public.

98.3 A common shareholder of joint stock company, or any shareholder of a limited liability company, may request the company to provide the foregoing shareholder with the registration that includes the names and addresses of holders of common shares of the company and the number of shares held by such shareholders.

98.4 The company's executive management or an organization authorized to maintain the registry of shareholders of a company shall provide the shareholder who made the foregoing request with the registration as of the date of request within five (5) business days following the receipt of such request. The shareholder who made the request shall be responsible for all costs incurred in connection with submission of the foregoing registration.

98.5 The governing person who fails to fulfill its obligation under article 98.1, 98.2 and 98.4 of this law shall be subject to the liability specified in article 85.4 of this law.

**Article 99. Related party and information regarding related party**

99.1 A person with the following relationship shall be deemed to be related party specified in this law:

99.1.1 a group of individuals who have possibility to determine decisions of the company's management on the basis of a specific agreement;

99.1.2 for a company that is included in the group of companies [coordinated companies] specified in article 6.13 of this law, other participants companies of the union and their governing persons;

99.1.3 a person or company (group of individuals) who have possibility to determine decisions of the company's management on the basis of a specific agreement;

99.1.4 a company that has the possibility to determine the decisions of a person (or a group persons);

99.1.5 a company and the governing person of such company;

99.1.6 members of a family, parents, children, grandchildren, nephew, brother, sisters and other relatives;

99.1.7 shareholders of a limited liability company;

99.1.8 a company where such person or its affiliates holds controlling package of the company's shares or works as the governing person, a participant company of the union of companies where the first company is participant and the governing person and shareholder of controlling package of such former company;

99.1.9 if such person is employer, its employees.

99.2 A person who holds, alone or in conjunction with its affiliated persons, the controlling package of company's shares must notify, in written form, the company about information on the securities under its possession within three (3) business days following the date when such person becomes the affiliate or following the date it holds five (5) or more blocks or controlling block of the company's shares in conjunction with its affiliated persons.

99.3 If the company or its shareholders incur any losses of a company as a result of the failure of the affiliated person to give timely notice as required by article 99.2 of this law, such affiliated person shall compensate the foregoing losses.

**CHAPTER FOURTEEN**

**MISCELLANEOUS**

**Article 100. The liability for violators of legislation**

100.1 If a violator of the Company law is not subject to a criminal liability, the judge or state inspector of Financial Regulatory Commission shall impose the following administrative liabilities to a guilty person:

100.1.1 If a joint stock company failed to fulfill the obligation to present, report, submit and inform the statements, balance sheet, information to the public, authorized organizations or shareholders, such joint stock company is subject to the fine equal to the minimum wage multiplied by thirty (30) to forty (40) times, and a relevant governing person is subject to the fine equal to the minimum wage multiplied by ten (10) to (15) fifteen times.

100.1.2 If a person breaches articles 6.4, 32.5, 39.4, 40.3, 48.1, 49.2, 49.6, 49.14, 51.2, 63.10, 66.9, 67.2, 69.3, 73.1, 84.3, 94.2, 94.15, 97.1, 97.5, 97.6 and 98.2 of this law, a joint stock company is subject to the fine equal to the minimum wage multiplied by twenty (20) to thirty (30) times, and a relevant governing person is subject to the fine equal to the minimum wage multiplied by five (5) to ten (10) times;

100.1.3 If a legal entity fails to register in accordance with article 4.2 and 42.4 of this law, it is subject to the fine equal the minimum wage multiplied by fifteen (15) times, and a relevant governing person is subject to the fine equal the minimum wage multiplied by five (5) times.

100.1.4 If a shareholder of a joint stock company breaches article 57.1 and 99.2 of this law, such shareholder is subject to the fine equal to the minimum wage multiplied by ten (10).

100.2 The administrative liability imposed under this law shall not be the grounds to release a guilty person from the obligation to compensate the damages.

**THE SPEAKER OF STATE IKH KHURAL D. DEMBEREL**





## LAW OF MONGOLIA

22th of May 2012  
Ulaanbaatar

Government House,

### INNOVATION LAW CHAPTER ONE GENERAL PROVISIONS

#### **Article1. Purpose of The Law**

1.1 The purpose of the Law shall be to regulate relations related to the determining the principle activities, management, finance, public support of innovation, defining the legal basis for acquisition and apply of intellectual property.

#### **Article2. Innovation Legislation of Mongolia**

2.1 The Innovation legislation shall consist of the Constitution of Mongolia, Law on Science and Technology, Law on Higher Education, Law on Corporate, Law on Patent, Law on Legislation of Production and Technology Park, Law on Property Assessment, this the Law , and other legislative acts enacted in conformity therewith.

2.2 If an international treaty to which Mongolia is a party establishes procedures different from those in this the Law, then the former shall prevail.

#### **Article3. Definitions of terms**

3.1 Following terms used in this law shall have the following meaning:

3.1.1 "Innovation" means complete activity transfer of new knowledge into wealth

3.1.2. "new knowledge" means;

3.1.3. "innovation activity" means;

3.1.4. "innovation product" means;

3.1.5. "national innovation structure" means;

3.1.6 "innovation project" means;

3.1.7. "innovation grant" means;

3.1.8. "beginning company" means;

3.1.9. "technological experiment and improvement means;

3.1.10. "royalty" means;

3.1.11. "vench investment company" means;

3.1.12. "management agreement" means;

3.1.13. "management company" means;

3.1.14. "science park" means;

3.1.15. "park administration" means;

3.1.16. "park unit" means.

#### **Article 4. Innovation activity principles**

**CHAPTER TWO  
INNOVATION ACTIVITY ADMINISTRATIVE AND PUBLIC ADMINISTRATION  
ORGANIZATIONS AUTHORITY**

- Article5. Innovation activity administration system**
- Article6. Government authority**
- Article7. Public administration organizations authority for national development and innovation**
- Article8. Public administration central organizations authority for science, technology and higher education**
- Article9. Authority of financial regulation committee**
- Article10. Authority of the ministry and agency general**
- Article11. The authority of governer of province and capital**
- Article12. The financing source and form of innovation activity**

**CHAPTER THREE  
INNOVATION ACTIVITY AND PUBLIC SUPPORT**

- Article13. The priority direction of Innovation activity**
- Article14. Innovation project and its qualifications**
- Article15. Innovation product**
- Article16. Innovation infrastructure**
- Article17. Government support for Innovation activity**

**CHPATER FOUR  
SCIENCE PARK**

- Article18. Organize the park**
- Article19. The principles of park activity**
- Article20. Park administration responsibilities**
- Article21. Park activity**

**CHAPTER FIVE  
THE VENCH INVESTMENT COMPANY**

- Article22. The vench investment company activity**
- Article23. Establish and registrate the vench investment company activity**
- Article24. The administration of the vench investment company**
- Article25. The asset and its assessment of the vench investment company**
- Article26. Ending of the vench investment company activity**

**CHAPTER SIX  
TO ACUISATION AND APPLY OF INTELLECTUAL PROPERTY WHICH IS RESULT OF  
SCIENTIFIC WORK FUNDED BY THE GOVERNMENT FINANCE**

- Article27. To acquisition and apply of intellectual property which is result of scientific work funded by the government finance**

**CHAPTER SEVEN  
OTHER PROVISIONS**

- Article28. The international cooperation of participants to innovation activity**
- Article 29. The advocacy and confidentiality of innovation information**
- Article 30. Liability for breaching innovation law**

CHAIRMAN OF THE STATE GREAT KHURAL  
OF MONGOLIA

D.DEMBEREL

付属资料8. 投資手続きフォーム（法人登録申請書）

Appendix No1 of Decree by Director of  
General Authority of State Registration issued on  
20 .... /...../...

UB-03

**Application of Legal entity for State Registration**

For official use
Number of Registration decree , date _____, _____
State/ senior/recorder's mark number:  _ _ _ _
Registered date on y/m/d _____

<b>Warning</b>
An entity must apply for a registration at the specified registration centre within the set deadline after its establishment.

1. Application date: \_\_\_\_\_ /applicant must fill/

2. State registration number : |\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|  
/registering party must fill/

3. Legal entity register number: |\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|  
/registering party must fill/

4. Legal entity name: \_\_\_\_\_  
/applicant must fill/

5. Entity type: Company  Partnership  Cooperative   
NGO  Foundation  Religious organization   
Mass media  /applicant must fill/

6. Entity form: JTC ( ) LLC ( ) AMFLP ( ) CMFLP ( ) Cooperative ( ) SCC ( ) JC ( )  
SOSIP ( ) LOSIP ( ) GQDSOE ( ) SSSGO ( )  
MSNGO ( ) TUC ( ) MC ( ) Newspaper ( ) Magazine ( ) Radio ( )  
Television ( ) Foundation ( ) /applicant must see the glossary  
on the last page and notch matching gap /

7. Legal Entity official address:  
|\_|\_| Province, district: \_\_\_\_\_ Phone 1: \_\_\_\_\_  
|\_|\_| Soum, khoroo: \_\_\_\_\_ Phone 2: \_\_\_\_\_  
|\_|\_|\_| Street name, micro-district name: \_\_\_\_\_ Fax: \_\_\_\_\_  
|\_|\_|\_| Street, apartment: \_\_\_\_\_ Post box number: \_\_\_\_\_  
|\_|\_|\_| Fence, door number: \_\_\_\_\_ E-mail: \_\_\_\_\_

8. Information about founder of legal entity:

8.1. Subsidiary, dependent companies' parent name, type:  
\_\_\_\_\_  
RN: |\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|\_|  
/any other entities shall not fill except subsidiary, dependent companies/

8.2. Founder(s) quantity of entity \_\_\_\_\_

8.3. Amount of equity capital /MNT/ \_\_\_\_\_

№	Founder's name	As an individual		Nationality	Equity type	Equity capital	
		Last name	Passport registration number			quantity	percentage
						/ MNT/	
0	1	2	3	4	5	6	7
1							
2							
3							
4							
5							

- For more than 5 founders, registration shall registered and attached to appendix by above spreadsheet.

-In 1<sup>st</sup> column of spreadsheet, write down name and type of founder ( entity/ citizen). Its first name ,last name initial should have written.

-No need to fill 2<sup>nd</sup> and 3<sup>rd</sup> columns of spreadsheet, if founder is an entity.

-In 5<sup>th</sup> column of spreadsheet, choose best fitting one from equity types shown below:

-Public equity has following types which are national, local, religious and social.

-Personal equity classified into civil form and joint form.

-Public and personal equities have mixed forms.

8.4.Entity's operation period: Undated , Duration..... year(s)

/underline or fill the gap/

8.5. Bank account: |\_|\_|\_|\_|\_|\_| - Bank \_\_\_\_\_ account number \_\_\_\_\_

|\_|\_|\_|\_|\_|\_| - Bank \_\_\_\_\_ account number \_\_\_\_\_

|\_|\_|\_|\_|\_|\_| - Bank \_\_\_\_\_ account number \_\_\_\_\_

9. Operation type:

|\_|\_|\_|\_|\_|\_| - \_\_\_\_\_

|\_|\_|\_|\_|\_|\_| - \_\_\_\_\_



付属資料9. 「GSP+制度」7200 リスト

CURRENT STATUS OF THE GSP+ IN MONGOLIA

Since 1999, the EU introduced the Generalized System of Preferences, a general preferential market access scheme aimed at providing developing countries with an added advantage on its markets. Since 2006, the new "GSP Plus" was launched as an incentive scheme for especially vulnerable countries that have ratified and effectively implemented key international conventions on sustainable development, labour rights and good governance. The GSP+ covers around 7,200 products.

Since 2006 Mongolia is eligible for the GSP+. This is to say that practically all Mongolian export products are granted tariff-free access to the EU thanks to the GSP+.

Trade of cashmere and cashmere products have benefited the most from the GSP+ scheme and the EC has encouraged Mongolia to make efforts to enhance utilisation of the GSP+ in the future and to diversify the base of products exported.

To support Mongolian export industries and all other stakeholders, the EC has funded a number of awareness and capacity building projects under the GSP+ scheme implemented through the Asia Trust Fund in cooperation with the International Trade Centre (ITC) with a focus on the development of Geographical Indications for Mongolian products as a way to increase the products value on world markets.

List of products included in GSP+.

CN code	Description	Sensitive/ non-sensitive
0101 10 90	Live, pure-bred breeding asses and other	S
0101 90 19	Live horses, other than pure-bred breeding animals, other than for slaughter	S
0101 90 30	Live asses, other than pure-bred breeding animals	S
0101 90 90	Live mules and hinnies	S
0104 20 10 *	Live, pure-bred breeding goats	S
0106 19 10	Live domestic rabbits	S
0106 39 10	Live pigeons	S
0205 00	Meat of horses, asses, mules or hinnies, fresh, chilled or frozen	S
0206 80 91	Edible offal of horses, asses, mules or hinnies, fresh or chilled, other than for the manufacture of pharmaceutical products	S
0206 90 91	Edible offal of horses, asses, mules or hinnies, frozen, other than for the manufacture of pharmaceutical products	S
0207 14 91	Livers, frozen, of fowls of the species <i>Gallus domesticus</i>	S
0207 27 91	Livers, frozen, of turkeys	S
0207 36 89	Livers, frozen, of ducks, geese or guinea fowls, other than fatty livers of ducks or geese	S
ex 0208 (1)	Other meat and edible meat offal, fresh, chilled or frozen, excluding products under subheading 0208 90 55 (except for the products under subheading 0208 90 70 to which the footnote shall not apply)	S

0208 90 70	Frogs' legs	NS
0210 99 10	Meat of horses, salted, in brine or dried	S
0210 99 59	Offal of bovine animals, salted, in brine, dried or smoked, other than thick skirt and thin skirt	S
0210 99 60	Offal of sheep or goats, salted, in brine, dried or smoked	S
0210 99 80	Offal, salted, in brine, dried or smoked, other than poultry liver, other than of domestic swine, of bovine animals or of sheep or goats	S
ex Chapter 3 (2)	Fish and crustaceans, molluscs and other aquatic invertebrates, except for products under subheading 0301 10 90	S
0301 10 90	Live, ornamental saltwater fish	NS
0403 10 51	Yogurt, flavoured or containing added fruit, nuts or cocoa	S
0403 10 53		
0403 10 59		
0403 10 91		
0403 10 93		
0403 10 99		
0403 90 71	Buttermilk, curdled milk and cream, kephir and other fermented or acidified milk and cream, flavoured or containing added fruit, nuts or cocoa	S
0403 90 73		
0403 90 79		
0403 90 91		
0403 90 93		
0403 90 99		
0405 20 10	Dairy spreads, of a fat content, by weight, of 39 % or more but not exceeding 75%	S
0405 20 30		
0407 00 90	Birds' eggs, in shell, fresh, preserved or cooked, other than of poultry	S
0409 00 00 (3)	Natural honey	S
0410 00 00	Edible products of animal origin, not elsewhere specified or included	S
0511 99 39	Natural sponges of animal origin, other than raw	S
ex Chapter 6	Live trees and other plants; bulbs, roots and the like; cut flowers and ornamental foliage, except for products under subheading 0604 91 40	S
0604 91 40	Conifer branches, fresh	NS
701	Potatoes, fresh or chilled	S
0703 10	Onions and shallots, fresh or chilled	S
0703 90 00	Leeks and other alliaceous vegetables, fresh or chilled	S
704	Cabbages, cauliflowers, kohlrabi, kale and similar edible brassicas, fresh or chilled	S
705	Lettuce ( <i>Lactuca sativa</i> ) and chicory ( <i>Cichorium spp.</i> ), fresh or chilled	S
706	Carrots, turnips, salad beetroot, salsify, celeriac, radishes and similar edible roots, fresh or chilled	S
ex 0707 00 05	Cucumbers, fresh or chilled, from 16 May to 31 October	S
708	Leguminous vegetables, shelled or unshelled, fresh or chilled	S

0709 20 00	Asparagus, fresh or chilled	S
0709 30 00	Aubergines (eggplants), fresh or chilled	S
0709 40 00	Celery other than celeriac, fresh or chilled	S
0709 51 00	Mushrooms, fresh or chilled, excluding the products under subheading 0709 59 50	S
0709 59		
0709 60 10	Sweet peppers, fresh or chilled	S
0709 60 99	Fruits of the genus <i>Capsicum</i> or of the genus <i>Pimenta</i> , fresh or chilled, other than sweet peppers, other than for the manufacture of capsin or capsin oleoresin dyes and other than for the industrial manufacture of essential oils or resinoids	S
0709 70 00	Spinach, New Zealand spinach and orache spinach (garden spinach), fresh or chilled	S
0709 90 10	Salad vegetables, fresh or chilled, other than lettuce ( <i>Lactuca sativa</i> ) and chicory ( <i>Cichorium</i> spp.)	S
0709 90 20	Chard (or white beet) and cardoons, fresh or chilled	S
0709 90 31 *	Olives, fresh or chilled, for uses other than the production of oil	S
0709 90 40	Capers, fresh or chilled	S
0709 90 50	Fennel, fresh or chilled	S
0709 90 70	Courgettes, fresh or chilled	S
ex 0709 90 80	Globe artichokes, fresh or chilled, from 1 July to 31 October	S
0709 90 90	Other vegetables, fresh or chilled	S
ex 0710	Vegetables (uncooked or cooked by steaming or boiling in water), frozen, except for the product of subheading 0710 80 85	S
0710 80 85 (3)	Asparagus (uncooked or cooked by steaming or boiling in water), frozen	S
ex 0711	Vegetables provisionally preserved (for example, by sulphur dioxide gas, in brine, in sulphur water or in other preservative solutions), but unsuitable in that state for immediate consumption, excluding the products under subheading 0711 20 90	S
ex 0712	Dried vegetables, whole, cut, sliced, broken or in powder, but not further prepared, excluding olives and the products under subheading 0712 90 19	S
713	Dried leguminous vegetables, shelled, whether or not skinned or split	S
0714 20 10 *	Sweet potatoes, fresh, whole, and intended for human consumption	NS
0714 20 90	Sweet potatoes, fresh, chilled, frozen or dried, whether or not sliced or in the form of pellets, other than fresh and whole and intended for human consumption	S
0714 90 90	Jerusalem artichokes and similar roots and tubers with high inulin content, fresh, chilled, frozen or dried, whether or not sliced or in the form of pellets; sago pith	NS
0802 11 90	Almonds, fresh or dried, whether or not shelled, other than bitter	S



0802 12 90		
0802 21 00	Hazelnuts or filberts ( <i>Corylus</i> spp.), fresh or dried, whether or not shelled	S
0802 22 00		
0802 31 00	Walnuts, fresh or dried, whether or not shelled	S
0802 32 00		
0802 40 00	Chestnuts ( <i>Castanea</i> spp.), fresh or dried, whether or not shelled or peeled	S
0802 50 00	Pistachios, fresh or dried, whether or not shelled or peeled	NS
0802 60 00	Macadamia nuts, fresh or dried, whether or not shelled or peeled	NS
0802 90 50	Pine nuts, fresh or dried, whether or not shelled or peeled	NS
0802 90 85	Other nuts, fresh or dried, whether or not shelled or peeled	NS
0803 00 11	Plantains, fresh	S
0803 00 90	Bananas, including plantains, dried	S
0804 10 00	Dates, fresh or dried	S
0804 20 10	Figs, fresh or dried	S
0804 20 90		
0804 30 00	Pineapples, fresh or dried	S
0804 40 00	Avocados, fresh or dried	S
ex 0805 20	Mandarins (including tangerines and satsumas), and clementines, wilkings and similar citrus hybrids, fresh or dried, from 1 March to 31 October	S
0805 40 00	Grapefruit, including pomelos, fresh or dried	NS
0805 50 90	Limes ( <i>Citrus aurantifolia</i> , <i>Citrus latifolia</i> ), fresh or dried	S
0805 90 00	Other citrus fruit, fresh or dried	S
ex 0806 10 10	Table grapes, fresh, from 1 January to 20 July and from 21 November to 31 December, excluding grapes of the variety Emperor ( <i>Vitis vinifera</i> cv.) from 1 to 31 December	S
0806 10 90	Other grapes, fresh	S
ex 0806 20	Dried grapes, excluding products under subheading ex 0806 20 30 in immediate containers of a net capacity exceeding 2 kg	S
0807 11 00	Melons (including watermelons), fresh	S
0807 19 00		
0808 10 10	Cider apples, fresh, in bulk, from 16 September to 15 December	S
0808 20 10	Perry pears, fresh, in bulk, from 1 August to 31 December	S
ex 0808 20 50	Other pears, fresh, from 1 May to 30 June	S
0808 20 90	Quinces, fresh	S
ex 0809 10 00	Apricots, fresh, from 1 January to 31 May and from 1 August to 31 December	S
0809 20 05	Sour cherries ( <i>Prunus cerasus</i> ), fresh	S
ex 0809 20 95	Cherries, fresh, from 1 January to 20 May and from 11 August to 31 December, other than sour cherries ( <i>Prunus cerasus</i> )	S
ex 0809 30	Peaches, including nectarines, fresh, from 1 January to 10 June and	S

	from 1 October to 31 December	
ex 0809 40 05	Plums, fresh, from 1 January to 10 June and from 1 October to 31 December	S
0809 40 90	Sloes, fresh	S
ex 0810 10 00	Strawberries, fresh, from 1 January to 30 April and from 1 August to 31 December	S
0810 20	Raspberries, blackberries, mulberries and loganberries, fresh	S
0810 40 30	Fruit of the species <i>Vaccinium myrtillus</i> , fresh	S
0810 40 50	Fruit of the species <i>Vaccinium macrocarpon</i> and <i>Vaccinium corymbosum</i> , fresh	S
0810 40 90	Other fruits of the genus <i>Vaccinium</i> , fresh	S
0810 50 00	Kiwifruit, fresh	S
0810 60 00	Durians, fresh	S
0810 90 50		
0810 90 60	Black-, white- or redcurrants and gooseberries, fresh	S
0810 90 70		
0810 90 95	Other fruit, fresh	S
ex 0811	Fruit and nuts, uncooked or cooked by steaming or boiling in water, frozen, whether or not containing added sugar or other sweetening matter, except for products under subheadings 0811 10 and 0811 20	S
0811 10 (3) and 0811 20 (3)	Strawberries, raspberries, blackberries, mulberries, loganberries, black-, white- and redcurrants, and gooseberries	S
ex 0812	Fruit and nuts, provisionally preserved (for example, by sulphur dioxide gas, in brine, in sulphur water or in other preservative solutions), but unsuitable in that state for immediate consumption, except for products under subheading 0812 90 30	S
0812 90 30	Papaws (papayas)	NS
0813 10 00	Apricots, dried	S
0813 20 00	Prunes	S
0813 30 00	Apples, dried	S
0813 40 10	Peaches, including nectarines, dried	S
0813 40 30	Pears, dried	S
0813 40 50	Papaws (papayas), dried	NS
0813 40 95	Other fruit, dried, other than that of headings 0801 to 0806	NS
0813 50 12	Mixtures of dried fruit (other than that of headings 0801 to 0806) of papaws (papayas), tamarinds, cashew apples, lychees, jackfruit, sapodillo plums, passion fruit, carambola or pitahaya, but not containing prunes	S
0813 50 15	Other mixtures of dried fruit (other than that of headings 0801 to 0806), not containing prunes	S

0813 50 19	Mixtures of dried fruit (other than that of headings 0801 to 0806), containing prunes	S
0813 50 31	Mixtures exclusively of tropical nuts of headings 0801 and 0802	S
0813 50 39	Mixtures exclusively of nuts of headings 0801 and 0802, other than of tropical nuts	S
0813 50 91	Other mixtures of nuts and dried fruits of Chapter 8, not containing prunes or figs	S
0813 50 99	Other mixtures of nuts and dried fruits of Chapter 8	S
0814 00 00	Peel of citrus fruit or melons (including watermelons), fresh, frozen, dried or provisionally preserved in brine, in sulphur water or in other preservative solutions	NS
ex Chapter 9	Coffee, tea, maté and spices, except the products under subheadings 0901 12 00, 0901 21 00, 0901 22 00, 0901 90 90 and 0904 20 10, headings 0905 00 00 and 0907 00 00, and subheadings 0910 91 90, 0910 99 33, 0910 99 39, 0910 99 50 and 0910 99 99	NS
0901 12 00	Coffee, not roasted, decaffeinated	S
0901 21 00	Coffee, roasted, not decaffeinated	S
0901 22 00	Coffee, roasted, decaffeinated	S
0901 90 90	Coffee substitutes containing coffee in any proportion	S
0904 20 10	Sweet peppers, dried, neither crushed nor ground	S
0905 00 00	Vanilla	S
0907 00 00	Cloves (whole fruit, cloves and stems)	S
0910 91 90	Mixtures of two or more products under different headings of headings 0904 to 0910, crushed or ground	S
0910 99 33	Thyme; bay leaves	S
0910 99 39		
0910 99 50		
0910 99 99	Other spices, crushed or ground, other than mixtures of two or more products under different headings of headings 0904 to 0910	S
ex 1008 90 90	Quinoa	S
1105	Flour, meal, powder, flakes, granules and pellets of potatoes	S
1106 10 00	Flour, meal and powder of the dried leguminous vegetables of heading 0713	S
1106 30	Flour, meal and powder of products from Chapter 8	S
1108 20 00	Inulin	S
ex Chapter 12	Oil seeds and oleaginous fruits; miscellaneous grains, seeds and fruit, except for products under subheadings 1209 21 00, 1209 23 80, 1209 29 50, 1209 29 80, 1209 30 00, 1209 91 10, 1209 91 90 and 1209 99 91; industrial or medicinal plants, except for products under heading 1210 and subheading 1211 90 30, and excluding products under subheadings 1212 91 and 1212 99 20; straw and fodder	S

1209 21 00	Lucerne (alfalfa) seed, of a kind used for sowing	NS
1209 23 80	Other fescue seed, of a kind used for sowing	NS
1209 29 50	Lupine seed, of a kind used for sowing	NS
1209 29 80	Seeds of other forage plants, of a kind used for sowing	NS
1209 30 00	Seeds of herbaceous plants cultivated principally for their flowers, of a kind used for sowing	NS
1209 91 10	Other vegetable seeds, of a kind used for sowing 1209 91 90	NS
1209 99 91	Seeds of plants cultivated principally for their flowers, of a kind used for sowing, other than those of subheading 1209 30 00	NS
1210 (1)	Hop cones, fresh or dried, whether or not ground, powdered or in the form of pellets; lupulin	S
1211 90 30	Tonquin beans, fresh or dried, whether or not cut, crushed or powdered	NS
ex Chapter 13	Lac; gums, resins and other vegetable saps and extracts, except for products under subheading 1302 12 00	S
1302 12 00	Vegetable saps and extracts, of liquorice	NS
1501 00 90	Poultry fat, other than that of heading 0209 or 1503	S
1502 00 90	Fats of bovine animals, sheep or goats, other than those of heading 1503 and other than for industrial uses other than the manufacture of foodstuffs for human consumption	S
1503 00 19	Lard stearin and oleostearin, other than for industrial uses	S
1503 00 90	Lard oil, oleo-oil and tallow oil, not emulsified or mixed or otherwise prepared, other than tallow oil for industrial uses other than the manufacture of foodstuffs for human consumption	S
1504	Fats and oils and their fractions, of fish or marine mammals, whether or not refined, but not chemically modified	S
1505 00 10	Wool grease, crude	S
1507	Soya-bean oil and its fractions, whether or not refined, but not chemically modified	S
1508	Groundnut oil and its fractions, whether or not refined, but not chemically modified	S
1511 10 90	Palm oil, crude, other than for technical or industrial uses other than the manufacture of foodstuffs for human consumption	S
1511 90	Palm oil and its fractions, whether or not refined but not chemically modified, other than crude oil	S
1512	Sunflower-seed, safflower or cotton-seed oil and fractions thereof, whether or not refined, but not chemically modified	S
1513	Coconut (copra), palm-kernel or babassu oil and fractions thereof, whether or not refined, but not chemically modified	S
1514	Rape, colza or mustard oil and fractions thereof, whether or not refined, but not chemically modified	S
1515	Other fixed vegetable fats and oils (including jojoba oil) and their fractions, whether or not refined, but not chemically modified	S

ex 1516	Animal or vegetable fats and oils and their fractions, partly or wholly hydrogenated, inter-esterified, re-esterified or elaidinised, whether or not refined, but not further prepared, except for products under subheading 1516 20 10	S
1516 20 10	Hydrogenated castor oil, so called 'opal-wax'	NS
1517	Margarine; edible mixtures or preparations of animal or vegetable fats or oils or of fractions of different fats or oils of Chapter 15, other than edible fats or oils or their fractions of heading 1516	S
1518 00	Animal or vegetable fats and oils and their fractions, boiled, oxidised, dehydrated, sulphurised, blown, polymerised by heat in vacuum or in inert gas or otherwise chemically modified, excluding those of heading 1516; inedible mixtures or preparations of animal or vegetable fats or oils or of fractions of different fats or oils of Chapter 15, not elsewhere specified or included	S
1521 90 99	Beeswax and other insect waxes, whether or not refined or coloured, other than raw	S
1522 00 10	Degras	S
1522 00 91	Oil foots and dregs; soapstocks, other than containing oil having the characteristics of olive oil	S
1601 00 10	Sausages and similar products, of liver, and food preparations based on liver	S
1602 20 10	Goose or duck liver, prepared or preserved	S
1602 41 90	Ham and cuts thereof, prepared or preserved, of swine other than of domestic swine	S
1602 42 90	Shoulders and cuts thereof, prepared or preserved, of swine other than of domestic swine	S
1602 49 90	Other prepared or preserved meat or meat offal, including mixtures, of swine other than of domestic swine	S
1602 50 31 (3)	Other prepared or preserved meat or meat offal, cooked, of bovine animals, whether or not in airtight containers	S
1602 50 95 (3)		
1602 90 31	Other prepared or preserved meat or meat offal, of game or rabbit	S
1602 90 69	Other prepared or preserved meat or meat offal, of sheep or goats or other animals, not containing uncooked bovine meat or offal and not containing meat or meat offal of domestic swine	S
1602 90 72		
1602 90 74		
1602 90 76		
1602 90 78		
1602 90 99		
1603 00 10		Extracts and juices of meat, fish or crustaceans, molluscs or other aquatic invertebrates, in immediate packings of a net content not exceeding 1 kg
1604	Prepared or preserved fish; caviar and caviar substitutes prepared from fish eggs	S

1605	Crustaceans, molluscs and other aquatic invertebrates, prepared or preserved	S
1702 50 00	Chemically pure fructose	S
1702 90 10	Chemically pure maltose	S
1704 (4)	Sugar confectionery (including white chocolate), not containing cocoa	S
Chapter 18	Cocoa and cocoa preparations	S
ex Chapter 19	Preparations of cereals, flour, starch or milk; pastrycooks' products, except for products under subheadings 1901 20 00 and 1901 90 91	S
1901 20 00	Mixes and doughs for the preparation of bakers' wares of heading 1905	NS
1901 90 91	Other, containing no milk fats, sucrose, isoglucose, glucose or starch or containing less than 1,5 % milk fat, 5 % sucrose (including invert sugar) or isoglucose, 5 % glucose or starch, excluding food preparations in powder form of goods of headings 0401 to 0404	NS
ex Chapter 20	Preparations of vegetables, fruit, nuts or other parts of plants, except for products under heading 2002 and subheadings 2005 80 00, 2008 20 19, 2008 20 39, ex 2008 40 and ex 2008 70	S
2002 (1)	Tomatoes, prepared or preserved otherwise than by vinegar or acetic acid	S
2005 80 00 (3)	Sweetcorn ( <i>Zea mays</i> var. <i>saccharata</i> ), prepared or preserved otherwise than by vinegar or acetic acid, not frozen, other than products under heading 2006	S
2008 20 19	Pineapples, otherwise prepared or preserved, containing added spirit, not elsewhere specified or included	NS
2008 20 39		
ex 2008 40 (3)	Pears, otherwise prepared or preserved, whether or not containing added sugar or other sweetening matter or spirit, not elsewhere specified or included (except for products under subheadings 2008 40 11, 2008 40 21, 2008 40 29 and 2008 40 39, to which the footnote shall not apply)	S
ex 2008 70 (3)	Peaches, including nectarines, otherwise prepared or preserved, whether or not containing added sugar or other sweetening matter or spirit, not elsewhere specified or included (except for products under subheadings 2008 70 11, 2008 70 31, 2008 70 39 and 2008 70 59, to which the footnote shall not apply)	S
ex Chapter 21	Miscellaneous edible preparations, except for products under subheadings 2101 20 and 2102 20 19, and excluding products under subheadings 2106 10, 2106 90 30, 2106 90 51, 2106 90 55 and 2106 90 59	S
2101 20	Extracts, essences and concentrates, of tea or maté, and preparations with a basis of these extracts, essences or concentrates, or with a basis of tea or maté	NS
2102 20 19	Other inactive yeasts	NS
ex Chapter 22	Beverages, spirits and vinegar, except for products under heading 2207, and excluding products under subheadings 2204 10 11 to 2204 30 10 and	S

	subheading 2208 40	
2207 (1)	Undenatured ethyl alcohol of an alcoholic strength by volume of 80 % vol or higher; ethyl alcohol and other spirits, denatured, of any strength	S
2302 50 00	Residues and wastes of a similar kind, whether or not in the form of pellets, resulting from the grinding or other working of leguminous plants	S
2307 00 19	Other wine lees	S
2308 00 19	Other grape marc	S
2308 00 90	Other vegetable materials and vegetable waste, vegetable residues and by-products, whether or not in the form of pellets, of a kind used in animal feeding, not elsewhere specified or included	NS
2309 10 90	Other dog or cat food put up for retail sale, other than containing starch or glucose, glucose syrup, maltodextrine or maltodextrine syrup of subheadings 1702 30 50 to 1702 30 90, 1702 40 90, 1702 90 50 and 2106 90 55 or milk products	S
2309 90 10	Fish or marine mammal solubles, of a kind used in animal feeding	NS
2309 90 91	Beetpulp with added molasses, of a kind used in animal feeding	S
2309 90 95	Other preparations of a kind used in animal feeding, whether or not containing by weight 49 % or more of choline chloride on an organic or inorganic base	S
2309 90 99		S
Chapter 24	Tobacco and manufactured tobacco substitutes	S
2519 90 10	Magnesium oxide, other than calcined natural magnesium carbonate	NS
2522	Quicklime, slaked lime and hydraulic lime, other than calcium oxide and hydroxide of heading 2825	NS
2523	Portland cement, aluminous cement, slag cement, supersulphate cement and similar hydraulic cements, whether or not coloured or in the form of clinkers	NS
Chapter 27	Mineral fuels, mineral oils and products of their distillation; bituminous substances; mineral waxes	NS
2801	Fluorine, chlorine, bromine and iodine	NS
2802 00 00	Sulphur, sublimed or precipitated; colloidal sulphur	NS
ex 2804	Hydrogen, rare gases and other non-metals, excluding products under subheading 2804 69 00	NS
2806	Hydrogen chloride (hydrochloric acid); chlorosulphuric acid	NS
2807 00	Sulphuric acid; oleum	NS
2808 00 00	Nitric acid; sulphonitric acids	NS
2809	Diphosphorus pentoxide; phosphoric acid; polyphosphoric acids, whether or not chemically defined	NS
2810 00 90	Oxides of boron, other than diboron trioxide; boric acids	NS
2811	Other inorganic acids and other inorganic oxygen compounds of non-metals	NS

2812	Halides and halide oxides of non-metals	NS
2813	Sulphides of non-metals; commercial phosphorus trisulphide	NS
2814	Ammonia, anhydrous or in aqueous solution	S
2815	Sodium hydroxide (caustic soda); potassium hydroxide (caustic potash); peroxide of sodium or potassium	S
2816	Hydroxide and peroxide of magnesium; oxides, hydroxides and peroxides, of strontium or barium	NS
2817 00 00	Zinc oxide; zinc peroxide	S
2818 10	Artificial corundum, whether or not chemically defined	S
2819	Chromium oxides and hydroxides	S
2820	Manganese oxides	S
2821	Iron oxides and hydroxides; earth colours containing by weight 70 % or more of combined iron evaluated as Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	NS
2822 00 00	Cobalt oxides and hydroxides; commercial cobalt oxides	NS
2823 00 00	Titanium oxides	S
2824	Lead oxides; red lead and orange lead	NS
ex 2825	Hydrazine and hydroxylamine and their inorganic salts; other inorganic bases; other metal oxides, hydroxides and peroxides, except for products under sub-headings 2825 10 00 and 2825 80 00	NS
2825 10 00	Hydrazine and hydroxylamine and their inorganic salts	S
2825 80 00	Antimony oxides	S
2826	Fluorides; fluorosilicates, fluoroaluminates and other complex fluorine salts	NS
ex 2827	Chlorides, chloride oxides and chloride hydroxides, except for products under subheadings 2827 10 00 and 2827 32 00; bromides and bromide oxides; iodides and iodide oxides	NS
2827 10 00	Ammonium chloride	S
2827 32 00	Aluminium chloride	S
2828	Hypochlorites; commercial calcium hypochlorite; chlorites; hypobromites	NS
2829	Chlorates and perchlorates; bromates and perbromates; iodates and periodates	NS
ex 2830	Sulphides, except for products under subheading 2830 10 00; polysulphides, whether or not chemically defined	NS
2830 10 00	Sodium sulphides	S
2831	Dithionites and sulphyoxylates	NS
2832	Sulphites; thiosulphates	NS
2833	Sulphates; alums; peroxosulphates (persulphates)	NS
2834 10 00	Nitrites	S
2834 21 00	Nitrates	NS
2834 29		
2835	Phosphinates (hypophosphites), phosphonates (phosphites) and phosphates; polyphosphates, whether or not chemically defined	S



ex 2836	Carbonates, except for products under subheadings 2836 20 00, 2836 40 00 and 2836 60 00; peroxocarbonates (percarbonates); commercial ammonium carbonate containing ammonium carbamate	NS
2836 20 00	Disodium carbonate	S
2836 40 00	Potassium carbonates	S
2836 60 00	Barium carbonate	S
2837	Cyanides, cyanide oxides and complex cyanides	NS
2839	Silicates; commercial alkali metal silicates	NS
2840	Borates; peroxoborates (perborates)	NS
ex 2841	Salts of oxometallic or peroxometallic acids, except for the product of subheading 2841 61 00	NS
2841 61 00	Potassium permanganate	S
2842	Other salts of inorganic acids or peroxyacids (including aluminosilicates, whether or not chemically defined), other than azides	NS
2843	Colloidal precious metals; inorganic or organic compounds of precious metals, whether or not chemically defined; amalgams of precious metals	NS
ex 2844 30 11	Cermets containing uranium depleted in U-235 or compounds of this product, other than unwrought	NS
ex 2844 30 51	Cermets containing thorium or compounds of thorium, other than unwrought	NS
2845 90 90	Isotopes other than those of heading 2844, and compounds, inorganic or organic, of such isotopes, whether or not chemically defined, other than deuterium and compounds thereof, hydrogen and compounds thereof enriched in deuterium or mixtures and solutions containing these products	NS
2846	Compounds, inorganic or organic, of rare-earth metals, of yttrium or of scandium or of mixtures of these metals	NS
2847 00 00	Hydrogen peroxide, whether or not solidified with urea	NS
2848 00 00	Phosphides, whether or not chemically defined, excluding ferrophosphorus	NS
ex 2849	Carbides, whether or not chemically defined, except for products under subheadings 2849 20 00 and 2849 90 30	NS
2849 20 00	Silicon carbide, whether or not chemically defined	S
2849 90 30	Carbides of tungsten, whether or not chemically defined	S
ex 2850 00	Hydrides, nitrides, azides, silicides and borides, whether or not chemically defined, other than compounds which are also carbides of heading 2849, except for products under subheading 2850 00 70	NS
2850 00 70	Silicides, whether or not chemically defined	S
2852 00 00	Compounds, inorganic or organic, of mercury, excluding amalgams	NS
2853 00	Other inorganic compounds (including distilled or conductivity	NS

	water and water of similar purity); liquid air (whether or not rare gases have been removed); compressed air; amalgams, other than amalgams of precious metals	
2903	Halogenated derivatives of hydrocarbons	S
ex 2904	Sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives of hydrocarbons, whether or not halogenated, except for products under subheading 2904 20 00	NS
2904 20 00	Derivatives containing only nitro or only nitroso groups	S
ex 2905	Acyclic alcohols and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives, except for the product of subheading 2905 45 00, and excluding products under subheadings 2905 43 00 and 2905 44	S
2905 45 00	Glycerol	NS
2906	Cyclic alcohols and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	NS
ex 2907	Phenols, except for products under subheadings 2907 15 90 and ex 2907 22 00; phenol-alcohols	NS
2907 15 90	Naphthols and their salts, other than 1-naphthol	S
ex 2907 22 00	Hydroquinone (quinol)	S
2908	Halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives of phenols or phenol-alcohols	NS
2909	Ethers, ether-alcohols, ether-phenols, ether-alcohol-phenols, alcohol peroxides, ether peroxides, ketone peroxides (whether or not chemically defined), and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	S
2910	Epoxides, epoxyalcohols, epoxyphenols and epoxyethers, with a three-membered ring, and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	NS
2911 00 00	Acetals and hemiacetals, whether or not with other oxygen function, and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	NS
ex 2912	Aldehydes, whether or not with other oxygen function; cyclic polymers of aldehydes; paraformaldehyde, except for the product of subheading 2912 41 00	NS
2912 41 00	Vanillin (4-hydroxy-3-methoxybenzaldehyde)	S
2913 00 00	Halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives of products under heading 2912	NS
ex 2914	Ketones and quinones, whether or not with other oxygen function, and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives, except for products under subheadings 2914 11 00, 2914 21 00 and 2914 22 00	NS
2914 11 00	Acetone	S
2914 21 00	Camphor	S
2914 22 00	Cyclohexanone and methylcyclohexanones	S

2915	Saturated acyclic monocarboxylic acids and their anhydrides, halides, peroxides and peroxyacids; their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	S
ex 2916	Unsaturated acyclic monocarboxylic acids, cyclic monocarboxylic acids, their anhydrides, halides, peroxides and peroxyacids, and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives, except for products under subheadings ex 2916 11 00, 2916 12 and 2916 14	NS
ex 2916 11 00	Acrylic acid	S
2916 12	Esters of acrylic acid	S
2916 14	Esters of methacrylic acid	S
ex 2917	Polycarboxylic acids, their anhydrides, halides, peroxides and peroxyacids and their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives, except for products under subheadings 2917 11 00, 2917 12 10, 2917 14 00, 2917 32 00, 2917 35 00 and 2917 36 00	NS
2917 11 00	Oxalic acid, its salts and esters	S
2917 12 10	Adipic acid and its salts	S
2917 14 00	Maleic anhydride	S
2917 32 00	Dioctyl orthophthalates	S
2917 35 00	Phthalic anhydride	S
2917 36 00	Terephthalic acid and its salts	S
ex 2918	Carboxylic acids with additional oxygen function and their anhydrides, halides, peroxides and peroxyacids; their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives, except for products under subheadings 2918 14 00, 2918 15 00, 2918 21 00, 2918 22 00 and 2918 29 10	NS
2918 14 00	Citric acid	S
2918 15 00	Salts and esters of citric acid	S
2918 21 00	Salicylic acid and its salts	S
2918 22 00	o-Acetylsalicylic acid, its salts and esters	S
2918 29 10	Sulphosalicylic acids, hydroxynaphthoic acids; their salts and esters	S
2919	Phosphoric esters and their salts, including lactophosphates; their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	NS
2920	Esters of other inorganic acids of non-metals (excluding esters of hydrogen halides) and their salts; their halogenated, sulphonated, nitrated or nitrosated derivatives	NS
2921	Amine-function compounds	S
2922	Oxygen-function amino-compounds	S
2923	Quaternary ammonium salts and hydroxides; lecithins and other phosphoamino-lipids, whether or not chemically defined	NS
ex 2924	Carboxamide-function compounds and amide-function	S

	compounds of carbonic acid, except for products under subheading 2924 23 00	
2924 23 00	2-Acetamidobenzoic acid (N-acetylanthranilic acid) and its salts	NS
2925	Carboxyimide-function compounds (including saccharin and its salts) and imine-function compounds	NS
ex 2926	Nitrile-function compounds, except for the product of subheading 2926 10 00	NS
2926 10 00	Acrylonitrile	S
2927 00 00	Diazo-, azo- or azoxy-compounds	S
2928 00 90	Other organic derivatives of hydrazine or of hydroxylamine	NS
2929 10	Isocyanates	S
2929 90 00	Other compounds with other nitrogen function	NS
2930 20 00	Thiocarbamates and dithiocarbamates, and thiuram mono-, di- or tetrasulphides; dithiocarbonates (xanthates)	NS
2930 30 00		
ex 2930 90 85		
2930 40 90		
2930 50 00		
2930 90 13	Methionine, captafol (ISO), methamidophos (ISO), and other organo-sulphur compounds other than dithiocarbonates (xanthates)	S
2930 90 16		
2930 90 20		
ex 2930 90 85		
2931 00	Other organo-inorganic compounds	NS
ex 2932	Heterocyclic compounds with oxygen hetero-atom(s) only, except for products under subheadings 2932 12 00, 2932 13 00 and 2932 21 00	NS
2932 12 00	2-Furaldehyde (furfuraldehyde)	S
2932 13 00	Furfuryl alcohol and tetrahydrofurfuryl alcohol	S
2932 21 00	Coumarin, methylcoumarins and ethylcoumarins	S
ex 2933	Heterocyclic compounds with nitrogen hetero-atom(s) only, except for the product of subheading 2933 61 00	NS
2933 61 00	Melamine	S
2934	Nucleic acids and their salts, whether or not chemically defined; other heterocyclic compounds	NS
2935 00 90	Other sulphonamides	S
2938	Glycosides, natural or reproduced by synthesis, and their salts, ethers, esters and other derivatives	NS
ex 2940 00 00	Sugars, chemically pure, other than sucrose, lactose, maltose, glucose and fructose, and except for rhamnose, raffinose and mannose; sugar ethers, sugar acetals and sugar esters, and their salts, other than products under heading 2937, 2938 or 2939	S
ex 2940 00 00	Rhamnose, raffinose and mannose	NS

2941 20 30	Dihydrostreptomycin, its salts, esters and hydrates	NS
2942 00 00	Other organic compounds	NS
3102 (1)	Mineral or chemical fertilisers, nitrogenous	S
3103 10	Superphosphates	S
3105	Mineral or chemical fertilisers containing two or three of the fertilising elements nitrogen, phosphorus and potassium; other fertilisers; goods of Chapter 31 in tablets or similar forms or in packages of a gross weight not exceeding 10 kg	S
ex Chapter 32	Tanning or dyeing extracts; tannins and their derivatives; dyes, pigments and other colouring matter; paints and varnishes; putty and other mastics; inks; except for products under headings 3204 and 3206, and excluding products under subheadings 3201 20 00, 3201 90 20, ex 3201 90 90 (tanning extracts of eucalyptus), ex 3201 90 90 (tanning extracts derived from gambier and myrobalan fruits) and ex 3201 90 90 (other tanning extracts of vegetable origin)	NS
3204	Synthetic organic colouring matter, whether or not chemically defined; preparations as specified in note 3 to Chapter 32 based on synthetic organic colouring matter; synthetic organic products of a kind used as fluorescent brightening agents or as luminophores, whether or not chemically defined	S
3206	Other colouring matter; preparations as specified in note 3 to Chapter 32, other than those of heading 3203, 3204 or 3205; inorganic products of a kind used as luminophores, whether or not chemically defined	S
Chapter 33	Essential oils and resinoids; perfumery, cosmetic or toilet preparations	NS
Chapter 34	Soap, organic surface-active agents, washing preparations, lubricating preparations, artificial waxes, prepared waxes, polishing or scouring preparations, candles and similar articles, modelling pastes, 'dental waxes' and dental preparations with a	NS
3501	Casein, caseinates and other casein derivatives; casein glues	S
3502 90 90	Albuminates and other albumin derivatives	NS
3503 00	Gelatin (including gelatin in rectangular (including square) sheets, whether or not surface-worked or coloured) and gelatin derivatives; isinglass; other glues of animal origin, excluding	NS
3504 00 00	Peptones and their derivatives; other protein substances and their derivatives, not elsewhere specified or included; hide powder,	NS
3505 10 50	Starches, esterified or etherified	NS
3506	Prepared glues and other prepared adhesives, not elsewhere specified or included; products suitable for use as glues or adhesives, put up for retail sale as glues or adhesives, not	NS
3507	Enzymes; prepared enzymes not elsewhere specified or included	S

Chapter 36	Explosives; pyrotechnic products; matches; pyrophoric alloys; certain combustible preparations	NS
Chapter 37	Photographic or cinematographic goods	NS
ex Chapter 38	Miscellaneous chemical products, except for products under headings 3802 and 3817 00, subheadings 3823 12 00 and 3823 70 00, and heading 3825, and excluding the products under subheadings 2800 10 and 2824 60	NS
3802	Activated carbon; activated natural mineral products; animal black, including spent animal black	S
3817 00	Mixed alkylbenzenes and mixed alkylnaphthalenes, other than those of heading 2707 or 2902	S
3823 12 00	Oleic acid	S
3823 70 00	Industrial fatty alcohols	S
3825	Residual products of the chemical or allied industries, not elsewhere specified or included; municipal waste; sewage sludge; other wastes specified in note 6 to Chapter 28	S
ex Chapter 39	Plastics and articles thereof, except for products under headings 3901, 3902, 3903 and 3904, subheadings 3906 10 00, 3907 10 00, 3907 60 and 3907 99, headings 3908 and 3920, and subheadings 3921 90 19 and 3923 21 00	NS
3901	Polymers of ethylene, in primary forms	S
3902	Polymers of propylene or of other olefins, in primary forms	S
3903	Polymers of styrene, in primary forms	S
3904	Polymers of vinyl chloride or of other halogenated olefins, in primary forms	S
3906 10 00	Poly(methyl methacrylate)	S
3907 10 00	Polyacetals	S
3907 60	Poly(ethylene terephthalate)	S
3907 99	Other polyesters, other than unsaturated	S
3908	Polyamides in primary forms	S
3920	Other plates, sheets, film, foil and strip, of plastics, non-cellular and not reinforced, laminated, supported or similarly combined	S
3921 90 19	Other plates, sheets, film, foil and strip, of polyesters, other than cellular products and other than corrugated sheets and plates	S
3923 21 00	Sacks and bags (including cones), of polymers of ethylene	S
ex Chapter 40	Rubber and articles thereof, except for products under heading 4010	NS
4010	Conveyor or transmission belts or belting, of vulcanised rubber	S
ex 4104	Tanned or crust hides and skins of bovine (including buffalo) or equine animals, without hair on, whether or not split, but not further prepared, excluding the products under subheadings 4104 41 19 and 4104 49 19	S

ex 4106 31	Tanned or crust hides and skins of swine, without hair on, in the wet state (including wet-blue), split but not further prepared, or in the dry state (crust), whether or not split, but not further prepared, excluding the products under sub-heading 4106 31 10	NS
4106 32		
4107	Leather further prepared after tanning or crusting, including parchment-dressed leather, of bovine (including buffalo) or equine animals, without hair on, whether or not split, other than leather of heading 4114	S
4112 00 00	Leather further prepared after tanning or crusting, including parchment-dressed leather, of sheep or lamb, without wool on, whether or not split, other than leather of heading 4114	S
ex 4113	Leather further prepared after tanning or crusting, including parchment-dressed leather, of other animals, without wool or hair on, whether or not split, other than leather of heading 4114, except for products under subheading 4113 10 00	NS
4113 10 00	Of goats or kids	S
4114	Chamois (including combination chamois) leather; patent leather and patent laminated leather; metallised leather	S
4115 10 00	Composition leather with a basis of leather or leather fibre, in slabs, sheets or strip, whether or not in rolls	S
ex Chapter 42	Articles of leather; saddlery and harness; travel goods, handbags and similar containers; articles of animal gut (other than silkworm gut); except for products under headings 4202 and 4203	NS
4202	Trunks, suitcases, vanity cases, executive-cases, briefcases, school satchels, spectacle cases, binocular cases, camera cases, musical instrument cases, gun cases, holsters and similar containers; travelling-bags, insulated food or beverages bags, toilet bags, rucksacks, handbags, shopping-bags, wallets, purses, map-cases, cigarette-cases, tobacco-pouches, tool bags, sports bags, bottle-cases, jewellery boxes, powder boxes, cutlery cases and similar containers, of leather or of composition leather, of sheeting of plastics, of textile materials, of vulcanised fibre or of paperboard, or wholly or mainly covered with such materials or with paper	S
4203	Articles of apparel and clothing accessories, of leather or of composition leather	S
Chapter 43	Furskins and artificial fur; manufactures thereof	NS
ex Chapter 44	Wood and articles of wood, except for products under headings 4410, 4411, 4412, subheadings 4418 10, 4418 20 10, 4418 71 00, 4420 10 11, 4420 90 10 and 4420 90 91; wood charcoal	NS
4410	Particle board, oriented strand board (OSB) and similar board (for example, waferboard) of wood or other ligneous materials, whether or not agglomerated with resins or other organic binding substances	S

4411	Fibreboard of wood or other ligneous materials, whether or not bonded with res-ins or other organic substances	S
4412	Plywood, veneered panels and similar laminated wood	S
4418 10	Windows, French windows and their frames, of wood	S
4418 20 10	Doors and their frames and thresholds, of tropical wood as specified in additional note 2 to Chapter 44	S
4418 71 00	Assembled flooring panels for mosaic floors, of wood	S
4420 10 11	Statuettes and other ornaments, of tropical wood as specified in additional note 2 to Chapter 44; wood marquetry and inlaid wood;	S
4420 90 10	caskets and cases for jewellery or cutlery, and similar articles, and wooden articles of furniture not falling in Chapter 94, of tropical wood as specified in additional note 2 to Chapter 44	
4420 90 91		
ex Chapter 45	Cork and articles of cork, except for products under heading 4503	NS
4503	Articles of natural cork	S
Chapter 46	Manufactures of straw, of esparto or of other plaiting materials; basketware and wickerwork	S
Chapter 50	Silk	S
ex Chapter 51	Wool, fine or coarse animal hair, excluding the products under heading 5105; horsehair yarn and woven fabric	S
Chapter 52	Cotton	S
Chapter 53	Other vegetable textile fibres; paper yarn and woven fabrics of paper yarn	S
Chapter 54	Man-made filaments; strip and the like of man-made textile materials	S
Chapter 55	Man-made staple fibres	S
Chapter 56	Wadding, felt and nonwovens; special yarns; twine, cordage, ropes and cables and articles thereof	S
Chapter 57	Carpets and other textile floor coverings	S
Chapter 58	Special woven fabrics; tufted textile fabrics; lace; tapestries; trimmings; embroidery	S
Chapter 59	Impregnated, coated, covered or laminated textile fabrics; textile articles of a kind suitable for industrial use	S
Chapter 60	Knitted or crocheted fabrics	S
Chapter 61	Articles of apparel and clothing accessories, knitted or crocheted	S
Chapter 62	Articles of apparel and clothing accessories, not knitted or crocheted	S
Chapter 63	Other made-up textile articles; sets; worn clothing and worn textile articles; rags	S
Chapter 64	Footwear, gaiters and the like; parts of such articles	S
Chapter 65	Headgear and parts thereof	NS
Chapter 66	Umbrellas, sun umbrellas, walking sticks, seat-sticks, whips, riding-crops and parts thereof	S
Chapter 67	Prepared feathers and down and articles made of feathers or of down;	NS



	artificial flowers; articles of human hair	
Chapter 68	Articles of stone, plaster, cement, asbestos, mica or similar materials	NS
Chapter 69	Ceramic products	S
Chapter 70	Glass and glassware	S
ex Chapter 71	Natural or cultured pearls, precious or semi-precious stones, precious metals, metals clad with precious metal, and articles thereof; imitation jewellery; coin; except for products under heading 7117	NS
7117	Imitation jewellery	S
7202	Ferro-alloys	S
Chapter 73	Articles of iron or steel	NS
Chapter 74	Copper and articles thereof	S
7505 12 00	Bars, rods and profiles, of nickel alloys	NS
7505 22 00	Wire, of nickel alloys	NS
7506 20 00	Plates, sheets, strip and foil, of nickel alloys	NS
7507 20 00	Nickel tube or pipe fittings	NS
ex Chapter 76	Aluminium and articles thereof, excluding the products under heading 7601	S
ex Chapter 78	Lead and articles thereof, excluding the products under heading 7801	S
ex Chapter 79	Zinc and articles thereof, excluding the products under headings 7901 and 7903	S
ex Chapter 81	Other base metals; cermets; articles thereof, excluding the products under sub-headings 8101 10 00, 8101 94 00, 8102 10 00, 8102 94 00, 8104 11 00, 8104 19 00, 8107 20 00, 8108 20 00, 8108 30 00, 8109 20 00, 8110 10 00, 8112 21 90, 8112 51 00, 8112 59 00, 8112 92 and 8113 00 20	S
Chapter 82	Tools, implements, cutlery, spoons and forks, of base metal; parts thereof, of base metal	S
Chapter 83	Miscellaneous articles of base metal	S
ex Chapter 84	Nuclear reactors, boilers, machinery and mechanical appliances, and parts thereof, except for products under subheadings 8401 10 00 and 8407 21 10	NS
8401 10 00	Nuclear reactors	S
8407 21 10	Outboard motors, of a cylinder capacity not exceeding 325 cm <sup>3</sup>	S
ex Chapter 85	Electrical machinery and equipment and parts thereof; sound recorders and reproducers, television image and sound recorders and reproducers, and parts and accessories of such articles, except for products under subheadings 8516 50 00, 8517 69 39, 8517 70 15, 8517 70 19, 8519 20, 8519 30, 8519 81 11 to 8519 81 45, 8519 81 85, 8519 89 11 to 8519 89 19, headings 8521, 8525 and 8527, subheadings 8528 49, 8528 59 and 8528 69 to 8528 72, heading 8529 and subheadings 8540 11 and 8540 12	NS
8516 50 00	Microwave ovens	S

8517 69 39	Reception apparatus for radio-telephony or radio telegraphy, other than portable receivers for calling, alerting or paging	S
8517 70 15	Aerials and aerial reflectors of all kinds, other than aerials for radio-telegraphic or radio-telephonic apparatus; parts suitable for use therewith	S
8517 70 19		
8519 20	Apparatus operated by coins, banknotes, bank cards, tokens or by other means of payment; turntables (record-decks)	S
8519 30		
8519 81 11 to	Sound-reproducing apparatus (including cassette-players), not incorporating a sound-recording device	S
8519 81 45		
8519 81 85	Other magnetic tape recorders incorporating sound-reproducing apparatus, other than cassette-type	S
8519 89 11 to	Other sound-reproducing apparatus, not incorporating a sound-recording device	S
8519 89 19		
8521	Video recording or reproducing apparatus, whether or not incorporating a video tuner	S
8525	Transmission apparatus for radio-broadcasting or television, whether or not incorporating reception apparatus or sound-recording or -reproducing apparatus; television cameras; digital cameras and video camera recorders	S
8527	Reception apparatus for radio-broadcasting, whether or not combined, in the same housing, with sound-recording or -reproducing apparatus or a clock	S
8528 49	Monitors and projectors, not incorporating television-reception apparatus, other than of a kind used solely or principally in an automatic data-processing system of heading 8471; reception apparatus for television, whether or not incorporating radio-broadcast receivers or sound- or video-recording or -reproducing apparatus	S
8528 59		
8528 69 to		
8528 72		
8529	Parts suitable for use solely or principally with the apparatus of headings 8525 to 8528	S
8540 11	Cathode ray television picture tubes, including video monitor cathode ray tubes, colour, or black-and-white or other monochrome	S
8540 12 00		
Chapter 86	Railway or tramway locomotives, rolling stock and parts thereof; railway or tramway track fixtures and fittings and parts thereof; mechanical (including electromechanical) traffic-signalling equipment of all kinds	NS
ex Chapter 87	Vehicles other than railway or tramway rolling stock, and parts and accessories thereof, except for products under headings 8702, 8703, 8704, 8705, 8706 00, 8707, 8708, 8709, 8711, 8712 00 and 8714	NS
8702	Motor vehicles for the transport of ten or more persons, including the driver	S
8703	Motor cars and other motor vehicles principally designed for the transport of persons (other than those of heading 8702), including station wagons and racing cars	S
8704	Motor vehicles for the transport of goods	S

8705	Special-purpose motor vehicles, other than those principally designed for the transport of persons or goods (for example, breakdown lorries, crane lorries, fire-fighting vehicles, concrete-mixer lorries, road-sweeper lorries, spraying lorries, mobile workshops, mobile radiological units)	S
8706 00	Chassis fitted with engines, for the motor vehicles of headings 8701 to 8705	S
8707	Bodies (including cabs), for the motor vehicles of headings 8701 to 8705	S
8708	Parts and accessories of the motor vehicles of headings 8701 to 8705	S
8709	Works trucks, self-propelled, not fitted with lifting or handling equipment, of the type used in factories, warehouses, dock areas or airports for short-distance transport of goods; tractors of the type used on railway-station platforms; parts of the foregoing vehicles	S
8711	Motorcycles (including mopeds) and cycles fitted with an auxiliary motor, with or without sidecars; sidecars	S
8712 00	Bicycles and other cycles (including delivery tricycles), not motorised	S
8714	Parts and accessories of vehicles of headings 8711 to 8713	S
Chapter 88	Aircraft, spacecraft, and parts thereof	NS
Chapter 89	Ships, boats and floating structures	NS
Chapter 90	Optical, photographic, cinematographic, measuring, checking, precision, medical or surgical instruments and apparatus; parts and accessories thereof	S
Chapter 91	Clocks and watches and parts thereof	S
Chapter 92	Musical instruments; parts and accessories of such articles	NS
ex Chapter 94	Furniture; bedding, mattresses, mattress supports, cushions and similar stuffed furnishings; lamps and lighting fittings, not elsewhere specified or included; illuminated signs, illuminated nameplates and the like; prefabricated buildings, except for products under heading 9405	NS
9405	Lamps and lighting fittings including searchlights and spotlights and parts thereof, not elsewhere specified or included; illuminated signs, illuminated nameplates and the like, having a permanently fixed light source, and parts thereof not elsewhere specified or included	S
ex Chapter 95	Toys, games and sports requisites; parts and accessories thereof; except for products under subheadings	NS
9503 00 30 to 9503 00 99	Other toys; reduced-size (scale) models and similar recreational models, working or not; puzzles of all kinds	S
Chapter 96	Miscellaneous manufactured articles	NS

Table 3.8 MFN tariff and GSP of countries importing selected Mongolian raw and semi-processed wool and cashmere in 2007

HS Code (first 6 digits are international)	Selected key exports of wool and cashmere (raw and semi-processed) under HSC's Chapter 51, 2007	MFN tariff and GSP of selected key importing countries, to which Mongolian raw and semi-processed wool and cashmere exported, 2007					
		China	Hong Kong	India	EU	Japan	Russia
5101	Wool, not carded or combed (sheep)	38.00%	0.00%	51011100, 51011900, 51012900 =15.00%; 51013000, 51012100 =30.00%	0.00%	0.00%	10.00%  GSP is 7.50%
5102.11.20	Washed or dehaired (goat) cashmere	51021100 = 9.00%	51021100 = 0.00%	51021110 = 15.00%	51021100 = 0.00%	51021100 = 0.00%	51021100 = 15.00%
5102.19.42	Washed camel mane	51021930 = 9.00%	5102194000 = no data	51021990, 51021910 = 15.00%	51021910, 5102194000, = 0.00%	51021900 = 0.00%	51021910, 51021930, 5102194000, 51021990 = 15.00%
5102.19.44	Washed camel wool, other than normal	51021930 = 9.00%	5102194000 = no data	51021990, 51021910 = 15.00%	51021910, 5102194000, = 0.00%	51021900 = 0.00%	51021910, 51021930, 5102194000, 51021990 = 15.00%
5105.31.10	Combed tops	51053100 = 5.00%	51053100, 51053900 = 0.00%	51053100 = 15%	51053100 = 2.00%	51053100 = 0.00%	51053100 = 15.00%
5105.31.20	Goat cashmere tops	51053100 = 5.00%	51053100, 51053900 = 0.00%	51053100 = 15%	51053100 = 2.00%	51053100 = 0.00%	51053100 = 15.00%

HS Code (first 6 digits are international)	Selected key exports of wool and cashmere (raw and semi-processed) under HSC's Chapter 61	MFN tariff and GSP of selected key importing countries, to which Mongolian value-added wool and cashmere knitwear and woven products were exported, 2007						
		Canada	EU	Japan	Korea	Russia	Switzer-land	US
6102.10.20	Women's or girls' cashmere overcoats (other than specified in 6104)	61021000 = 18.00%	6102101010 and 6102101090 = 12%	610210010, 610210020 = 10.90%	61021000 = 13.00%	6102101000 = 3931.29 \$/Ton but original tariff reported by the country is "20% but not less than 3 euro/kg"	61021000 = "Total ad valorem equivalent tariff is 2.92% GSP is 1.46%	61021000 = 16.40% + 559.00 \$/Ton
6110.12.00	Jerseys and cardigans, of goat cashmere	611012010 = 18%; 6110121090 = 18.00%	6110121010, 6110121090, 6110129010, 6110129090 = 12.00%	611012010, 611012020, 61101210 = 10.90%w	61101200 = 13.00%	61101210 = 2620.86 \$/Ton but original tariff reported by the country "20% but not less than 2 euro/kg"	61101200 = "Total ad valorem equivalent tariff (estimat-ed) is 1.00%" and its GSP is 0.50%	61101210 = 4.00%
6301.20.10	Blankets made of goat cashmere	63012000 = 17%	6301201000, 6301209010, 6301209090 = 12.00%	630120010, 630120090 = 5.3%	63012000 = 10.00%	6301201000, 6301209010 = 917.30 \$/Ton but its Original tariff reported by the country "20% but not less than 0.7 euro/kg"	63012000 = "Total ad valorem equivalent tariff (estimat-ed) is 5.02%" GSP is 2.51%	63012000 = 0.00%
6301.20.20	Blankets made of camel wool	63012000 = 17%	6301201000, 6301209010, 6301209090 = 12.00%	630120010, 630120090 = 5.3%	63012000 = 10.00%	6301201000, 6301209010 = 917.30 \$/Ton but its Original tariff reported by the country "20% but not less than 0.7 euro/kg"	63012000 = Total ad valorem equivalent tariff (est.) is 5.02% GSP is =2.51%	63012000 = 0.00%

Source: <http://www.macmap.org>; updates by authors.

付属資料10. 環境基準（規制）値

①大気（室外）の汚染許容基準

	単位測定期間	測定単位	許容基準	
化学的な影響				
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> ) ㊟	10分の平均	mkg/m <sup>2</sup>	500	
	20分の平均		450	
	24時間の平均		20	
	年間の平均		10	
一酸化炭素 (CO) ㊟	30分の平均	mkg/m <sup>2</sup>	60,000	
	1時間の平均		30,000	
	8時間の平均		10	
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> ) ㊟	20分の平均	mkg/m <sup>2</sup>	85	
	24時間の平均		40	
	年間の平均		30	
オゾン (O <sub>3</sub> ) ㊟	8時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	100	
埃（測定できる全ての物体）㊟	30分の平均	mkg/m <sup>2</sup>	500	
	24時間の平均		150	
	年間平均		100	
大粒の埃 (PM10) ㊟	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	100	
	年間平均		50	
細粒の埃 (PM2.5) ㊟	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	50	
	年間平均		25	
鉛 (Pb) ㊟	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	1	
	年間平均		0.5	
ベンゾ (a) ピリン (C <sub>20</sub> H <sub>12</sub> ) ㊟	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	0.001	
物理的な影響				
騒音㊟	一昼 (07時—23時)	16時間の平均	dB音圧	60
	一夜 (23時—07時)	8時間の平均		45
説明； ㊟—室内空気の質の基準数値として利用される。				

②室内空気の汚染許容基準

	測定平均期間	測定単位	許容基準
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	1800
ラドン (Rn)	24時間の平均	mk3v/m <sup>2</sup>	0.005
ホルムアルデヒド (CH <sub>2</sub> O)	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	0.3
空気酸化質	24時間の平均	mkg/m <sup>2</sup>	4,000~6,000

③室内空気の物理的な基準数値

	測定条件	測定単位	許容基準
気温	平均的な測定	気温	18~22
空気の移動速度	平均的な測定	m/s	0.2~0.4
相対湿度	平均的な測定	%	30~60
照明	一人間が通常存在する場合	ルクス	150~300
	一人間が通常に存在しない場合		50~150

夏季；室内気温は室外気温より3度以上にはならない。

④水質指標及びその基本条件 (MNS4586:1998)

No.	物質名	単位	基準値
1	pH値		6.5-8.5以下
2	酸素 (O <sub>2</sub> )	mgO/l	6 & 4以上
3	生化学的必須酸素	mgO/l	3以下
4	科学的必須酸素 (Mn)	mgO/l	10以下
5	アンモニウム態窒素 (NH <sub>4</sub> -N)	mgN/l	0.5以下
6	亜硝酸態窒素 (NO <sub>2</sub> -N)	mgN/l	0.02以下
7	硝酸態窒素 (NO <sub>3</sub> -N)	mgN/l	9.0以下
8	リン酸態リン (PO <sub>4</sub> -P)	mgR/l	0.1以下
9	塩イオン素 (Cl)	mg/l	300以下
10	フッ素 (F)	mg/l	1.5以下
11	SO <sub>4</sub>	mg/l	100以下
12	マンガン (Mn)	mg/l	0.1以下
13	ニッケル (Ni)	mg/l	0.01以下
14	銅 (Cu)	mg/l	0.01以下
15	モリブデン (Mo)	mg/l	0.25以下
16	カドミウム (Cd)	mg/l	0.005以下
17	コバルト (Co)	mg/l	0.01以下
18	鉛 (Pb)	mg/l	0.01以下
19	ヒ素 (As)	mg/l	0.01以下
20	クロム (Cr)	mg/l	0.05以下
21	六価クロム (Cr6+)	mg/l	0.01以下
22	亜鉛 (Zn)	mg/l	0.01以下
23	水銀 (Hg)	mgk/l	0.1以下
24	鉱油	mg/l	0.05以下
25	フェノール類	mg/l	0.001以下
26	界面活性剤	mg/l	0.1以下
27	ベンゾ(a)ピリン	mkg/l	0.005以下

⑤騒音及び労働安全に関する基本条件

職場における騒音指標、その最大基準値

ア. 12.5 から 100.0kHz まで幾何学平均周波数をもつ 1/3 オクターブ地域にある音圧レベル (デシベル) を職場の騒音の基準値とする。

イ. 職場における音圧基準値は下記表にて指定された値を超えてはいけない。

1/3オクターブ地域の 幾何学平均周波数 (kHz)	音圧レベル (デシベル)
12.5	80
16	90
20	100
25	105
31.5~100.0	110

## 付属資料11. 日本留学帰国留学生の会 (JUGAMO 会)

2010.2.1

団体名:

英名: JAPANESE UNIVERSITY GRADUATED ASSOCIATION OF MONGOLIA

和名: モンゴル帰国留学生の JUGAMO 会

モンゴル名: Yapond Surguuli Tugsugchdiin Mongoliin Niigemleg

設立年月日: 1995 年 6 月

設立背景:

モンゴルから日本への留学が始まったのは、1972年に両国間の外交関係が樹立してからまもなくの1976年からでした。当初は毎年日本語研究生2名を日本側で受け入れ、東京外国語大学や大阪外国語大学に2年間留学させました。その後、日本政府の経済協力でゴビカシミア工場がウランバートル市に建設される事を受けて技術者育成のために1980年から学部生の留学が始まり毎年2名が日本の大学に留学するようになり成りました。

1990年以後は日本国政府がモンゴル国の民主化、市場経済化へ支援体制をより一層強化し、最大のドナー国としてモンゴル国を支援するようになり、留学生の数も大きく増加しました。2006年現在では、日本の政府からの奨学金留学生が約180名、私費留学生その他を入れると合計約800人のモンゴル人留学生がいるそうです。

モンゴルでは、「百聞は一見にしかず」と言うことわざがあります。市場経済、機械、技術が高度に発達した日本国に留学し、その成長ぶりを生で見、勉強して来た経験は帰国生の仕事、生活に役立つのみならず、彼らを通して、モンゴル国の発展にも大きく貢献しています。

今、国会議員、モンゴル日本議員連盟会長 D.ガンフヤグ氏、国会議員、経済委員会常任委員長 D.ガントゥムル氏、元保健副大臣の Sh.エンフバト氏等の政治家や、駐日モンゴル国大使館公使の R.ジギジド氏等の公務員、Gobi 社、社長の Ts.セドワンチグ氏、Tavan Bogd 社、社長の Ts.バートルサイハン氏、ブリッジ社、社長の L.ダワージャルガル氏、Bridge Constuction 社、社長の Ch.ドルジデレム氏、モンゴル青年商工会議所会頭の G. ガントウルガ氏等のビジネスマン、モンゴル国立大学の日本語の教授 E.バトジャルガル氏等の日本語の先生と言った帰国留学生がモンゴルの社会、経済、文化、教育のあらゆる分野で活躍しています。

モンゴル帰国留学生の JUGAMO 会は日本国の留学から帰国したこうした卒業生を集め、彼らの積極的な活動によって、その能力や知識を集結して、モンゴル国の発展、成長、モンゴルー日本両国の友好親善関係の促進に努める目的で設立しました。

主な活動:

- モンゴルー日本友好親善関係の拡大のための活動
- 知識向上の為の卒業校との交流
- 日本語教育の支援
- 日本へ留学する学生への助言
- 会員の利権保護
- モンゴルー日本関係促進行事の開催
- 日本からの民間投資の支援

協力団体: 日本大使館を始め JICA、日本センターと言った日本政府機関、  
モンゴルー日本や日本ーモンゴル友好親善諸団体

組織: 会長: 1 名、名誉顧問-在モンゴル日本大使以下若干名、副会長: 3 名、  
事務局長: 1 名、理事: 6 名～10 名、監事: 2 名、  
会員: 50 名、会員対象帰国留学生: 約 300 名

役職名	氏名	所属/日本留学校、留学時期/
会長	D.Gankhuyag	モンゴル国国会議員/京都工芸繊維大学 1985-1989/
副会長	Ts.Baatarsaikhan	Tavan Bogd 社、社長/電気通信大学 1989-1993/
副会長	Sh.Enkhbat	元保健省副大臣、博士会会長 /高知医科大学博士課程 1991-1994/
副会長	S.Demberel	Credit 銀行会長/東京外国語大学 1977-1981/
事務局長	L.Davaajargal	Bridge Group 社、社長/信州大学 1984-1988/
理事	Ts.Sedvanchig	Gobi 株式会社社長/電気通信大学 1986-1990/
理事	P.Gankhuyag	New Com 社、取締役/信州大学 1981-1985/
理事	E.Batjargal	モンゴル大学教授/大阪外国語大学 1994-1995/
理事	B.Amarsaikhan	モンゴル医科大学学部長
理事	Ch.Namchin	共同通信社モンゴル支店長/東京外国語大学 1982-1983/
理事	G.Gantulga	Monnichi 社、社長/電気通信大学 1987-1992/
理事	B.Munkhbat	MARBIS 社、社長/信州大学 1984-1988/
理事	J.Lkhagvasuren	NewcomSystems 社、社長/東京大学 1996-2002/
監事	D.Batbaatar	ゴビ株式会社副社長/信州大学 1983-1987/
監事	T.Altanshagai	定年/東京外国語大学、大阪外国語大学 1978-1980/



## 参考資料一覧

- FIFTA、2011 : 「Investor's Guide to Mongolia 2011」(旧外国投資貿易庁)
- NSO、2010 「Statistical Yearbook 2010」(モンゴル国家統計局)
- NSC、2011 : National Statistical Committee (モンゴル国家統計委員会)
- NDIC : National Development and Innovation Committee (国家開発イノベーション委員会)
- 世界銀行 : 「Quarterly economic review by World Bank 2011」
- 世界銀行 : 「Doing Business 2012 Mongolia」
- 世界銀行 : 「Doing Business 2013 Mongolia」
- CITIBANK、2011 : CITIBANK Global Economics View, Feb. 2011
- 「The Report: Mongolia 2012」(Oxford Business Group)
- Creative Solutions Co.Ltd : モンゴルの調査会社 Creative Solutions Co.Ltd の提供による政府情報
- モンゴル情報通信郵便庁白書、2011年
- モンゴル商工会議所、2012年
- モンゴル大蔵省貿易統計、2011 : The ministry of Finance
- モンゴル鉱物資源庁 : Mineral Resources Authority of Mongolia
- モンゴル道路・運輸・建設・都市計画省 : Minister for Road, Transportation, Construction and Urban Development
- モンゴル労働社会福祉省 : International Labour Organization, Ministry of social welfare and labor
- UB City : Ulaanbaatar Master Plan
- SPC : State Property Commission

## 問い合わせ先

本ガイドブックは、JICA が 2012 年 3 月～2013 年 1 月に実施した「モンゴル投資並びにビジネス交流促進情報収集・確認調査」（委託先：株式会社グローバル開発経営コンサルタンツ）において得られた情報を、広く皆様にご活用頂くことを目的に取り纏めたものです。調査時点で入手可能な最新の情報を記載するように努めておりますが、政治や経済状況の変化により、掲載している情報や制度等に変更が生じている場合もありますので、その旨をご留意頂き、必要に応じて最新情報の照会を行うようお願いいたします。（作成日：2013 年 1 月）

### 【免責事項】

JICA は本ガイドブックの記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害及び利益の喪失に関し一切の責任を負いません。これは、たとえ、JICA がかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。なお、本文中に引用しているモンゴルの法令・規程の日本語訳は、非公式訳である英語からの翻訳であり、最終解釈は公式条文であるモンゴル語版に基づいて為されるものとします。

本ガイドブックに関する問い合わせ先：

独立行政法人国際協力機構（JICA）

東・中央アジア部東アジア課

〒102-8012

東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル

TEL: 03-5226-6683

FAX: 03-5226-6349

E-mail: 3rtea@jica.go.jp

モンゴルにおける問い合わせ先：

JICA モンゴル事務所

TEL: +976-11-325939

FAX: +976-11-310845

URL: <http://www.jica.go.jp/mongolia/office/index.html>

E-mail: mg\_oso\_rep@jica.go.jp

モンゴル・日本人材開発センター（通称：日本センター）

TEL: +976-11-310879

FAX: +976-11-317528

URL: <http://www.japan-center.mn>

E-mail: mjc@japan-center.mn



独立行政法人 国際協力機構  
東・中央アジア部

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル  
電話番号 03-5226-6660(代表)  
URL <http://www.jica.go.jp/>